
大里郡川本町

如意Ⅲ／川端

大里農地防災事業六堰頭首工建設工事事業関係
埋蔵文化財発掘調査報告書

—Ⅱ—

〈第1分冊〉

2 0 0 2

農 林 水 産 省 関 東 農 政 局
財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団



如意遺跡・川端遺跡調査区航空写真



川端遺跡調査区航空写真

発刊に寄せて

一級河川荒川の中流域の大里地区は、南に比企丘陵を控えた埼玉県北部に位置する3市3町2村にまたがる県下有数の農業地帯です。

六堰頭首工は大里郡川本町および花園町にまたがり、荒川流域に広がる3,820haにかんがいするための取水施設です。六堰とは、荒川から取水する奈良堰、玉井堰、大麻生堰、成田堰、御正堰、吉見堰の六つの用水の総称です。この地域の用水は、約400年前より順次開削整備されましたが、干ばつなどによる水争いが繰り返されてきました。このような水利使用問題を解消させるため、昭和初期に取水堰を一箇所に統合し、頭首工が建設されました。

しかし建設から60年以上が経過し、荒川の河床低下等によって洪水に対する危険性が年々増し、周辺地区では都市化による土地利用の変化や農業用水の水質悪化等、深刻な問題を抱えていました。

そこで「大里農地防災事業計画」に基づき、六堰頭首工の改築と基幹用水路の改修を行うこととなりました。この事業は、用水施設の機能回復と災害の未然防止および農業用水の水質改善を行い、農業用水の合理的利用、管理体制の適正化、農業生産環境の改善などを図って、農業生産性の向上および農業経営の安定化に寄与するもので、現在第4期工事を行っています。

また、この事業地内には古墳時代後期から奈良・平安時代の集落遺跡である如意遺跡、川端遺跡が確認されました。これらが貴重な埋蔵文化財との認識のもと、やむを得ず現状保存できない部分については、発掘調査を行い記録保存の措置をとりました。

そして、昨年に続き、調査成果の一部を報告書にまとめ刊行の運びとなりました。郷土学習をはじめ、生涯教育、学術研究の基礎資料などとして地域文化向上のためにご利用いただければ幸いです。

平成14年3月

農林水産省関東農政局

埼玉東部土地改良建設事務所

所 長 鈴木 正 彦

序

埼玉県中央部を貫流する荒川は、奥秩父山地を水源とし、東京湾に注ぐまでの169kmの間流域を潤し、常に人びとの生活と密接な関わりをもってきました。そして、かつては大きな水害をもたらし、一方では渇水のため人々を苦しめた「荒ぶる川」も、改修工事の進展や多目的ダムの建設によりその様相を変えています。また、川本町の荒川には毎年冬の到来とともに数十羽のコハクチョウが飛来し、川に彩りを添えています。

現在の川本町は、首都圏近郊における重要な食料生産地として、また観賞用の花などの栽培も盛んに行われています。

荒川には、農業用水の取水施設として六堰頭首工が建設されています。六堰とは、近世以降に設けられた六つの堰の総称で、昭和14年これらの堰を統合して現在の六堰頭首工が新設されました。しかし、荒川の河床低下や都市化などの環境変化による問題が生じ、農林水産省が主体となり、六堰頭首工改築工事が計画されました。

改築工事事業地内には、周知の埋蔵文化財包蔵地として、如意遺跡・川端遺跡の一部が該当しておりました。これらの埋蔵文化財の取扱については、関係諸機関で慎重に協議を重ねてまいりましたが、やむを得ず記録保存の措置が講じられることとなりました。

発掘調査は、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課の調整に基づき、農林水産省関東農政局の委託を受け、当事業団が実施いたしました。

発掘調査の結果、如意・川端の両遺跡は古墳時代後期から奈良・平安時代にわたる大規模な集落遺跡であることが明らかになり、竪穴住居跡や掘立柱建物跡などの貴重な埋蔵文化財が発見されました。特に、500軒をこす竪穴住居跡からは、土師器・須恵器などの土器類や金属製品が出土し、当地域の歴史を解明する上で貴重な発見となりました。

これらの成果をまとめた本書が、埋蔵文化財の保護、普及啓発さらには学術研究の資料として広く活用いただければ幸いです。

本書の刊行にあたり、発掘調査に関する諸調整に御尽力いただいた埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課をはじめ、農林水産省関東農政局、川本町教育委員会ならびに地元関係各位に厚くお礼申し上げます。

平成14年 3 月

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

理 事 長 中 野 健 一

例 言

- 1 本書は、埼玉県大里郡川本町大字畠山に所在する如意遺跡・川端遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 遺跡の略号と代表地番及び発掘調査に対する指示通知は、以下のとおりである。

如意遺跡（NYI）
埼玉県大里郡川本町大字畠山392-2他
平成9年12月5日付け教文第2-147号
埼玉県大里郡川本町大字畠山394他
平成10年5月13日付け教文第2-24号
埼玉県大里郡川本町大字畠山440-1他
平成10年5月13日付け教文第2-25号
埼玉県大里郡川本町大字畠山395他
平成11年9月28日付け教文第2-84号
埼玉県大里郡川本町大字畠山396他
平成12年5月2日付け教文第2-2号
川端遺跡（KWBT）
埼玉県大里郡川本町大字畠山407他
平成12年5月2日付け教文第2-1号
- 3 発掘調査は、大里農地防災地業六堰頭首工建設工事事業に伴う事前調査であり、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課が調整し、農林水産省関東農政局の委託を受け、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。
- 4 本事業は、第Ⅰ章の組織により実施した。本事業のうち発掘調査については利根川章彦、剣持和夫、山本禎、岩瀬譲、瀧瀬芳之、大谷徹、上野真由美、栗岡潤、渡辺清志が担当し、平成9年10月1日から平成12年11月30日まで5次に分けて断続的に実施した。整理・報告書作成作業は、山本・岩瀬が担当し、平成13年5月11日から平成14年3月22日まで実施した。
- 5 遺跡の基準点測量、空中写真撮影および空中測量は、新日本航測株式会社に委託した。
- 6 写真は、発掘調査時の撮影を各担当者が行い、遺物の撮影は大屋道則が行った。
- 7 出土品の整理・図版の作成は、石器を西井幸雄、灰釉陶器を兵ゆり子が、その他を金子直行、赤熊浩一、瀧瀬、桜井元子の協力を得て山本・岩瀬が行った。
- 8 本書の執筆は、Ⅰ-1を埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課、Ⅲ-2を山本が、それ以外を岩瀬が行った。
- 9 本書の編集は、山本・岩瀬が行った。
- 10 本書に掲載した資料は、平成14年度以降、埼玉県立埋蔵文化財センターが管理・保管する。
- 11 本書の作成にあたり、下記の方々から御教示・御指導を賜った。記して感謝の意を表します。
川本町教育委員会 村松 篤

凡 例

- 1 遺跡全体におけるX・Yの数値は、国土標準平面直角座標第IX系（原点：北緯36度00分00秒、東経139度50分00秒）に基づく各座標値を示す。また、各挿図における方位は、すべて座標北を示す。
- 2 遺跡におけるグリッドの設置は、国土標準平面直角座標に基づいて設置しており、10m×10mの方眼である。
- 3 グリッドの名称は、北西杭を基準として、東西方向は西から東へ1、2、3…、南北方向は北から南へA、B、C…と付けている。なお、如意遺跡・川端遺跡は同一の基準、共通のグリッド名を使用している。
（例 L-18グリッド）
- 4 本書の本文・挿図・表などの遺構の略号は以下のとおりである。

SJ 竪穴住居跡	SB 掘立柱建物跡
SK 土坑	SD 溝跡
SX 性格不明遺構	ST 墓
- 5 本文中の挿図の縮尺は、原則として以下のとおりである。

調査区全測図	1：400
竪穴住居跡	1：60
掘立柱建物跡	1：60
土坑・溝跡	1：60 1：30
墓・炉跡・ピット	1：30
土器実測図	1：4
紡錘車・砥石	1：3
石製模造品・金属製品類	1：2
玉類	1：1
土錘・石鏃	1：2
縄文土器・打製石斧	1：3
- 6 須恵器は、断面を黒塗りしてあるが、酸化焰焼成となったものは塗っていない。遺物の網は20%が赤彩、30%が黒色、50%が油煙を表す。
- 7 遺構図における水平数値は、海拔高度を示しており、単位はmである。
- 8 遺構図中のスクリーントーンは、カマドの焼土化範囲を示す。
- 9 遺物観察表は次のとおりである。
 - ・口径・器高・底径は、cmを単位とする。
 - ・（ ）内の数値は推定値である。
 - ・胎土は肉眼で観察できるものを次のように示した。
A：石英 B：白色粒子 C：長石
D：角閃石 E：赤色粒子 F：黒色粒子
G：雲母 H：片岩 I：白色針状物質
J：砂粒 K：チャート L：小礫
 - ・焼成は、良好、普通、不良の3段階に分けた。
 - ・残存率は、図示した器形の部分に対して%で表した。
 - ・出土位置の「床」は床面直上、「+5」は床面から5cm上からの出土を表す。
- 10 土錘観察表は次のとおりである。
 - ・長さ・径・孔径はcmを、重さはgを単位とし、径は最大径である。
 - ・（ ）は現存長・径・重さを表す。
 - ・分類は、埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第241集『如意／如意南』のP.161-162を参照されたい。
- 11 本書に掲載した地形図は、国土地理院発行の1/50,000地形図と国土地理院の承認を受け作成された川本町地形図1/2,500を使用した。

目次

〈第1分冊〉

口絵

発刊に寄せて

序

例言

凡例

目次

I 発掘調査の概要	1
1. 発掘調査に至る経過	1
2. 発掘調査・報告書作成の経過	2
3. 発掘調査・整理・報告書刊行の組織	5
II 遺跡の立地と環境	7
III 如意遺跡の調査	11
1. 遺跡の概要	11
2. C区の遺構と遺物	16
(1) 住居跡	16
(2) 掘立柱建物跡	141
(3) 土坑	149
(4) 溝跡	164
(5) 性格不明遺構	165
(6) ピット	169
(7) グリッド出土・表採遺物	171

〈第2分冊〉

3. D区の遺構と遺物	173
(1) 住居跡	174
(2) 掘立柱建物跡	291
(3) 土坑	300
(4) 性格不明遺構	318
(5) 炉跡	318
(6) 中・近世墓	318
(7) ピット	321
(8) グリッド出土・表採遺物	323
IV 川端遺跡の調査	329
1. 遺跡の概要	329
2. 遺構と遺物	332
(1) 住居跡	332
(2) 土坑	347
(3) 溝跡	350
(4) グリッド出土・表採遺物	350

〈第3分冊〉

写真図版

挿 図 目 次

第 1 図	調査区と調査年度	3
第 2 図	埼玉県の地形	7
第 3 図	周辺の遺跡	8
第 4 図	調査区周辺の地形図	12・13
第 5 図	調査区全測図	14・15
第 6 図	第118・132・136号住居跡出土遺物	16
第 7 図	第105号住居跡・出土遺物	17
第 8 図	第106号住居跡・出土遺物	17
第 9 図	第107号住居跡・出土遺物	18
第 10 図	第108・162号住居跡	19
第 11 図	第108・162号住居跡出土遺物	20
第 12 図	第109号住居跡	21
第 13 図	第109号住居跡出土遺物	22
第 14 図	第110号住居跡・出土遺物	23
第 15 図	第119号住居跡・出土遺物	24
第 16 図	第120号住居跡	25
第 17 図	第120号住居跡出土遺物	26
第 18 図	第121号住居跡・出土遺物	28
第 19 図	第122号住居跡	29
第 20 図	第122号住居跡出土遺物	30
第 21 図	第123号住居跡	31
第 22 図	第123号住居跡出土遺物(1)	32
第 23 図	第123号住居跡出土遺物(2)	33
第 24 図	第124号住居跡	34
第 25 図	第124号住居跡出土遺物(1)	35
第 26 図	第124号住居跡出土遺物(2)	36
第 27 図	第126号住居跡	37
第 28 図	第130・134号住居跡	38
第 29 図	第130号住居跡出土遺物	39
第 30 図	第131号住居跡	39
第 31 図	第135号住居跡・出土遺物	41
第 32 図	第154号住居跡	42
第 33 図	第154号住居跡出土遺物	43
第 34 図	第155号住居跡	44
第 35 図	第156号住居跡・出土遺物	45
第 36 図	第157・158号住居跡・出土遺物	46
第 37 図	第159号住居跡・出土遺物	47
第 38 図	第160号住居跡	48
第 39 図	第160号住居跡出土遺物	49
第 40 図	第161号住居跡・出土遺物	51
第 41 図	第163号住居跡・出土遺物	52
第 42 図	第164号住居跡	53
第 43 図	第164号住居跡出土遺物(1)	54
第 44 図	第164号住居跡出土遺物(2)	55
第 45 図	第165号住居跡・出土遺物	56
第 46 図	第166号住居跡・出土遺物	58
第 47 図	第167号住居跡・出土遺物	59
第 48 図	第168号住居跡	60
第 49 図	第168号住居跡出土遺物	61
第 50 図	第169・404号住居跡	63
第 51 図	第169号住居跡出土遺物	64
第 52 図	第170号住居跡・出土遺物	65
第 53 図	第171号住居跡・出土遺物	66
第 54 図	第172号住居跡・出土遺物	67
第 55 図	第173号住居跡	68
第 56 図	第173号住居跡出土遺物	69
第 57 図	第174号住居跡・出土遺物	70
第 58 図	第175号住居跡	71
第 59 図	第175号住居跡出土遺物	72
第 60 図	第176号住居跡	73
第 61 図	第177号住居跡	73
第 62 図	第177号住居跡出土遺物	74
第 63 図	第178号住居跡	75
第 64 図	第178号住居跡貯蔵穴	76
第 65 図	第178号住居跡出土遺物(1)	77
第 66 図	第178号住居跡出土遺物(2)	78
第 67 図	第179号住居跡・出土遺物	79
第 68 図	第183号住居跡・出土遺物	80
第 69 図	第184号住居跡	81
第 70 図	第184号住居跡出土遺物	82

第 71 图	第185号住居跡	83	第108图	第215号住居跡・出土遺物	120
第 72 图	第186号住居跡	84	第109图	第216号住居跡・出土遺物	122
第 73 图	第186号住居跡出土遺物(1)	85	第110图	第217号住居跡	123
第 74 图	第186号住居跡出土遺物(2)	86	第111图	第217号住居跡出土遺物	124
第 75 图	第187号住居跡	86	第112图	第218号住居跡	125
第 76 图	第188号住居跡・出土遺物	87	第113图	第218号住居跡出土遺物	126
第 77 图	第189号住居跡	88	第114图	第219号住居跡・出土遺物	127
第 78 图	第189号住居跡出土遺物	89	第115图	第220号住居跡・出土遺物	128
第 79 图	第190号住居跡・出土遺物	90	第116图	第221・226号住居跡	129
第 80 图	第191・192号住居跡・出土遺物	91	第117图	第221号住居跡出土遺物	130
第 81 图	第193号住居跡・出土遺物	93	第118图	第222号住居跡・出土遺物	131
第 82 图	第194号住居跡	94	第119图	第221・222号住居跡出土遺物	132
第 83 图	第194号住居跡出土遺物(1)	95	第120图	第223号住居跡	133
第 84 图	第194号住居跡出土遺物(2)	96	第121图	第223号住居跡出土遺物	134
第 85 图	第195・196号住居跡	97	第122图	第224・225号住居跡	135
第 86 图	第197号住居跡・出土遺物	98	第123图	第224号住居跡出土遺物(1)	136
第 87 图	第198・199号住居跡・出土遺物	99	第124图	第224号住居跡出土遺物(2)	137
第 88 图	第200号住居跡	100	第125图	第224号住居跡出土遺物(3)	138
第 89 图	第200号住居跡出土遺物(1)	101	第126图	第228号住居跡・出土遺物	139
第 90 图	第200号住居跡出土遺物(2)	102	第127图	第366号住居跡・出土遺物	140
第 91 图	第201号住居跡・出土遺物	104	第128图	第1号掘立柱建物跡	142
第 92 图	第202号住居跡	104	第129图	第1号掘立柱建物跡・出土遺物	143
第 93 图	第203号住居跡	105	第130图	第2号掘立柱建物跡	144
第 94 图	第204号住居跡・出土遺物	106	第131图	第2号掘立柱建物跡出土遺物	145
第 95 图	第205号住居跡	107	第132图	第3号掘立柱建物跡・出土遺物	146
第 96 图	第205号住居跡・出土遺物	108	第133图	第4号掘立柱建物跡	147
第 97 图	第206号住居跡	109	第134图	第12号掘立柱建物跡・出土遺物	148
第 98 图	第206号住居跡出土遺物	110	第135图	第71~75号土坑	150
第 99 图	第207・208号住居跡・出土遺物	111	第136图	第73~75号土坑出土遺物	151
第100图	第209号住居跡・出土遺物	112	第137图	第76・77・79・80号土坑	153
第101图	第210号住居跡	113	第138图	第76・77・79・80号土坑出土遺物	154
第102图	第210号住居跡出土遺物	114	第139图	第81~87号土坑	156
第103图	第211号住居跡	115	第140图	第96~101号土坑	157
第104图	第211号住居跡出土遺物	116	第141图	第102~107号土坑	158
第105图	第212号住居跡	117	第142图	第99・104~106号土坑出土遺物	159
第106图	第213号住居跡・出土遺物	118	第143图	第108~113号土坑	161
第107图	第214号住居跡・出土遺物	119	第144图	第111・112号土坑・出土遺物	162

第145図	第218号土坑	163	第182図	第242号住居跡出土遺物(1)	201
第146図	第3号溝跡・出土遺物	164	第183図	第242号住居跡出土遺物(2)	202
第147図	第12号性格不明遺構・出土遺物	165	第184図	第243号住居跡・出土遺物	203
第148図	第13号性格不明遺構・出土遺物	166	第185図	第244号住居跡	204
第149図	第13号性格不明遺構出土遺物	167	第186図	第244号住居跡出土遺物(1)	205
第150図	第18号性格不明遺構	168	第187図	第244号住居跡出土遺物(2)	206
第151図	第19号性格不明遺構・出土遺物	168	第188図	第245号住居跡	207
第152図	第20号性格不明遺構・出土遺物	169	第189図	第245号住居跡出土遺物	208
第153図	ヒット・出土遺物	170	第190図	第246号住居跡	209
第154図	グリッド出土遺物	172	第191図	第246号住居跡出土遺物	210
第155図	如意遺跡D区全測図	173	第192図	第247号住居跡・出土遺物	211
第156図	第227号住居跡	174	第193図	第248号住居跡	211
第157図	第227号住居跡出土遺物	175	第194図	第248号住居跡出土遺物	212
第158図	第229～233号住居跡(1)	176	第195図	第249号住居跡	214
第159図	第229～233号住居跡(2)	177	第196図	第249号住居跡出土遺物	214
第160図	第229号住居跡出土遺物(1)	177	第197図	第250号住居跡出土遺物	215
第161図	第229号住居跡出土遺物(2)	178	第198図	第250・251号住居跡	216
第162図	第230号住居跡出土遺物	180	第199図	第251号住居跡出土遺物	217
第163図	第231・233号住居跡出土遺物	180	第200図	第252号住居跡出土遺物	218
第164図	第234～238号住居跡(1)	182	第201図	第252・253号住居跡	219
第165図	第234～238号住居跡(2)	183	第202図	第254・255号住居跡・出土遺物	221
第166図	第234号住居跡遺物出土状況	184	第203図	第255号住居跡出土遺物	222
第167図	第234号住居跡出土遺物(1)	185	第204図	第256号住居跡	224
第168図	第234号住居跡出土遺物(2)	186	第205図	第256号住居跡出土遺物	225
第169図	第234号住居跡出土遺物(3)	188	第206図	第361号住居跡	226
第170図	第234号住居跡出土遺物(4)	189	第207図	第361号住居跡出土遺物(1)	227
第171図	第234号住居跡出土遺物(5)	191	第208図	第361号住居跡出土遺物(2)	228
第172図	第234号住居跡出土遺物(6)	192	第209図	第361号住居跡出土遺物(3)	229
第173図	第234号住居跡出土遺物(7)	193	第210図	第362号住居跡	230
第174図	第234号住居跡出土遺物(8)	194	第211図	第362号住居跡出土遺物	231
第175図	第234号住居跡出土遺物(9)	195	第212図	第363・364・368号住居跡	232
第176図	第239・240号住居跡	197	第213図	第363・364・368号住居跡出土遺物	233
第177図	第239号住居跡出土遺物	197	第214図	第365号住居跡	234
第178図	第240号住居跡出土遺物	198	第215図	第365号住居跡出土遺物	234
第179図	第241号住居跡	199	第216図	第367号住居跡(1)	235
第180図	第241号住居跡出土遺物	199	第217図	第367号住居跡(2)	236
第181図	第242号住居跡	200	第218図	第367号住居跡出土遺物	237

第219图	第369号住居迹	238	第256图	第386号住居迹出土遺物(2)	275
第220图	第369号住居迹出土遺物	239	第257图	第394号住居迹	277
第221图	第370号住居迹	241	第258图	第394号住居迹出土遺物	277
第222图	第370号住居迹出土遺物	242	第259图	第395号住居迹	278
第223图	第371号住居迹	244	第260图	第395号住居迹出土遺物	279
第224图	第371号住居迹出土遺物	245	第261图	第397・398号住居迹	279
第225图	第372号住居迹	247	第262图	第397号住居迹出土遺物	280
第226图	第372号住居迹出土遺物	248	第263图	第398号住居迹出土遺物	280
第227图	第373号住居迹出土遺物	249	第264图	第403号住居迹・出土遺物	281
第228图	第373・393・545号住居迹(1)	250	第265图	第405号住居迹	282
第229图	第373・393・545号住居迹(2)	251	第266图	第405号住居迹出土遺物	282
第230图	第393号住居迹出土遺物	251	第267图	第541号住居迹	283
第231图	第545号住居迹出土遺物	252	第268图	第541号住居迹出土遺物	284
第232图	第374号住居迹出土遺物(1)	253	第269图	第547号住居迹出土遺物	284
第233图	第374号住居迹(1)	254	第270图	第547号住居迹	285
第234图	第374号住居迹(2)	255	第271图	第549号住居迹	286
第235图	第374号住居迹出土遺物(2)	256	第272图	第549号住居迹出土遺物	287
第236图	第375号住居迹	258	第273图	第550号住居迹	287
第237图	第375号住居迹出土遺物	259	第274图	第550号住居迹出土遺物(1)	288
第238图	第376号住居迹・出土遺物	260	第275图	第550号住居迹出土遺物(2)	289
第239图	第377号住居迹	261	第276图	第551号住居迹・出土遺物	290
第240图	第377号住居迹出土遺物	261	第277图	第5号掘立柱建物迹	291
第241图	第378号住居迹	262	第278图	第6号掘立柱建物迹(1)・出土遺物	292
第242图	第379・388号住居迹・出土遺物	263	第279图	第6号掘立柱建物迹(2)	293
第243图	第380号住居迹	264	第280图	第7号掘立柱建物迹	294
第244图	第380号住居迹出土遺物	264	第281图	第8号掘立柱建物迹・出土遺物	295
第245图	第381号住居迹・出土遺物	265	第282图	第9号掘立柱建物迹・出土遺物	296
第246图	第382号住居迹	266	第283图	第10号掘立柱建物迹・出土遺物	298
第247图	第382号住居迹出土遺物(1)	267	第284图	第11号掘立柱建物迹	299
第248图	第382号住居迹出土遺物(2)	268	第285图	土坑(1)	301
第249图	第383号住居迹出土遺物	268	第286图	土坑(2)	302
第250图	第383号住居迹	269	第287图	土坑(3)	305
第251图	第384号住居迹	270	第288图	土坑(4)	306
第252图	第384号住居迹出土遺物	271	第289图	土坑(5)	308
第253图	第385・387号住居迹・出土遺物	272	第290图	土坑(6)	311
第254图	第386号住居迹	273	第291图	土坑出土遺物(1)	313
第255图	第386号住居迹出土遺物(1)	274	第292图	土坑出土遺物(2)	314

第293図	土坑出土遺物(3)	315
第294図	土坑出土遺物(4)	316
第295図	土坑出土遺物(5)	317
第296図	第21号性格不明遺構	318
第297図	第2・3号炉跡	319
第298図	第1号墓壇・出土遺物	319
第299図	近世墓壇出土遺物	320
第300図	グリッドピット・出土遺物	321
第301図	グリッド出土遺物(1)	322
第302図	グリッド出土遺物(2)	323
第303図	表採遺物	324
第304図	縄文時代の遺物(1)	326
第305図	縄文時代の遺物(2)	327
第306図	縄文時代の遺物(3)	328
川端遺跡		
第307図	周辺の地形図	330
第308図	川端遺跡全測図	331
第309図	第1号住居跡	332
第310図	第1号住居跡出土遺物	333
第311図	第2号住居跡・出土遺物	333

第312図	第3号住居跡	334
第313図	第3号住居跡出土遺物	335
第314図	第4号住居跡	335
第315図	第4号住居跡出土遺物	336
第316図	第5号住居跡	336
第317図	第6号住居跡	337
第318図	第6号住居跡出土遺物	338
第319図	第7号住居跡・出土遺物	339
第320図	第8・9号住居跡	340
第321図	第8号住居跡出土遺物	341
第322図	第9号住居跡出土遺物	341
第323図	第10号住居跡	342
第324図	第10号住居跡出土遺物	343
第325図	第11号住居跡	345
第326図	第11号住居跡出土遺物	346
第327図	第12号住居跡・出土遺物	347
第328図	土坑(1)	348
第329図	土坑(2)・出土遺物	349
第330図	第1号溝跡	351
第331図	縄文時代の遺物	352

図版目次

図版 1	如意遺跡C区南部 如意遺跡D区北部		第178号住居跡 第178号住居跡カマド周辺遺物出土状況
図版 2	第105号住居跡 第106号住居跡 第107号住居跡	図版18	第179号住居跡 第183号住居跡 第184号住居跡遺物出土状況
図版 3	第108号住居跡 第109号住居跡 第110号住居跡	図版19	第184号住居跡 第185号住居跡 第186号住居跡
図版 4	第119号住居跡カマド遺物出土状況 第119号住居跡 第120号住居跡	図版20	第186号住居跡貯蔵穴遺物出土状況 第187号住居跡 第188号住居跡
図版 5	第122号住居跡 第123号住居跡 第124号住居跡	図版21	第189号住居跡 第189号住居跡カマド遺物出土状況 第189号住居跡貯蔵穴遺物出土状況
図版 6	第126・131号住居跡 第130・134号住居跡 第154号住居跡 P 2 遺物出土状況	図版22	第190号住居跡 第191号住居跡 第194号住居跡遺物出土状況
図版 7	第155号住居跡 第156号住居跡 第157号住居跡	図版23	第194号住居跡 第194号住居跡カマド 第195・196号住居跡
図版 8	第158号住居跡 第158号住居跡カマド 第159号住居跡	図版24	第197・202号住居跡 第198号住居跡 第199号住居跡カマド
図版 9	第160号住居跡 第160号住居跡カマド 第161号住居跡	図版25	第200号住居跡遺物出土状況 第200号住居跡カマド遺物出土状況 第200号住居跡
図版10	第163号住居跡 第164号住居跡遺物出土状況 第164号住居跡カマド遺物出土状況	図版26	第201号住居跡 第203号住居跡 第204号住居跡
図版11	第164号住居跡ピット遺物出土状況 第164・173号住居跡 第165号住居跡	図版27	第204号住居跡 P 1 紡錘車出土状況 第205号住居跡 第205号住居跡カマド遺物出土状況
図版12	第166号住居跡 第167・168号住居跡 第168号住居跡カマド	図版28	第206号住居跡 第207・208号住居跡 第209号住居跡
図版13	第169号住居跡貯蔵穴遺物出土状況 第169号住居跡カマド 第169号住居跡	図版29	第210号住居跡 第211号住居跡 第211号住居跡カマド遺物出土状況
図版14	第170号住居跡 第171号住居跡 第171号住居跡カマド	図版30	第205・206・212号住居跡 第213号住居跡 第214号住居跡
図版15	第172号住居跡 第174号住居跡 第175号住居跡	図版31	第215号住居跡 第215号住居跡カマド 第216号住居跡
図版16	第175号住居跡貯蔵穴遺物出土状況 第177号住居跡 第177号住居跡カマド遺物出土状況	図版32	第217号住居跡 第218号住居跡 第219号住居跡
図版17	第177号住居跡カマド		

図版33	第220号住居跡 第221・222・226号住居跡 第223号住居跡貯蔵穴遺物出土状況		第246・247号住居跡 第246号住居跡カマド遺物出土状況
図版34	第223号住居跡 第224号住居跡カマド遺物出土状況 第224・225号住居跡	図版50	第244・245・248号住居跡 第249号住居跡・第120号土坑 第249号住居跡カマド
図版35	第366号住居跡 第1号掘立柱建物跡 第2号掘立柱建物跡	図版51	第249号住居跡貯蔵穴遺物出土状況 第250号住居跡 第250号住居跡カマド
図版36	第3号掘立柱建物跡 第4号掘立柱建物跡 第12号掘立柱建物跡	図版52	第251号住居跡 第251号住居跡カマド遺物出土状況 第252号住居跡
図版37	第76号土坑 第77号土坑 第97号土坑		
図版38	第99号土坑 第103号土坑 第104号土坑	図版53	第252号住居跡カマドA 第252号住居跡カマドB 第252・253・254・255号住居跡
図版39	第106号土坑 第107号土坑 第108号土坑		
図版40	第109号土坑 第111号土坑 第112号土坑		
図版41	第3号溝 第18号性格不明遺構 H-19グリッドピット1	図版54	第255号住居跡カマド 第361・380号住居跡 第361号住居跡カマド遺物出土状況
図版42	第227号住居跡 第229・230・231・232・233号住居跡 第229号住居跡カマド	図版55	第361・362号住居跡 第362号住居跡カマド 第363・364・368号住居跡
図版43	第234・235・236・237・238号住居跡 第234号住居跡遺物出土状況 第234号住居跡カマド	図版56	第365号住居跡 第365号住居跡カマド遺物出土状況 第367号住居跡遺物出土状況
図版44	第234号住居跡カマド遺物出土状況 第234号住居跡南東部遺物出土状況 第234号住居跡南東部遺物出土状況	図版57	第367号住居跡カマド 第369号住居跡遺物出土状況 第369号住居跡カマド
図版45	第239・240号住居跡 第239号住居跡カマド 第240号住居跡カマド	図版58	第369号住居跡貯蔵穴遺物出土状況 第370号住居跡 第371号住居跡
図版46	第241号住居跡遺物出土状況 第241号住居跡遺物出土状況 第242号住居跡・第116号土坑	図版59	第371号住居跡カマド 第372号住居跡 第372号住居跡カマド
図版47	第242号住居跡カマド遺物出土状況 第243号住居跡・第115号土坑 第243号住居跡カマド	図版60	第372号住居跡貯蔵穴遺物出土状況 第374号住居跡 第374号住居跡カマド
図版48	第244号住居跡 第244号住居跡カマド遺物出土状況 第245号住居跡	図版61	第375号住居跡遺物出土状況 第371・377号住居跡 第377号住居跡カマド
図版49	第245号住居跡カマド	図版62	第367・378号住居跡カマド 第379号住居跡 第379号住居跡カマド
		図版63	第361・380号住居跡 第366・381号住居跡

	第382号住居跡遺物出土状況		第122号住居跡出土遺物
図版64	第383号住居跡 第384号住居跡 第384号住居跡カマド遺物出土状況	図版81	第122号住居跡出土遺物 第123号住居跡出土遺物
図版65	第385・387号住居跡 第386号住居跡 第388号住居跡		第124号住居跡出土遺物 第154号住居跡出土遺物
図版66	第388号住居跡カマド 第393・394号住居跡 第394号住居跡カマド		第156号住居跡出土遺物 第160号住居跡出土遺物
図版67	第395号住居跡 第397・398号住居跡 第405号住居跡	図版82	第161号住居跡出土遺物 第164号住居跡出土遺物
図版68	第541号住居跡 第541号住居跡カマド 第550号住居跡カマド遺物出土状況		第164号住居跡出土遺物 第166号住居跡出土遺物
図版69	第550号住居跡貯蔵穴遺物出土状況 第551号住居跡 第5号掘立柱建物跡		第168号住居跡出土遺物 第169号住居跡出土遺物
図版70	第6号掘立柱建物跡 第7号掘立柱建物跡 第8号掘立柱建物跡		第171号住居跡出土遺物 第172号住居跡出土遺物
図版71	第9号掘立柱建物跡 第10号掘立柱建物跡 第11号掘立柱建物跡		第173号住居跡出土遺物 第175号住居跡出土遺物
図版72	第114号土坑 第121号土坑 第122号土坑	図版83	第175号住居跡出土遺物 第178号住居跡出土遺物
図版73	第124号土坑 第125号土坑 第127号土坑遺物出土状況		第184号住居跡出土遺物 第186号住居跡出土遺物
図版74	第129号土坑 第130号土坑 第131号土坑	図版84	第188号住居跡出土遺物
図版75	第132号土坑 第135号土坑遺物出土状況 第136号土坑	図版85	第189号住居跡出土遺物 第194号住居跡出土遺物
図版76	第140号土坑 第141号土坑 第142号土坑	図版86	第194号住居跡出土遺物 第205号住居跡出土遺物
図版77	第143号土坑 第145号土坑 第213号土坑遺物出土状況		第206号住居跡出土遺物 第207号住居跡出土遺物
図版78	第219号土坑遺物出土状況（上層） 第219号土坑遺物出土状況（下層） 第220号土坑遺物出土状況		第217号住居跡出土遺物 第218号住居跡出土遺物
図版79	第1号墓壙人骨出土状況 第2号炉跡 第2号炉跡断面	図版87	第219号住居跡出土遺物 第220号住居跡出土遺物
図版80	第136号住居跡出土遺物 第108号住居跡出土遺物 第109号住居跡出土遺物 第110号住居跡出土遺物 第120号住居跡出土遺物		第221号住居跡出土遺物 第221・222号住居跡出土遺物 第224号住居跡出土遺物
		図版88	第224号住居跡出土遺物 第228号住居跡出土遺物

	第229号住居跡出土遺物	第3号掘立柱建物跡出土遺物
	第230号住居跡出土遺物	第75号土坑出土遺物
	第234号住居跡出土遺物	第77号土坑出土遺物
図版89	第234号住居跡出土遺物	第106号土坑出土遺物
図版90	第234号住居跡出土遺物	第135号土坑出土遺物
	第240号住居跡出土遺物	第215号土坑出土遺物
	第242号住居跡出土遺物	図版97 第213号土坑出土遺物
	第244号住居跡出土遺物	第219号土坑出土遺物
	第247号住居跡出土遺物	図版98 第219号土坑出土遺物
	第250号住居跡出土遺物	第220号土坑出土遺物
図版91	第251号住居跡出土遺物	第222号土坑出土遺物
	第252号住居跡出土遺物	第13号性格不明遺構出土遺物
	第255号住居跡出土遺物	図版99 第13号性格不明遺構出土遺物
	第256号住居跡出土遺物	第19号性格不明遺構出土遺物
	第361号住居跡出土遺物	I-19グリッドP3出土遺物
図版92	第361号住居跡出土遺物	L-15グリッド出土遺物
	第362号住居跡出土遺物	P-17グリッドP1出土遺物
	第365号住居跡出土遺物	図版100 第122号住居跡出土遺物
	第367号住居跡出土遺物	第123号住居跡出土遺物
図版93	第369号住居跡出土遺物	図版101 第164号住居跡出土遺物
	第370号住居跡出土遺物	第169号住居跡出土遺物
	第371号住居跡出土遺物	第173号住居跡出土遺物
	第372号住居跡出土遺物	第174号住居跡出土遺物
	第373号住居跡出土遺物	図版102 第174号住居跡出土遺物
	第374号住居跡出土遺物	第175号住居跡出土遺物
図版94	第375号住居跡出土遺物	第177号住居跡出土遺物
	第382号住居跡出土遺物	第178号住居跡出土遺物
	第383号住居跡出土遺物	第184号住居跡出土遺物
	第386号住居跡出土遺物	図版103 第186号住居跡出土遺物
図版95	第386号住居跡出土遺物	第188号住居跡出土遺物
	第393号住居跡出土遺物	第194号住居跡出土遺物
	第394号住居跡出土遺物	第200号住居跡出土遺物
	第397号住居跡出土遺物	図版104 第200号住居跡出土遺物
	第541号住居跡出土遺物	第204号住居跡出土遺物
	第549号住居跡出土遺物	第206号住居跡出土遺物
	第550号住居跡出土遺物	図版105 第206号住居跡出土遺物
図版96	第550号住居跡出土遺物	第209号住居跡出土遺物

	第224号住居跡出土遺物	図版121	第224号住居跡出土遺物
	第234号住居跡出土遺物		第234号住居跡出土遺物
図版106	第234号住居跡出土遺物	図版122	第234号住居跡出土遺物
図版107	第234号住居跡出土遺物	図版123	第234号住居跡出土遺物
	第241号住居跡出土遺物	図版124	第234号住居跡出土遺物
	第242号住居跡出土遺物		第242号住居跡出土遺物
図版108	第242号住居跡出土遺物		第252号住居跡出土遺物
	第249号住居跡出土遺物	図版125	第255号住居跡出土遺物
図版109	第251号住居跡出土遺物		第367号住居跡出土遺物
	第252号住居跡出土遺物		第372号住居跡出土遺物
	第255号住居跡出土遺物	図版126	第374号住居跡出土遺物
	第256号住居跡出土遺物		第377号住居跡出土遺物
	第361号住居跡出土遺物		第382号住居跡出土遺物
図版110	第369号住居跡出土遺物		第386号住居跡出土遺物
	第377号住居跡出土遺物	図版127	第541号住居跡出土遺物
	第382号住居跡出土遺物		第550号住居跡出土遺物
図版111	第382号住居跡出土遺物		第104号土坑出土遺物
	第550号住居跡出土遺物		第13号性格不明遺構出土遺物
	第220号土坑出土遺物	図版128	第13号性格不明遺構出土遺物
図版112	第219号土坑出土遺物		第214号住居跡出土遺物
	L-15グリッド出土遺物		第175号住居跡出土遺物
図版113	第123号住居跡出土遺物		第178号住居跡出土遺物
	第164号住居跡出土遺物		第179号住居跡出土遺物
図版114	第168号住居跡出土遺物		第217号住居跡出土遺物
	第175号住居跡出土遺物	図版129	第194号住居跡出土遺物
	第177号住居跡出土遺物		第169号住居跡出土遺物
図版115	第178号住居跡出土遺物		第227号住居跡出土遺物
図版116	第184号住居跡出土遺物		第229号住居跡出土遺物
	第194号住居跡出土遺物		第234号住居跡出土遺物
	第200号住居跡出土遺物		第375号住居跡出土遺物
図版117	第200号住居跡出土遺物		第374号住居跡出土遺物
図版118	第200号住居跡出土遺物		第393号住居跡出土遺物
	第205号住居跡出土遺物	図版130	石製品類
	第206号住居跡出土遺物		第154・206号出土鉄器
図版119	第223号住居跡出土遺物		第205号住居跡出土遺物鉄器
	第224号住居跡出土遺物	図版131	第1号墓壙出土遺物
図版120	第224号住居跡出土遺物		近世墓壙出土遺物

- 図版132 住居跡出土砥石・石製品
第164号住居跡出土遺物
P-18グリッド出土板碑
- 図版133 川端遺跡全景（西から）
川端遺跡全景（東から）
- 図版134 第1号住居跡・第10・11号土坑
第1号住居跡カマド遺物出土状況
第2・3・4・5号住居跡
- 図版135 第2号住居跡・第4号土坑
第2号住居跡カマド
第3号住居跡
- 図版136 第3号住居跡遺物出土状況
第4号住居跡・第2号土坑
第4号住居跡カマド遺物出土状況
- 図版137 第5号住居跡 第6号住居跡
第6号住居跡カマド遺物出土状況
- 図版138 第6号住居跡貯蔵穴 第7号住居跡
第7号住居跡カマド
- 図版139 第8・9号住居跡 第8号住居跡カマド
第10号住居跡遺物出土状況
- 図版140 第10号住居跡カマド遺物出土状況
第10号住居跡貯蔵穴遺物出土状況
第10号住居跡南側遺物集中
- 図版141 第11号住居跡・第12号土坑
第11号住居跡遺物出土状況
第12号住居跡
- 図版142 第2号住居跡出土遺物
第3号住居跡出土遺物
第6号住居跡出土遺物
第8号住居跡出土遺物
第9号住居跡出土遺物
第10号住居跡出土遺物
- 図版143 第8号住居跡出土遺物
第10号住居跡出土遺物
第11号住居跡出土遺物

I 発掘調査の概要

1. 発掘調査に至る経過

県北部に広がる荒川中流域の大里地区は首都近郊に位置し、有望な食糧生産基地として大きな発展が期待されている。しかし、荒川の河床が低下したため洪水の危険性が増大し、また、水質悪化や湧水の枯渇などの問題が生じてきた。こうした事態を受けて農林水産省が主体となり、大里地区において六堰頭首工などの基幹土地改良施設と地区内水利施設の機能回復等の「国営総合農地防災事業」が計画された。これに呼応して埼玉県と川本町でも、[付帯県営農地防災事業]により視線水路の整備を行うこととなった。

平成9年2月21日付け9埼東第72号で関東農政局埼玉東部土地改良事務所長より、六堰頭首工建設工事等用地内における埋蔵文化財の有無及び取り扱いについての照会を受けた。文化財保護課では、平成9年2月27・28日に試掘調査を行い、奈良・平安時代の住居跡を確認して平成9年3月5日付け教文1625号で以下のような回答をした。

1 埋蔵文化財の所在

事業地内には、次の埋蔵文化財包蔵地が所在します。

名称	種別	時代	所在地
如意	集落跡	縄文・奈良・平安	大里郡川本町如意地内
川端	集落跡	奈良・平安	大里郡川本町如意地内

2 取扱いについて

上記の埋蔵文化財は現状保存することが望ましいが、事業計画上やむを得ず現状変更する場合には、事前に文化財保護法第57条の3に規定による発掘通知を提出し、記録保存のための発掘調査を実施してください。

なお、発掘調査の実施については、当課と別途協議願います。

これを受けて文化財保護課と関係部局・川本町との間で事前協議がなされたが、計画変更が不可能であるため、工事区について記録保存の措置を講ずることとした。

また、六堰頭首工につながる農免道路部分についても試掘調査がなされ、新たに如意南遺跡が新規登録された。道路に施設される歩道については川本事業であったが、これを分離して調査することが不可能であるため、一体化して発掘調査することとなり、実施機関として(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団があたりこととなった。

如意遺跡等にかかる文化財保護法第57条の3の通知が関東農政局埼玉東部土地改良事務所長から提出され平成9年9月1日付け教文3-373号で収受した。一方、文化財保護法第57条1に係る発掘届が(財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団理事長から提出されて、発掘調査が平成9年10月1日から開始され、平成12年11月30日に終了した。

なお、発掘調査届に対する指示通知番号は、次のとおりである。

如意（3次・4次・5次）

平成10年5月13日付け教文2-25号

平成11年9月28日付け教文2-84号

平成12年5月2日付け教文2-2号

川端遺跡

平成12年5月2日付け教文2-1号

(文化財保護課)

2. 発掘調査・報告書作成の経過

発掘調査

大里農地防災事業六堰頭首工改築工事に伴う如意遺跡の発掘調査は、平成9年10月から平成12年11月まで断続的に実施した。調査面積は18,284㎡である。川端遺跡は平成12年4月から5月まで、如意遺跡の調査と並行して実施し、調査面積は962㎡である。なお、本書で報告の対象となるのは、如意遺跡の平成10年度から12年度分調査の一部ずつと、川端遺跡である。

(平成9年度)

平成9年10月から平成10年3月まで実施した。10月から現場事務所設置などの諸準備を行い、11月に調査区の西端から本格的調査に入った。発掘器材の搬入後、調査区域・土置き場に囲柵を設置し、重機による表土掘削を行い、掘削終了範囲より順次遺構確認作業を実施した。表土掘削終了時点で基準点測量を実施し、10m方眼の杭打ち作業を行った。遺構確認作業の結果、西端部では土坑、ピットが僅かに検出される程度であったが、東に進むにつれ竪穴住居跡が多く検出されるようになった。その後、順次東に向かって調査を進め、3月に調査区全景写真と空中写真撮影を実施して調査を終了した。

(平成10年度)

平成10年4月から6月と、10月から12月の2度に分けて実施した。

4月からの調査は、前年度からの継続調査で前年度調査区域の東側の調査を行った。遺構は竪穴住居跡が中心で、密集度が高く、重複する住居跡が多かった。また、住居跡と掘立柱建物跡が重複する例も見られた。6月中旬に全景写真、空中写真撮影を実施し、調査区域の埋戻しと囲柵の撤去を行い、調査を終了した。

10月からの調査は、4月に実施した調査区域の東側に接する地点と、約50m北東で荒川に面した地点の調査を行った。調査区域の設定、囲柵、重機による表土の掘削等を行い、遺構確認作業を実施した。

4月の調査区域の東に接する地点は、引き続き竪穴住居跡が全域にわたって検出され、密集度も高く、重複が多く見られた。荒川沿いの地点は、遺構の密度は低く、住居跡は3軒検出されたのみであった。12月には両地点の全景写真撮影を行った。その後、埋戻し・囲柵の撤去・器材撤収等を行い、調査を終了した。

(平成11年度)

平成11年10月から平成12年3月まで実施した。調査地点は前年度調査地点の東に隣接した荒川に面した地点と、宅地を挟んだ南側の地点、そこから町道を挟んだ東側の地点、そして約100m東の遺跡東端部にあたる地点の計4地点である。

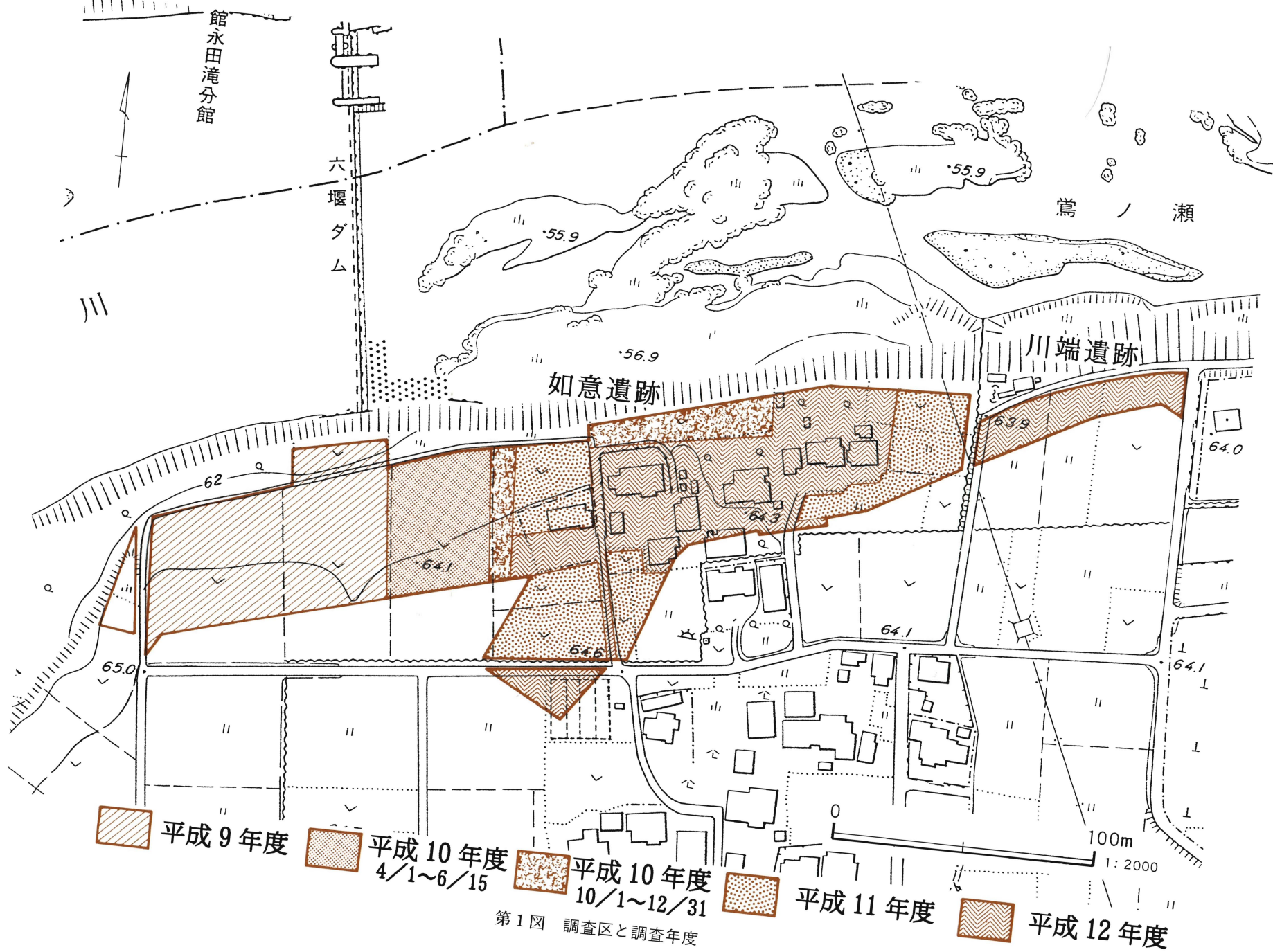
最初に荒川に面した地点から囲柵・重機による表土掘削を開始し、南側の地点、その東側と進め、10月中には3地点の表土掘削は終了した。同時に遺構確認等の作業を開始し、順次北から南へ作業を進めた。12月には荒川に面した地点、南側の地点が終了し、全景写真撮影後、危険防止のため埋戻しを行った。平成12年1月にはその東側の地点の調査に着手し、並行して遺跡東端部の表土掘削を行った。遺跡東端部の地点では、東から西に向かって調査を進めた。何れの地点でも住居跡の密集度が高く、激しい重複が見られた。3月に調査区全景写真、空中写真撮影を行って調査を終了した。

(平成12年度)

平成12年4月から11月まで実施した。発掘調査の最終年度であり、川端遺跡と、如意遺跡の前年度までに用地等の関係で調査ができなかった調査区東半部や、南端の農道に取り付く地点、町道部分等の調査を行った。

4月に川端遺跡と如意遺跡の中央付近を囲柵、重機による表土掘削、遺構確認、基準点測量を行い、遺構精査を進めた。5月下旬、全景写真、空中写真撮影を実施し、危険防止のため埋戻した。

6月からは如意遺跡の東半部の調査を開始した。



第1図 調査区と調査年度

三軒の住宅が東側の家から一軒ずつ移動するのに伴い、囲柵・表土掘削・基準点測量・遺構精査等を繰り返すこととなった。まず、前年度に調査した遺跡東端部に隣接した地点から調査に着手し、順次西進した。この地点は、遺跡内でも最も遺構の重複の激しいところであった。並行して、7月に町道部分の調査を行い、10月末、全景写真、空中写真撮影・空中測量を実施した。11月には、遺跡南端部の調査を行った。その後、一部埋戻し、器材の撤収、現場事務所の撤収等を行い、発掘調査の全工程を終了した。

整理・報告書作成

本事業における如意遺跡の整理・報告書作成作業は、既に平成12年度に調査区の西側部分が実施されており、報告書も刊行されている(事業団報告第264集)。本年度は、如意遺跡と川端遺跡の整理・報告書作成作業を平成13年5月11日から平成14年3月22

日まで実施した。

5月から出土遺物の水洗・注記および接合・復元を行った。これと並行して遺構実測図・写真等記録図面の整理を行った。中旬からは接合・復元が終了した遺物の実測を開始し、大型の遺物はスリースペースを使用して実測を行った。また、同時に遺構第二原図の作成を始めた。

8月下旬からは遺物のトレースを開始した。9月中旬に遺物の復元が終了し、拓本を行った。10月には遺構トレース・遺物観察表の作成を行った。中旬からは遺物の写真撮影用の復元・着色を行い、遺構・遺物の版組と原稿執筆を開始した。

11月には周辺地形図・遺跡全測図等を作成し、下旬から遺物の写真撮影を行った。12月末に版組・原稿執筆を終了し、平成14年1月には割り付けを行った。

平成14年1月下旬から印刷に入り、3回の校正を経て、3月に報告書を刊行した。

発掘調査工程表

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	担当者
平成9年度													利根川 山本 瀧瀬
平成10年度													山本 栗岡
平成11年度													山本 岩瀬 大谷
平成12年度													劔持・岩瀬 上野・栗岡 渡辺

3. 発掘調査・整理・報告書刊行の組織

主体者 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

(1) 発掘調査（平成9～12年度）

平成9年度

理事長
副理事長
専務理事
常務理事兼管理部長
管理部

荒井 桂
富田 真也
塩野 博
稲葉 文夫

庶務課長
主査
主任
主任
専門調査員兼経理課長
主任
主任
主任

依田 透
西沢 信行
長滝 美智子
腰塚 雄二
関野 栄一
江田 和美
福田 昭美
菊池 久

調査部
理事兼調査部長
調査部副部長
調査第四課長
主査
主任調査員
主任調査員

梅沢 太久夫
今泉 泰之
鈴木 秀雄
利根川 章彦
山本 禎
瀧瀬 芳之

平成10年度

理事長
副理事長
常務理事兼管理部長
管理部

荒井 桂
飯塚 誠一郎
鈴木 進

庶務課長
主査
主任
主任
専門調査員兼経理課長
主任
主任

金子 隆
田中 裕二
長滝 美智子
腰塚 雄二
関野 栄一
江田 和美
福田 昭美

主任
調査部
調査部長
調査部副部長
調査第一課長
統括調査員
主任調査員

菊池 久
谷井 彪
水村 孝行
井上 尚明
山本 禎
栗岡 潤

平成11年度

理事長
副理事長
常務理事兼管理部長
管理部

荒井 桂
飯塚 誠一郎
広木 卓

管理部副部長兼経理課長
主任
主任
主任
主任
主任
主任
主任

関野 栄一
福田 昭美
腰塚 雄二
菊池 久
金子 隆
田中 裕二
江田 和美
長滝 美智子

調査部
調査部長
調査部副部長
専門調査員（調査第二担当）
統括調査員
主任調査員
主任調査員

増田 逸朗
水村 孝行
坂野 和信
山本 禎
岩瀬 譲
大谷 徹

平成12年度

理事長
副理事長
常務理事兼管理部長
管理部
管理部副部長

中野 健一
飯塚 誠一郎
広木 卓
関野 栄一

主 席 (庶 務 担 当)	阿 部 正 浩	(2) 整理作業 (平成13年度)	
主 席 (施 設 担 当)	野 中 廣 幸	理 事 長	中 野 健 一
主 任	菊 池 久	副 理 事 長	飯 塚 誠一郎
主 席 (経 理 担 当)	江 田 和 美	常 務 理 事 兼 管 理 部 長	大 舘 健
主 任	長 滝 美智子	管 理 部	
主 任	福 田 昭 美	管 理 幹 事	持 田 紀 男
主 任	腰 塚 雄 二	主 任	菊 池 久
調査部		主 任	江 田 和 美
調 査 部 長	高 橋 一 夫	主 任	長 滝 美智子
調 査 副 部 長	石 岡 憲 雄	主 任	福 田 昭 美
専門調査員 (調査第一担当)	坂 野 和 信	主 任	腰 塚 雄 二
統 括 調 査 員	劔 持 和 夫	調査部	
統 括 調 査 員	岩 瀬 讓	調 査 部 長	高 橋 一 夫
主 任 調 査 員	上 野 真由美	調 査 部 副 部 長	坂 野 和 信
主 任 調 査 員	栗 岡 潤	主席調査員 (資料整理担当)	磯 崎 一
主 任 調 査 員	渡 辺 清 志	統 括 調 査 員	山 本 禎
		統 括 調 査 員	岩 瀬 讓

II 遺跡の立地と環境

如意・川端遺跡は、大里郡川本町大字畠山に所在し、町のほぼ中央を東流する荒川右岸の河岸段丘上に立地する。標高は64mほどである。

如意遺跡は、寄居町内を東流してきた荒川が北東方向に流れを変え、再び東流する変換点にあり、西側と北側が荒川に面している。川端遺跡は、如意遺跡の東側に隣接しており、北側に荒川が流れ、畠山重忠の故事のある「鶯の瀬」に面している。

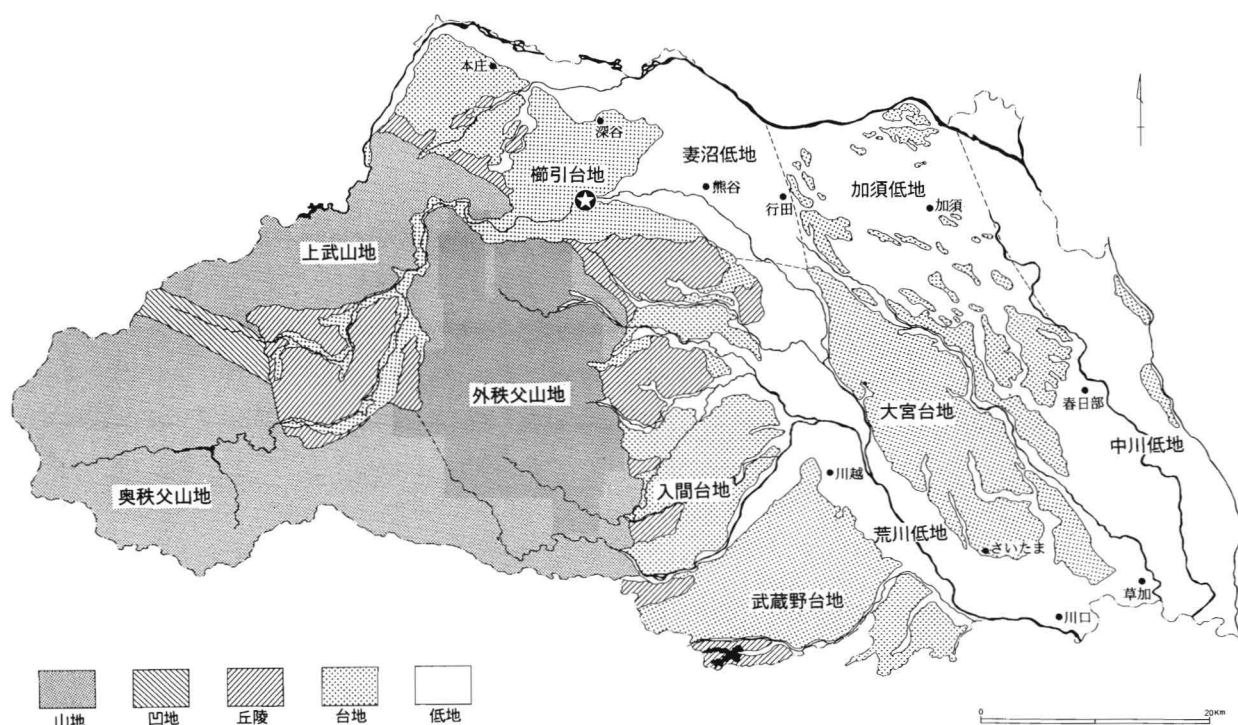
周辺の地形は、荒川による浸食作用と堆積作用によって形成された河岸段丘であり、最も高位にあるものは南岸では江南面(江南台地)、北岸では櫛引面(櫛引台地)である。遺跡は、南岸の江南面より一段低い寄居面に位置し、遺跡北側の荒川に面した地点は、現在では護岸された急な崖となっている。

六堰頭首工建設以前の明治18年測量の迅速図では、遺跡北側は荒川との間に寄居面よりも一段低い瀬山面と思われる低地が認められる。また、戦後の

圃場整備によって現在は平坦であるが、かつては浅い谷があり起伏に富んだ地形であったことが如意遺跡や南側に隣接する如意南遺跡の調査で確認されている。

周辺の遺跡は、荒川右岸の河岸段丘上、江南台地上、左岸の櫛引台地上にわけられ、櫛引台地上には遺跡が少ない傾向が見られる。

旧石器時代の遺跡は、江南台地の支谷に面した白草遺跡から北方系細石刃が出土している。縄文時代の遺跡は、江南台地を中心に点在する。草創期では四反歩遺跡で槍先形尖頭器が出土し、上本田遺跡の西側から有舌尖頭器が採集された。櫛引台地の沢口遺跡では厚手の爪形文土器が出土している。早期は、四反歩遺跡で住居跡が7軒調査され、前期では竹之花・円阿弥・権現堂遺跡で黒浜から諸磯a期にかけての小規模集落が分布する。中期は、舟山遺跡で勝坂～加曾利EⅡ式の集落が、上本田遺跡では加曾利



第2図 埼玉県の地形



- | | | | | | | |
|--------------|-----------|-------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1. 如意遺跡 | 2. 川端遺跡 | 3. 如意南遺跡 | 4. 畠山館跡 | 5. 本田館跡 | 6. 上本田遺跡 | 7. 新田裏遺跡 |
| 8. 鹿島・鹿島平方遺跡 | 9. 山之越遺跡 | 10. 舟山遺跡 | 11. 竹之花遺跡 | 12. 白草遺跡 | 13. 円阿弥遺跡 | 14. 四反歩遺跡 |
| 15. 権現堂遺跡 | 16. 焼谷遺跡 | 17. 荷鞍ヶ谷戸遺跡 | 18. 諦光寺廃寺 | 19. 百済木遺跡 | 20. 寺内廃寺 | 21. 岩比田遺跡 |
| 22. 大門遺跡 | 23. 亥ノ堀遺跡 | 24. 沢口遺跡 | 25. 東原遺跡 | A. 箱崎古墳群 | B. 塚原古墳群 | C. 鹿島古墳群 |
| D. 上大塚古墳群 | E. 清水山古墳群 | F. 黒田古墳群 | G. 見目古墳群 | H. 長在家古墳群 | I. 三ヶ尻古墳群 | |

第3図 周辺の遺跡

EⅢ～Ⅳ式の住居跡が50軒調査された。後期になると遺跡数は減少し、山ノ越遺跡、四反歩遺跡で堀之内式期の小集落が検出されている。弥生時代の遺跡は、畠山館跡で前期末から中期初頭とされる壺型土器が単独で出土し、後期では焼谷・白草・荷鞍ヶ谷戸遺跡で調査されている。

古墳時代は、江南台地上の円阿弥・白草遺跡で中期の集落が、権現堂遺跡では後期の住居跡7軒が調査されている。河岸段丘上では、如意・川端遺跡のほか、如意遺跡の南に隣接する如意南遺跡で古墳時代から奈良・平安時代の住居跡42軒、掘立柱建物跡1棟が調査され、土錘や紡錘車のほか帯金具が出土している。また、川端遺跡は川本町教育委員会によって3次の調査が行われ、古墳時代後期から奈良・平安時代の住居跡24軒、掘立柱建物跡1棟が検出され、緑釉陶器や灰釉陶器が出土している。

古墳は、荒川の両岸に群集墳が造られている。左岸には上流から花園町黒田古墳群、見目古墳群が、櫛引台地をやや入ったところに長在家古墳群、熊谷市三ヶ尻古墳群があり、右岸河岸段丘上には箱崎古墳群、塚原古墳群、鹿島古墳群がある。また、江南台地の縁辺には上大塚古墳群、清水山古墳群が造られている。

黒田古墳群は、30数基が確認されており、前方後円墳1基と他は円墳である。埴輪を持ち、6世紀後半から7世紀前半頃の築造と考えられている。見目古墳群は、円墳2基が調査されている。共に横穴式石室を有し、銅製八角稜鈴・刀装具・鉄鏃等が出土し、7世紀代の築造とされている。また円墳2基以外の古墳からは円筒・形象・器財埴輪が多量に出土している。長在家古墳群は、数基の古墳で形成されており、そのうち1基が調査され、横穴式石室を持つことが確認されている。遺物は出土しなかったが7世紀代のものと考えられている。

荒川右岸の箱崎古墳群は、6世紀前半から7世紀にかけて32基以上が築造され、全長32mの前方後円墳と大型円墳1基を含んでいる。3基が調査され、

横穴式石室が検出されており、玉類・耳環・刀子・埴輪等が出土している。塚原古墳群は、前方後円墳の蛤塚古墳を含む円墳十数基が知られていたが、消滅し、現存していない。なお、如意・川端遺跡はこの箱崎古墳群と塚原古墳群に挟まれるように位置しており、集落と古墳群との関連が想定される。鹿島古墳群は、県指定史跡で80基以上の円墳でなる。河原石積みの胴張形石室を特徴とする6世紀後半から7世紀代の築造である。また近年、埴輪の存在が確認された。

江南台地縁辺部に立地する上大塚古墳群は、6基が確認されていた。清水山古墳群は、11基以上の円墳で、詳細は不明だが、埴輪片が出土しており、6世紀前半以降の築造とされている。

奈良・平安時代の遺跡は、荒川沿岸部では古墳時代から継続して営まれることが多い。如意・川端遺跡をはじめ、隣接する如意南遺跡、鹿島遺跡、鹿島平方裏遺跡等がある。鹿島遺跡・鹿島平方裏遺跡は、鹿島古墳群と重複し、江南町新田裏遺跡を含めると東西3km、南北1kmの細長い範囲に広がる集落遺跡である。江南台地では、竹之花遺跡、白草遺跡、円阿弥遺跡、四反歩遺跡の集落や、8世紀前半の瓦が出土した荷鞍ヶ谷戸窯跡、小金銅仏が出土した諦光寺廃寺がある。百済木遺跡では、8世紀初頭に柵列で区画された竪穴住居跡と掘立柱建物跡で構成された建物群が2ヶ所で確認された。青銅製帯金具、銅鈴、墨書土器等が出土し、豪族の居宅と推定されている。また、江南町寺内廃寺は、本格的な寺院であり、寺地内の集落から「石井寺」・「花寺」・「東院」等の墨書土器が出土している。

中世には、畠山重忠の本拠地と伝えられ、如意・川端遺跡の南約500mに畠山館跡が、川端遺跡内には重忠と所縁のある満福寺・井棕神社がある。畠山館跡の南東1.5kmには重忠家臣の本田親常のものと伝えられる本田館跡があり、百済木遺跡では、14～15世紀の寺院跡が発掘され、古名に残る万願寺と推定されている。

参考文献

- 磯崎 一 1992 『白草遺跡II』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第118集
- 大里郡市文化財担当者会 1992 「大里地域の遺跡Ⅰ」『埼玉考古』第29号 埼玉考古学会
- 大里郡市文化財担当者会 1993 「大里地域の遺跡Ⅱ」『埼玉考古』第30号 埼玉考古学会
- 金子直行ほか 1993 『四反歩遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第130集
- 川本町 1989 『川本町史 通史編』
- 川本町遺跡調査会 2000 『百済木』発掘調査概要
- 栗岡 潤 2000 『如意/如意南』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第241集
- 埼玉県教育委員会 1994 『埼玉県古墳詳細分布調査報告書』
- 塩野 博 1972 『鹿島古墳群』埼玉県埋蔵文化財調査報告 第1集
- 塩野博・小久保徹 1975 『黒田古墳群』花園村黒田古墳群調査会
- 塩野 博 1981 「見目古墳群とその遺物」『埼玉考古』19号 埼玉考古学会
- 塩野 博 1997 「埼玉の古墳—その発掘と研究の歴史（その2）—」『埼玉考古』33号 埼玉考古学会
- 瀧瀬芳之 1986 『小前田古墳群』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第58集
- 利根川章彦 1991 『竹ノ花・下大塚・円弥遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第105集
- 村松 篤 1989 『畠山館跡』第3・4次 川本町教育委員会
- 村松 篤 1991 『瀬山遺跡群発掘調査報告書』川本町発掘調査報告書 第3集
- 村松 篤 1991 『鹿島遺跡発掘調査報告書』川本町発掘調査報告書 第4集
- 村松 篤 1991 『川本春日丘工業団地関連遺跡群発掘調査報告書』川本町発掘調査報告書 第5集
- 村松 篤 1992 『箱崎古墳群第3号墳・洲ノ上遺跡発掘調査報告書』川本町発掘調査報告書 第6集
- 村松 篤 1992 『川端遺跡発掘調査報告書』第2次 川本町遺跡調査会発掘調査報告書 第1集
- 村松 篤 1993 『川端遺跡第3次調査報告書』川本町発掘調査報告書 第7集
- 村松 篤 1994 『荷鞍ヶ谷戸遺跡発掘調査報告書』川本町発掘調査報告書 第8集
- 村松 篤 1995 『鹿島平方裏遺跡発掘調査報告書』川本町遺跡調査会報告書 第3集
- 村松 篤 1999 『畠山館跡』第5次 川本町遺跡調査会報告書 第4集
- 村松 篤 2000 「緑釉陶器を出土する古代集落」『埼玉考古』35号 埼玉考古学会
- 村松 篤 2000 『上本田遺跡Ⅰ』川本町遺跡調査会報告書 第5集
- 山本 禎 2001 『如意遺跡』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第264集

Ⅲ 如意遺跡の調査

1. 遺跡の概要

如意遺跡は、川本町の荒川右岸の河岸段丘上に位置する。現在は、昭和14年に建設された六堰頭首工により護岸された急峻な崖上にある。遺跡周辺は、近年の圃場整備により平坦となっているが、埋没谷が数箇所確認されており、旧地形は起伏に富んだ地形であることが明らかになっている。

如意遺跡の発掘調査は、平成9年度から平成12年度まで断続的に行われ、調査面積は18,284㎡となっている。検出された遺構は、竪穴住居跡560軒、掘立柱建物跡23棟、土坑262基、溝跡3条などである。

如意遺跡の調査は、平成10年に農道関係でも実施されており、如意南遺跡と共に既に報告されている（事業団報告代241集）。また、本事業のうち西側の6,000㎡分は平成12年度に報告書が刊行されている（同第264集）。なお、便宜的に如意遺跡のうち農道で調査された部分をA区、西側6,000㎡をB区、本書で報告する部分をC区、D区と呼称する。C区・D区は、調査区のやや西側でB区と接し、荒川に面する地区をC区、その南側をD区とし、両区の面積は4,500㎡である。

A区は、道路建設のために幅12m前後で南北に細長く調査されている。3,500㎡の調査区のうち北端350㎡が如意遺跡で、南側は如意遺跡となっている。如意遺跡内で検出された遺構は、竪穴住居跡17軒、土坑25基、溝跡1条である。住居跡は、古墳時代後期から奈良・平安時代のもので、重複が激しく見られた。

B区は、本事業調査区の西側三分の一程である。検出された遺構は、竪穴住居跡118軒、土坑45基、性格不明遺構11基等である。住居跡は古墳時代後期から奈良・平安時代のものである。住居跡は大きく3ブロックに分かれ、東側に古墳時代後期のもの、そして新しくなるにつれ集落が西に移動したと考えられている。また、平坦地に立地する平安時代の須恵

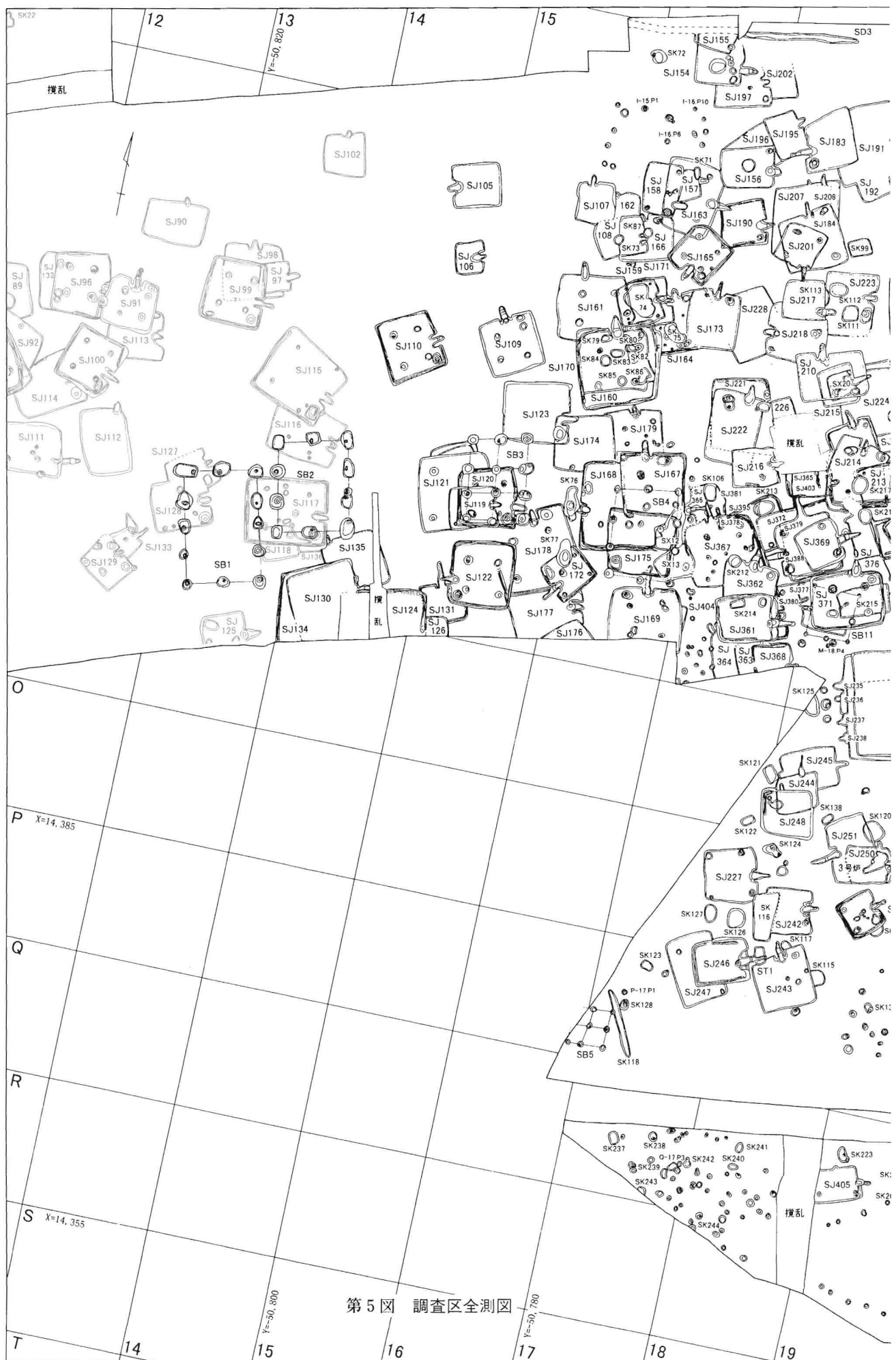
器窯跡が検出されている。構造は半地下式で灰原は確認されず、甕を主体に焼成されている。

C区で検出された遺構は、竪穴住居跡90軒、掘立柱建物跡5棟、土坑35基、溝跡1条、性格不明遺構5基とピットなどである。D区で検出された遺構は、竪穴住居跡69軒、掘立柱建物跡7棟、土坑65基、性格不明遺構1基のほか炉跡、中・近世墓、ピットなどである。両区の住居跡は、A・B区と同様の時期であり、区境周辺で密集し、激しい重複が見られるが、北端の荒川に近い地点や南端のA区に続く地点は、やや標高が低くなり、住居も散漫となっている。

調査区全体は、遺跡の北側を東西に流れる荒川に沿って長さ約340m、幅約50mで、中央付近で農道に取り付く部分が南に張り出している。地表から遺構確認面までの深さは地点によって異なり、全体的には荒川寄りの北側は浅く、南は深くなる傾向がある。確認面の標高は61.0m～64.0mである。地山は礫層、砂層、黄褐色シルト層と地点により異なり、川の氾濫で複雑な地形となっている。

竪穴住居跡は全て古墳時代後期から奈良・平安時代のものである。住居跡は調査区全域に分布するが、荒川沿いは散漫で、南半に集中し、調査区外へ続いている。特にC・D区の境界周辺から東側は集中度が高い。古墳時代後期の住居跡は調査区全域で多く見られるが、奈良・平安時代の住居跡は西半にやや多い傾向が窺える。また、東に隣接する川端遺跡、南の如意南遺跡とは同一段丘上に連続する集落と考えられる。





2. C区の遺構と遺物

(1) 住居跡

今回、C区で報告対象となるのは、第105号住居跡から第110号住居跡、第119号住居跡から第124号住居跡、第126号住居跡・第130号住居跡・第131号住居跡・第134号住居跡・第135号住居跡、第154号住居跡から第179号住居跡、第183号住居跡から第226号住居跡、第228号住居跡、第366号住居跡、第404号住居跡の計90軒である。

なお、第118号住居跡・第132号住居跡・第136号住居跡は、事業団報告書第264集『如意遺跡』で報告したが、遺物が新たに確認されたため、今回の報告で追加報告を行う。

第118号住居跡（第6図）

M-13グリッドを中心に位置する。新たに確認された遺物は、滑石製の白玉2点である。7は厚さ3.3

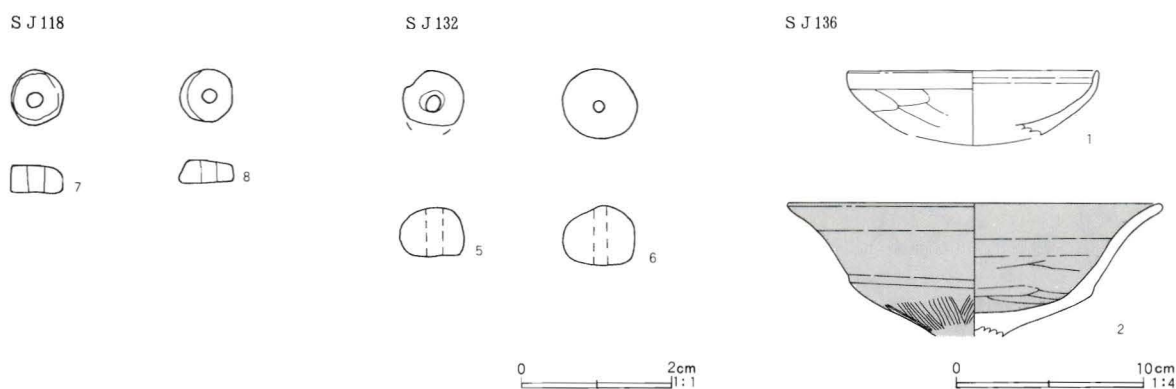
mm、径7.4mm、孔径2.0mm、重さ0.30g、8は厚さ2.0~3.1mm、径7.3mm、孔径2.1mm、重さ0.24gで、両者ともに覆土中からの出土であった。

第132号住居跡（第6図）

K・L-11グリッドに位置する。新たに確認された遺物は、土玉2点である。5は、高さ6.5mm、径8.8mm、孔径2.0mm、重さ0.43gで、西壁際中央付近の覆土中から出土した。6は、高さ6.3~7.1mm、径8.8mm、孔径2.0mm、重さ0.63gで、カマド焚口南壁寄りカマド床面から出土した。

第136号住居跡（第6図）

M-14グリッドに位置する。確認された遺物は、土師器坏、高坏の坏部で、覆土中より出土した。



第6図 第118・132・136号住居跡出土遺物

第136号住居跡出土遺物観察表（第6図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	(13.2)			A B J	不良	橙	45	覆土	体部ヘラ削り不明瞭
2	高坏	19.7			B J L	普通	明赤褐	95	覆土	体部横ナデ 底部外面刷毛目 赤彩

第105号住居跡（第7図）

J-14グリッドに位置する。平面は、軸長3.87m×3.47mの方形で、深さ17cmを測る。主軸方位は、N-106°-Wを指す。

カマドは西壁に設けられている。燃烧部は120cm×65cmの楕円形を呈し、床面から深さ12cmを測る。

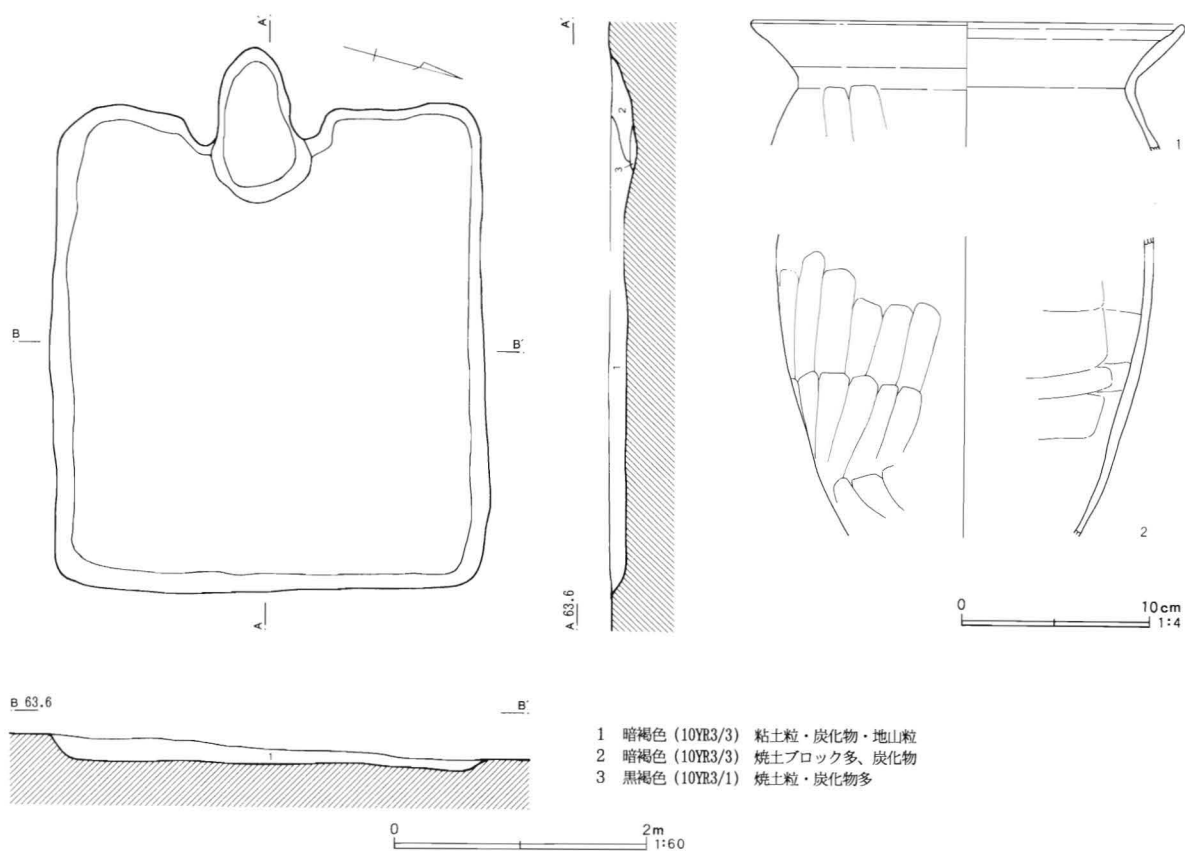
遺物は、土師器甕や須恵器甕片・坏片が出土した。

第106号住居跡（第8図）

J・K-14グリッドに位置する。平面は、軸長2.31m×2.57mの方形で、深さ18cmを測る。主軸方位は、N-75°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃烧部は、119cm×70cm、床面から深さ5cmを測る。

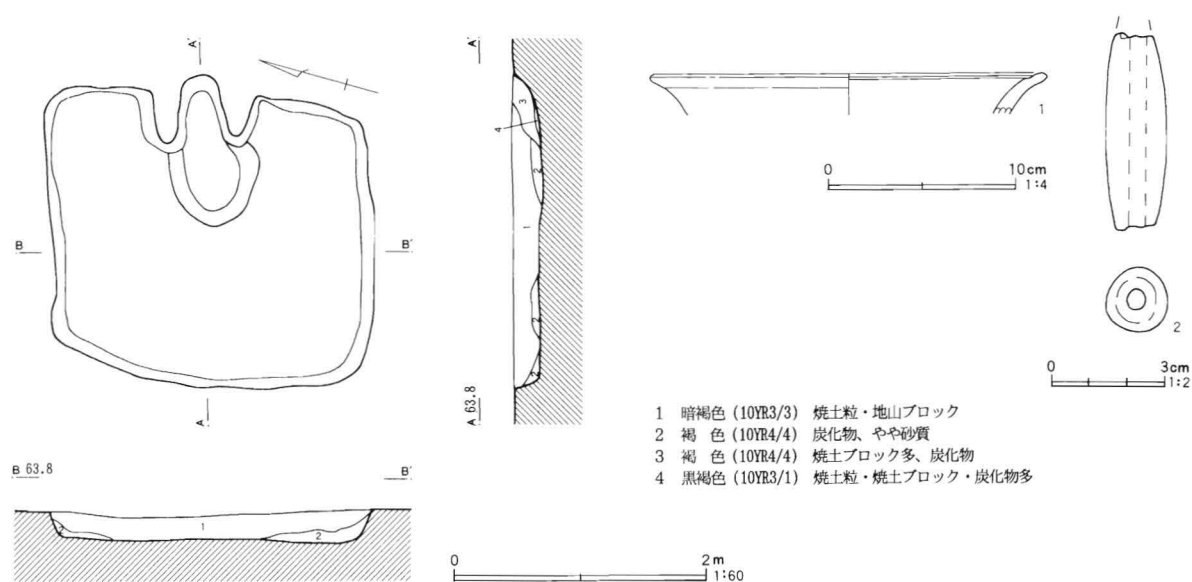
遺物は、土師器甕と土錘が出土した。



第7図 第I05号住居跡・出土遺物

第I05号住居跡出土遺物観察表 (第7図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	甕	(22.6)			BHJ	不良	橙	15	覆土	口縁部横ナデ 体部外面↓方向へラ削り
2	甕				AD	普通	にぶい褐	40	覆土	外面↓方向へラ削り 内面横ナデ



第8図 第I06号住居跡・出土遺物

第106号住居跡出土遺物観察表（第8図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	甕	(20.6)			DGH	良好	にぶい黄橙	15	覆土	横ナデ 内面に沈線

第106号住居跡出土土錘観察表（第8図）

番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
2	(5.25)	1.53	4.60	(11.22)	Ba V	橙	95	A区 砂粒多

第107号住居跡（第9図）

J-15グリッドに位置する。第108号住居跡に南東隅を切られ、第162号住居跡を切っている。平面は、軸長3.33m×2.57mの方形で、深さ20cmを測る。主軸方位は、N-7°-Wを指す。

カマドは、北壁のやや西よりに設けられている。燃烧部は、98cm×39cm、床面と同じ高さである。

遺物は、鉄鎌1点と土師片が出土した。鉄鎌は茎部が欠損し、6.22gを量り、覆土中の出土である。

第108号住居跡（第10・11図）

J-15・16グリッドに位置する。第73号土坑に住居跡中央を切られ、第107・162号住居跡を切っている。平面は、軸長3.82m×3.00mの長方形で、深さ

18cmを測る。主軸方位は、N-75°-Eを指す。

カマドは、東壁のやや南寄りに設けられている。燃烧部は、140cm×47cm、床面から深さ17cmを測る。

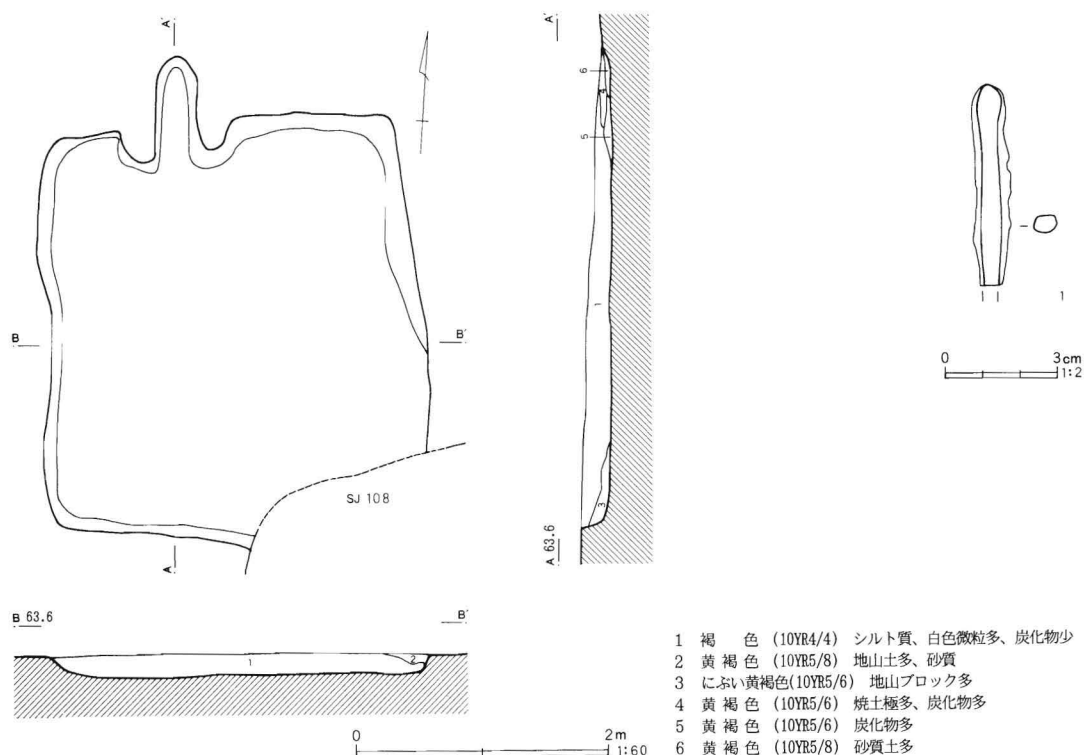
遺物は、土師器坏・甕、須恵器高台付坏・皿のほかに土錘が出土した。

第162号住居跡（第10・11図）

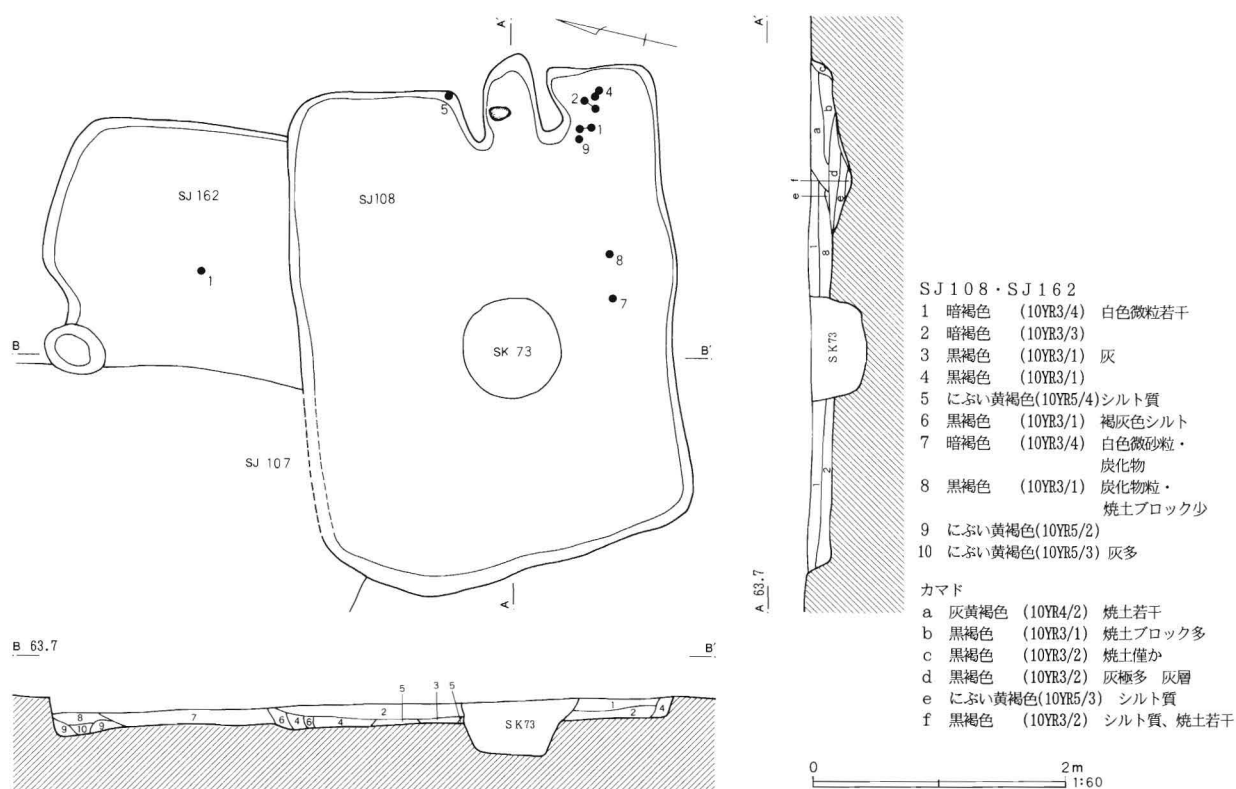
J-15・16グリッドに位置する。第107号住居跡に西半を、108号住居跡に南半を切られている。平面は、軸長2.00m以上×1.93m以上で、深さ13cmを測る。主軸方位は、N-10°-Wを指す。

カマドは、北壁に設けられている。燃烧部は、49cm×39cmの円形を呈し、床面から深さ10cmを測る。

遺物は、須恵器瓶が出土した。



第9図 第107号住居跡・出土遺物



第10図 第108・162号住居跡

第108号住居跡出土遺物観察表 (第11図)

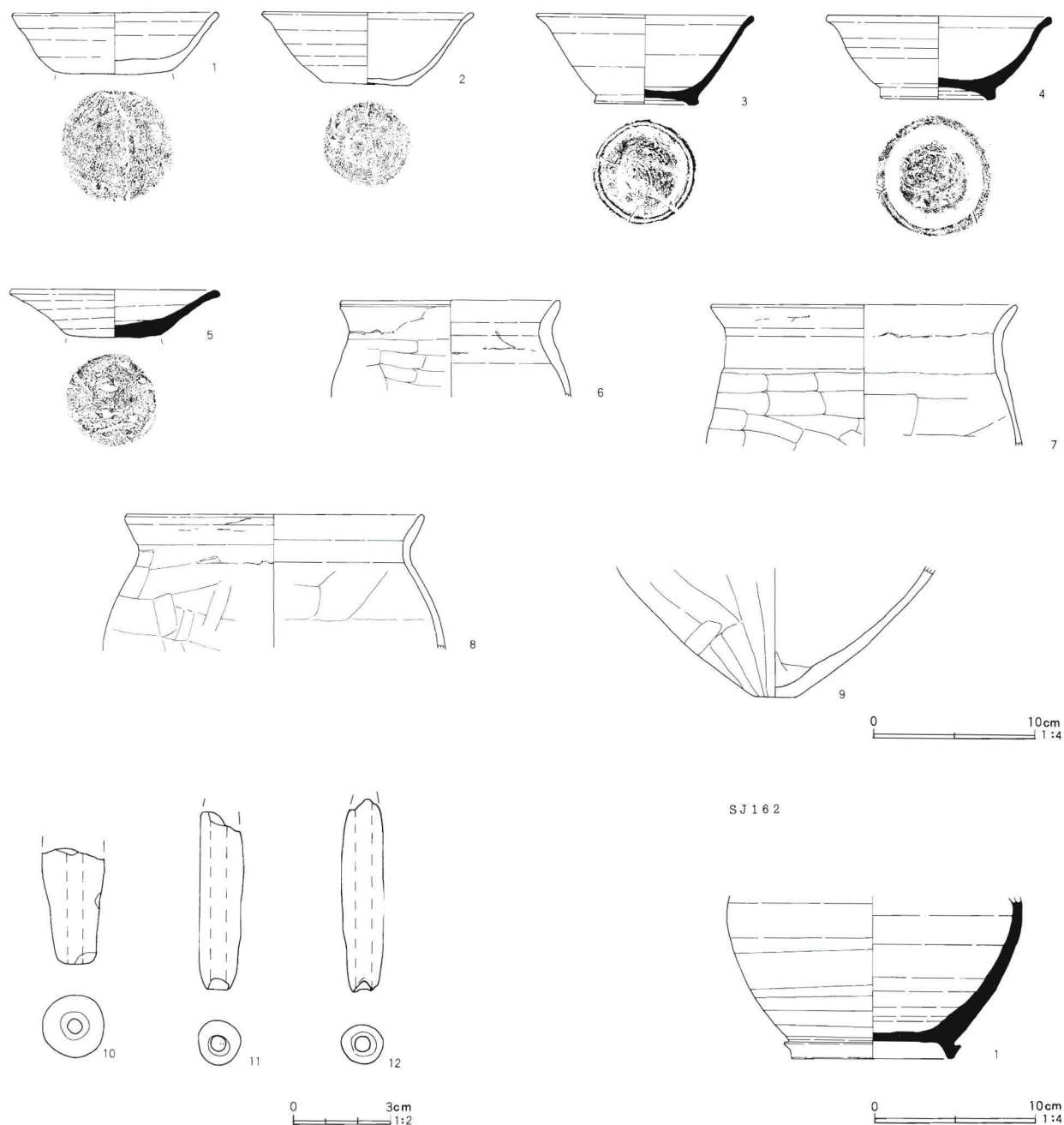
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	12.6	3.7	7.2	GHJ	不良	橙	90	床	底部平行一方向のヘラ削り
2	坏	12.9	4.4	5.5	JL	不良	橙	70	床	底部右回転糸切り
3	高台付坏	13.3	5.7	6.4	BHL	良好	灰	90	覆土	歪みあり
4	高台付坏	(13.8)	5.1	7.1	ADJ	不良	にふい黄橙	30	床	貼り付け高台
5	蓋	12.8	3.0	5.7	JL	良好	灰	100	覆土	底部平行一方向のヘラ削り
6	甕	(13.4)			B	良好	褐灰	35	覆土	頸部に接合痕
7	甕	(18.8)			EJ	良好	にふい黄橙	40	床	口縁部接合痕 胴部外面←ヘラ削り
8	甕	(18.4)			BDF	普通	橙	35	床	頸部接合痕・横ナデ 胴部外面←ヘラ削り
9	甕			2.5	EJ	普通	灰黄褐	30	床	外面↓ヘラ削り

第108号住居跡出土土錘観察表 (第11図)

番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
10	(3.71)	(1.75)	0.45	(12.18)	Bb	橙	40	B区
11	(5.51)	1.34	0.55	(8.34)	Ba	橙	80	
12	(5.95)	1.23	0.59	(8.41)	Ba	橙	80	

第162号住居跡出土遺物観察表 (第11図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	長頸瓶			10.1	BJL	良好	褐灰	95	床	体部外面下半ヘラナデ



第11図 第108・162号住居跡出土遺物

第109号住居跡（第12・13図）

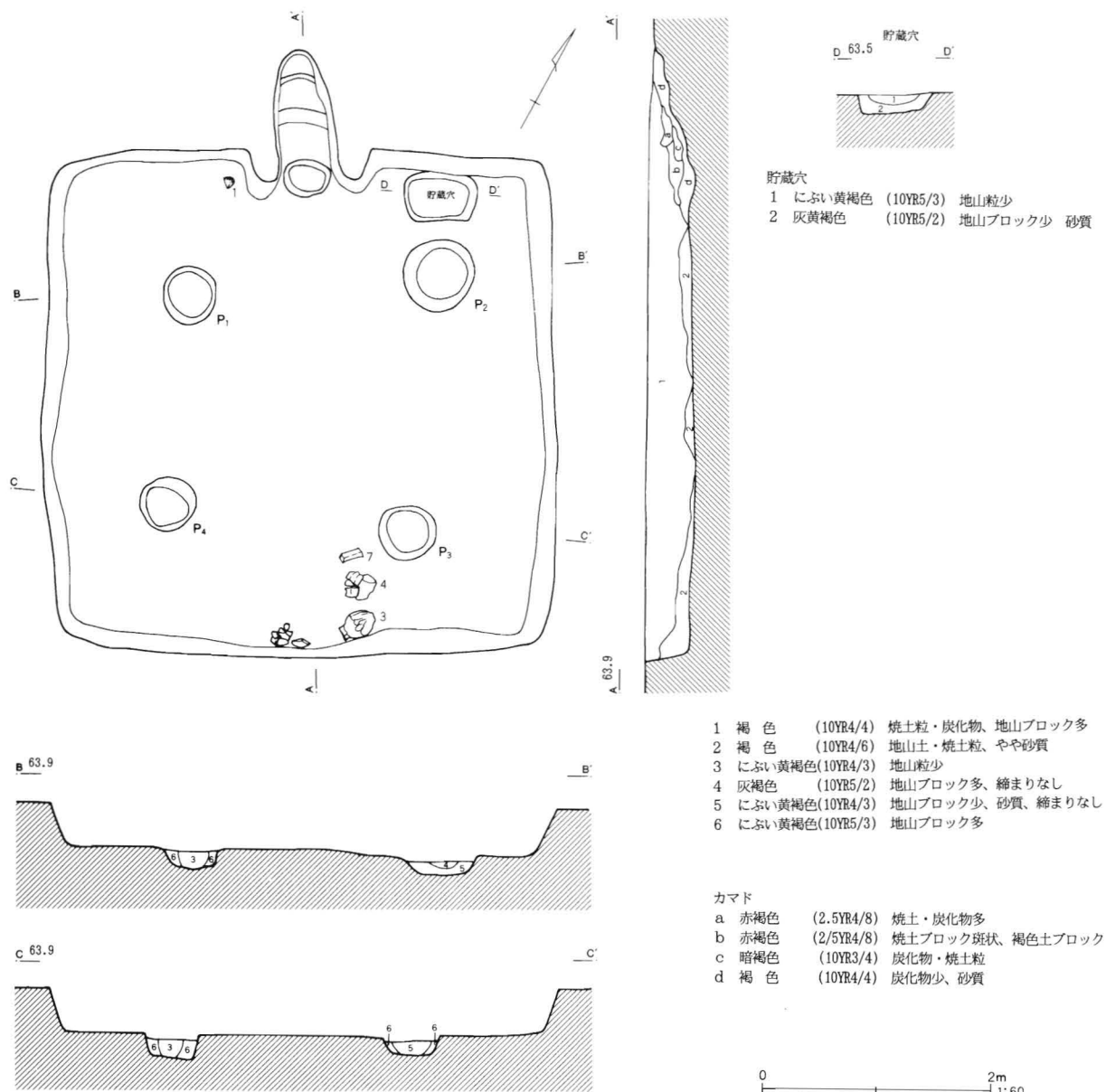
K-15グリッドに位置する。平面は、軸長4.46m×4.47mの方形で、深さ42cmを測る。主軸方位は、N-29°-Wを指す。

柱穴は4本の支柱穴が検出された。径47~64cmの円形で、深さ17~22cmを測り、P1・P4で柱痕が確認できた。

カマドは、北壁に設けられている。燃焼部は、98cm×58cm、床面から深さ5cmを測る。煙道部は50cm程確認できた。

貯蔵穴は、北壁際の北東隅に検出された。平面は、64cm×42cmの隅丸長方形を呈し、深さ15cmを測る。

遺物は、土師器坏・甕・壺の他に鉄鏃、白玉、砥石が出土した。5は鉄鏃の茎の端部で4.44gであ



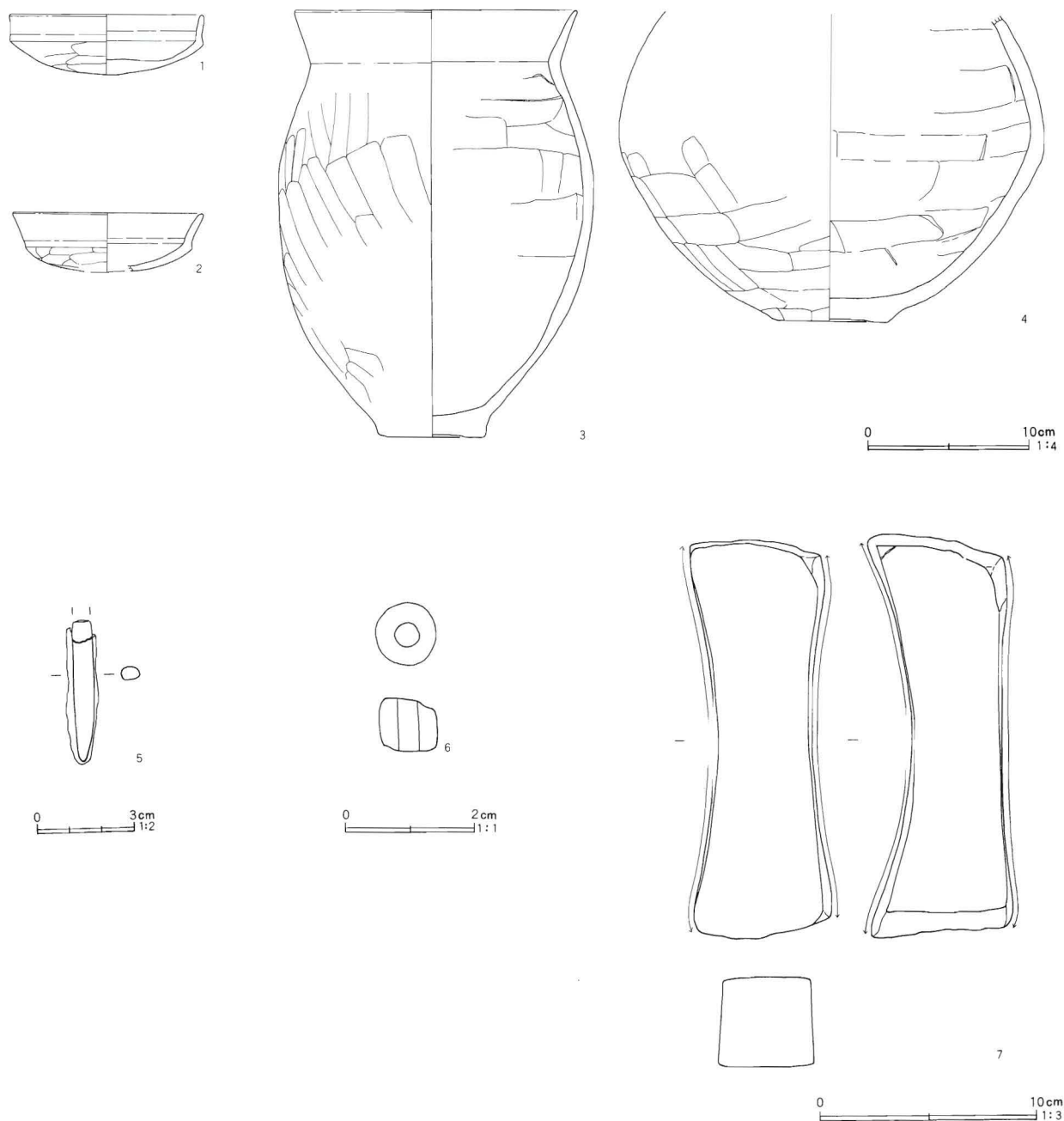
第12図 第109号住居跡

る。6 は滑石製の白玉で、厚さ6.6～8.0mm、径9.0～9.6mm、孔径3.4mm、重さ1.08gである。鉄鏝、

白玉は覆土中の出土である。7は凝灰岩製の砥石で、4面の使用痕がみられ、覆土中位の出土である。

第109号住居跡出土遺物観察表（第13図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	11.8	3.6		B G	普通	にふい黄橙	90	覆土	底部厚く、外面削り不明瞭
2	坏	11.6	(3.7)		B D E F	不良	橙	90	覆土	口縁部横ナデ 底部外面へラ削り 穿孔か
3	甕	(17.3)	26.1	6.5	J	普通	赤橙	70	覆土	外面↓方向へラ削り 内面横ナデ
4	壺			7.2	B F	普通	橙	40	覆土	外面←、一部↓方向へラ削り 内面横ナデ



第13図 第109号住居跡出土遺物

第110号住居跡（第14図）

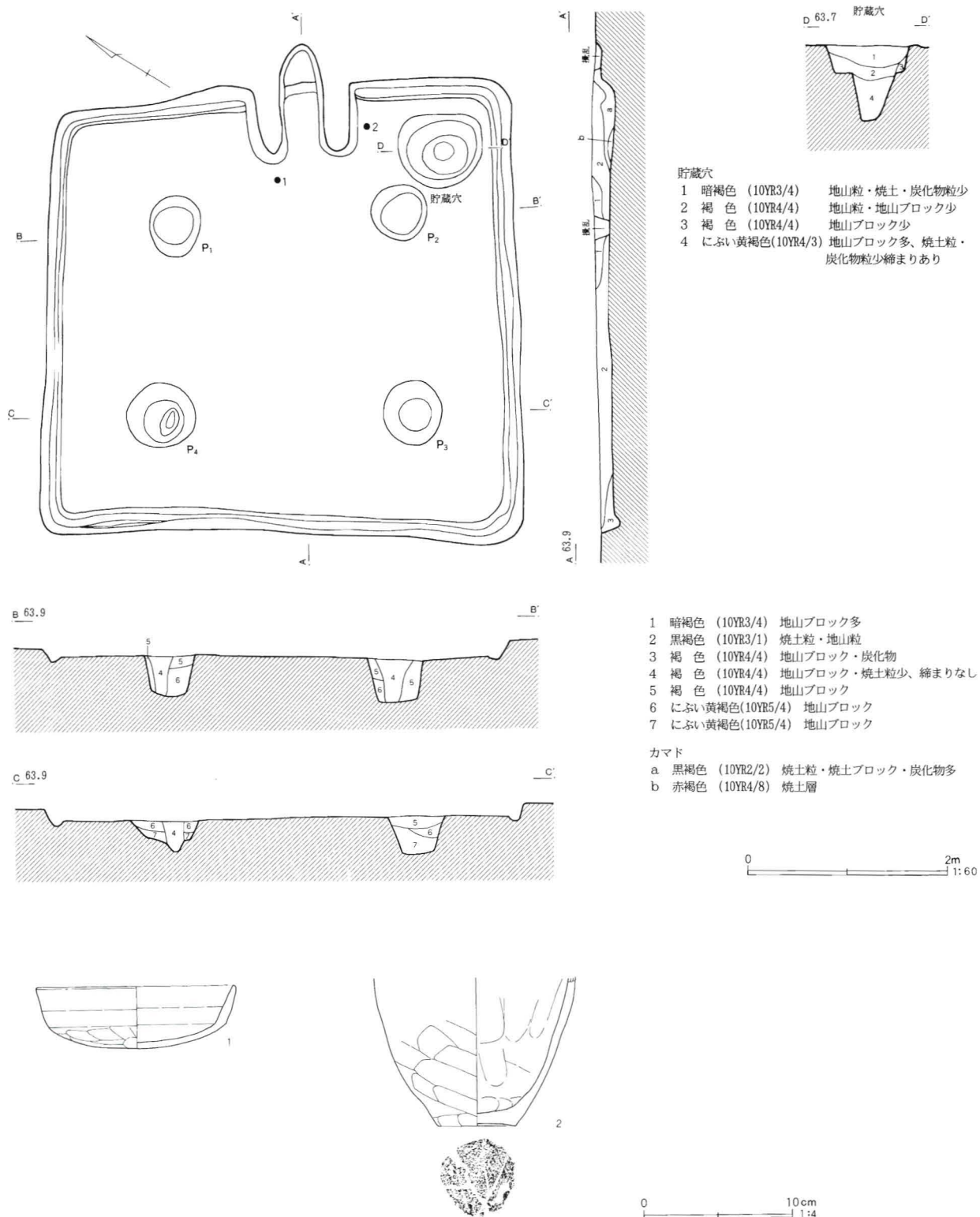
K-14グリッドを中心に位置する。平面は、軸長4.51m×4.76mの方形で、深さ14cmを測る。主軸方位は、N-60°-Eを指す。

柱穴は4本の支柱穴が検出された。径51~68cmの円形で、深さ30~43cmを測り、P1・P2・P4で柱痕が確認できた。

カマドは、東壁のやや南寄りに設けられている。燃焼部は、81cm×50cm、床面から深さ5cmを測る。煙道部は36cm程確認できた。

貯蔵穴は、東隅に検出された。上面は、84cm×72cmの歪んだ円形で、坑底面では円形のピット状に一部深くなっており、深さ72cmを測る。

遺物は、土師器杯・甕の他に土錘が出土した。



第14図 第110号住居跡・出土遺物

第110号住居跡出土遺物観察表 (第14図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	13.3	4.2		FK	普通	橙	90	床	口縁部外面横ナデ 底部外面へラ削り
2	甕			5.1	A J L	普通	にふい褐	80	ほぼ床	外面へラ削り 内面横ナデ 底部木葉痕

第110号住居跡出土土鍾観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
3	(2.22)	(1.35)	0.48	(4.04)	D	橙		A区
4	(4.91)	1.63	0.55	(9.24)	Ba	褐	45	B区

第119号住居跡 (第15図)

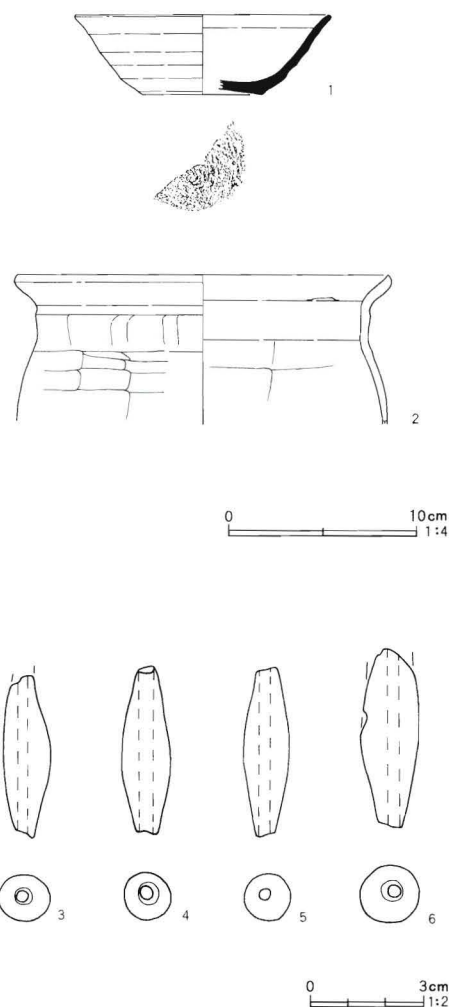
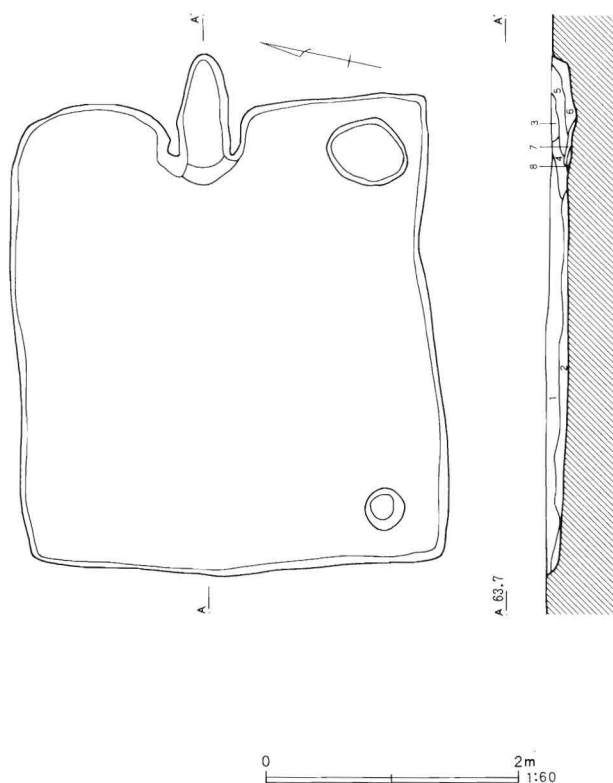
L・M-15グリッドに位置する。第120・121号住居跡を切っている。平面は、軸長3.78m×3.29mの方形で、深さ16cmを測る。主軸方位は、N-76°-Eを指す。

南西隅には、径32×34cmの円形で、深さ18cmのピットが検出された。

カマドは、東壁のやや北寄りに設けられている。燃焼部は、105cm×40cm、床面から深さ7cmを測る。

貯蔵穴は、南東隅に検出された。平面は、66cm×54cmの円形を呈し、深さ11cmを測る。

遺物は、須恵器環、土師器甕の他に土鍾が出土した。



第15図 第119号住居跡・出土遺物

第119号住居跡出土遺物観察表 (第15図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	(13.4)	4.3	(6.4)	J	普通	灰白	30	カマド	底部右回転糸切り
2	甕	(19.7)			G J	普通	にぶい橙	50	カマド	体部外面口口痕顕著 頸部外面強いナデ

第119号住居跡出土土錘観察表（第15図）

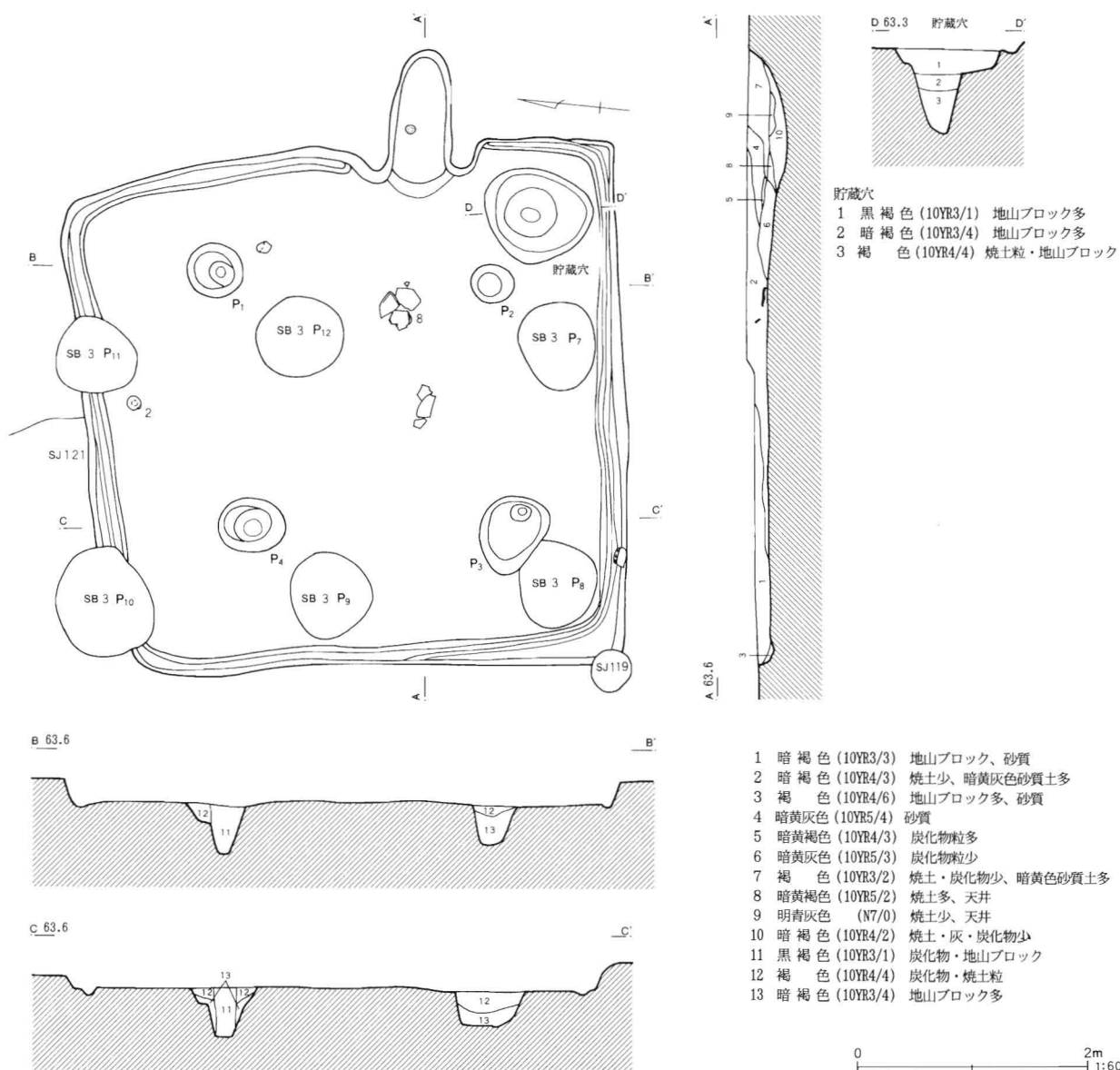
番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
3	(4.28)	1.28	0.36	(5.84)	BaV	褐灰	95	
4	4.45	1.31	0.34	5.84	BaV	灰黄褐	100	
5	4.48	1.21	0.38	5.12	BaV	にぶい橙	100	
6	(4.69)	1.52	0.44	(8.55)	Ba	にぶい橙	80	
7	(1.85)	1.25	0.52	(1.86)	Ba	にぶい橙		
8	(3.02)	1.44	0.57	(4.74)	A	明赤褐		
9	(3.97)	1.43	0.68	(8.43)	Ba	にぶい赤褐	50	

第120号住居跡（第16・17図）

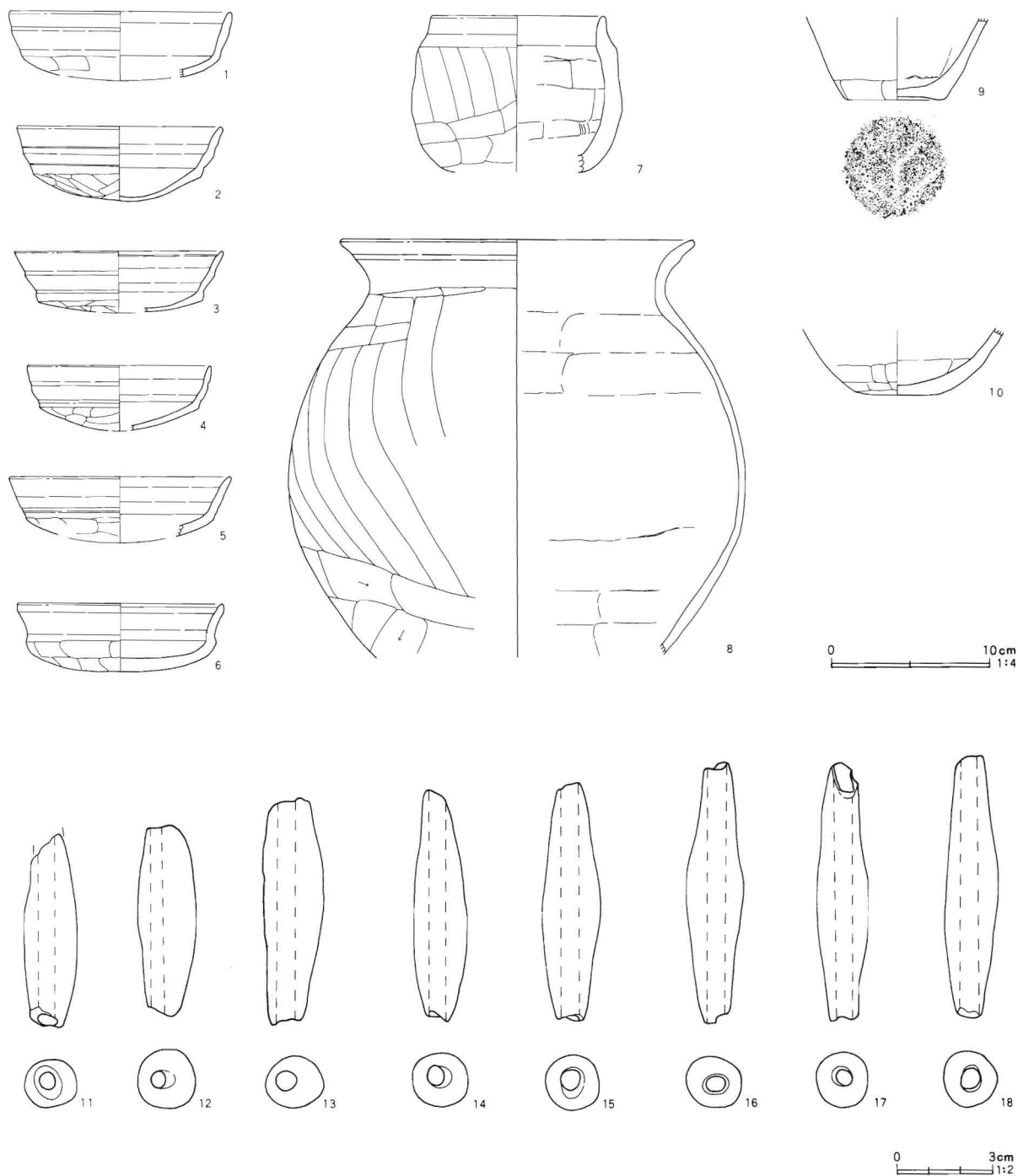
L-15グリッドを中心に位置する。第119号住居跡に南西部、第3号掘立柱建物跡に住居跡内や壁を切られ、第121号住居跡を切っている。平面は、軸長

4.58m×4.70mの方形で、深さ17cmを測る。主軸方位は、N-85°-Eを指す。

柱穴は4本の主柱穴が検出された。径34~48cmの円形、軸長53cm×71cmの楕円形があり、深さ28~43



第16図 第120号住居跡



第17図 第120号住居跡出土遺物

cmを測り、P 1・P 4で柱痕が確認できた。

カマドは、東壁の南寄りに設けられている。燃焼部は、131cm×57cm、床面から深さ19cmを測る。

貯蔵穴は、南東隅に検出された。平面は、径93cm×84cmのほぼ円形で、坑底面には円形のピット状のものがあ、深さ74cmを測る。

遺物は、土師器坏・小型甕・甕・壺の他に土鍾が出土した。

第121号住居跡（第18図）

L・M-15グリッドを中心に位置する。第119・120号住居跡に東半を、第3号掘立柱建物跡に住居跡内を切られている。平面は、軸長5.50m×5.99mの方

第120号住居跡出土遺物観察表（第17図）

番号	器 種	口 径	器 高	底 径	胎 土	焼 成	色 調	残 存	出土位置	備 考
1	坏	(13.8)			D	普通	灰白	15	覆土	底部外面←ヘラ削り
2	坏	12.8	4.7		F	良好	にぶい黄橙	100	覆土下位	口縁部横ナデ 底部ヘラ削り
3	坏	(13.1)	(3.8)		B	普通	黄灰	30	覆土	底部外面ヘラ削り
4	坏	(11.4)	(4.0)		A B D	良好	褐灰	30	覆土	底部外面ヘラ削り
5	坏	(13.7)			B D	普通	浅黄橙	20	覆土	底部外面←ヘラ削り 内面器壁荒れ
6	坏	(12.4)	4.3		J	普通	橙	50	覆土	低部外面→ヘラ削り
7	鉢	(10.7)			B E L	普通	にぶい黄橙	40	覆土	胴部外面↑・←ヘラ削り 内面横ナデ
8	壺	21.8			B D J L	普通	橙	45	床	肩部←・↓、胴部↓、下端←ヘラ削り
9	甕			6.1	A J	普通	明赤褐	70	覆土	外面器壁摩耗し整形不明 下端→ヘラ削り 底部木葉痕
10	甕			5.2	E	普通	橙	80	覆土	体部下端→ヘラ削り 内面ナデ

第120号住居跡出土土錘観察表（第17図）

番号	長 さ	径	孔 径	重 さ	分 類	色 調	残 存	備 考
11	(5.99)	1.71	0.59	(13.05)	Bb IV	灰褐	90	
12	6.02	1.89	0.59	18.95	Ba IV	明赤褐	100	
13	6.03	1.82	0.65	20.32	B'a III	にぶい赤褐	100	
14	7.24	2.70	0.59	17.52	Ba III	明褐灰	100	
15	7.47	1.75	0.59	18.96	Ba III	にぶい橙	100	
16	8.26	1.79	0.75	17.43	Ba II	赤灰	100	
17	8.17	1.65	0.58	(17.55)	Ba II	明褐灰	95	カマド
18	8.23	1.76	0.58	19.18	Ba II	淡橙	100	A・D区
19	(2.35)	(0.92)	0.28	(1.65)	Ba	にぶい橙		

形で、深さ8cmを測る。主軸方位は、N-74°-Eを指す。

柱穴は2本の主柱穴が検出された。径54cm、径61cm×75cmの円形で、深さ25cmを測る。

カマド・貯蔵穴とも、確認することはできなかった。

遺物は、須恵器坏・高台付埴、土師器甕の他に土錘が出土した。

第122号住居跡（第19・20図）

M-15グリッドに位置する。第131号住居跡を

切っている。平面は、軸長4.88m×5.35mの方形で、深さ10cmを測る。壁溝は全周し、幅11~23cm、深さ4~7cmを測る。主軸方位は、N-97°-Wを指す。

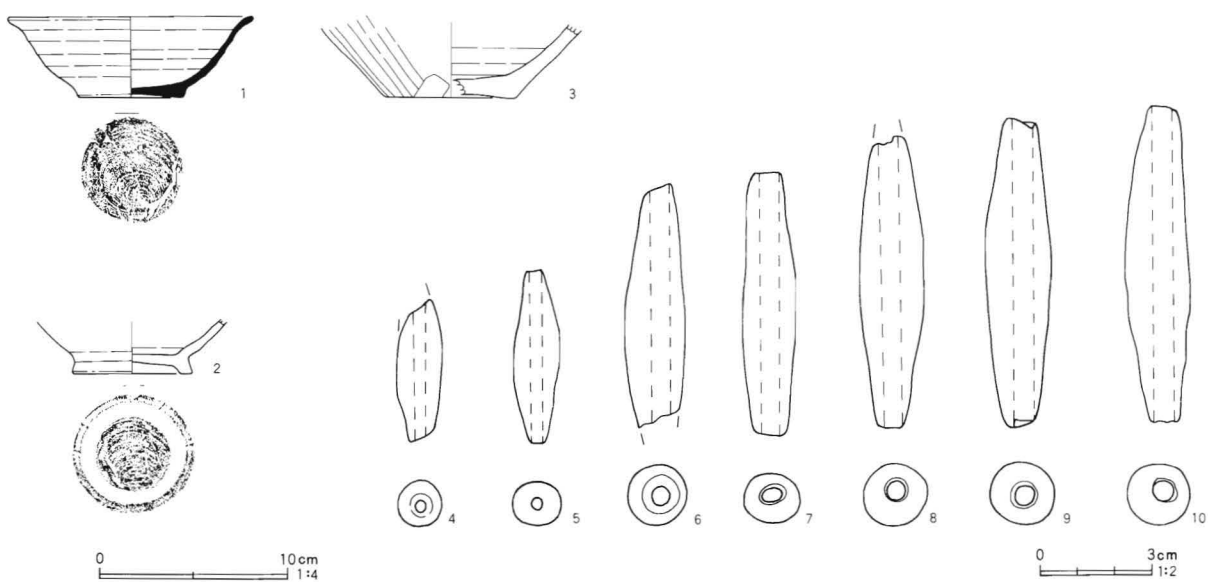
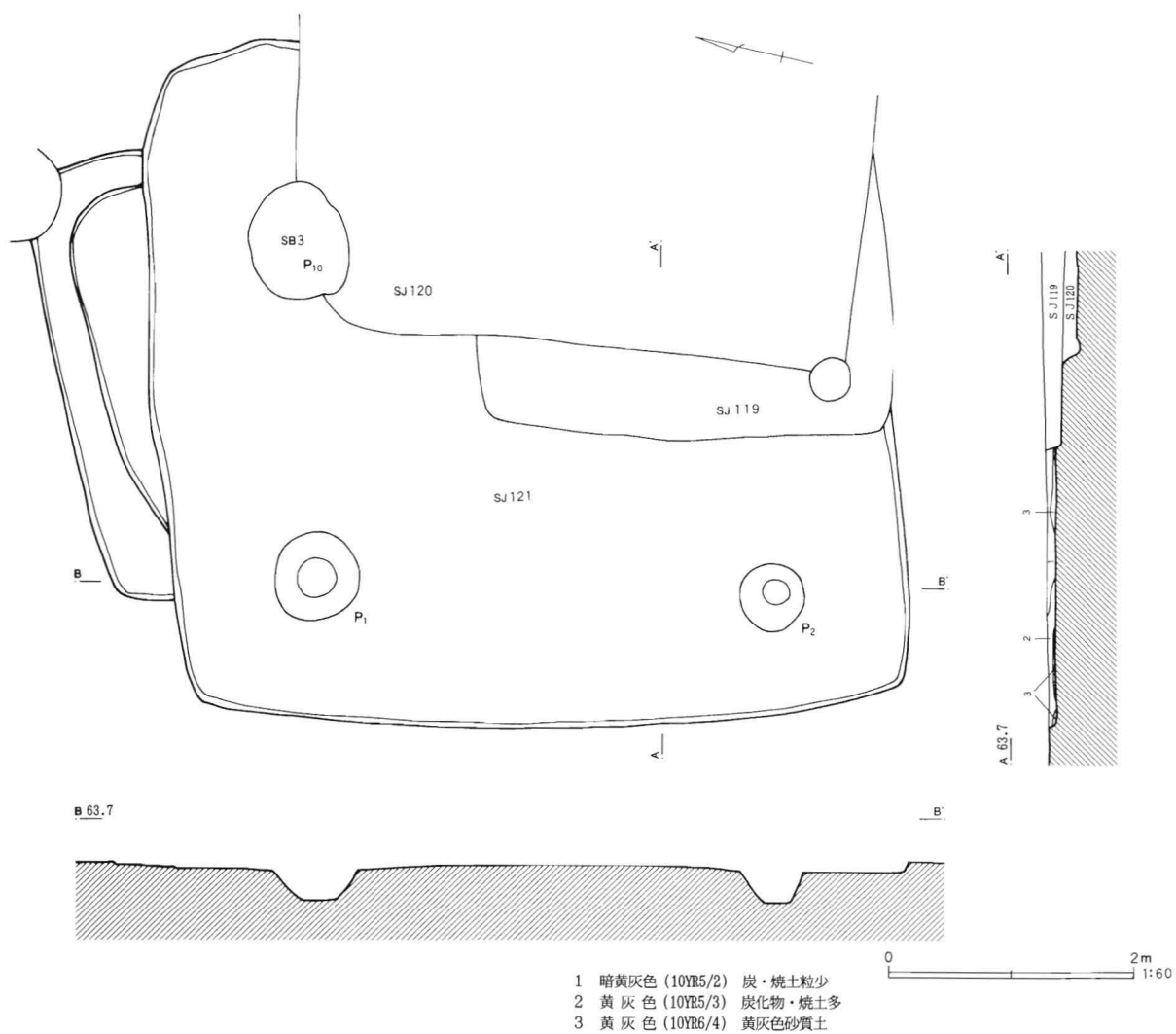
柱穴は4本の主柱穴が検出された。径48~74cm、の円形で、深さ56~68cmを測り、全てで柱痕が確認できた。

カマドは、西壁の南寄りに設けられている。燃焼部は、98cm×58cm、床面から深さ18cmを測る。煙道部は58cm確認できた。

貯蔵穴は、南西隅に検出された。平面は、76cm×

第121号住居跡出土土錘観察表（第18図）

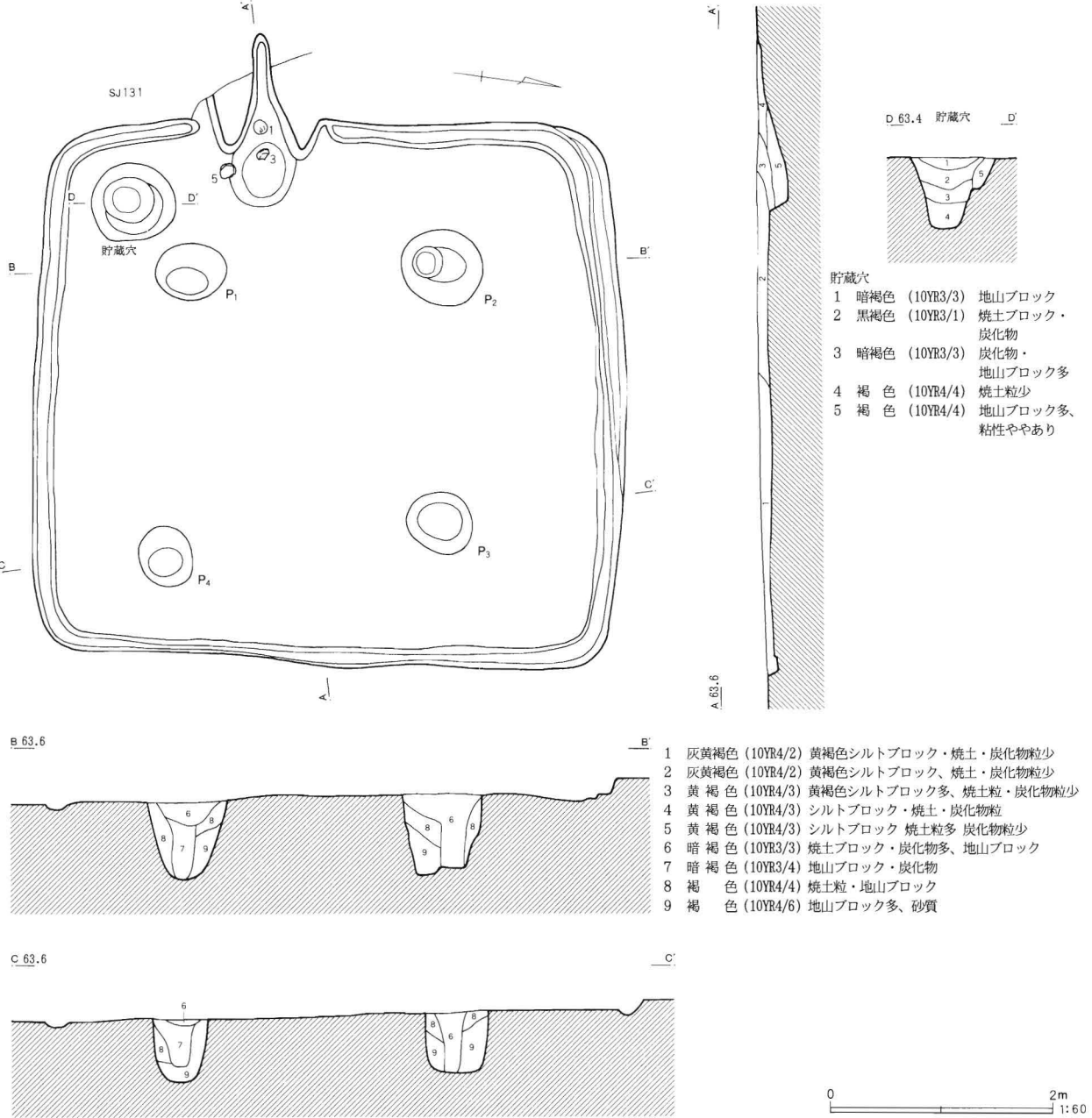
番号	長 さ	径	孔 径	重 さ	分 類	色 調	残 存	備 考
4	(3.71)	1.26	0.46	(5.03)	Ba VI	赤黒	80	B・C区
5	4.63	1.18	0.44	5.16	Ba V	赤灰	100	A・D区
6	(6.34)	1.62	0.50	(14.05)	Ba III	灰白	80	P 1
7	6.99	1.43	0.65	10.97	Ba III	にぶい橙	100	B・C区 砂粒多、片岩含む
8	7.65	1.65	0.53	17.88	Ba II	褐灰	95	P 1
9	8.23	1.67	0.65	19.18	Ba II	灰白	100	A・D区
10	8.43	1.72	0.55	19.71	Ba II	褐灰	100	A・D区
11	(1.02)	1.09	0.39	(2.00)	Ba	明褐灰		A・D区
12	(2.13)	1.56	0.65	(3.67)	Ba	褐灰		B・C区
13	(2.84)	1.85	0.69	(7.82)	B	褐灰		B・C区
14	(3.39)	1.93	0.60	(8.95)	B	褐灰		B・C区
15	(3.53)	2.05	0.75	(9.91)	Ba	にぶい橙		B・C区
16	(4.13)	2.08	0.59	(16.79)	Bb	にぶい橙		



第18図 第121号住居跡・出土遺物

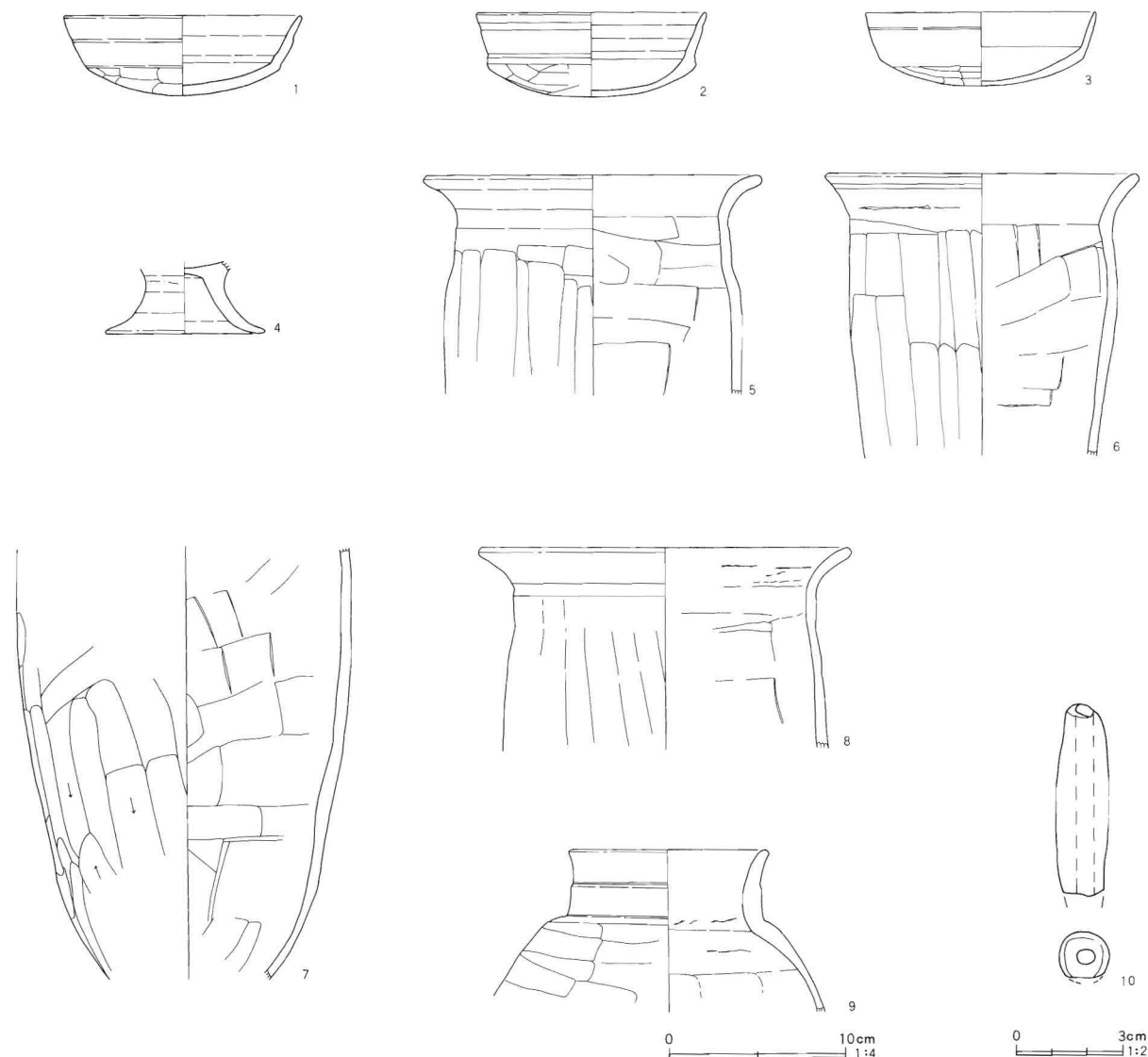
第121号住居跡出土遺物観察表（第18図）

番号	器 種	口 径	器 高	底 径	胎 土	焼 成	色 調	残 存	出土位置	備 考
1	坏	(13.7)	4.3	5.6	B J L	不良	灰白	40	覆土	底部右回転糸切り
2	高台付埴			6.1	E J	普通	橙	80	覆土	酸化焙焼成 貼り付け高台
3	甕			(6.9)	B E	不良	淡橙	40	覆土	外面↓ヘラ削り 底部ヘラ削り



第19図 第122号住居跡

68cmのほぼ円形を呈し、深さ64cmを測る。土した。
遺物は、土師器坏・高坏・甕・壺の他に土鍾が出



第20図 第122号住居跡出土遺物

第122号住居跡出土遺物観察表 (第20図)

番号	器 種	口 径	器 高	底 径	胎 土	焼 成	色 調	残 存	出土位置	備 考
1	坏	13.2	4.5	(8.8)	D F J	普通	にぶい橙	95	床	口縁部右回転横ナデ
2	坏	(12.8)	4.7		B D E H	普通	にぶい赤褐	40	ビット 1	口縁部左回転ナデ
3	坏	(12.9)	4.1		A B D J	不良	橙	40	カマド	口縁部左回転ナデ 底部一定方向へラ削り
4	台付 甕	(18.5)			B G	普通	橙	60	覆土	脚台部内外面横ナデ
5	甕		J L		良好	にぶい黄橙	40	覆土	口縁部横ナデ 胴部外面↓方向へラ削り 内面横ナデ	
6	甕	17.2	J L		良好	にぶい黄橙	80	床	口縁部横ナデ 胴部外面↓方向へラ削り 内面横ナデ	
7	甕		J L		普通	にぶい黄橙	60	覆土	外面↓方向 下端↑方向へラ削り	
8	甕	20.6	J		普通	にぶい橙	40	覆土	口縁部横ナデ 胴部外面↓方向へラ削り 内面横ナデ	
9	壺	10.8			B F J L	良好	にぶい黄橙	80	貯蔵穴	口縁部横ナデ 体部部外面へラ削り 内面横ナデ

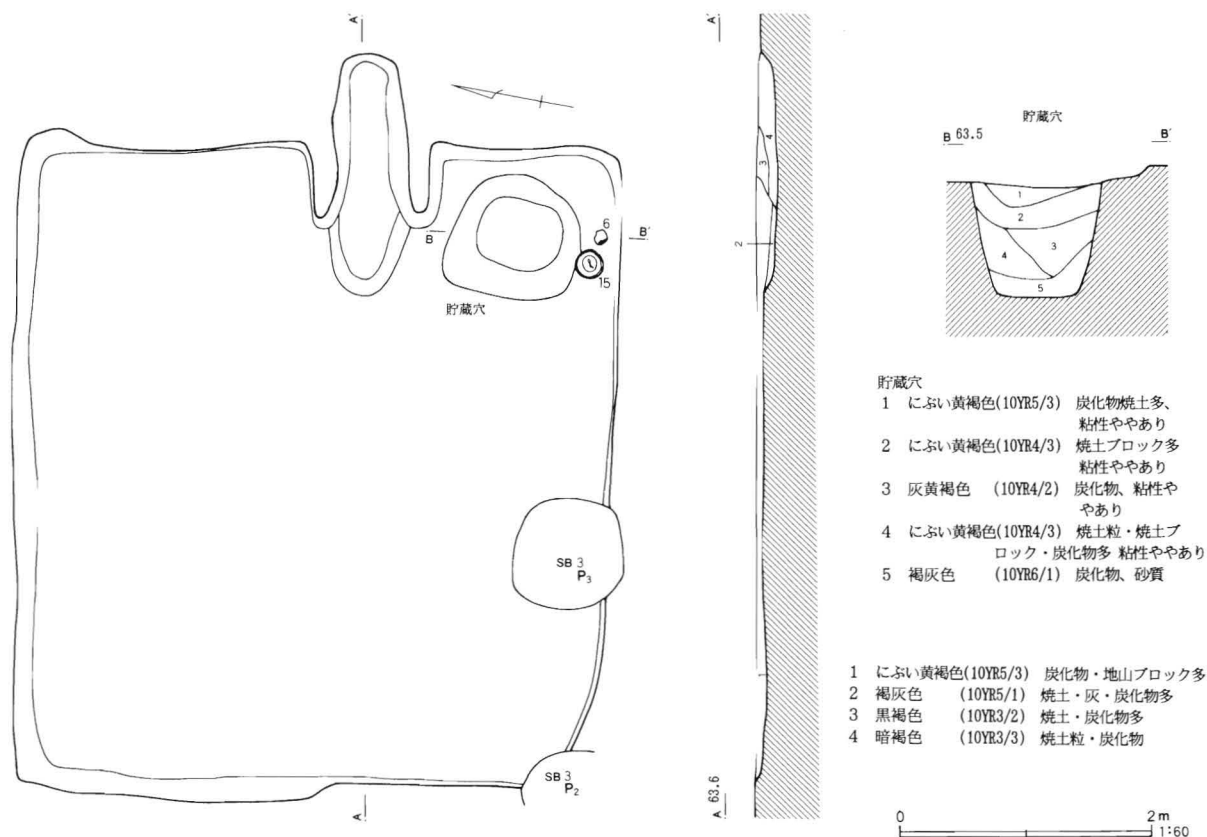
第122号住居跡出土土錘観察表 (第20図)

番号	長 さ	径	孔 径	重 さ	分 類	色 調	残 存	備 考
10	(5.53)	1.49	0.54	(10.94)	B	褐灰	80	A・D区

第123号住居跡（第21～23図）

L-15グリッドを中心に位置する。第3号掘立柱建物跡に切られ、第174号住居跡の上に乗っている。平面は、軸長5.30m×4.75mの方形で、深さ7cmを

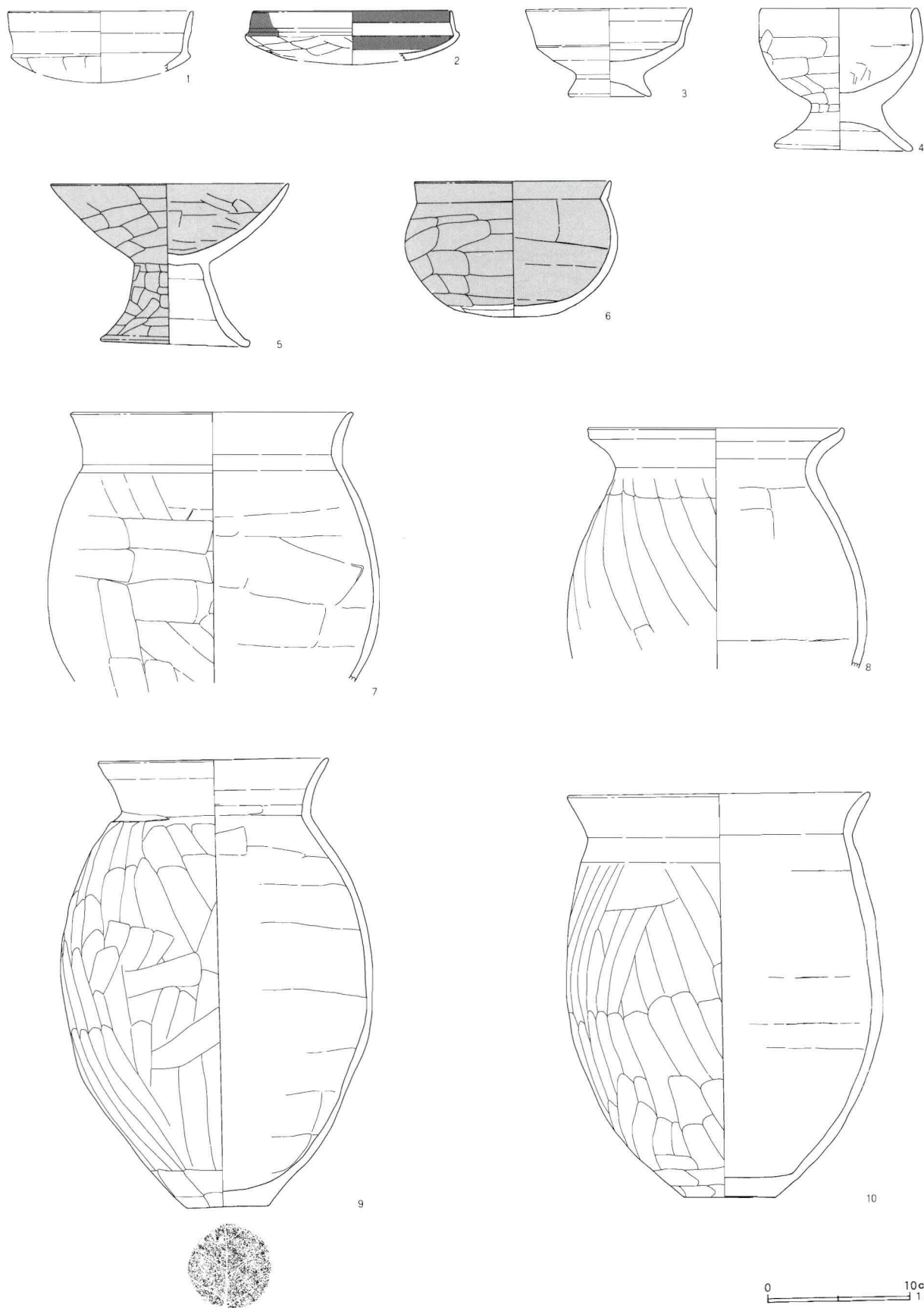
測る。主軸方位は、N-82°-Eを指す。
カマドは、東壁のやや南寄りに設けられている。燃焼部は、190cm×64cm、床面から深さ11cmを測る。
貯蔵穴は、南東隅に検出された。平面は、105cm×



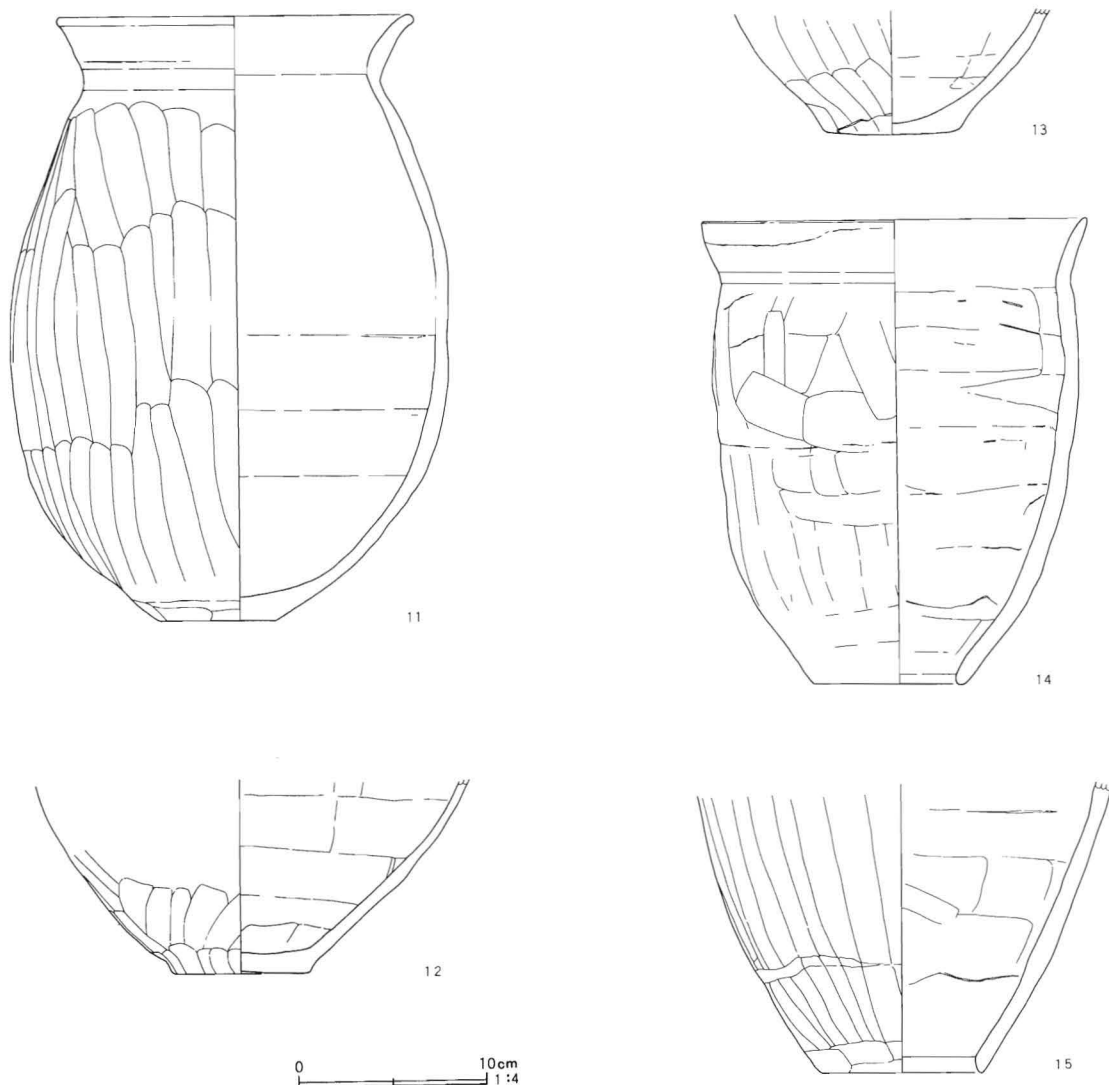
第21図 第123号住居跡

第123号住居跡出土遺物観察表（第22・23図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	(12.8)			BK	普通	橙	15	貯蔵穴	口唇外面に油煙
2	坏	(13.8)			E	良好	におい黄褐	30	貯蔵穴	口縁部・体部内面周辺に油煙
3	高台付坏	(11.5)	6.1	5.6	B	不良	橙	60	貯蔵穴	調整不明
4	高坏	11.0	9.8	(9.4)	B	不良	橙	90	貯蔵穴	口縁部横ナデ 坏部外面←へら削り 接合部へらナデ
5	高坏	(16.1)	11.4	10.3	BE	良好	明赤褐	80	貯蔵穴	外面へら状工具ナデ 内面工具ナデ 脚台部内面ロクロナデ 赤彩
6	鉢	13.6	9.5	4.5	BEF	普通	におい赤褐	85	床	胴部外面へらナデ 下端～底部へら削り 内外面赤彩
7	甕	(19.5)			EFJ	普通	橙	50	貯蔵穴	胴部外面←・↓へら削り 内面横ナデ
8	甕	17.6			JL	普通	におい橙	70	覆土	口縁～頸部ロクロナデ 胴部内面↑へら削り
9	甕	15.9	31.3	5.6	BF	良好	灰褐	80	貯蔵穴	胴部外面↓ 下端→へら削り 内面横ナデ 底部木葉痕
10	甕	(20.9)	28.3	6.3	BEFJ	普通	におい橙	70	貯蔵穴	口縁部横ナデ 胴部外面↓ 下端←へら削り 内面横ナデ
11	甕	(18.5)	6.0	32.0	EJ	普通	灰褐	55	覆土	胴部外面↓ へら削り
12	甕			7.4	EFJL	不良	赤褐	70	貯蔵穴	外面↓へら削り 一部へら先による↓ナデ
13	甕			7.0	J	普通	におい褐	40	覆土	外面↓ 下端一部→へら削り 底部へら削り
14	甕	20.4	24.7	7.9	BE	普通	におい黄橙	65	貯蔵穴	粘土帯積み上げ痕顕著 摩耗により↓・→へら削り不明瞭
15	甕			8.5	BJL	良好	におい黄橙	95	床	外面↓、下端←へら削り 内面縦及び横ナデ



第22図 第123号住居跡出土遺物(1)



第23図 第123号住居跡出土遺物(2)

99cmのやや歪んだ隅丸方形で、深さ90cmを測る。

遺物は、土師器坏・高台付坏・高坏・鉢・甕・壺・甗が出土した。

第124号住居跡（第24～26図）

M・N-14グリッドを中心に位置する。第126・130号住居跡を切る。南側は調査区外で、また住居跡中央で南北方向に攪乱を受けており平面は、東西6.68m×南北4.03m以上で、深さ25cmを測る。壁溝は東壁から北壁で確認でき、幅18～24cm、深さ2～5cmを測る。主軸方位は、N-83°-Eを指す。

カマド・貯蔵穴などの施設は確認できなかった。

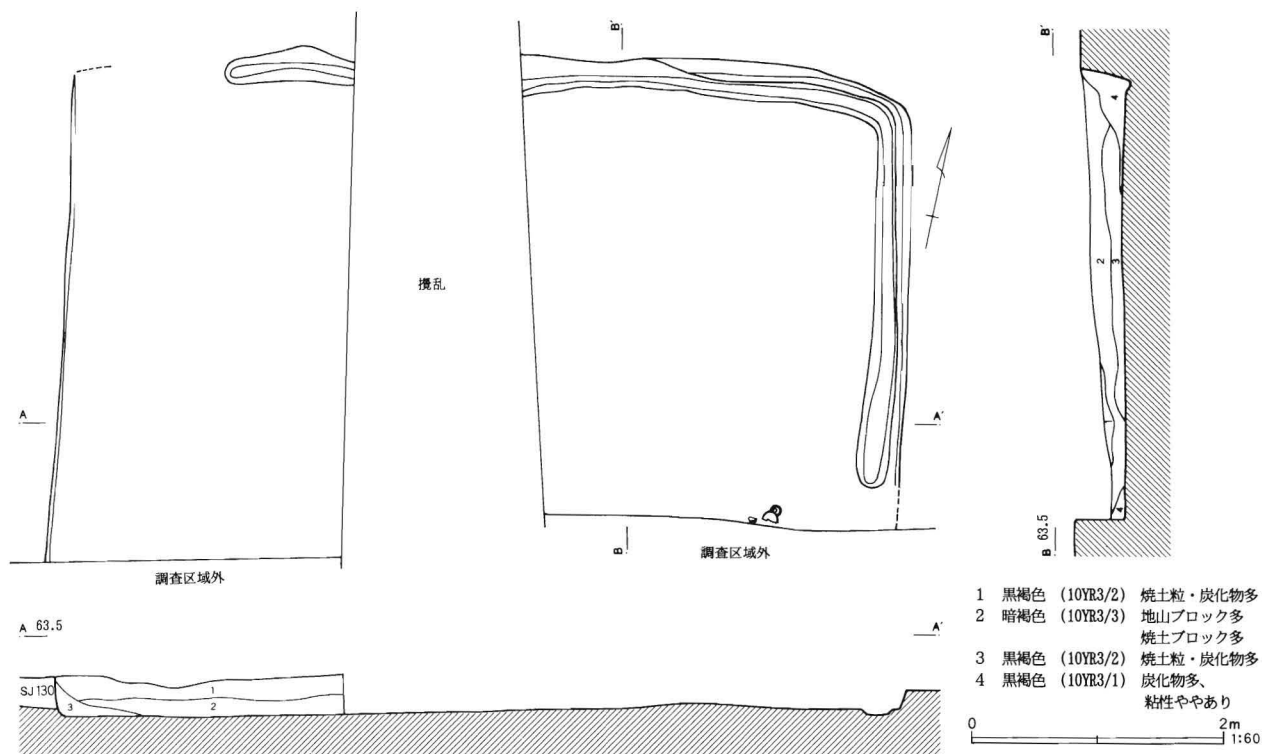
遺物は、土師器坏・坑・台付甕・甕、須恵器坏・高台付坑・蓋の他に土鍾が多数出土した。

第126号住居跡（第27図）

M-15グリッドを中心に位置する。第124号住居跡に西半を切られ、第131号住居跡を切っている。平面は、南側が調査区外、西側は第124号住居跡に切られているため南北1.57m以上×東西1.81m以上で、深さ8cmを測る。主軸方位は、N-11°-Wを指す。

カマド・貯蔵穴等の施設は、確認できなかった。

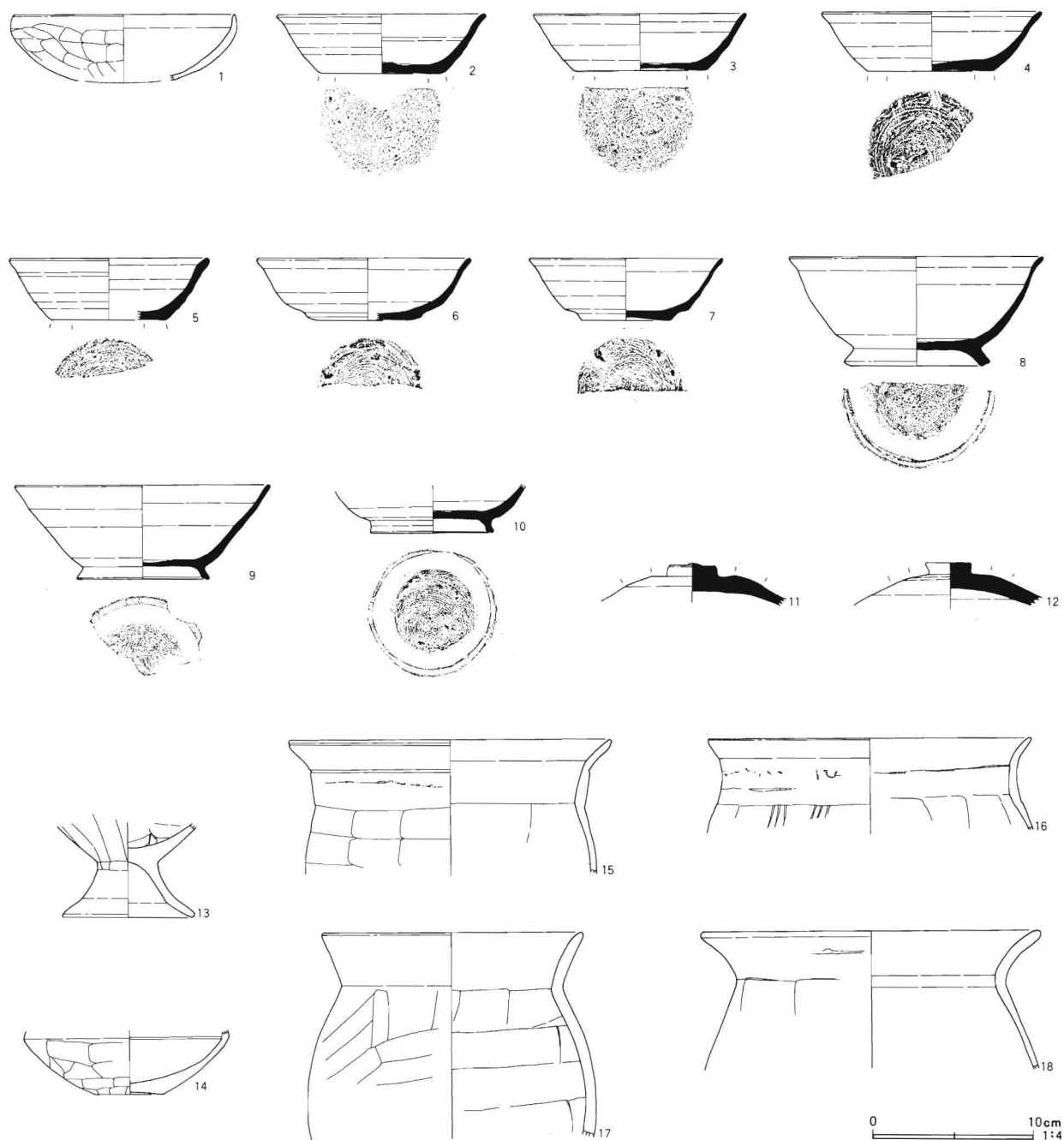
遺物は、土師器高坏片・甕片が出土した。



第24図 第124号住居跡

第124号住居跡出土遺物観察表 (第25図)

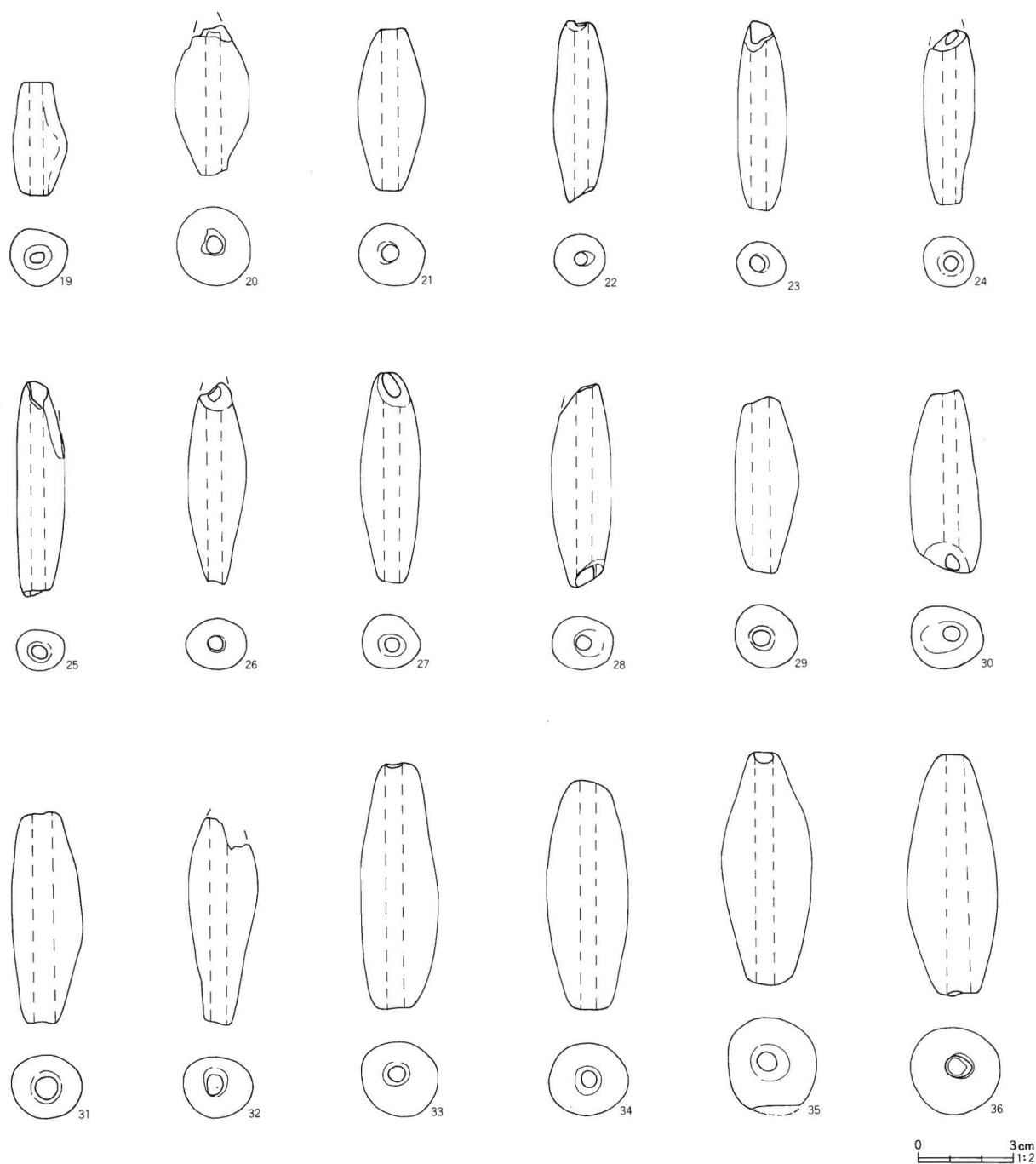
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	(13.6)	(4.1)		A F J	普通	にぶい褐	20	覆土	底部外面手持ちヘラ削り
2	坏	(12.7)	3.6	(7.8)	B F H J	良好	灰	55	覆土	底部右回転糸切り後、周辺ヘラナデ
3	坏	(13.0)	3.4	(8.2)	B H J	良好	灰オリーブ	50	覆土	底部右回転糸切り後、周辺ヘラナデ 「×」のヘラ記号
4	坏	(13.4)	3.6	(7.8)	H J	良好	灰	40	覆土	右回転糸切り後、周辺ヘラナデ ヘラ起し 痕 「=」のヘラ記号
5	坏	(12.1)	3.8	(7.0)	B H J	良好	灰オリーブ	30	覆土	回転糸切り後、周辺ヘラナデ
6	坏	(13.1)	3.9	(7.1)	F I J L	良好	灰	30	覆土	底部右回転糸切り
7	坏	(11.9)	3.8	(5.5)	A B J L	良好	灰	35	覆土	底部右回転糸切り
8	高台付埴	(15.6)	6.7	(9.0)	F J		灰白	30	覆土	貼り付け高台
9	高台付埴	(15.6)	5.9	(8.0)	J L	良好	灰	25	覆土	貼り付け高台
10	高台付埴			7.5	H J L	良好	灰	80	覆土	貼り付け高台
11	蓋				B H J L	良好	にぶい黄褐	70	覆土	肩部右回転ヘラ削り 擬宝珠状つまみ
12	蓋				L J	不良	灰白	25	覆土	肩部右回転ヘラ削り ぼたん状つまみ
13	台付甕			(8.0)	A H J	普通	にぶい赤褐	60	覆土	外面↓方向、接合部→方向ヘラ削り 脚台部不明
14	埴			4.0	B J L	普通	橙	40	覆土	体部外面ヘラ削り 内面屈曲部に沈線
15	甕	(19.8)			B F	普通	橙	30	覆土	外面頸部ヘラ削り後横ナデ 体部外面→方 向ヘラ削り
16	甕	(19.8)			D E	普通	橙	15	覆土	体部外面←方向ヘラ削り 内面横ナデ 口縁～頸部粘土接合痕
17	甕	(16.0)			J L	普通	暗灰黄	35	覆土	体部外面ヘラ削り 内面横ナデ
18	甕	(20.8)			B E J L	普通	橙	25	覆土	体部外面→方向ヘラ削り



第25図 第124号住居跡出土遺物(I)

第124号住居跡出土土錘観察表 (第26図)

番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
19	3.55	1.76	0.51	9.56	Cb VI	灰白	100	
20	(4.88)	2.51	0.66	(21.30)	Ca V	にふい赤褐	90	
21	5.03	2.06	1.52	19.55	Bb V	灰赤	100	
22	(5.57)	1.61	0.51	(11.14)	Ba IV	浅黄橙	95	
23	(5.76)	1.46	0.51	(10.85)	Ba IV	灰褐	90	
24	(5.38)	1.71	0.43	(14.21)	Ba III	赤	80	
25	6.65	1.48	0.62	(12.19)	Ba III	にふい橙	90	
26	(6.31)	1.85	0.52	(16.29)	Ba III	橙	95	
27	6.53	1.77	0.53	(16.98)	Ba III	にふい橙	95	



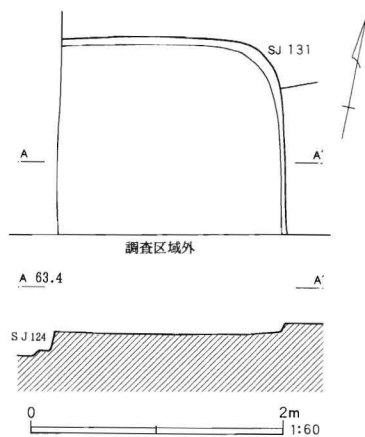
第26図 第124号住居跡出土遺物(2)

第124号住居跡出土土錘観察表 (第26図)

番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
28	(6.32)	1.80	0.52	(17.16)	Ba IV	にぶい橙	90	
29	5.63	1.93	0.56	19.45	B'a IV	にぶい橙	100	
30	(5.79)	1.01	0.62	(22.06)	Ba IV	にぶい橙	70	
31	6.53	2.13	0.65	(24.77)	B'a IV	にぶい橙	95	
32	(6.54)	2.06	0.68	(19.66)	Ba IV	褐灰	70	
33	7.71	2.38	0.62	38.99	Ba II	淡橙	100	
34	(7.24)	2.46	0.62	(38.39)	Ba III	灰白	95	

第124号住居跡出土土錘観察表（第26図）

番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
35	7.25	2.98	0.71	(53.79)	Ba III	褐灰	95	
36	7.57	2.83	0.78	51.68	Ba II	黒褐	100	
37	(3.50)	1.47	0.55	(7.38)	Aa	褐灰		
38	(2.77)	(1.53)	0.37	(4.63)	Aa	灰黄褐		
39	(3.39)	1.94	0.47	(10.88)	Cb	にぶい橙	50	
40	(3.83)	(1.41)	0.49	(6.39)	Ba	橙		
41	(2.68)	(1.61)	0.49	(5.52)	B	橙		
42	(2.43)	(1.60)	(0.31)	(3.67)	B	赤灰		
43	(4.16)	(1.68)	0.53	(9.94)	Ba	橙	40	
44	(3.33)	(2.02)	0.48	(10.51)	B	にぶい橙		
45	(5.63)	2.03	0.52	(19.34)	Bb	にぶい橙	50	



第27図 第126号住居跡

第130号住居跡（第28・29図）

M・N-14グリッドに位置する。第124号住居跡に北壁が切られ、第134号住居跡を切っている。平面は、南側が調査区外となっており、軸長5.44m×6.50m以上の方形で、深さ19cmを測る。主軸方位は、N-65°

第130号住居跡出土遺物観察表（第29図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	(12.5)	5.9		B J	不良	にぶい黄橙	40	覆土	口縁部横ナデ 体部ヘラ削り
2	甕				A J	普通	にぶい橙	35	カマド	外面ヘラ削り
3	甕			7.2	B E	普通	にぶい橙	70	覆土	外面横ナデ 底部ヘラ削り

第130号住居跡出土土錘観察表（第29図）

番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
4	4.60	1.66	0.67	12.01	Ba V	にぶい橙	100	
5	4.71	1.91	0.58	14.61	Ba V	赤灰	100	
6	5.38	1.58	0.51	13.23	Ba V	にぶい橙	100	
7	5.53	1.96	0.54	20.95	Ba IV	にぶい橙	100	
8	6.11	1.74	0.46	13.33	Ba IV	淡橙	100	
9	6.61	1.94	0.66	(19.82)	Ba III	褐灰	70	
10	7.36	1.62	0.57	(14.00)	Ba III	にぶい橙	95	
11	(5.88)	1.26	0.51	(8.62)	Ba	にぶい橙		
12	(3.72)	1.47	0.52	(5.18)	A	にぶい橙		
13	(5.08)	1.68	0.55	(9.96)	Ba	にぶい橙	60	

—Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。南側が第124号住居跡に切られ、燃焼部奥が攪乱を受けているため燃焼部は、93cm以上×40cm以上を測り、床面と同じ高さである。

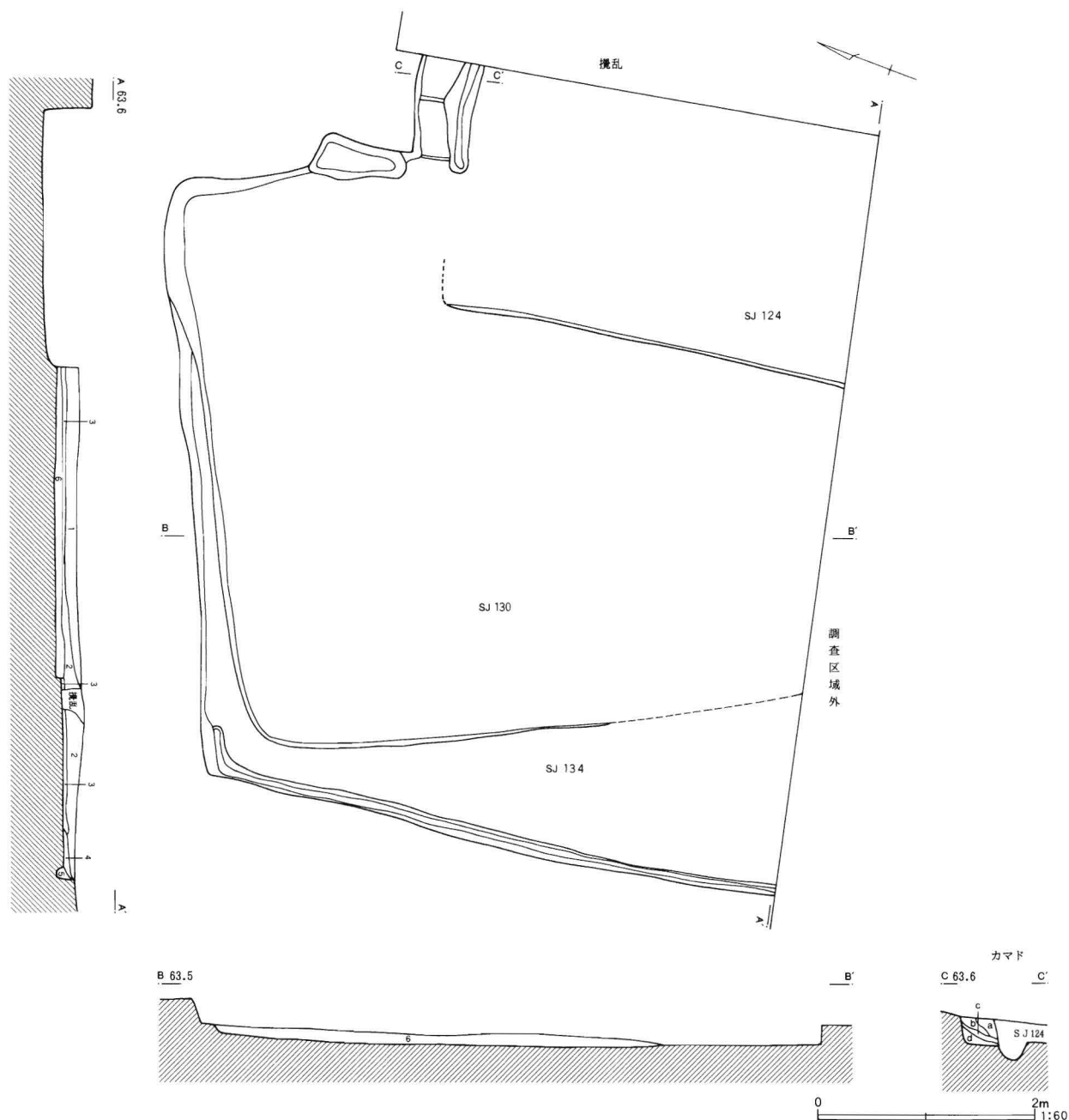
遺物は、土師器坏・甕の他に土錘が出土した。

第134号住居跡（第28図）

M・N-14グリッドに位置する。第124・130号住居跡に西壁と北壁を除きほとんどが切られている。平面は、南側が調査区外で、確認できる規模は、西壁5.34m×北壁4.44mで台形と推定され、深さ20cmを測る。壁溝は西壁のみで検出でき、幅10～15cm、深さ3～7cmを測る。主軸方位は、N-80°—Eを指す。

カマド・貯蔵穴等の施設は、確認できなかった。

遺物は、土師器片が僅かに出土した。



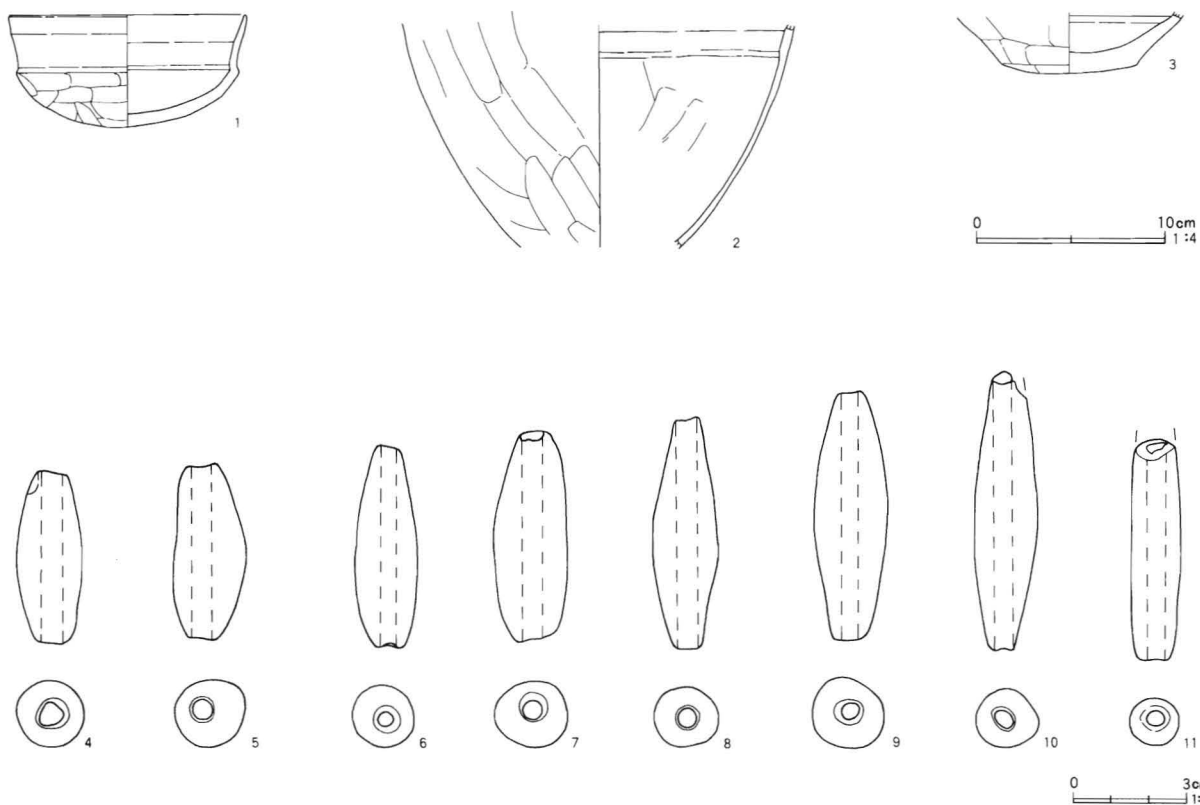
SJSJ130・134

- 1 褐色 (10YR4/6) 焼土粒少
- 2 暗褐色 (10YR3/3) 地山ブロック多
- 3 黒色 (10YR2/1) 炭化物層
- 4 暗褐色 (10YR6/2) 炭化物・地山ブロック多
- 5 灰黄褐色 (10YR4/4) 焼土粒・粘性ややあり
- 6 褐色 (10YR4/4) 焼土粒・炭化物・暗褐色土ブロック多

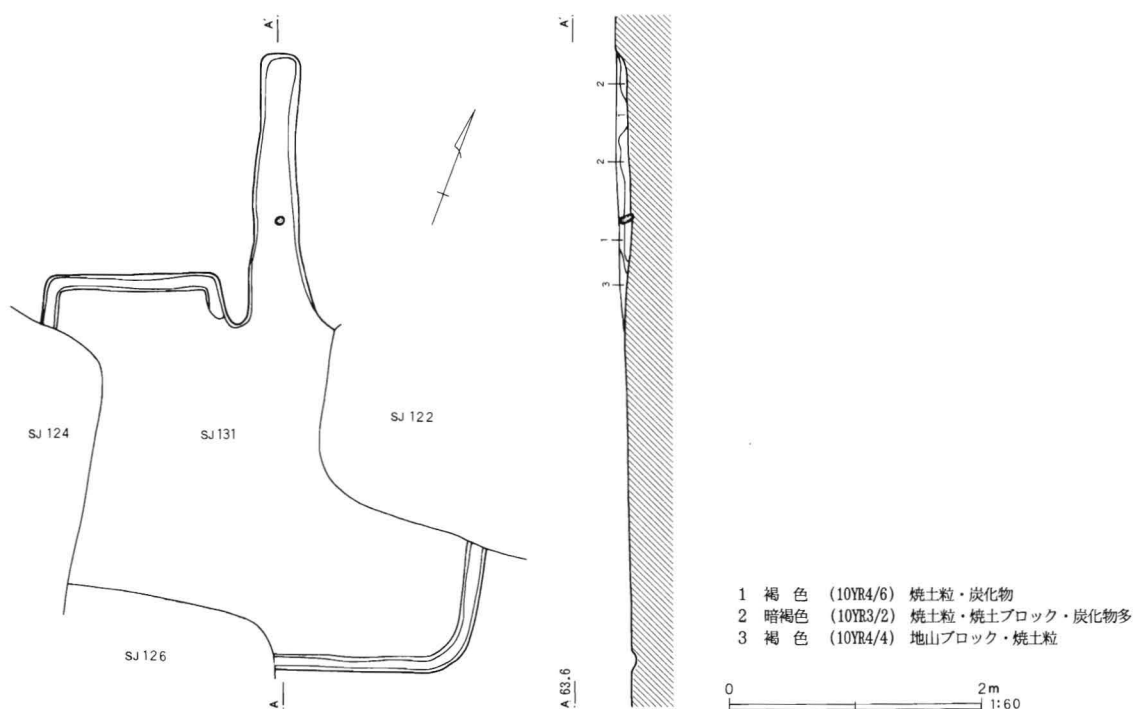
カマド

- a 黒褐色 (10YR3/1) 焼土ブロック
- b 赤褐色 (10YR4/8) 焼土ブロック多、黒褐色ブロック
- c 黒褐色 (10YR3/1) 炭化物多
- d 褐色 (10YR4/4) 地山ブロック・焼土粒

第28図 第130・134号住居跡



第29図 第130号住居跡出土遺物



第30図 第131号住居跡

第131号住居跡（第30図）

M-15グリッドに位置する。第122号住居跡に北東部、第124号住居跡に西壁、126号住居跡に南壁の西部が切られている。平面は、軸長3.12m×3.60mの方形で、深さ5cm程を測る。壁溝は、壁が確認されたところでは全て確認されており、全周していたと推定される。幅12~16cm、深さ3~5cmを測る。主軸方位は、N-19°-Wを指す。

カマドは、北壁に設けられている。燃焼部は、220cm×50cm、床面から深さ10cmを測る。

遺物は、土師器片が僅かにカマドから出土した。

第135号住居跡（第31図）

M-14グリッドに位置する。第117号住居跡にカマド西半から北西隅、130号住居跡に南西部、第2号掘立柱建物跡に北壁の一部が切られ、第136号住居跡を切っている。平面は、軸長4.52m×4.58mの方形で、深さ28cmを測る。主軸方位は、N-24°-Wを指す。

カマドは、北壁の西に偏って設けられている。西側が第117号住居跡に切られており、燃焼部は、73cm×25cm以上を測り、床面と同じ高さである。

遺物は、土師器坏・壺・甑の他に土錘が出土した。

第135号住居跡出土遺物観察表（第31図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	(12.0)	4.4		B J	普通	明赤褐	60	覆土	口縁部横ナデ 底部ヘラ削り
2	壺	(21.0)			A J L	普通	にぶい褐	50	覆土	口縁部横ナデ
3	甑	(28.5)	29.1	(9.0)	E J L	普通	にぶい橙	25	覆土	胴部外面↓ヘラ削り

第135号住居跡出土土錘観察表（第31図）

番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
4	(6.15)	1.01	0.51	(18.23)	Ba	明赤褐	70	
5	(2.46)	1.47	0.61	(4.75)	Aa	橙		

第154号住居跡（第32・33図）

I-16グリッドに位置する。第3号溝に北壁が切られ、第155・197号住居跡を切っている。地形が北へ傾斜しており、平面は、北壁が第3号溝によっても不明であるが軸長3.74m×4.01m以上の方形で、深さ33cmを測る。主軸方位は、N-84°-Eを指す。

ピット1の上にある石は被熱して赤変しており、SK2の底面には鉄分の層があった。また、住居跡覆土中からは鉄滓が多量に出土した。

カマドは、東壁の南寄りに設けられている。燃焼部は、151cm×67cm、床面から深さ10cmを測る。

貯蔵穴は、南東隅に検出された。平面は64cm×46cmの方形に近く、深さ15cmを測る。

遺物は、土師器坏・小型甕、須恵器坏・高盤・瓶・甕・小刀の他に土錘が出土した。11の小刀は切先と茎の端部が欠損し、刃部が折れ曲がった状態でピッ

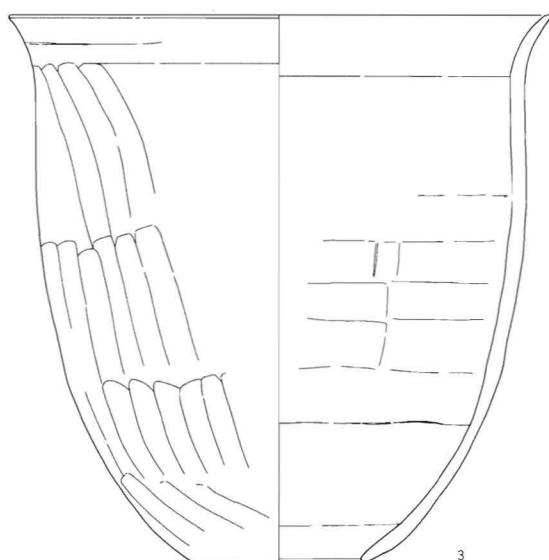
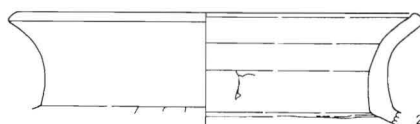
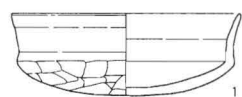
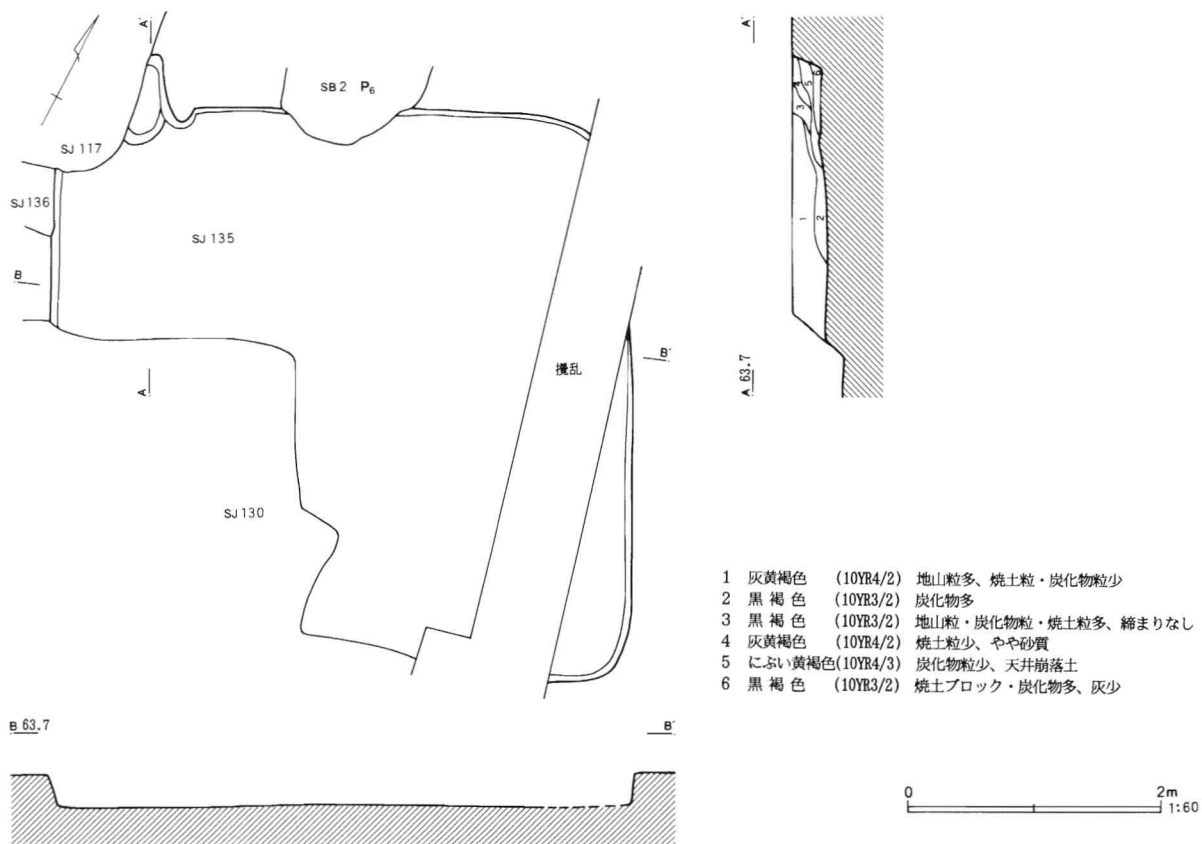
ト2の坑底から出土した。その他に住居跡の覆土中からは、鉄滓の他に羽口片・炉壁片も出土した。

第155号住居跡（第34図）

I-16グリッドを中心に位置する。第154号住居跡・第3号溝に南半部が切られている。第3号溝以北は地形が傾斜して不明である。平面は、東西3.00m×南北1.66m以上で、深さ7cmを測る。主軸方位は、N-86°-Eを指す。

カマド・貯蔵穴等の施設は、確認できなかった。

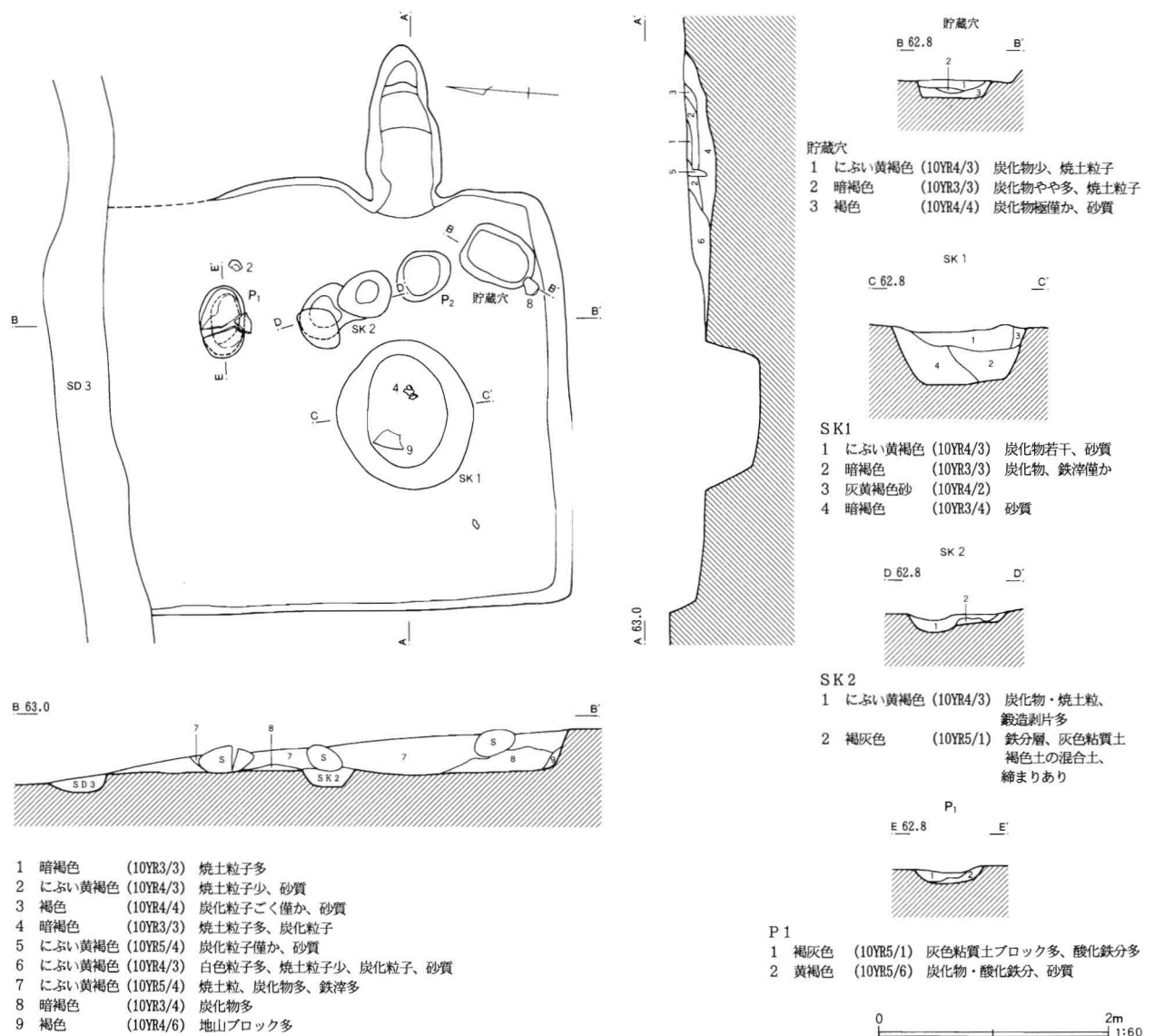
遺物は、土師器片が若干出土した。



0 10cm 1:4

0 3cm 1:2

第31図 第135号住居跡・出土遺物



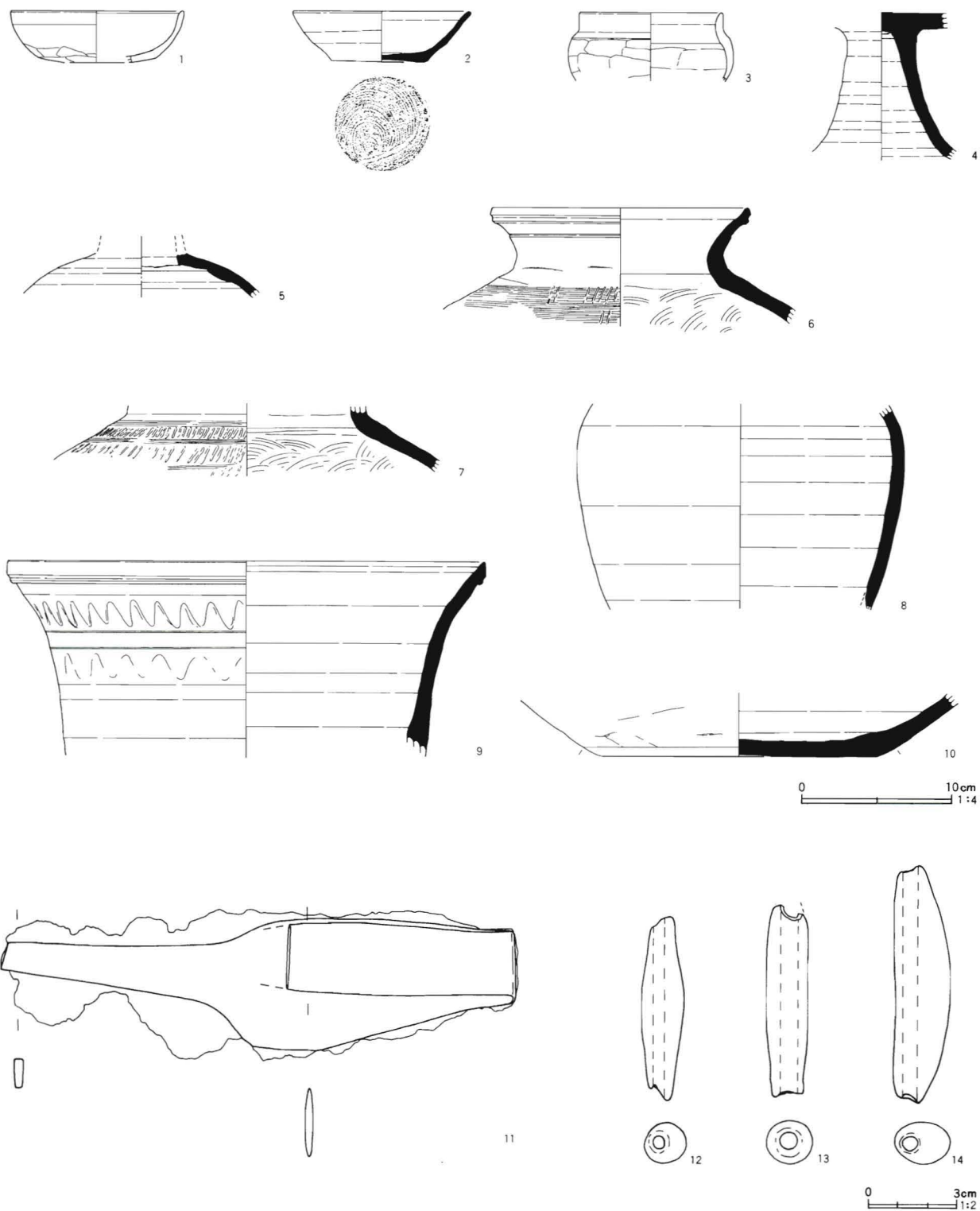
第32図 第154号住居跡

第154号住居跡出土遺物観察表 (第33図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	(11.6)	3.4	(7.8)	B D E J	普通	橙	20	貯蔵穴	底部へう割り
2	坏	11.8	3.4	6.5	B J L	良好	灰	95	覆土	底部右回転糸切り 内面に鉄滓附着
3	甕	(9.4)			B D J	普通	におい赤褐	25	覆土	外面→へう割り
4	高盤				B J L	良好	灰	80	SK1坑底	外面工具によるナデ
5	長頸瓶				B J L	良好	灰	50	SK1	
6	甕	(17.0)			B J L	良好	灰	10	SK1	外面平行叩き後カキ目 内面同心円分当具痕
7	甕				B J L	良好	灰	10	SK1	外面平行叩き後カキ目 内面同心円分当具痕
8	甕				B L	良好	黄灰	25	覆土中位	
9	甕	(32.0)			B J L	不良	におい黄橙	25	SK1	頸部波状文 内外面摩耗著しい
10	甕			18.6	B J L	良好	灰	60	SK1坑底	底部左回転へう割り

第154号住居跡出土土錘観察表 (第33図)

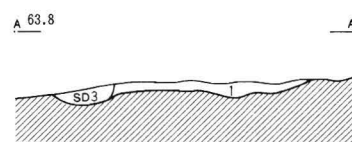
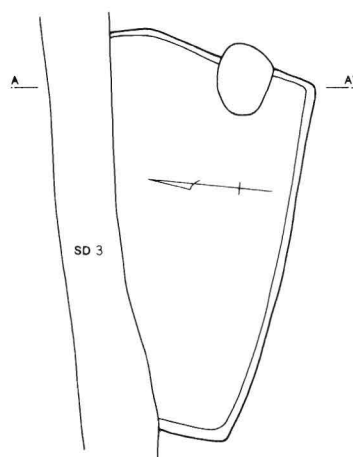
番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
12	(6.35)	1.65	0.65	(9.24)	Ba IV	橙	95	
13	7.90	1.85	0.50	13.38	Ba IV	におい黄橙	100	
14	(4.75)	1.35	0.40	(19.68)	B'a II	黒褐	50	SK1
15	(5.25)	(2.10)	(0.45)	(5.88)	Ba	橙	40	SK1



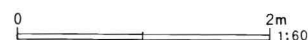
第33図 第154号住居跡出土遺物

第154号住居跡出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
16	(3.05)	(1.65)	(0.50)	(11.91)	B	灰褐		
17	(2.70)	(1.35)	0.45	(4.42)	B	にふい黄橙		
18	2.79	1.41	0.52	4.01	B	暗褐		



1 におい黄褐色(10YR4/3) 地山ブロック多、砂質、炭化物



第34図 第155号住居跡

第156号住居跡 (第35図)

I・J-16グリッドを中心に位置する。第196号住居跡を切っている。平面は、軸長4.20m×3.09mの長方形で、深さ18cmを測る。主軸方位は、N-78°-Eを指す。

北東隅には、ピットがあり54×40cmの楕円形を呈し、深さは14cmを測る。中央部には、径100~106cmの円形の土坑があり、深さは7cmを測る。ピットの西には炭化材があり、一部焼失の可能性がある。

カマドは、東壁の南寄りに設けられている。燃焼部は124cm×76cmで、カマド前面が土坑状で、床面から深さ21cmを測る。

遺物は、土師器環・甕、須恵器環・高台付碗・蓋・

瓶・甕破片、刀子の他に土錘が出土した。9は鉄族茎で6.54g、10は刀子で刃部が折れ曲がっており、31.41gを量る。

第157号住居跡 (第36図)

J-16グリッドに位置する。第158号住居跡に西半部、第71号土坑に北東隅が切られ、第163号住居跡を切っている。平面は、西側が第157号住居跡に切られているため軸長1.90m以上×2.32mで、深さ7cmを測る。主軸方位は、N-65°-Eを指す。

カマドは、東壁の北寄りに設けられている。燃焼部は、70cm×45cm、床面から深さ16cmを測る。

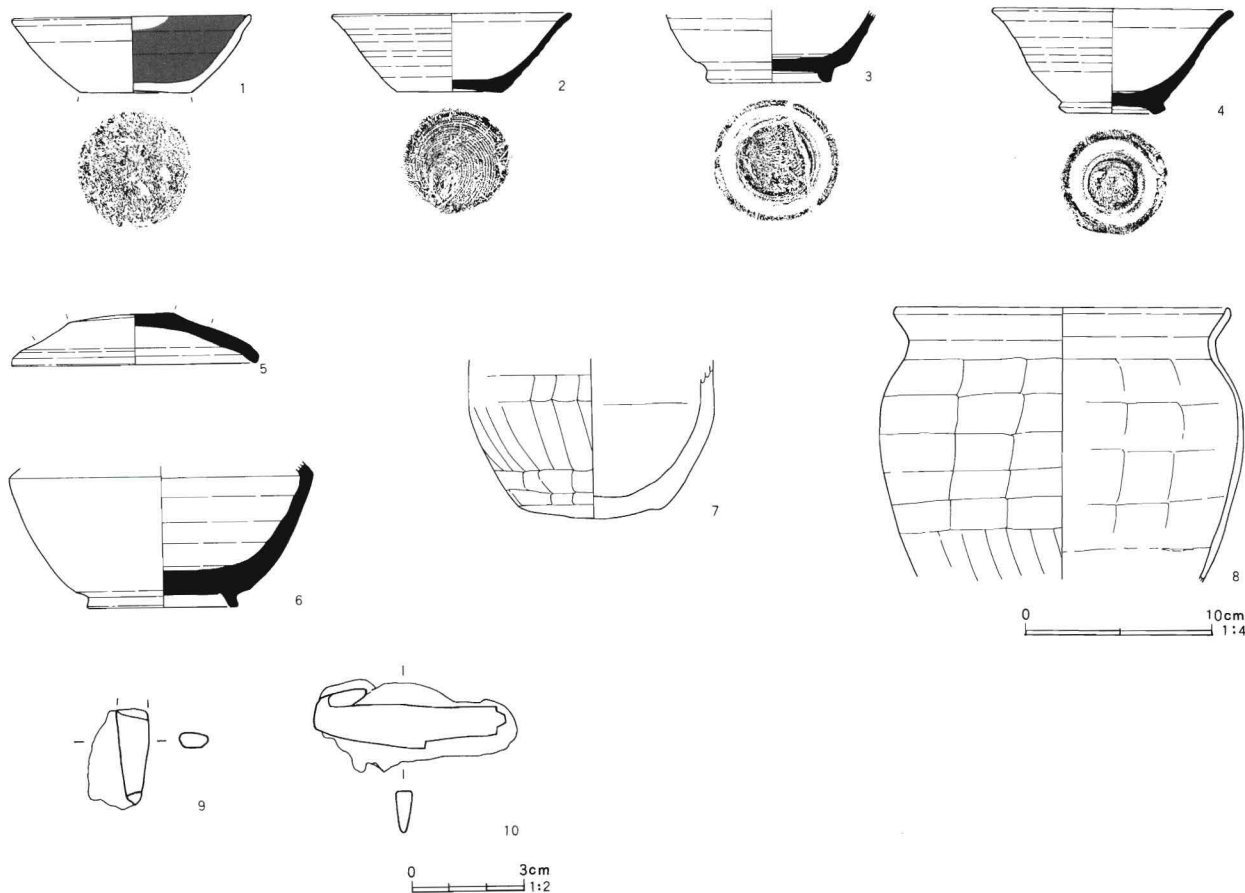
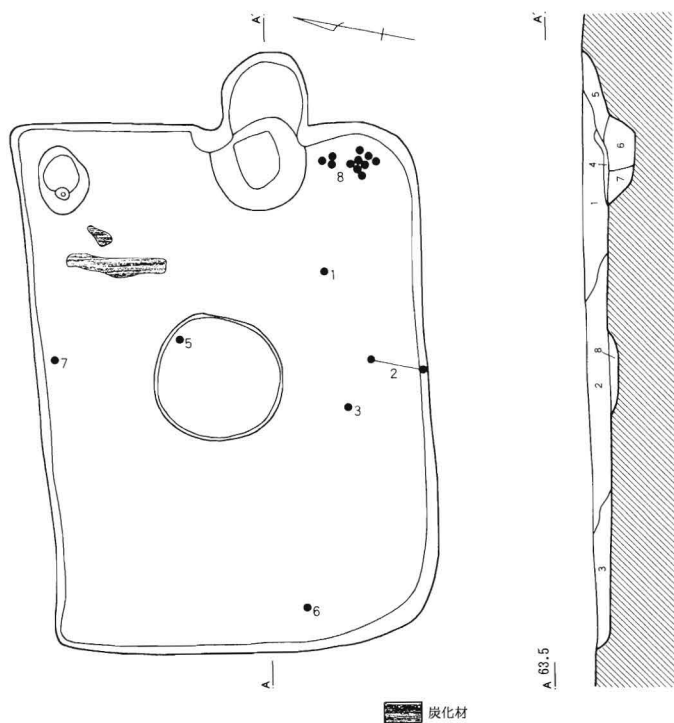
遺物は、須恵器甕片、土師器片が出土した。

第156号住居跡出土遺物観察表 (第35図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	環	12.6	4.1	6.0	EG	普通	灰褐	100	ほぼ床面	底部静止一方向へう割り 内面油煙付着
2	環	(12.4)	4.2	5.5	EGHL	普通	褐灰	60	ほぼ床面	底部右回転糸切り
3	高台付碗			6.5	BD	普通	灰黄	60	覆土中位	貼り付高台
4	高台付碗	(12.5)	5.6	5.6	JL	普通	灰	65	カマド	貼り付高台
5	蓋	12.9	2.8		DEG	不良	褐灰	80	土坑	天井径5.5cm 整形不明 肩部右回転へう割り 一部酸化焰焼成
6	長頸瓶			7.9	BJ	良好	灰	90	覆土中位	ロクロ痕顕著
7	甕			7.5	DEHJ	普通	橙	60	床	外面↑、下端→へう割り 底部へう割り
8	甕	(17.5)			E	普通	浅黄橙	40	覆土中位	胴部外面←へう割り 内面←ナデ

第156号住居跡出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
11	(2.54)	(1.31)	0.30	(3.53)	Ba	明赤褐		A区



第35図 第156号住居跡・出土遺物

第158号住居跡（第36図）

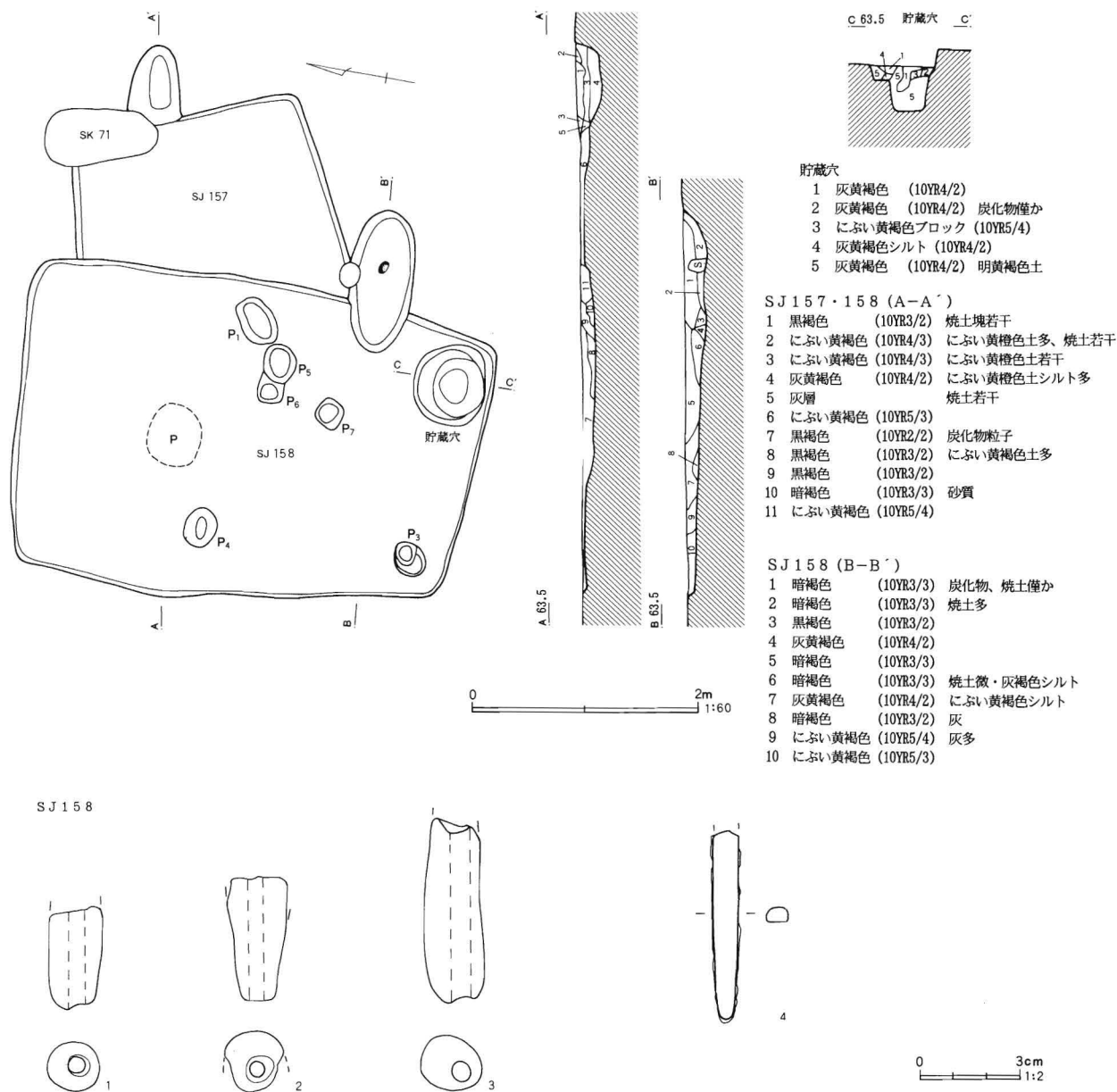
J-16グリッドに位置する。第157・163号住居跡を切っている。平面は、軸長2.81m×4.09mの台形で、深さ11cmを測る。主軸方位は、N-89°-Eを指す。

カマドは、東壁の南寄りに設けられている。燃烧部は、128cm×58cmの楕円形を呈し、床面から深さ10

cmを測る。

貯蔵穴は、南東隅に検出された。平面は、径73cm×70cmの円形を呈し、深さ39cmを測る。

遺物は鉄鏃、土錘の他に土師器片、須恵器高台付坏片・甕片が出土した。4の鉄鏃は茎部のみの出土である。



第36図 第157・158号住居跡・出土遺物

第158号住居跡出土土錘観察表（第36図）

番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
1	(3.07)	(1.61)	0.46	(6.25)	Ba	橙		カマド
2	(3.84)	(1.54)	0.43	(8.26)	Bb	灰褐		
3	(5.54)	1.73	0.50	(16.59)	Ba	灰黄褐	80	

第159号住居跡（第37図）

K-16グリッドに位置する。第74号土坑に住居跡中央部が切られ、第160・164号住居跡を切っている。平面は、軸長3.35m×3.41mの方形で、深さ4cmを測る。主軸方位は、N-64°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、105cm×50cmの楕円形を呈し、床面から深さ15cmを測る。

遺物は、土師器坏片、甕片の他に土錘が出土した。

第160号住居跡（第38・39図）

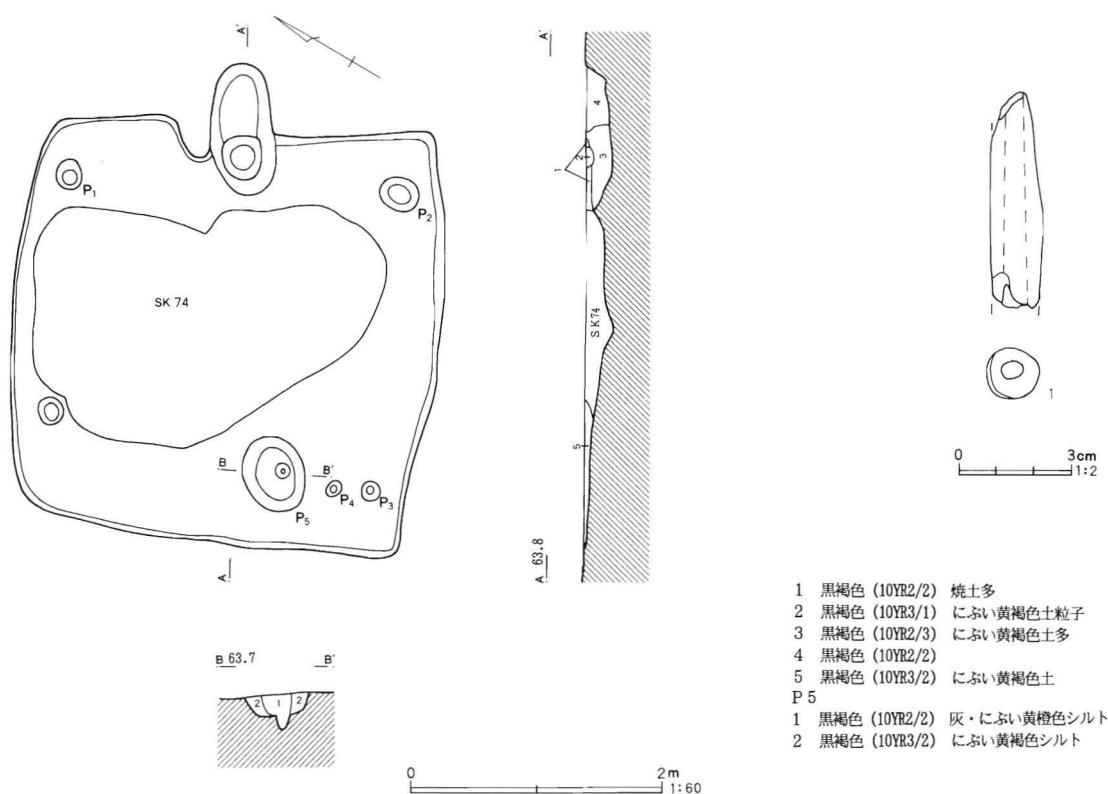
K-15・16グリッドに位置する。第161・164号住居跡を切り、第170号住居跡の上に乗っている。平面は、軸長6.29m×6.40mのやや歪んだ方形で、深さ34cmを測る。壁溝は全周し、幅15~37cm、深さ5~7cmを測る。主軸方位は、N-15°-Wを指す。

柱穴は、4本の主柱穴が検出でき、径42~45cm、径60~67cmの円形と、72×54cm、104×60cmの楕円形で、深さ53~62cmを測る。P2・P3では柱痕が確認できた。

カマドは、北壁に設けられている。燃焼部は、178cm×72cm、床面から深さ26cmを測る。

貯蔵穴は、北東隅に検出された。径47cm×50cmのほぼ円形で、深さ47cmを測る。

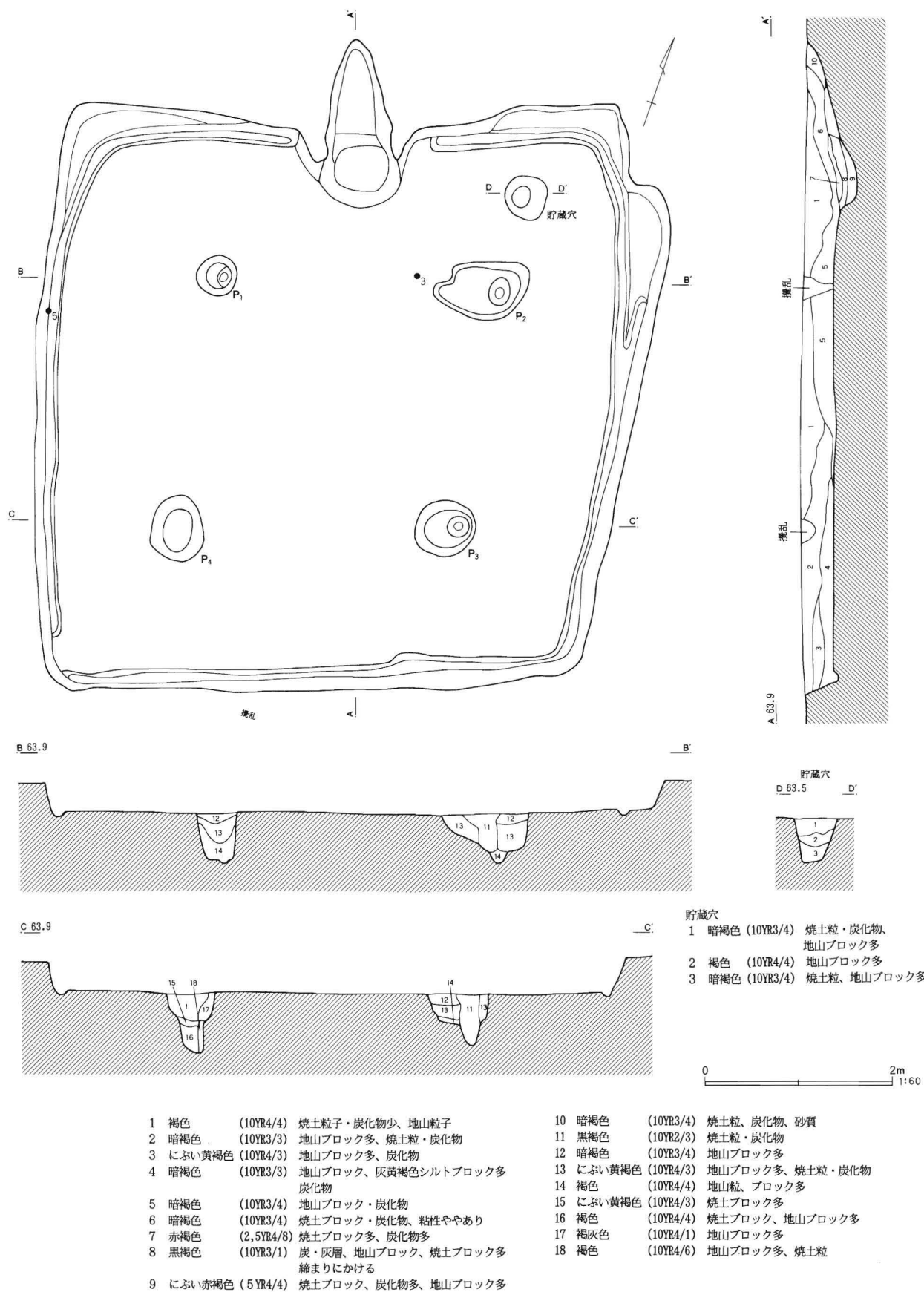
遺物は、土師器坏・盤・甕、須恵器坏・蓋・甕片、白玉、刀子の他に土錘が出土した。8・9は滑石製白玉で、8は厚さ3.5~4.6mm、径9.0~9.2mm、孔径2.4mm、重さ0.60gを量る。9は厚さ4.0mm、径6.3mm、孔径2.2mm、重さ0.21gを量り、床面から出土した。10は刀子で刃部は殆ど欠損し、基部も一部が欠損しており重さ9.64gを量る。



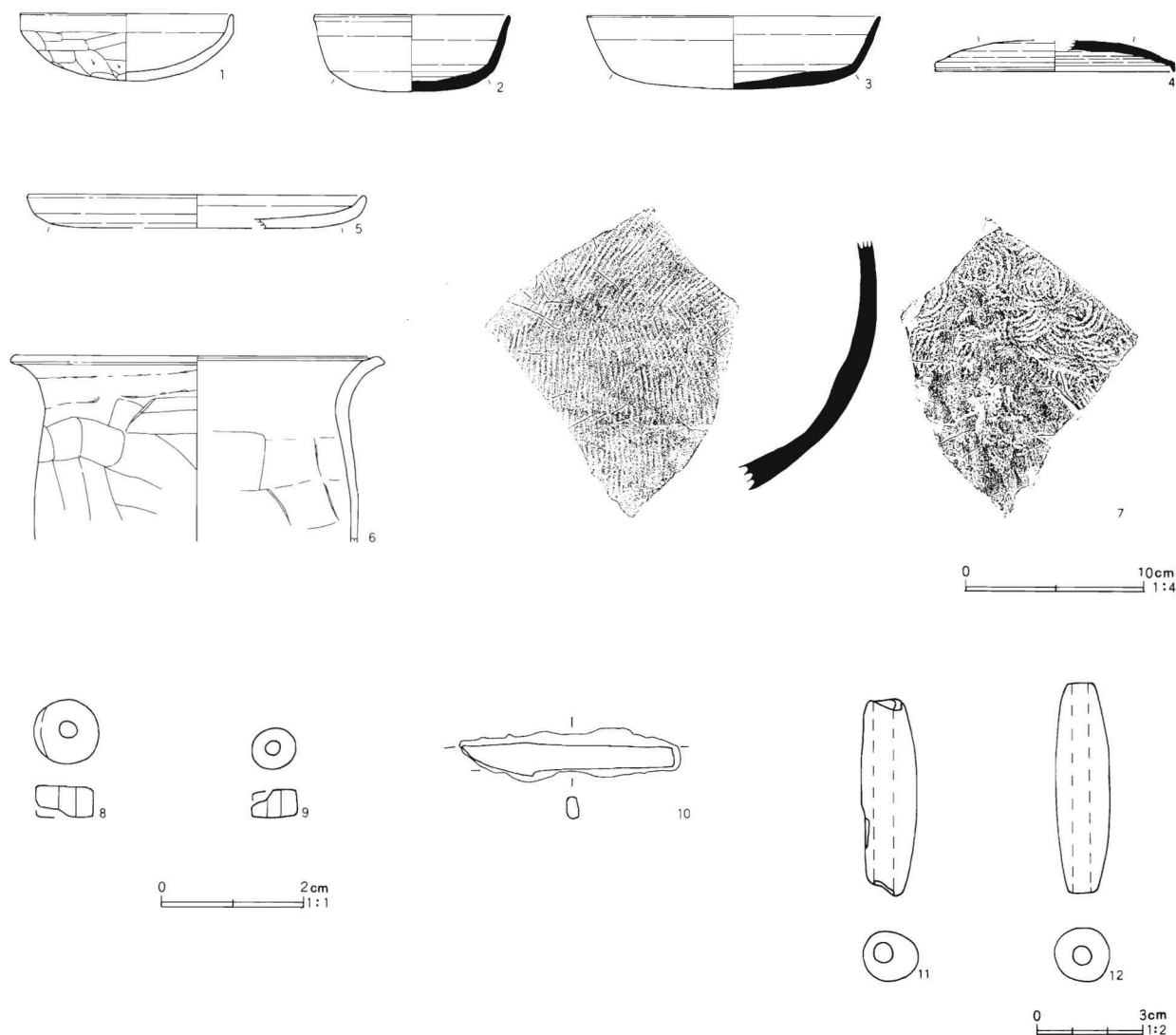
第37図 第159号住居跡・出土遺物

第159号住居跡出土土錘観察表（第37図）

番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
1	(5.73)	1.50	0.57	(9.61)	Aa	橙		A区



第38図 第160号住居跡



第39図 第160号住居跡出土遺物

第160号住居跡出土遺物観察表（第39図）

番号	器 種	口 径	器 高	底 径	胎 土	焼 成	色 調	残 存	出土位置	備 考
1	坏	(11.8)	3.6		J	普通	にぶい黄橙	60	覆土	体部外面←、底部は一方向ヘラ削り
2	坏	(10.8)	4.2	8.4	J	良好	灰	45	覆土	底部右回転ヘラ削り 内面中央ヘラ調整
3	坏	(16.2)	4.0	(13.3)	B J	良好	にぶい黄	40	覆土中位	底部右回転ヘラ削り 内面に煤付着
4	蓋	(13.3)	(1.7)		B J	良好	灰	30	覆土	天井部右回転ヘラ削り つまみ欠損
5	盤	(18.6)	1.85	(16.2)	A B	良好	橙	20	床	底部外面手持ちヘラ削り 内面横及び縦ナデ
6	甕	(20.2)			B D J	普通	にぶい橙	40	貯蔵穴	胴部外面←、↑ヘラ削り 内面横ナデ
7	甕				B J	良好	灰	破片	覆土	外面平行叩き後横ナデ 内面同心円分当て具痕と縦ナデ

第160号住居跡出土土錘観察表（第39図）

番号	長 さ	径	孔 径	重 さ	分 類	色 調	残 存	備 考
11	5.55	1.54	0.55	(11.07)	Ba IV	にぶい橙	95	B区
12	5.95	1.52	0.49	13.76	Ba IV	橙	100	B区
13	(2.77)	(1.62)	0.52	(4.64)	Ba	にぶい黄橙		A区
14	(2.82)	1.65	0.65	(6.04)	A	にぶい黄橙		
15	(3.20)	(1.58)	(0.54)	(4.07)	Ba	褐灰		
16	(3.12)	(1.61)	0.49	(5.41)	Ba	橙		
17	(3.35)	(1.56)	0.50	(4.81)	Ba	にぶい黄橙		

第160号住居跡出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
18	(3.35)	1.31	0.42	(5.16)	A	橙		B区
19	(4.57)	(1.46)	0.56	(7.50)	Ba	橙		A区
20	(4.70)	(1.53)	0.48	(8.98)	Ba	黒褐		B区
21	(4.96)	1.28	0.52	(7.31)	Ba	にぶい黄橙		A区
22	(5.17)	1.55	0.55	(10.47)	Ba	明赤褐		A区
23	(5.78)	1.60	0.42	(13.72)	Ba	橙		B区
24	(5.91)	1.70	0.51	(15.76)	B	にぶい黄橙		A区
25	(6.18)	1.27	0.52	(9.48)	Aa	橙		A区

第161号住居跡（第40図）

K-15・16グリッドに位置する。第159号住居跡に東壁、第160号住居跡に南壁が切られている。平面は、南側が第160号住居跡に切られており、軸長5.15m×5.73mの台形で、深さ31cmを測る。主軸方位は、N-11°-Wを指す。

柱穴は4本の主柱穴が検出でき、径54～61cmの円形で、深さ10～30cmを測る。

カマドは、北壁の西寄りに設けられている。燃烧部は、116cm×63cm、床面から深さ10cmを測る。煙道部は29cm確認できた。

遺物は、土師器坏の他に土錘が出土した。

第163号住居跡（第41図）

J-16グリッドに位置する。第156号住居跡の北東隅、第157号住居跡・第71号土坑に住居跡中央部、第158号住居跡に西半部が切られ、第165号土坑を切っている。平面は、軸長4.15m×5.85mの台形で、深さ26cmを測る。主軸方位は、N-97°-Eを指す。

第161号住居跡出土遺物観察表（第40図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	13.3	4.5		A B D	普通	にぶい橙	95	覆土	器壁摩耗し調整不明瞭 底部外面←へう削り
2	坏	(12.9)			J	普通	にぶい橙	35	ほぼ床	体部外面←へう削り
3	坏	(12.8)			B E	普通	にぶい黄橙	15	覆土	器壁摩耗し調整不明瞭

第161号住居跡出土土錘観察表（第40図）

番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
4	6.39	1.47	0.60	11.52	Ba IV	橙	100	B区 砂粒多
5	8.19	1.90	0.47	(23.78)	Ba II	橙	95	B区
6	(1.98)	(1.25)	0.41	(1.97)	B	橙		A区
7	(4.60)	1.26	0.41	(4.61)	B	橙		A区

第163号住居跡出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
6	(3.53)	1.61	0.64	(7.44)	Ba	灰黄褐		B区
7	(5.55)	2.22	(0.45)	(14.73)	B	にぶい褐		B区

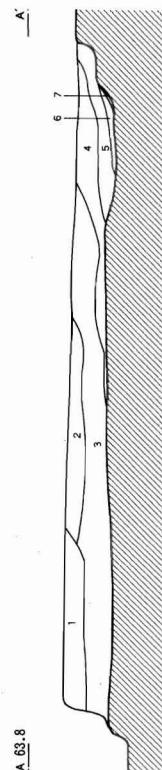
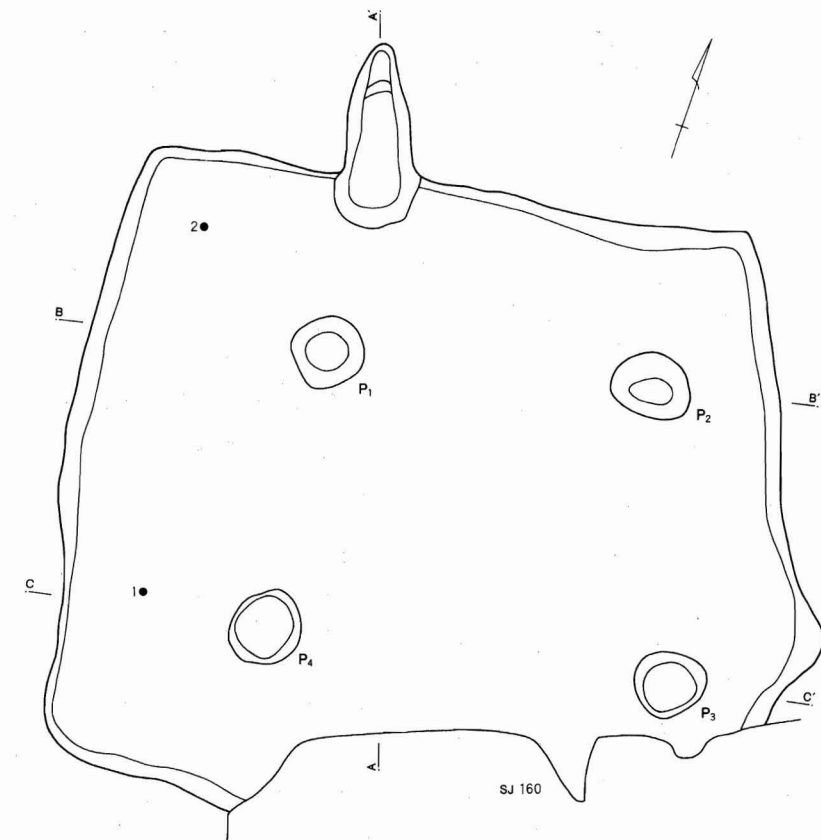
柱穴は、主柱穴4本とピット1基を検出した。径30～42cmの円形と30×45cmの楕円形で、深さ18cm程で、P4・P5はそれぞれ深さ7cm・10cmを測る。P1・P3では、柱痕が認められた。

カマドは、東壁に設けられている。燃烧部は、152cm×54cm、床面から深さ30cmを測る。煙道部は43cm程確認できた。

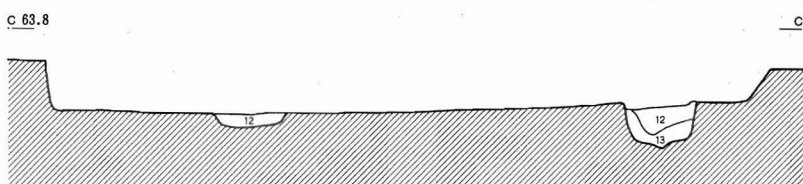
遺物は、土師器坏・鉢、須恵器蓋・（長頸）瓶の他に土錘が出土した。

第164号住居跡（第42～44図）

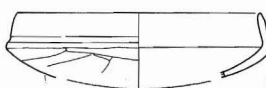
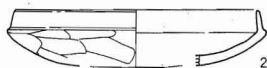
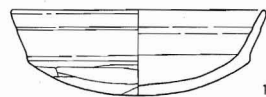
K-16グリッドに位置する。第159号住居跡に北西部、第160号住居跡に西壁南半、第75号土坑に住居跡内が切られ、第171・173号住居跡を切っている。平面は、東壁・西壁は不明であるが、軸長4.53m×4.60m程の方形で、深さ32cmを測る。壁溝は、南壁のみで検出し、幅14～20cm、深さ5cm程度を測る。主軸方位は、N-19°-Wを指す。



- | | | |
|----------|-----------|----------------|
| 1 暗褐色 | (10YR3/3) | 地山ブロック・炭化物 |
| 2 黒褐色 | (10YR2/3) | 地山ブロック・炭化物・焼土粒 |
| 3 にぶい黄褐色 | (10YR5/3) | 地山ブロック・焼土粒・炭化物 |
| 4 にぶい黄褐色 | (10YR4/3) | 灰白色土ブロック多、焼土粒 |
| 5 暗褐色 | (10YR3/3) | 焼土粒・ブロック、炭化物多 |
| 6 黒褐色 | (10YR2/2) | 炭化物多 |
| 7 褐色 | (10YR4/4) | 焼土粒・炭化物 |
| 8 灰黄褐色 | (10YR4/2) | |
| 9 黒褐色 | (10YR3/1) | |
| 10 黒褐色 | (10YR3/1) | 灰多 |
| 11 暗褐色 | (10YR3/3) | |
| 12 暗褐色 | (10YR3/3) | にぶい黄褐色土・炭化物・焼土 |
| 13 暗褐色 | (10YR3/3) | 焼土、炭化物若干 |



0 2m 1:60

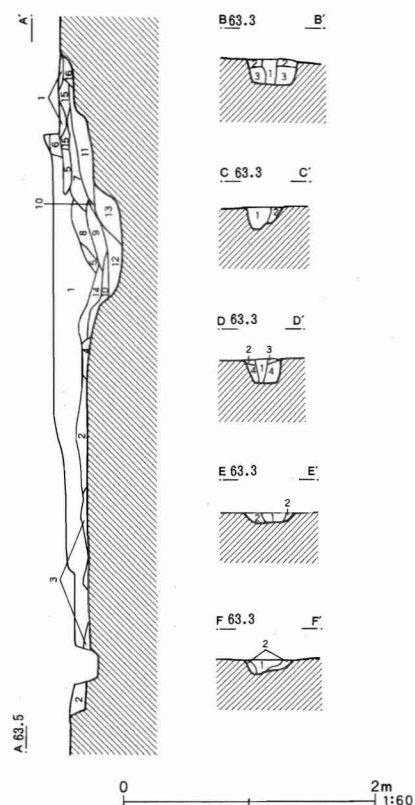
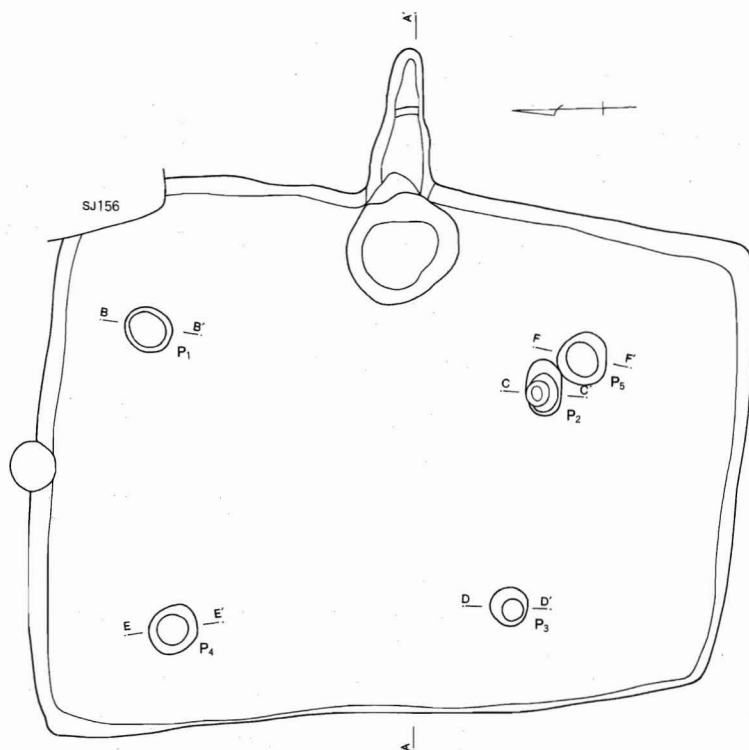


0 10cm 1:4



0 3cm 1:2

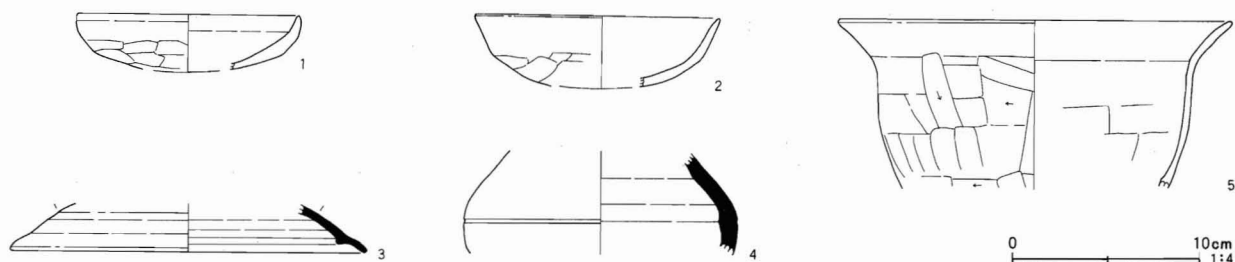
第40図 第161号住居跡・出土遺物



- 1 におい黄褐色 (10YR4/3) 焼土・炭化物若干、シルト質
- 2 黒褐色 (10YR3/2)
- 3 褐灰色 (10YR5/1)
- 4 褐灰色 (10YR5/1) 焼土僅か
- 5 焼土
- 6 暗褐色 (10YR3/4) 焼土僅か
- 7 暗褐色 (10YR3/3) 焼土僅か
- 8 におい黄褐色 (10YR5/3)
- 9 褐色 (7.5YR4/3) 焼土多
- 10 灰層
- 11 黒褐色 (10YR2/3) 焼土多
- 12 黒褐色 (7.5YR3/2) 焼土・灰
- 13 暗褐色 (10YR3/4) 砂質
- 14 におい黄褐色 (10YR5/4) 焼土多
- 15 黒褐 (7.5YR3/2) 焼土粒子多
- 16 におい黄褐 (10YR4/3) 焼土粒子僅か

- P 1
- 1 灰赤色 (2.5YR5/2)
 - 2 灰赤色 (2.5YR4/2)
 - 3 灰黄褐色 (10YR4/2) 焼土・灰僅か
- P 2
- 1 灰黄褐色 (10YR5/2)
 - 2 灰赤色 (2.5YR4/2)
- P 3
- 1 黒褐色 (10YR2/2)
 - 2 灰黄褐色 (10YR4/2)
 - 3 灰黄褐色 (10YR4/2) 黄褐色土
 - 4 褐色 (10YR4/4)

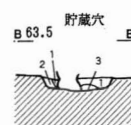
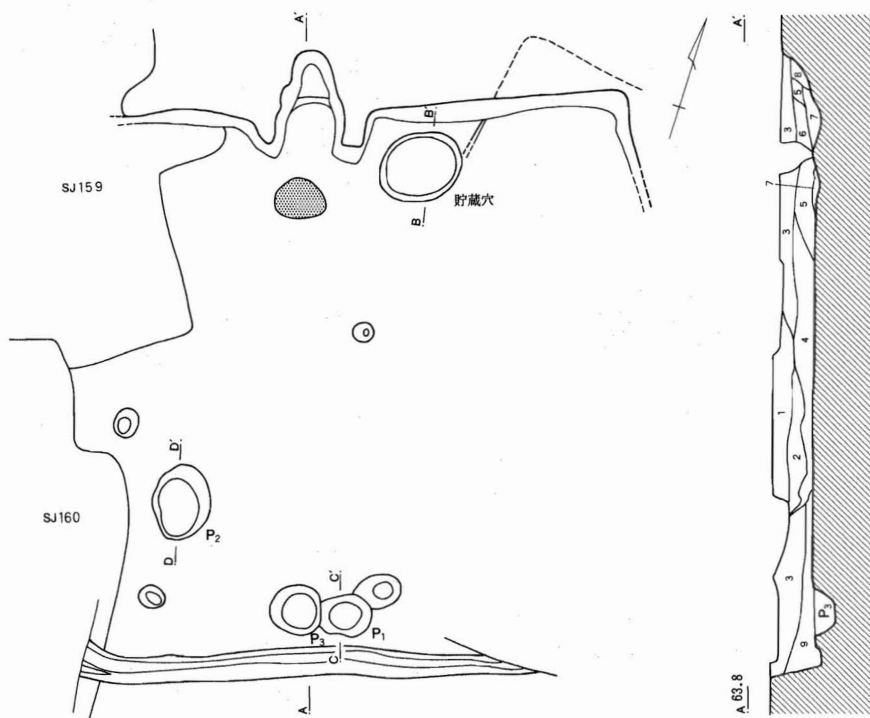
- P 4
- 1 灰黄褐色 (10YR4/2)
 - 2 におい黄褐色 (10YR4/3)
- P 5
- 1 黒褐色 (10YR3/2) 灰
 - 2 褐色 (10YR4/4) 砂質



第41図 第163号住居跡・出土遺物

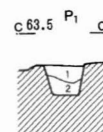
第163号住居跡出土遺物観察表 (第41図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	(11.7)			E J	不良	橙	25	カマド	体部外面←ヘラ削り
2	坏	(12.9)			A E H	普通	におい褐	20	カマド	口縁部外面横ナデ 体部外面←ヘラ削り
3	蓋	(18.7)			B J	良好	灰	5	覆土	右回転ヘラ削り
4	長頸瓶				B J	良好	灰	30	覆土	内面クロ痕顕著
5	鉢	(20.6)			D E	不良	におい橙	40	カマド	胴部外面←・↓ヘラ削り



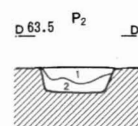
貯蔵穴

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 炭化物、焼土僅か
- 2 黒褐色 (10YR3/2)
- 3 褐色



P 1

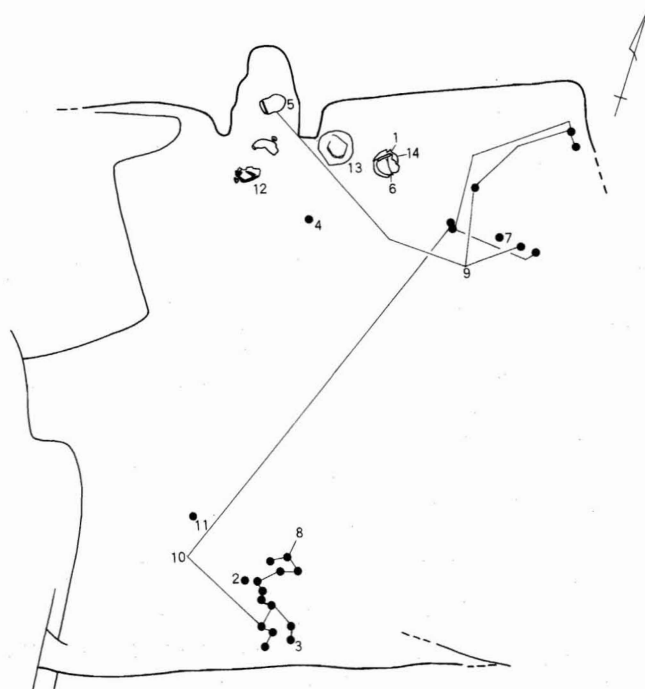
- 1 にふい黄褐色 (10YR4/3) 灰黄褐色粘土
- 2 灰黄褐色 (10YR4/2) 砂質



P 2

- 1 にふい黄褐色 (10YR4/3)
- 2 黒褐色 (10YR3/2) 砂質

- | | |
|----------------------------------|---------------------|
| 1 黒褐色 (10YR2/3) 炭化物多 | 6 にふい黄褐色 (10YR4/3) |
| 2 黒褐色 (10YR3/2) 炭化物粒子、にふい黄橙シルト僅か | 7 焼土 |
| 3 灰黄褐色 (10YR4/2) | 8 暗褐色 (10YR3/3) |
| 4 灰黄褐色 (10YR4/2) 褐灰色シルト極多 | 9 灰黄褐色 (10YR4/2) 粘質 |
| 5 にふい黄褐色 (10YR4/3) 焼土若干 | |



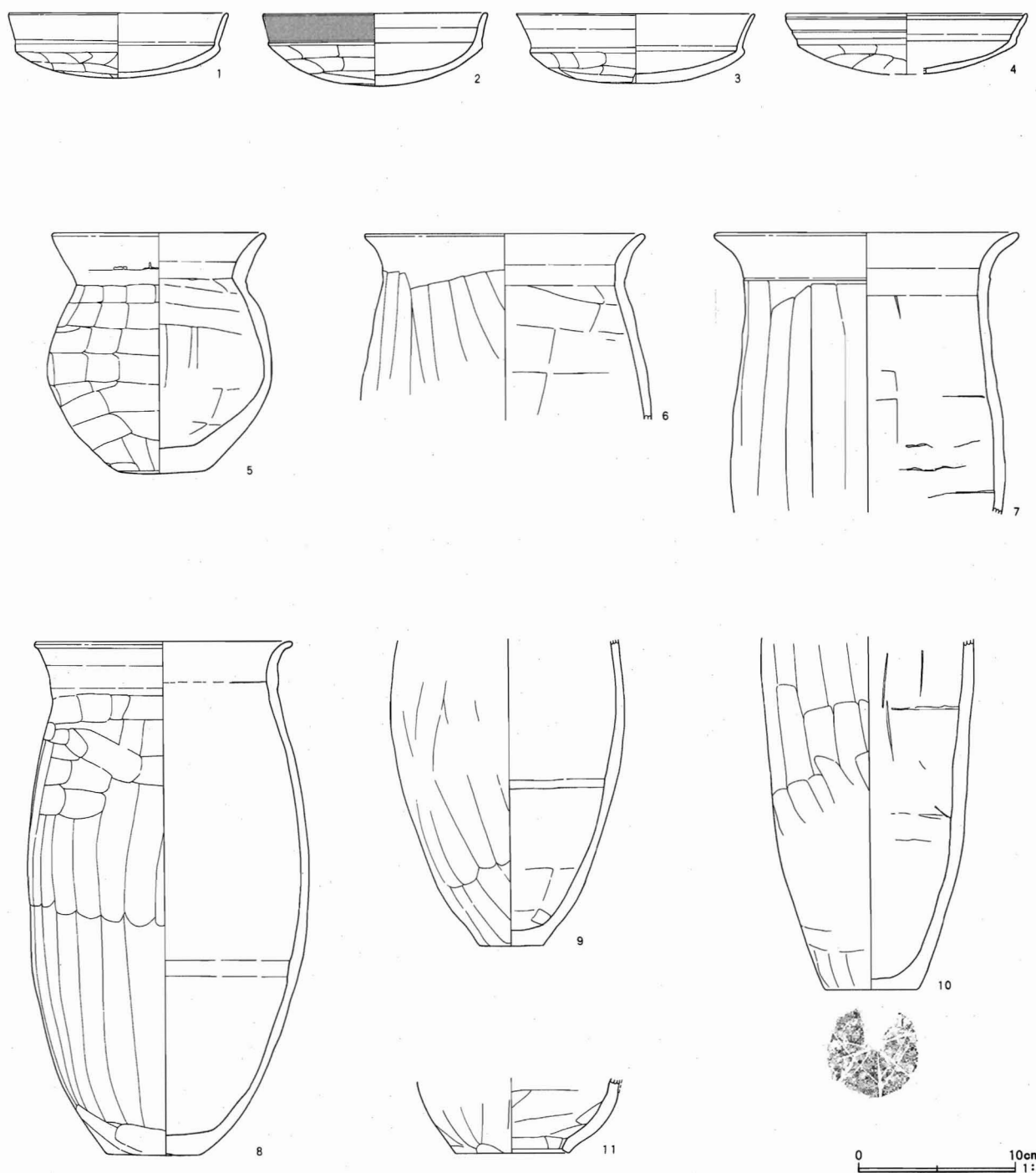
0 2m 1:60

第42図 第164号住居跡

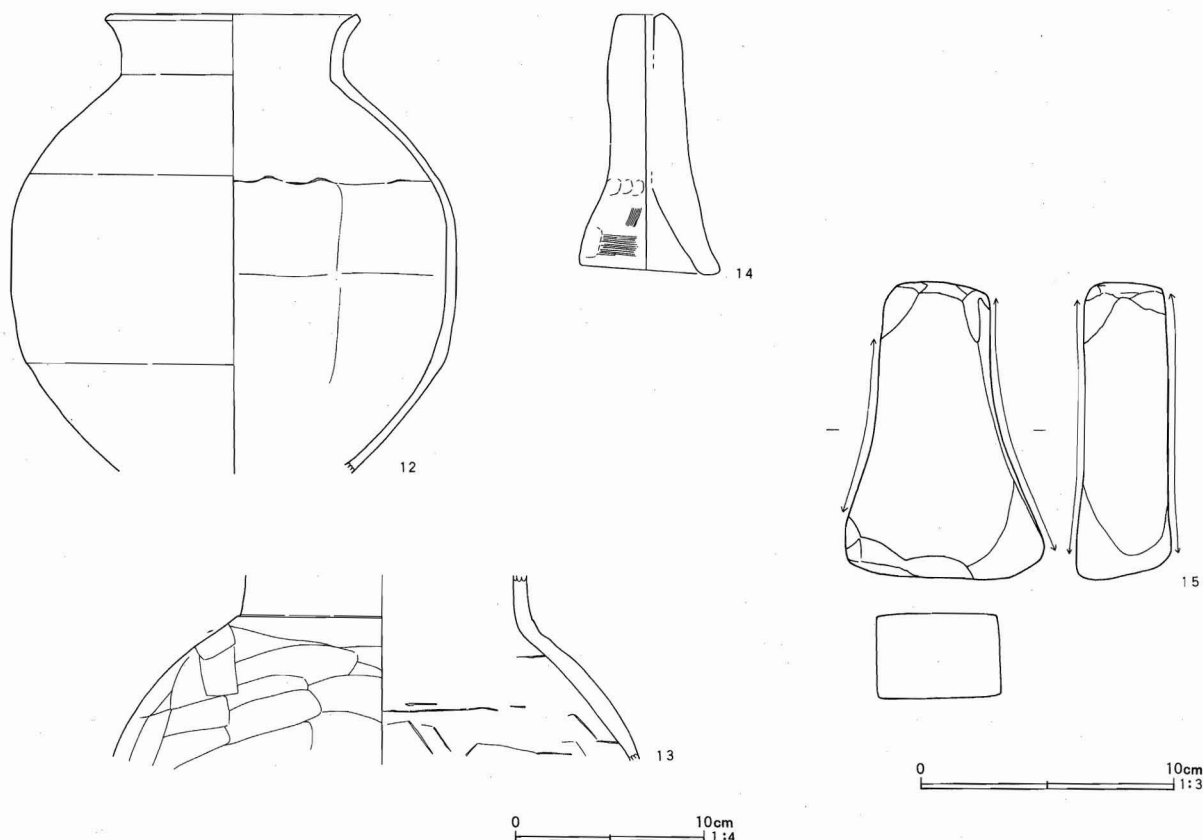
カマドは、北壁に設けられている。燃焼部は、128cm×54cm、床面から深さ10cmを測る。カマド前面に被熱した焼土の範囲が確認できた。

遺物は、土師器坏・小型甕・甕・甗・壺、支脚、砥石の他に土鍾が出土した。14は土製支脚で、中央

に孔が貫通しており、上端径2.7cm、底径7.7cm、高さ13.5cmを測り、6の甕とともに床面から出土した。15は砥石で、4面が使用され、覆土からの出土である。



第43図 第164号住居跡出土遺物(1)



第44図 第164号住居跡出土遺物(2)

第164号住居跡出土遺物観察表 (第43・44図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	13.4	4.1		B E F	普通	橙	80	床	
2	坏	14.1	4.6		B J L	普通	にぶい橙	95	床	底部外面摩耗 内面一部剥離 口縁部赤彩
3	坏	14.9	4.4		E J	不良	橙	90	覆土下位	
4	坏	(15.2)			B	良好	にぶい褐	45	床	
5	小型甕	13.3	15.4	5.5	A B J L	普通	にぶい黄橙	100	カマド	口縁部横ナデ 胴部←、下端↓ヘラ削り
6	甕	(17.3)			B J	普通	にぶい橙	70	床	胴部外面↑ヘラ削り 内面横ナデ
7	甕	(18.9)			C H J	普通	にぶい赤褐	20	床	胴部外面↑ヘラ削り 内面接合痕
8	甕	15.9	32.6	6.0	B C J L	普通	にぶい橙	95	覆土下位	胴部上半←・↑ 下半↓ヘラ削り
9	甕			4.0	H J 多	普通	にぶい橙	60	床	胴部外面↑ヘラ削り 底部ヘラ削り
10	甕			5.9	J	普通	にぶい褐	60	覆土下位	外面↓ヘラ削り
11	甕			7.2	A B	良好	にぶい赤褐	90	床	外面ヘラナデ 内面工具ナデ
12	壺	(13.0)			B	普通	にぶい黄橙	25	カマド	整形痕不明
13	壺				C H J	良好	にぶい赤褐	75	床	胴部外面←ヘラ削り 内面横ナデ 接合痕

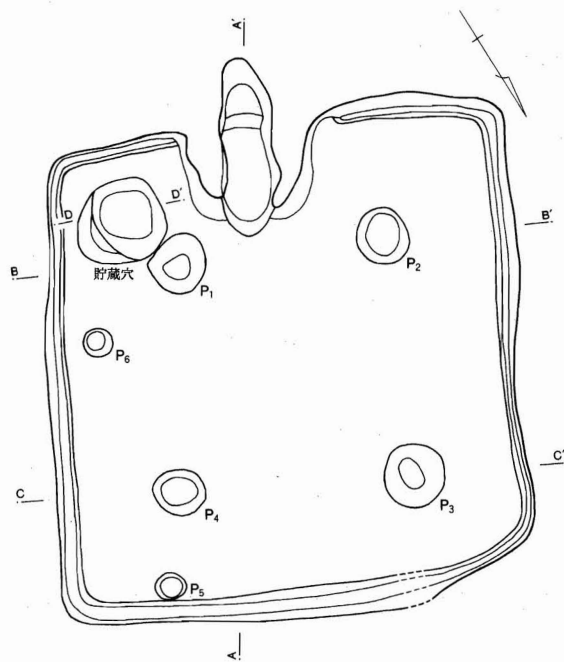
第164号住居跡出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
16	(2.95)	(1.56)	0.54	(5.98)	B	明黄褐		B区
17	(4.41)	1.73	0.62	(9.84)	Ba	橙	50	A区
18	(4.29)	(1.43)	(0.53)	(3.99)	B	にぶい橙		B区

第165号住居跡 (第45図)

J-16グリッドに位置する。第163号住居跡に北西隅、第166号住居跡に南西隅、第190号住居跡に北東壁の一部が切られている。平面は、軸長3.95m×

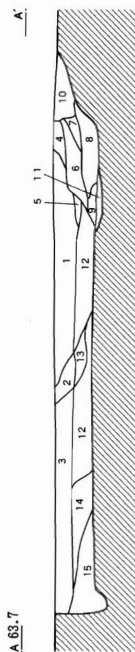
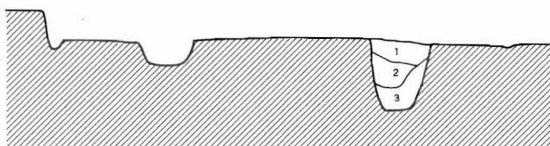
3.75mの方形で、深さ30cmを測る。壁溝は全周し、幅7～26cm、深さ3～8cmを測る。主軸方位は、N-153°-Wを指す。
柱穴は、4本の主柱穴が検出でき、径41～50cmの



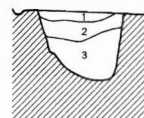
B 63.5



C 63.5



D 63.5 貯蔵穴



貯蔵穴

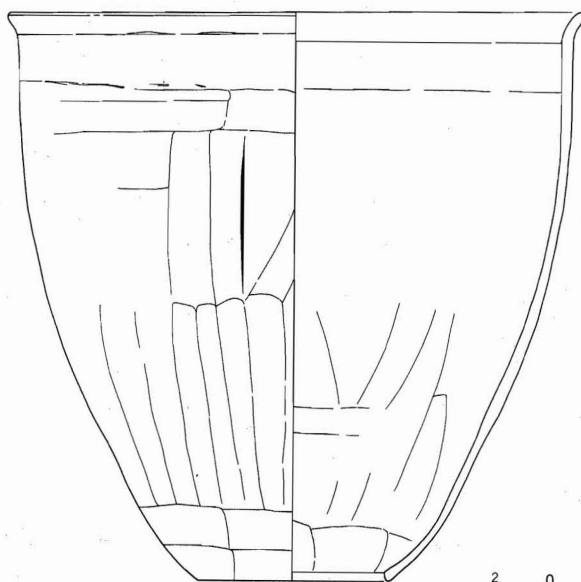
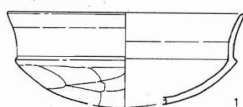
- 1 にふい黄褐色 (10YR5/4) 灰白色シルト
- 2 暗褐色 (10YR3/3) 炭化物・焼土粒
- 3 褐色 (10YR4/4) 砂

- 1 褐色 (10YR4/4)
- 2 にふい黄褐色 (10YR4/3) 炭化物粒子若干
- 3 にふい黄褐色 (10YR4/3) にふい黄褐色シルト
- 4 にふい黄褐色 (2.5YR5/3) 褐色土若干
- 5 暗褐色 (10YR3/3) 粘質
- 6 にふい黄褐色 (2.5YR5/3) 焼土僅か
- 7 黒褐色 (10YR3/2) 焼土僅か
- 8 黒褐色 (10YR2/3) 焼土多
- 9 暗褐色 (10YR3/3) 焼土若干
- 10 暗褐色 (10YR3/4)
- 11 暗褐色 (10YR3/3) 焼土
- 12 にふい黄褐色 (10YR5/4) 灰白色シルト
- 13 にふい黄褐色 (10YR5/4) 灰白色シルト・炭化物
- 14 にふい黄褐色 (10YR5/4) 炭化物若干
- 15 にふい黄褐色 (10YR5/4) 灰白色シルト極多

P1~P3

- 1 にふい黄褐色 (10YR5/4) 灰白色シルト
- 2 暗褐色 (10YR3/3) 炭化物・焼土粒
- 3 褐色 (10YR4/4) 砂・炭化物

0 2m 1:60



0 10cm 1:4

第45図 第165号住居跡・出土遺物

円形で、深さ40～54cm、P 4のみ深さ20cmを測る。

カマドは、南壁のやや東よりに設けられている。

燃焼部は、97cm×45cm、床面から深さ7cmを測る。

煙道部は44cm確認できた。

貯蔵穴は、南隅に検出された。平面は、74cm×68cmの円形で、深さ52cmを測る。

遺物は、土師器坏・甑、須恵器甕片の他に、土錘が出土した。

第165号住居跡出土遺物観察表（第45図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	(12.4)			B E F G	不良	橙	35	覆土	口縁部横ナデ 体部外面へラ削り
2	甑	(30.4)	(30.1)	(10.0)	J	普通	にぶい橙	30	覆土	器壁摩耗し調整不明瞭 ←・↓へラ削り

第165号住居跡出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
3	(4.53)	(1.45)	(0.53)	(4.63)	B	にぶい黄褐		B区
4	(3.08)	1.62	0.47	(7.28)	B	橙		B区

第166号住居跡（第46図）

J—16グリッドに位置する。第108号住居跡に西半部、第163号住居跡に北東隅、第165号住居跡に南東隅、第73号土坑に西壁の一部、第87号土壇に住居跡中央が切られている。平面は、軸長3.66m×4.05mの方形で、深さ25cmを測る。主軸方位は、N—10°—Wを指す。

カマドは、北壁のやや西寄りに設けられている。燃焼部は、106cm×29cmを測り、途中で段差を有し、床面と同じ高さである。

貯蔵穴は、北東部に検出された。上面は、70cm×54cmの楕円形で、坑底面は50cm×54cmの円形を呈し、深さ42cmを測る。

遺物は、土師器坏・小型甕の他に、土錘が出土した。

第167号住居跡（第47図）

L—16グリッドに位置する。第4号掘立柱建物跡に切れ、第168・179・366号住居跡を切り、第12号性格不明遺構と南東隅で重複している。平面は、南壁を確認できなかったが、軸長5.11m×4.88mの方形で、深さ24cmを測る。壁溝は、南壁を除いて確認

でき、幅10～22cm、深さ3～6cmを測る。主軸方位は、N—12°—Wを指す。

柱穴は、4本の主柱穴が検出でき、径53～60cmの円形と66cm×53cmの楕円形で、深さ21～43cmを測る。P 4では、柱痕が確認できた。

カマドは、北壁のやや西寄りに設けられている。燃焼部は104cm×50cm、床面から深さ7cmを測る。煙道部は57cm確認できた。

貯蔵穴は、北東隅に検出された。平面は、110cm×83cmの楕円形で、深さ22cm、坑底面東端に径42～50cmのピット状の穴があり、深さ坑底から29cmを測る。

遺物は、土師器坏・甕の他に土錘が出土した。

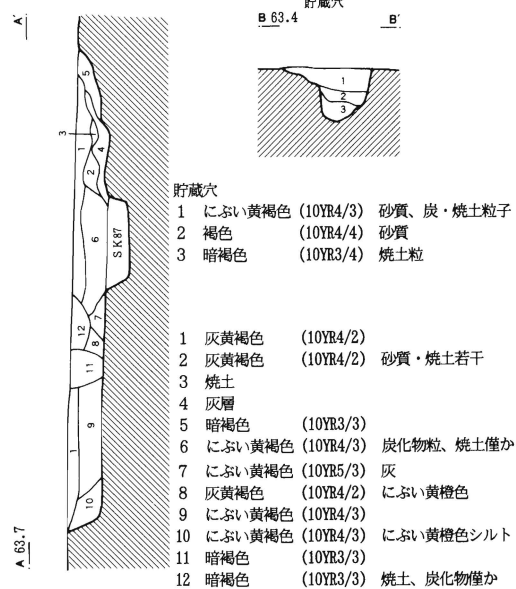
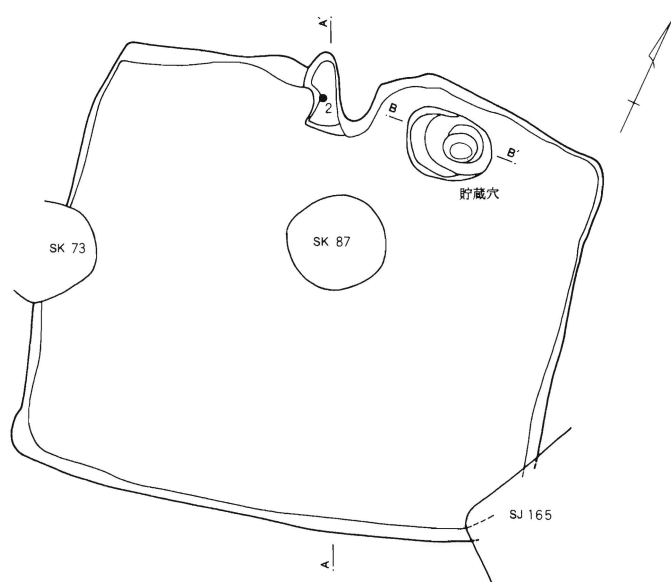
第168号住居跡（第48・49図）

L—16グリッドを中心に位置する。第167号住居跡に北東部、第4号掘立柱建物跡に住居跡内、第76号土坑にカマドの先端が切られている。平面は、南壁が確認できず、軸長7.3m以上×7.05mで、深さ24cmを測る。壁溝は、南壁を除いて確認でき、幅14～20cm、深さ5cm程を測る。主軸方位は、N—103°—Wを指す。

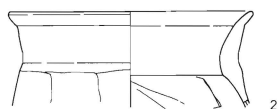
柱穴は、4本検出できたがいずれも南半部にある。

第166号住居跡出土遺物観察表（第46図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	(11.1)	3.2		A B J	普通	にぶい橙	80	覆土	体部外面←へラ削り
2	甕	(13.0)			B	良好	にぶい橙	20	カマド	胴部外面←へラ削り



0 2m 1:60



0 10cm 1:4



3



4



5

0 3cm 1:2

第46図 第166号住居跡・出土遺物

第166号住居跡出土土錘観察表 (第46図)

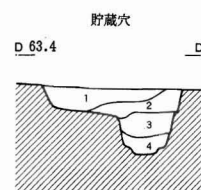
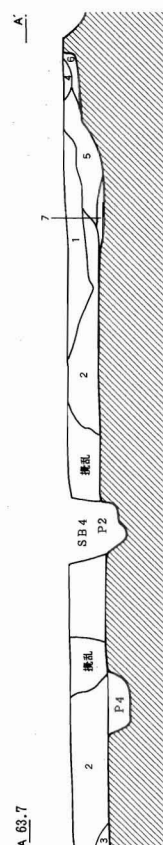
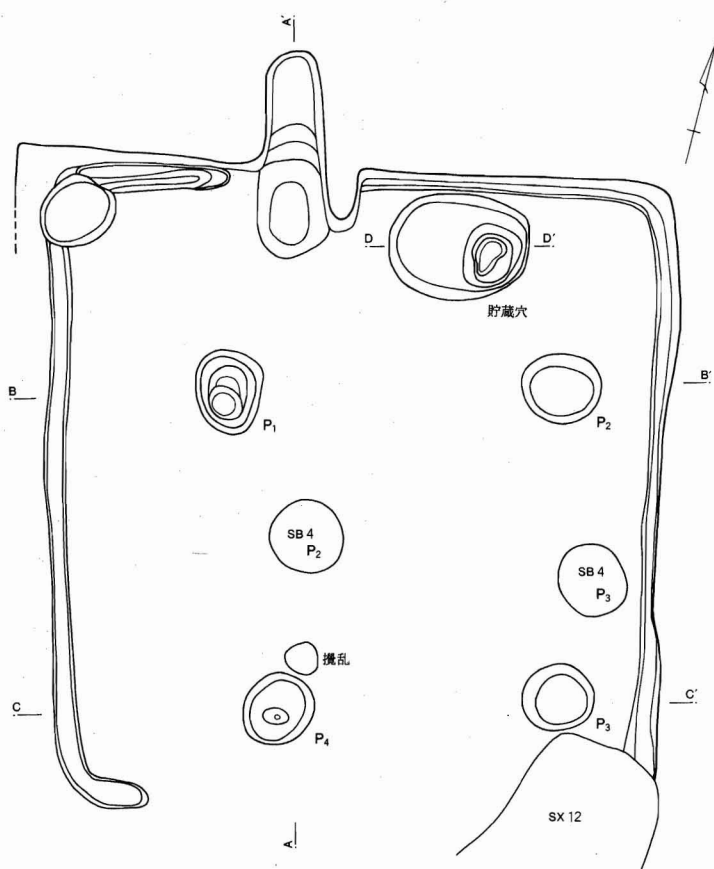
番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
3	(4.09)	1.38	0.64	(6.33)	Ba	橙	50	B区
4	(5.04)	1.27	0.58	(8.44)	D	橙		A区
5	(5.31)	1.30	0.52	(7.51)	Ba	橙	70	A区

第167号住居跡出土遺物観察表 (第47図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	(10.9)			J	不良	にぶい黄橙	20	覆土	外面←ヘラ削り
2	甕	13.9			B J	普通	にぶい赤褐	55	覆土	胴部外面←ヘラ削り 内面ヘラ横ナデ

第167号住居跡出土土錘観察表 (第47図)

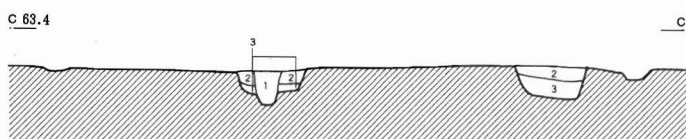
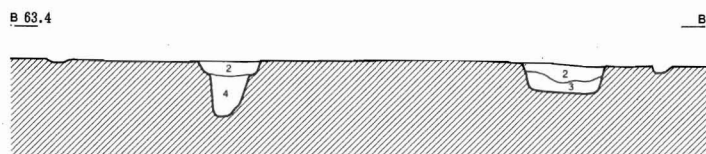
番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
3	(4.75)	1.40	0.52	(8.24)	B	にぶい黄橙		貯蔵穴



貯蔵穴

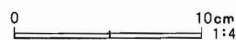
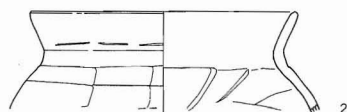
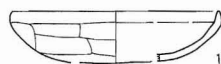
- D 63.4
- 1 にふい黄褐色 (10YR4/3) 炭化物
 - 2 褐色 (10YR4/4) 炭化物粒・焼土粒子
 - 3 暗褐色 (10YR3/3) 焼土ブロック多、地山ブロック
 - 4 褐色 (10YR4/4) 焼土粒子・地山ブロック

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 地山ブロック多
- 2 暗褐色 (10YR3/4) 地山ブロック、焼土粒
- 3 暗褐色 (10YR3/4) 地山ブロック多
- 4 暗褐色 (10YR3/3) 地山粒多
- 5 暗褐色 (10YR3/4) 焼土ブロック、炭化物
- 6 暗褐色 (10YR3/4) 焼土粒・炭化物
- 7 赤褐色 (2.5YR4/8) 焼土・炭化物

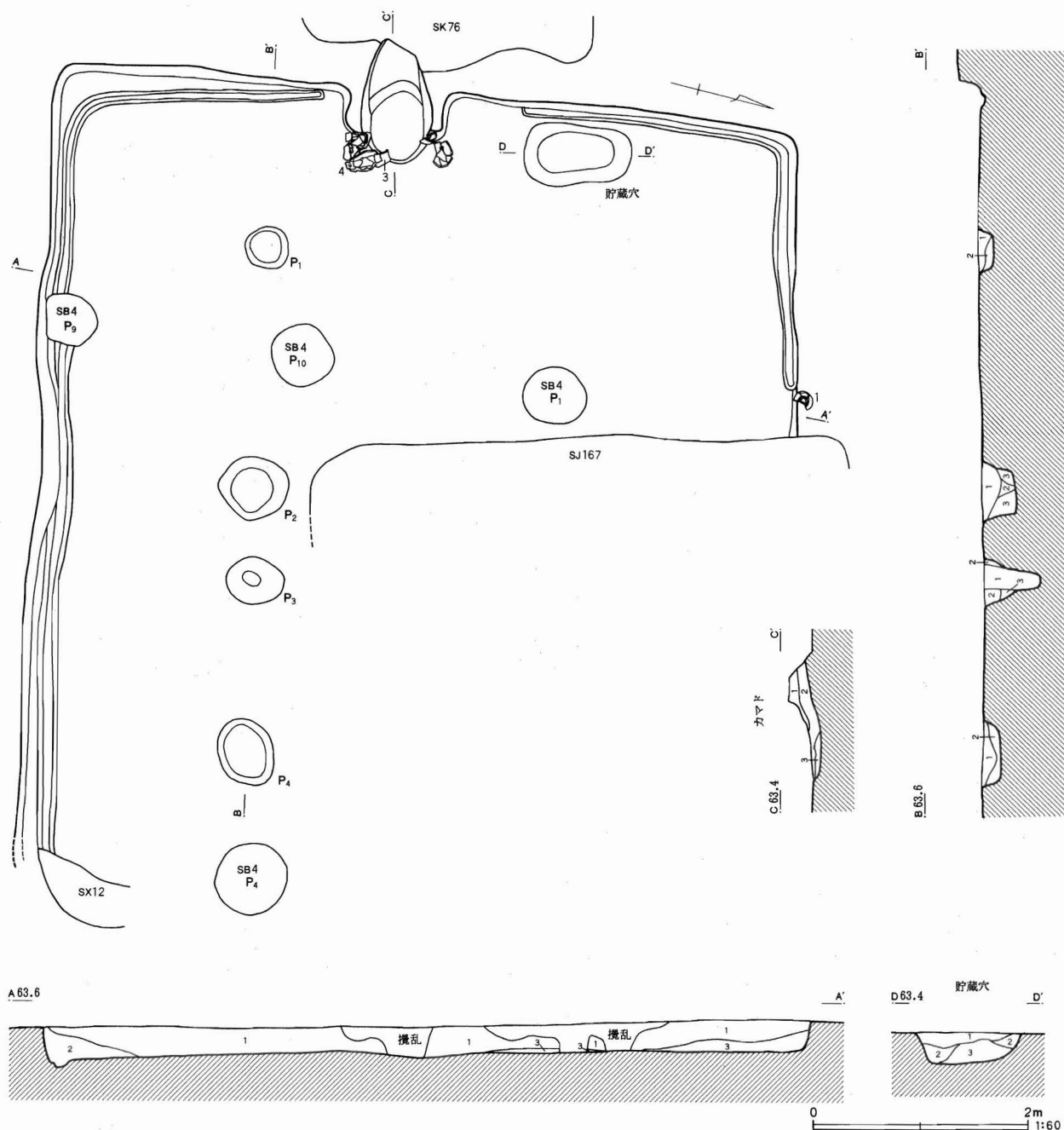


P 1~4

- 1 にふい黄褐色 (10YR4/3) 炭化物
- 2 暗褐色 (10YR3/3) 炭化物・焼土粒
- 3 褐色 (10YR4/4) 炭化物・地山ブロック
- 4 暗褐色 (10YR3/3) 炭化物・焼土粒



第47図 第167号住居跡・出土遺物



- 1 暗褐色 (10YR3/4) 地山ブロック・粒子・炭化物
 2 にふい黄褐色 (10YR4/3) 地山ブロック多
 3 褐色 (10YR4/4) 地山ブロック多、炭化物・焼土粒

カマド

- 1 にふい黄褐色 (10YR5/3) 焼土粒、炭化物少
 2 にふい黄褐色 (10YR4/3) 焼土ブロック、炭化物多
 3 赤褐色 (2,5YR4/8) 焼土層、炭化物

P1・4

- 1 暗褐色 (10YR3/3) 炭化物、地山ブロック多
 2 にふい黄褐色 (10YR4/3) 地山ブロック多

貯蔵穴

- 1 にふい黄褐色 (10YR4/3) 炭化物・灰黄褐色土ブロック
 2 暗褐色 (10YR3/3) 炭化物、灰黄褐色土ブロック多
 3 灰黄褐色 (10YR6/2) 粘性ややあり、炭化物

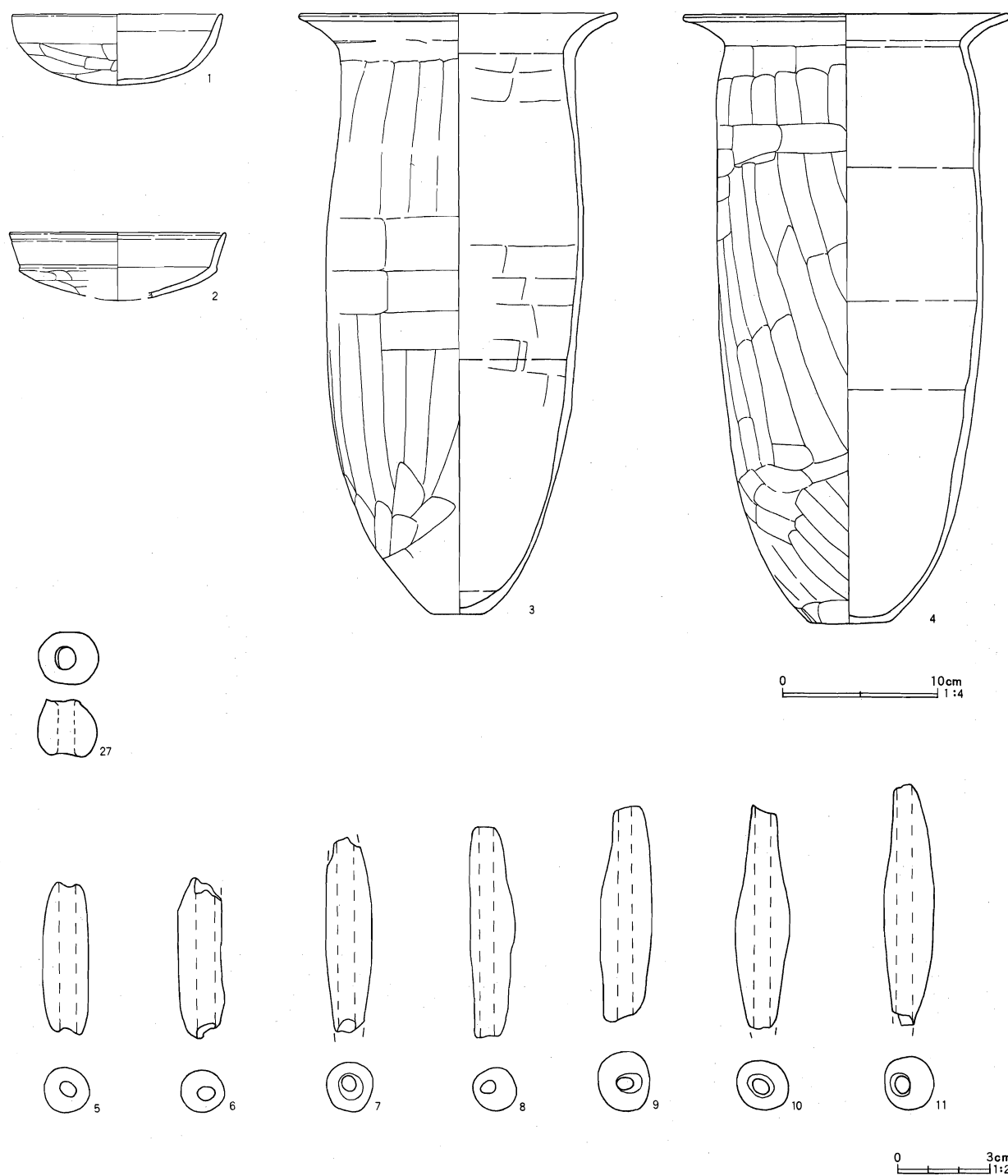
P2

- 1 にふい黄褐色 (10YR4/3) 焼土粒・炭化物・地山ブロック
 2 暗褐色 (10YR3/3) 焼土粒・炭化物
 3 褐色 (10YR4/4) 地山ブロック多、炭化物

P3

- 1 暗褐色 (10YR3/3) 地山ブロック・焼土粒
 2 暗褐色 (10YR3/3) 地山ブロック多
 3 褐色 (10YR4/4) 地山ブロック多、炭化物・焼土粒

第48図 第168号住居跡



第49図 第168号住居跡出土遺物

P 3 は、径44～53cm、深さ52cmを測り、柱痕が確認できた。他の3基は、深さ15～30cmで柱痕も確認できなかった。

カマドは、西壁のやや南寄りに設けられている。

燃焼部は、先端が第76号土坑に切られており、112cm以上×66cm、床面から深さ9cmを測る。

貯蔵穴は、北西部に検出された。平面は100cm×55cmの楕円形で、深さ29cmを測る。

遺物は、土師器坏・甕の他に土玉と多量の土鍾が出土した。27は土玉で、高さ1.77cm、径1.75～2.00

cm、孔径0.52cmを測り、重さ6.10gを量る。覆土からの出土である。

第168号住居跡出土遺物観察表（第49図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	13.4	4.5		B J	普通	橙	60	覆土	底部外面→へラ削り
2	坏	(13.8)			J	良好	橙	30	覆土	
3	甕	(20.2)	38.7	3.2	E J	普通	にぶい黄橙	80	床	胴部外面↓・←へラ削り 内面横ナデ
4	甕	(20.8)	39.3	(5.0)	L	普通	にぶい橙	80	床	胴部外面←・↓へラ削り

第168号住居跡出土土鍾観察表（第49図）

番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
5	4.88	1.56	0.60	9.43	Ba V	橙	100	A・B区
6	(5.20)	1.46	0.47	(11.22)	Aa V	黒	90	A・B区
7	(6.35)	1.57	0.56	(13.13)	Ba	にぶい黄橙	80	A・B区
8	6.75	1.48	0.50	11.46	B'a III	にぶい黄橙	100	A・B区
9	6.99	1.84	0.50	21.07	Ba III	橙	100	A・B区
10	7.32	1.71	0.65	(15.48)	Ba III	にぶい黄橙	95	A・B区
11	(7.69)	1.68	0.55	(17.39)	Ba II	にぶい黄橙	95	A・B区
12	(1.20)	(1.13)	0.58	(1.02)	Ba	褐灰		A・B区
13	(1.53)	(1.17)	0.54	(1.39)	Ba	橙		A・B区
14	(2.55)	(1.52)	(0.53)	(3.03)	B	灰黄橙		A・B区
15	(3.14)	(1.46)	0.55	(6.61)	B'	橙		A・B区
16	(3.63)	1.73	0.49	(8.62)	Ba	にぶい黄褐	40	C・D区
17	(4.50)	1.68	0.53	(9.02)	Ba	にぶい黄褐	50	A・B区
18	(4.36)	1.70	0.55	(11.27)	Ba	にぶい黄褐	50	A・B区
19	(4.53)	1.50	0.55	(10.49)	B	にぶい黄褐	60	A・B区
20	(5.01)	1.62	0.55	(11.56)	Ba	にぶい黄褐	40	A・B区
21	(5.37)	1.64	0.53	(12.19)	Ba	褐灰	80	A・B区
22	(6.40)	1.71	0.62	(14.98)	Ba	にぶい黄褐	80	A・B区
23	(6.18)	1.89	0.60	(17.33)	B	にぶい黄褐	70	A・B区
24	(6.12)	1.68	0.60	(15.61)	Ba	にぶい黄褐	70	C・D区
25	(6.24)	1.76	0.63	(16.47)	B	にぶい黄褐	60	A・B区
26	(6.35)	1.79	0.62	(16.66)	Ba	灰黄褐	60	A・B区

第169号住居跡（第50・51図）

M-16グリッド中心に位置する。第175・404号住居跡を切っている。平面は、南壁の一部を除き調査区外にあるが、軸長5.10m×5.73mの方形で、深さ33cmを測る。壁溝は、北東隅でのみ確認でき、幅10～14cm、深さ2.5～4cmを測る。主軸方位は、N-6°-Wを指す。

柱穴は、4本の主柱穴が検出でき、径36～44cmの円形と軸長35～50cmの楕円形で、深さ35～60cmを測り、P1・P4では柱痕が確認できた。

カマドは、北壁に設けられている。燃焼部は、70cm×39cm、床面から深さ6cmを測る。煙道部は171cm

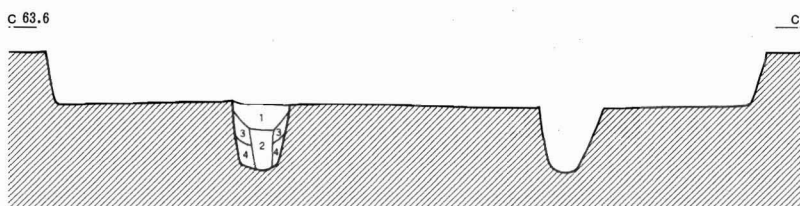
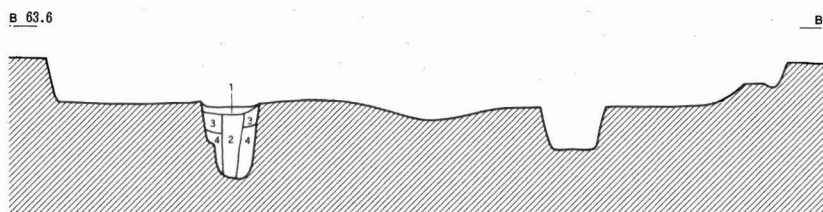
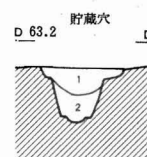
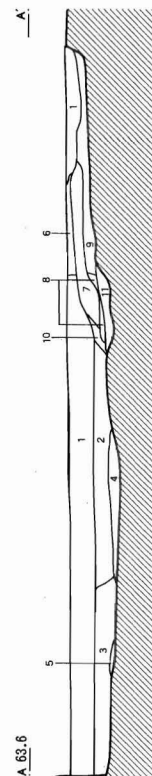
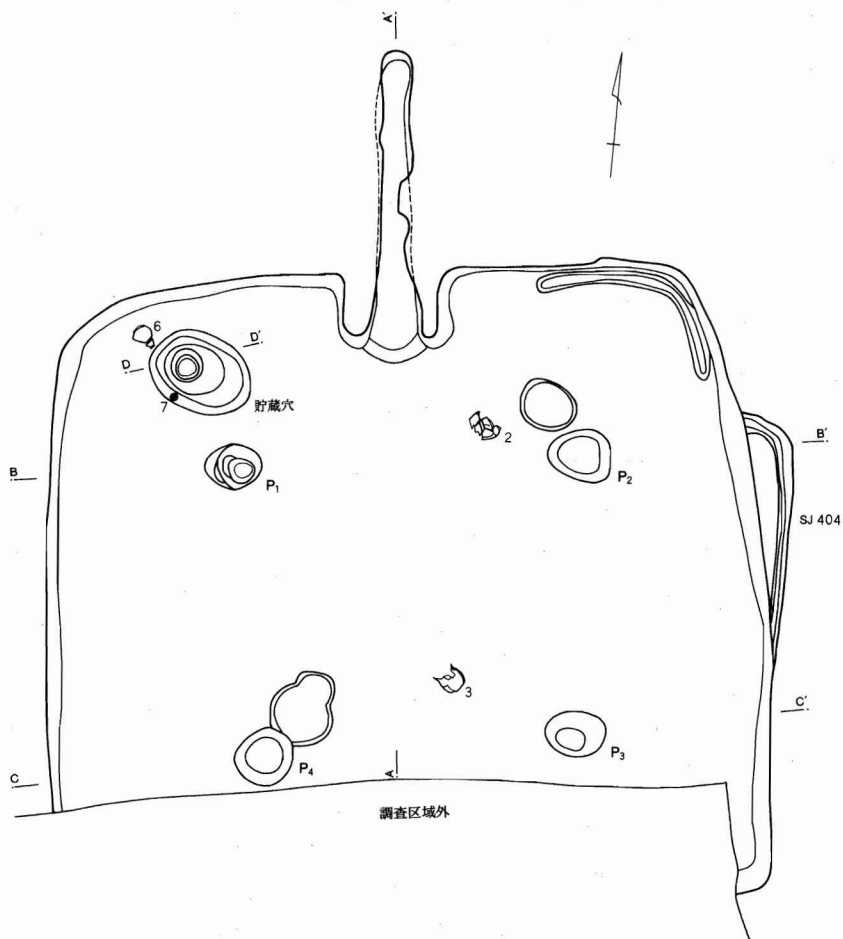
確認できた。

貯蔵穴は、北西隅に検出された。平面は、84cm×56cmの楕円形で北東部がピット状に深くなり、深さ41cmを測る。

遺物は、土師器坏・鉢・小型甕・甕・壺、石製紡錘車の他に土鍾が出土した。7の紡錘車は、長径3.91cm、短径2.15cm、高さ1.30cm、孔径0.64cmを測り、重さ24.08gを量る。側面全面に、斜格子状の線刻が施されている。覆土中位から出土した。

第404号住居跡（第50図）

M-17グリッドに位置する。第169号住居跡に東壁の一部を残し他は全て切られている。平面は、北



貯蔵穴

- 1 黒褐色 (10YR2/3) 炭化物多、焼土粒多
- 2 暗褐色 (10YR3/3) 炭化物少、焼土粒少

- 1 にふい黄褐色 (10YR4/3) 明黄褐色土・炭化物
- 2 暗褐色 (10YR3/3) 炭化物
- 3 黒褐色 (10YR2/3) にふい黄褐色土多
- 4 灰黄褐色 (10YR4/2)
- 5 灰黄褐色 (10YR5/2) 粘質土
- 6 焼土
- 7 黒褐色 (10YR3/2)
- 8 灰黄褐色 (10YR4/2) 焼土多
- 9 褐色 (10YR4/4) 焼土若干
- 10 灰黄褐色 (10YR4/2) 焼土若干
- 11 暗褐色 (10YR3/3)

P 1~4

- 1 にふい黄褐色 (10YR4/3) 地山ブロック多
- 2 黒褐色 (10YR2/3) 炭化物多
- 3 暗褐色 (10YR3/3) 炭化物・地山ブロック
- 4 暗褐色 (10YR3/3) 地山ブロック多

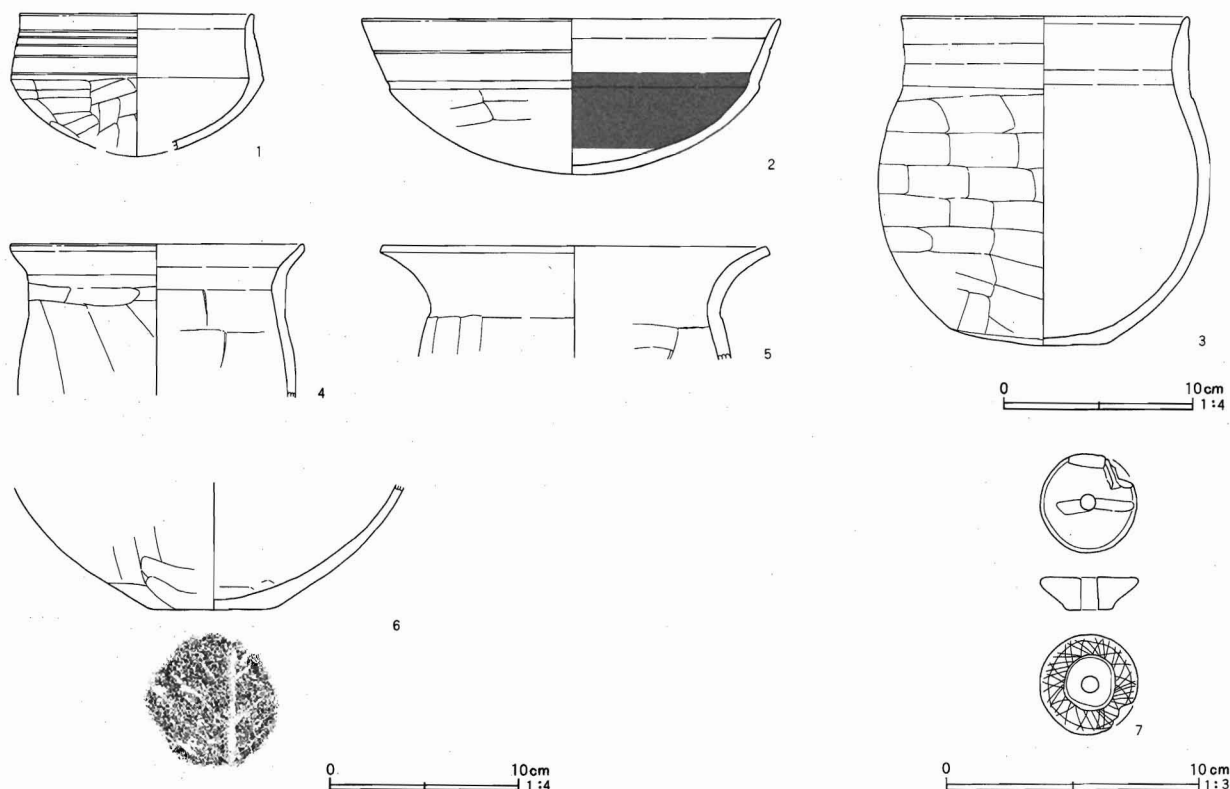
0 2m 1:60

第50図 第169・404号住居跡

東隅の一部が確認できただけで、南北長2.0m×東西長0.4m、深さ15cmを測る。壁溝は、幅10~15cm、深さ4cm程を測る。主軸方位は、東壁を基準とする

とN-0°-Eを指す。

カマド・貯蔵穴等の施設は、確認できなかった。遺物は、出土しなかった。



第51図 第169号住居跡出土遺物

第169号住居跡出土遺物観察表 (第51図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	(12.2)			ABD	普通	灰褐	55	覆土	口縁部・底部内面外周横ナデ
2	鉢	22.0	8.1		J	普通		90	覆土中位	底部外面摩耗し整形不詳 内面一部油煙付着
3	小型甕	15.1	17.3	8.4	DHJ	普通	にぶい橙	90	床	胴部外面←へら削り 底部へらナデ
4	小型甕	(15.4)			HJ	普通	にぶい黄橙	20	覆土	外面頸部横ナデ 胴部↓へら削り
5	甕	(20.1)			J	良好	にぶい黄橙	15	覆土	口縁部外面クロロナデ 胴部外面↓へら削り
6	壺			6.5	J	普通	にぶい黄橙	70	覆土下位	胴部外面↓・←へら削り 底部木葉痕

第169号住居跡出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
8	(2.47)	(1.60)	0.50	(4.74)	Ba	にぶい橙		A区
9	(4.36)	1.65	0.58	(9.40)	Ba	黒	60	B区

第170号住居跡 (第52図)

K-15・16グリッドに位置する。第160号住居跡に全体、第160号住居跡の柱穴・第79～86土坑に床面を切られている。平面は、軸長4.71m×5.60mの歪みのある方形で、深さ9cmを測る。主軸方位は、N-19°-Wを指す。

カマド・貯蔵穴等の施設は確認できなかった。

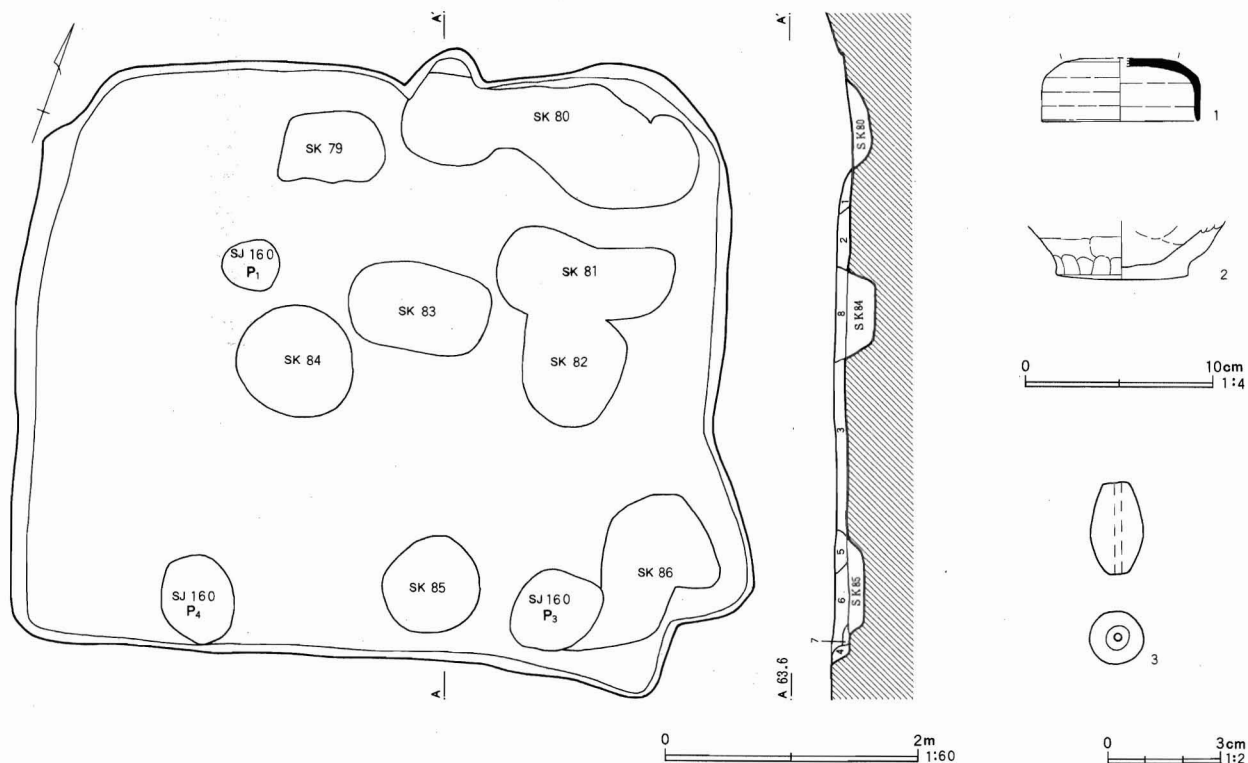
遺物は、須恵器蓋、土師器甕の他に土錘が出土した。

第171号住居跡 (第53図)

K-16グリッドを中心に位置する。第160号住居跡に南壁の西半部、第161号住居跡に西壁が切られている。平面は、西壁が第161号住居跡に切られており、軸長3.34m以上×3.70mの方形で、深さ13cmを測る。主軸方位は、N-70°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃烧部は、131cm×44cm、床面から深さ8cmを測る。

遺物は、土師器鉢、土錘が出土した。



第52図 第170号住居跡・出土遺物

第170号住居跡出土遺物観察表 (第52図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	蓋	(8.2)	3.3		B	良好	灰	40	覆土	天井部静止へら削り 非在地産
2	甕			6.8	J	普通	にふい赤褐	80	覆土	下端部押さえ →へら削り 底部へら削り

第170号住居跡出土土錘観察表 (第52図)

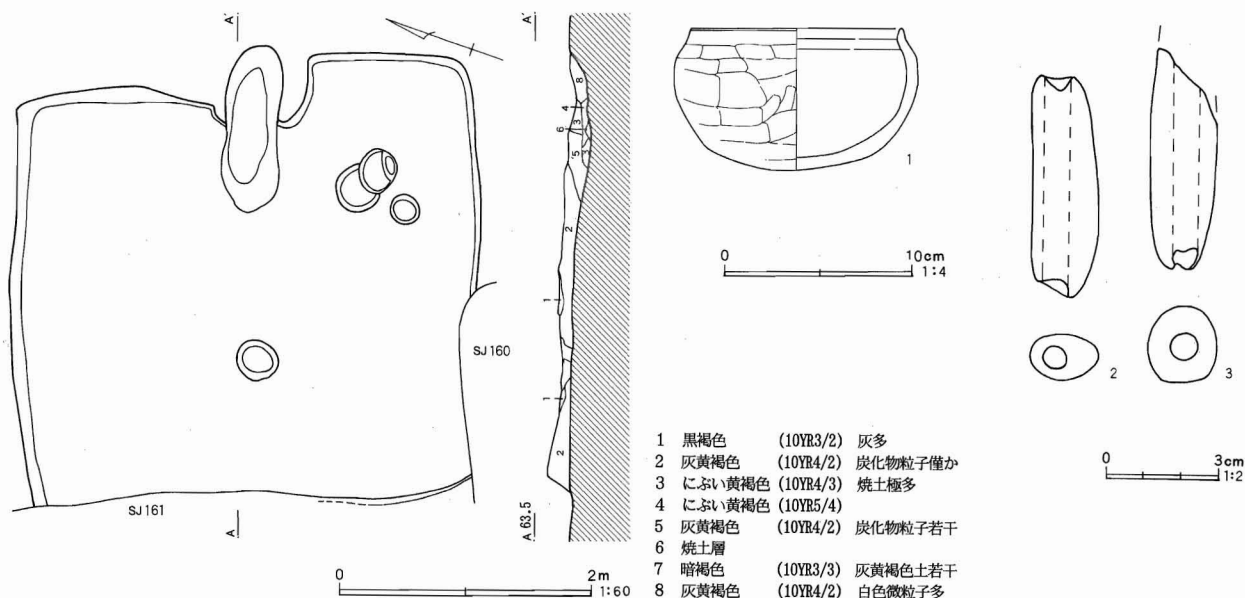
番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
3	2.45	1.45	0.27	4.87	Bb VI	明赤褐	100	B区
4	(3.03)	(1.48)	0.44	(4.60)	Ba	にふい橙		B区
5	(3.42)	(1.48)	0.52	(5.93)	Ba	橙		A区

第171号住居跡出土遺物観察表 (第53図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	鉢	(11.0)	7.3		J K	普通	橙	55	覆土	内外面器壁摩耗 胴部←、底部へら削り

第171号住居跡出土土錘観察表 (第53図)

番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
2	5.85	1.78	0.63	11.51	B'A IV	灰赤	100	A区
3	(5.79)	1.98	0.61	(17.32)	Ba	にふい橙		A区
4	(2.20)	(1.37)	0.60	(3.28)	B	明赤褐		A区
5	(2.56)	(1.48)	0.69	(3.53)	B	明赤褐		A区
6	(2.49)	(1.58)	(0.69)	(2.69)	B	にふい橙		A区
7	(3.16)	(1.56)	0.63	(6.52)	B	明赤褐		A区



第53図 第171号住居跡・出土遺物

第172号住居跡（第54図）

M-16グリッドを中心に位置する。第77号土坑に北西壁の一部が切られ、第177・178号住居跡を切っている。平面は、軸長3.50m×3.34mの方形で、深さ27cmを測る。壁溝は、西壁と南壁の一部を除いて確認でき、幅15~18cm、深さ3~5cmを測る。主軸方位は、N-142°-Wを指す。

柱穴は、3本の主柱穴が検出でき、径26~40cmの円形で、深さ18cm・24cm・46cmを測り、P1・P2では柱痕が確認できた。

カマドは、南壁のやや東寄りに設けられている。燃焼部は、103cm×60cm、床面から深さ15cmを測る。煙道部は、117cm確認できた。

貯蔵穴は、西隅に検出された。平面は、106cm×54cmの楕円形で、深さ14cmを測る。

遺物は、土師器坏が出土した。

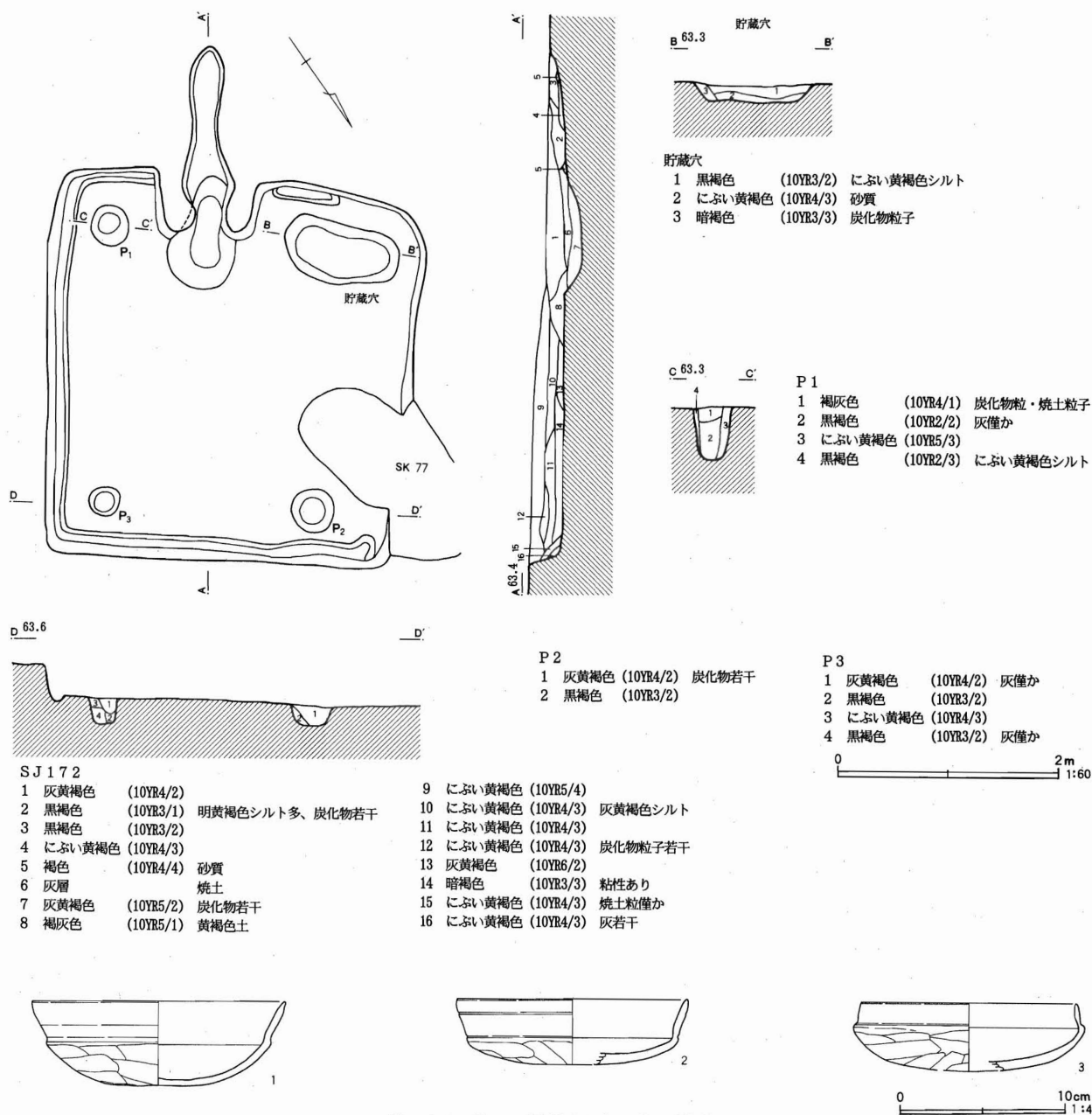
第173号住居跡（第55・56図）

K-16グリッドを中心に位置する。第164号住居跡と西半部が重複し、第228号住居跡を切っている。平面は、軸長4.94m×3.94mの方形で、深さ20cmを測る。主軸方位は、N-0°-Eを指す。

カマドは、北壁のやや東寄りに設けられている。燃焼部は、90cm×42cm、床面から深さ7cmを測る。煙道部は55cm確認できた。

貯蔵穴は、北東隅に検出された。平面は、71cm×57cmの楕円形で、坑底の中央北側には径33cm×36cmのピット状に一部が深くなり、深さは坑底が12cm、ピットが51cmを測る。

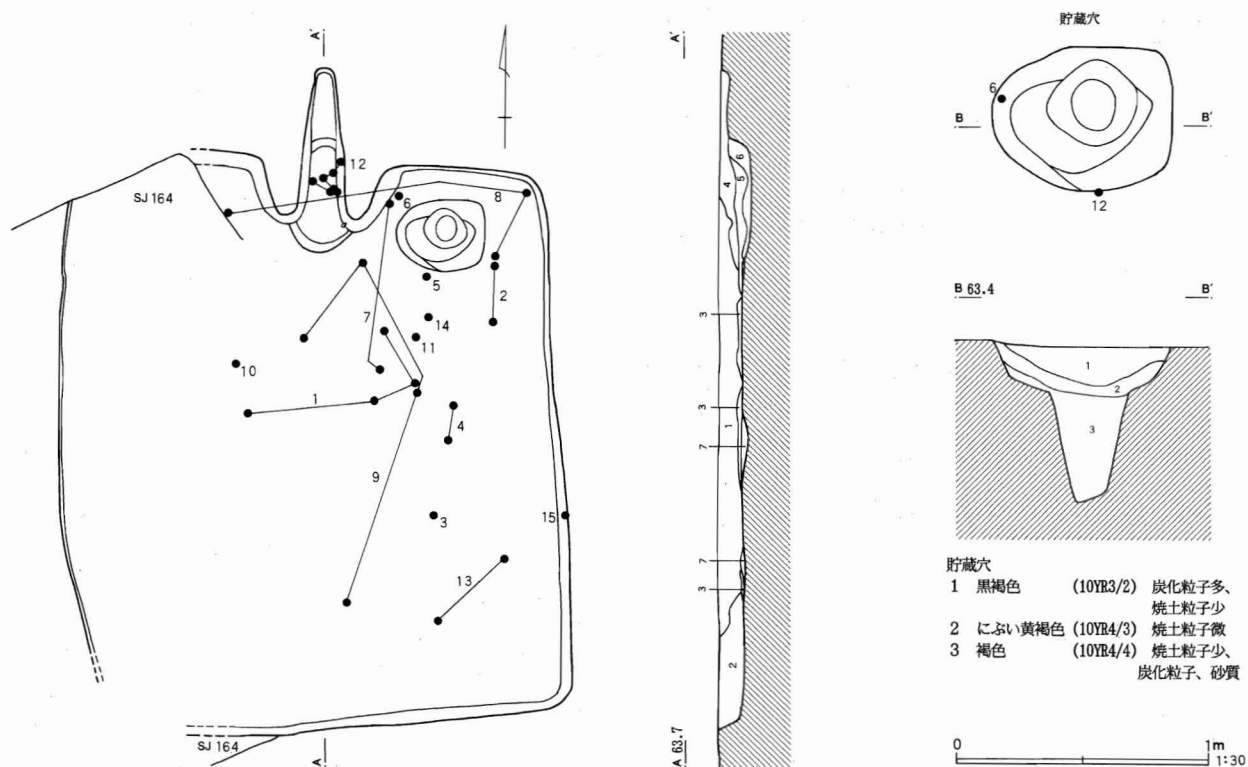
遺物は、土師器坏・鉢・小型壺・甕・壺、白玉の他に土錘が出土した。15は滑石製白玉で、厚さ3.9mm、径7.1~7.3mm、孔径2.3mmを測り、重さ0.34gを量る。覆土上位の出土である。



第54図 第172号住居跡・出土遺物

第172号住居跡出土遺物観察表 (第54図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	(15.4)	5.2		E J L	普通	橙	55	覆土	底部外面ヘラ削り
2	坏	(14.0)	4.0		A B D J L	普通	橙	30	覆土	底部外面ヘラ削り
3	坏	(13.0)	4.1		B J	普通	にぶい褐	15	覆土	底部外面ヘラ削り



- 1 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 黄褐色粒子多
2 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 焼土粒子、炭化粒子やや多
3 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 炭化粒子多
4 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 黄褐色粒子極多
5 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 焼土粒子少、炭化粒子
6 暗褐色 (10YR3/3) 焼土粒子多、炭化粒子
7 暗褐色 (10YR3/4) 焼土粒子少、炭化粒子

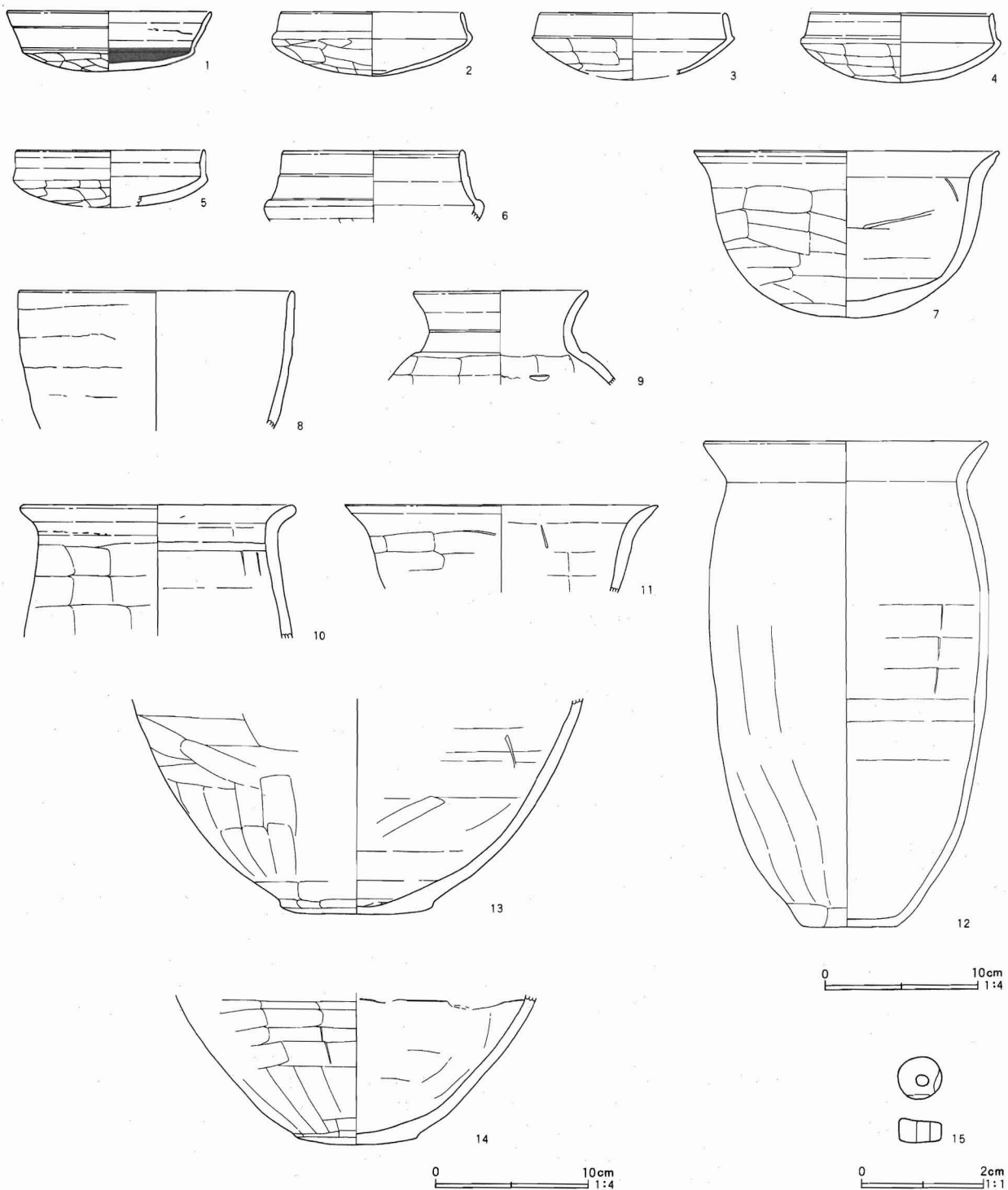
第55図 第173号住居跡

第173号住居跡出土遺物観察表 (第56図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	13.1	4.9		B	普通	橙	95	床	底部外面←へら削り 底部内面外周に油煙
2	坏	(11.8)	4.1		BE	普通	にぶい赤褐	75	覆土下位	底部←へら削り
3	坏	(12.1)			EJ	不良	にぶい黄橙	55	床	口縁部外面←へら削り
4	坏	(11.8)	4.5		ABDJ	普通	橙	45	床	底部←へら削り
5	坏	(12.1)			FJ	普通	橙	35	床	口縁部横ナデ 底部内面外周工具ナデ 外面←へら削り
6	坏	(11.6)			B	普通	灰褐	40	床	内外面クロロナデ
7	鉢	(19.7)	10.9	2.5	E	普通	にぶい赤褐	70	床・覆土	口縁部横ナデ 体部外面←へら削り
8	鉢	(17.7)			CHJ多	普通	にぶい黄橙	35	覆土下層	調整不明 粘土積み上げ痕顕著
9	壺	(11.2)			BE	普通	にぶい橙	70	床	口縁部横ナデ 胴部←へら削り
10	甕	(17.3)			BJL	普通	にぶい黄橙	20	床	頸部横ナデ 胴部←へら削り
11	甕	(20.4)			BE	普通	にぶい橙	25	覆土	外面←へら削り
12	甕	(18.2)	32.0	(6.0)	JL	普通	橙	70	覆土下位	器壁摩耗し、調整不詳
13	壺	10.0			J多	普通	にぶい橙	30	覆土下位	外面→・↓ 下端→へら削り及びナデ 底部へら削り
14	壺			(8.0)	EJ	良好	黒褐	30	覆土下位	外面←・↓へら削り 下端へらナデ 外面煤付着

第173号住居跡出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
16	(5.10)	1.86	0.62	(14.07)	Ba	橙		No.21
17	(5.43)	1.92	0.61	(12.64)	Ba	暗赤褐		



第56図 第173号住居跡出土遺物

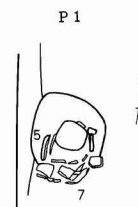
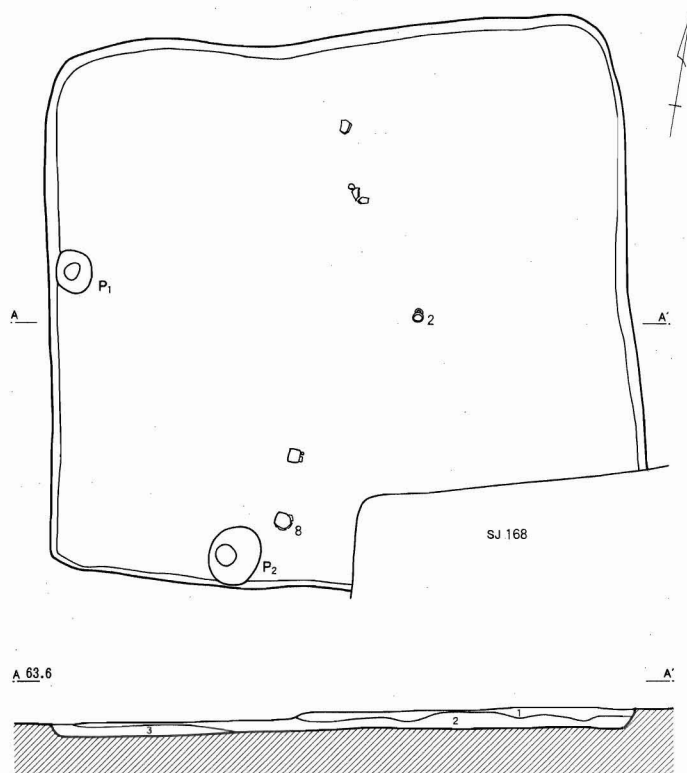
第174号住居跡（第57図）

Ｌー15・16グリッドに位置する。第168号住居跡に南壁の東半部、南東隅が切られ、第123・179号住居跡を切っている。平面は、軸長4.35m×4.59mの台形気味で、深さ14cmを測る。主軸方位は、N-10°-W

を指す。

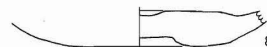
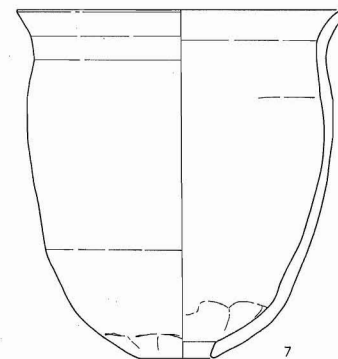
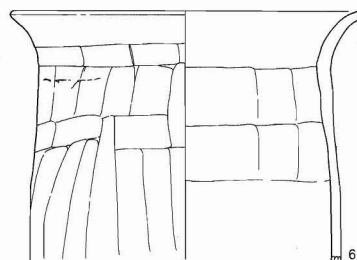
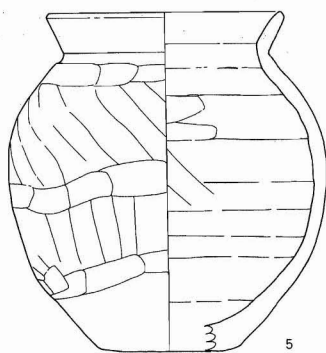
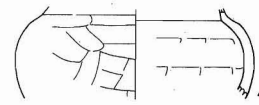
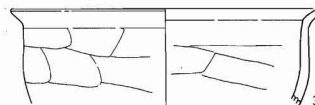
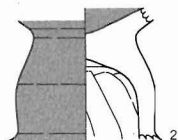
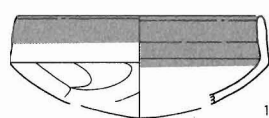
カマド・貯蔵穴等の施設は確認できなかった。

遺物は、土師器坏・高坏・鉢・小型壺・小型甕・甕・甑の他に土鍾が出土した。



- 1 にふい黄褐色 (10YR5/3) 炭化物、地山ブロック多
- 2 暗褐色 (10YR3/3) 焼土粒・炭化物多
地山ブロック
- 3 にふい黄褐色 (10YR4/3) 炭化物、地山ブロック多

0 2m 1:60



0 10cm 1:4

第57図 第174号住居跡・出土遺物

第174号住居跡出土遺物観察表 (第57図)

番号	器 種	口 径	器 高	底 径	胎 土	焼 成	色 調	残 存	出土位置	備 考
1	坏	(12.8)			BE J	不良	橙	15	覆土	体部外面不詳 赤彩範囲不明瞭
2	高 坏				BEL	良好	橙	90	床	外面横ナデ 内面指頭ナデ 赤彩
3	鉢	(16.3)			BE	普通	橙	20	覆土	外面←ヘラ削り
4	小型 壺				BJ	普通	橙	30	覆土	胴部外面←ヘラ削り
5	小型 甕	12.2	17.9	7.5	EF	普通	にふい橙	80	ピット1	胴部外面←・↓ヘラ削り 内面横ナデ
6	甕	(18.2)			BH I	普通	にふい黄橙	45	ピット1	外面頸部ヘラナデ 胴部↓・←ヘラ削り
7	甕	(17.2)	18.5	3.9	BJ	不良	橙	80	ピット1	摩耗整形不明
8	甕			9.8	AJ L	普通	にふい褐	90	覆土	底部

第174号住居跡出土土錘観察表

番号	長 さ	径	孔 径	重 さ	分 類	色 調	残 存	備 考
9	(3.66)	1.63	0.60	(7.59)	Bb	褐灰		

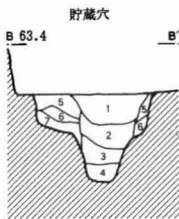
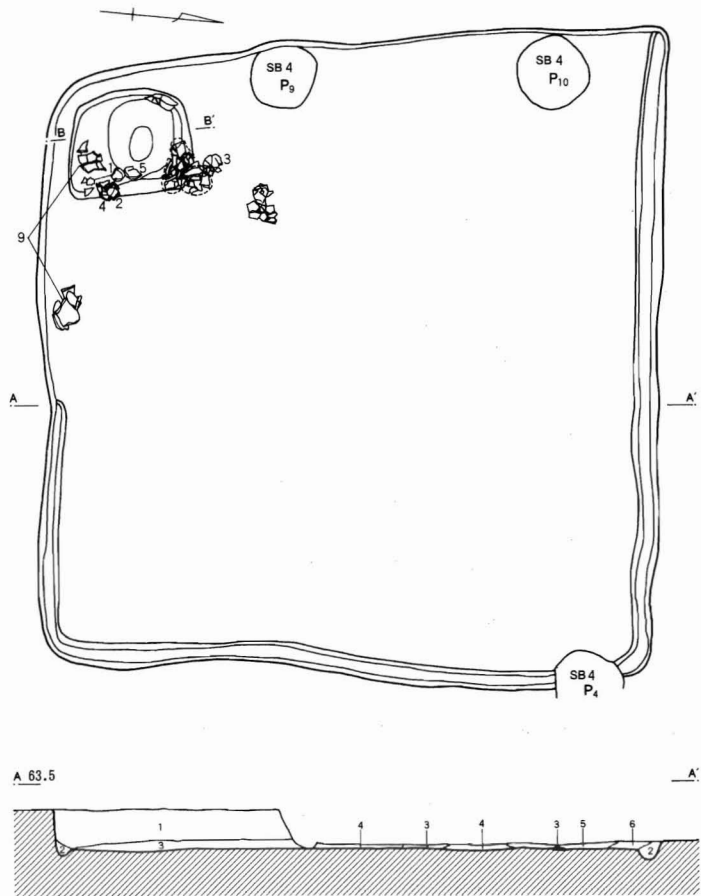
第175号住居跡 (第58・59図)

L・M-16グリッドに位置する。第168号住居跡に北半部、第169号住居跡のカマドにより南壁の一部、第4号掘立柱建物跡に住居跡内、第12号性格不明遺構に北東部が切られている。平面は、軸長4.90m×5.06mの方形で、深さ31cmを測る。壁溝は、東壁と南壁の西側を除いて確認され、幅14~20cm、深さ3

~12cmを測る。主軸方位は、N-94°-Wを指す。

カマドは、確認できず、貯蔵穴は、南西隅に検出された。平面は、96×85cmの隅丸長方形で、坑底の北寄りに67cm×56cmの楕円形ピット状の穴があり、深さは坑底30cm、ピット70cmを測る。

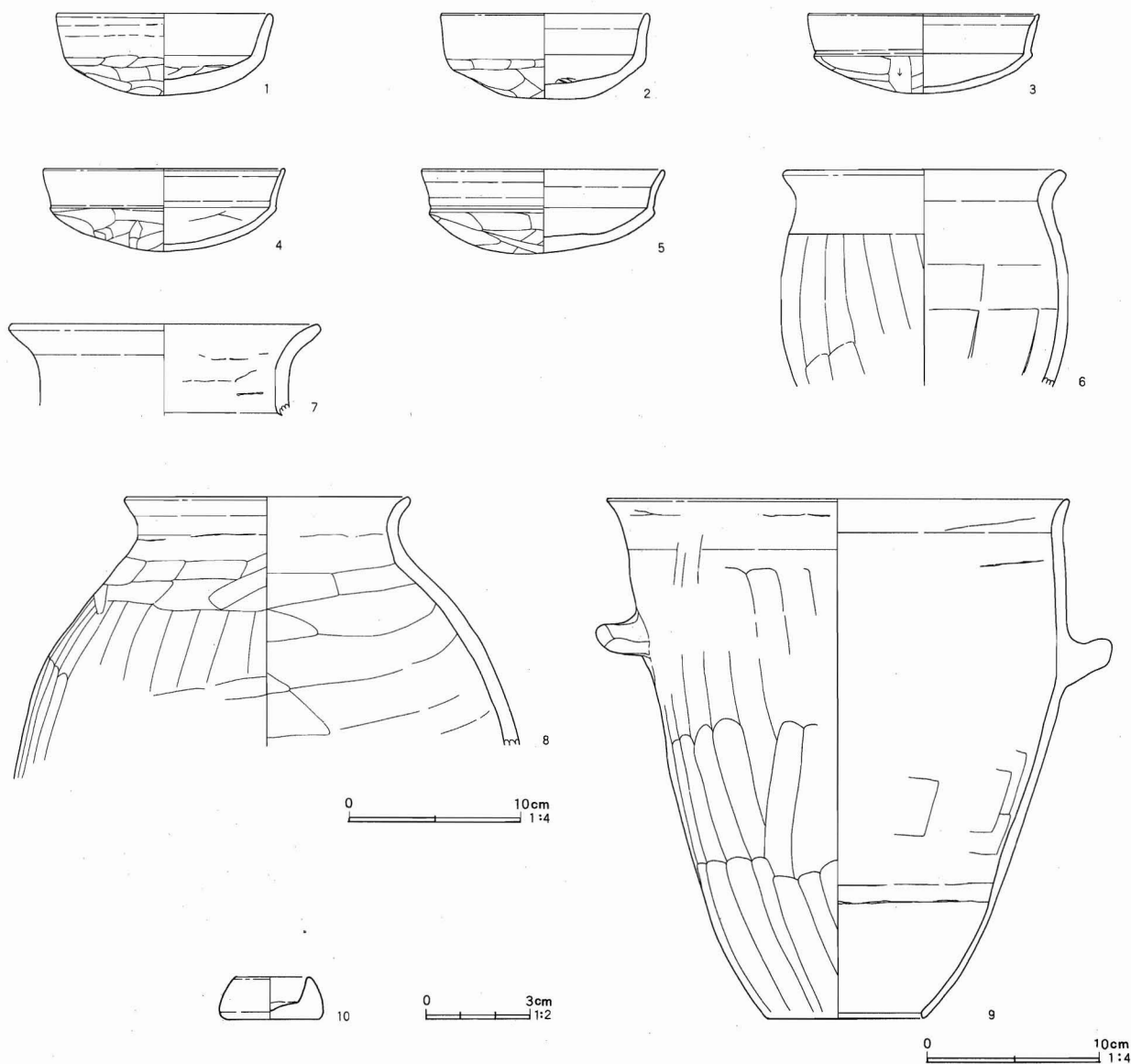
遺物は、土師器坏・小型甕・壺・甕と手捏ね土器が出土した。



- 貯蔵穴
- 1 にふい黄褐色 (10YR5/3) 炭化物・焼土粒子
 - 2 にふい黄褐色 (10YR4/3) 粘性ややあり、焼土粒
 - 3 暗褐色 (10YR3/4) 炭化物、粘性ややあり
 - 4 褐灰色 (10YR6/1) 砂質、炭化物
 - 5 にふい黄褐色 (10YR5/4) 灰白色土ブロック・焼土粒・炭化物
 - 6 にふい黄褐色 (10YR5/4) 焼土粒
 - 7 褐色 (10YR4/4) 粘性ややあり、炭化物少

- 1 暗褐色 (10YR3/4) 灰白シルト多、炭化物粒子僅か
- 2 暗褐色 (10YR3/3) 締まり強い
- 3 灰黄褐色 (10YR5/2)
- 4 暗褐色 (10YR3/3) 焼土僅か、にふい黄橙シルト僅か
- 5 にふい黄褐色 (10YR4/3)
- 6 にふい黄褐色 (10YR4/3) 灰黄褐色シルト極多

第58図 第175号住居跡



第59図 第175号住居跡出土遺物

第175号住居跡出土遺物観察表 (第59図)

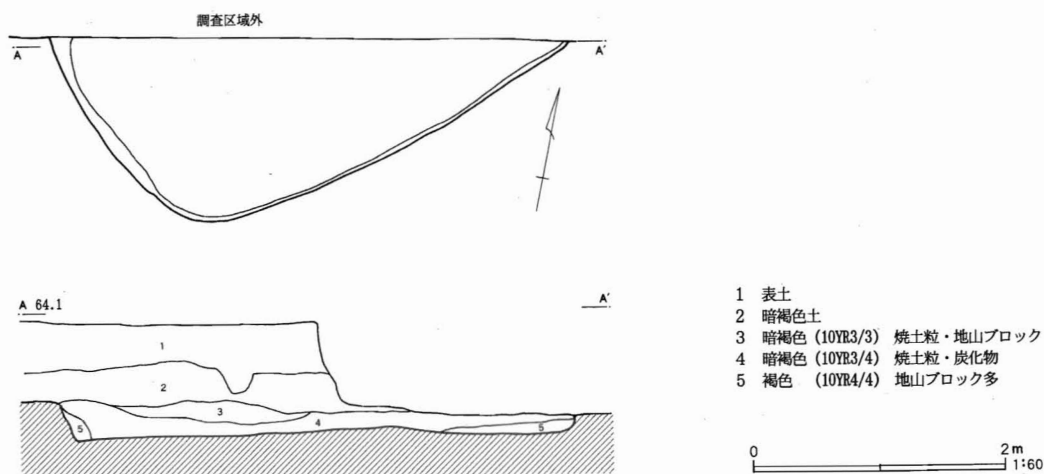
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	12.3	4.8		BD	普通	橙	70	貯蔵穴上面	底部外面←・↓へラ削り 内面へラナデ
2	坏	11.8	5.0		BE	普通	にぶい橙	95	貯蔵穴上面	底部外面←へラ削り
3	坏	13.2	4.7		E	普通	にぶい橙	95	床	口縁部横ナデ 底部外面←・↓へラ削り
4	坏	13.8	4.7		J	良好	橙	90	床・貯蔵穴	口縁部外面横ナデ 内面へラナデ 底部外面←へラ削り
5	坏	13.8	4.9		J	良好	にぶい橙	90	貯蔵穴上位	口縁部ナデ 底部内面外周へラナデ 外面←へラ削り
6	小型甕	(15.7)			AJ	普通	にぶい赤褐	25	覆土	口縁部横ナデ 胴部外面↓へラ削り 内面横ナデ
7	小型甕	(17.6)			J	良好	にぶい橙	30	貯蔵穴	外面横ナデ
8	壺	16.2			BCHL	良好	橙	90	貯蔵穴	胴部外面←・↓へラ削り 内面横ナデ
9	甕	(26.5)	30.4	9.0	BEF	普通	にぶい橙	60	貯蔵穴・床	外面↓へラ削り
10	ミニチュア	(2.1)	1.3	(2.6)	BF	普通	灰オリーブ	90	覆土	手握ね土器

第176号住居跡（第60図）

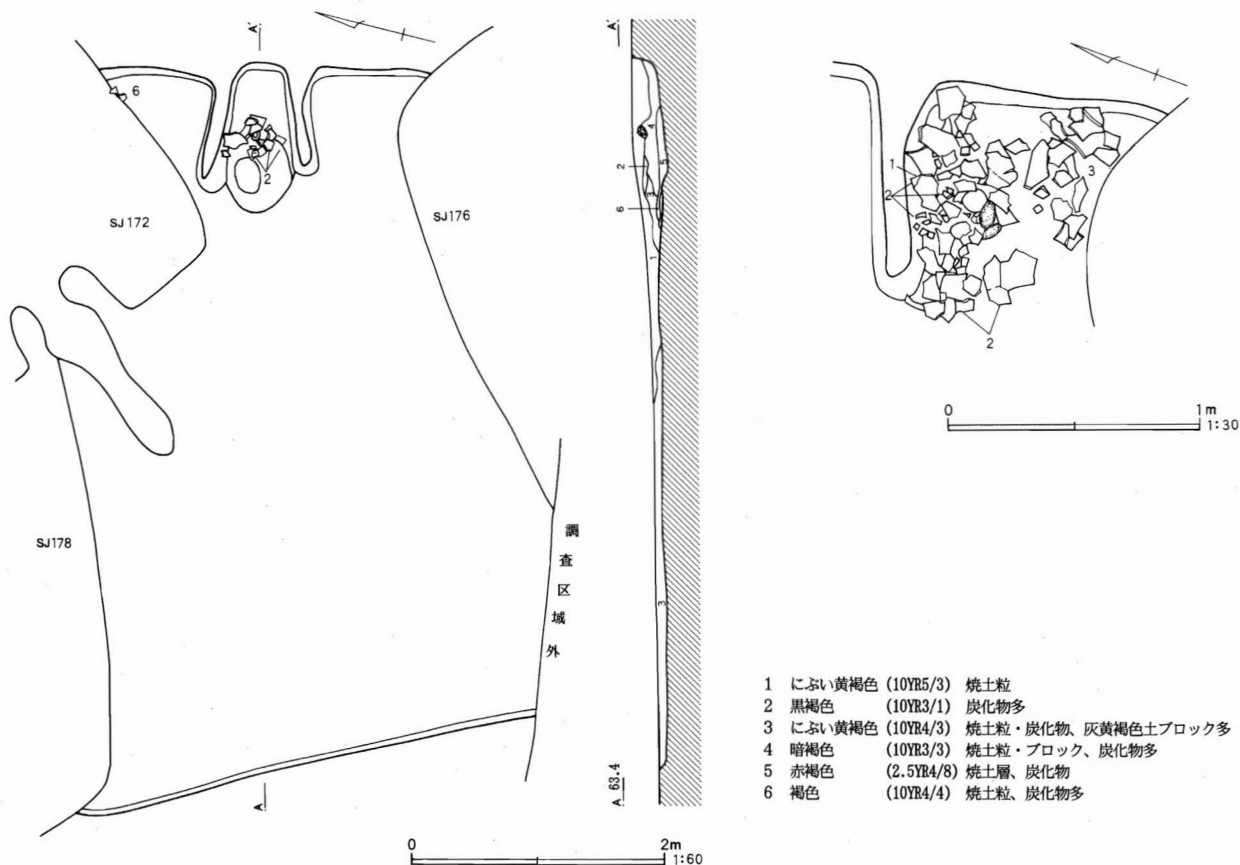
M-16グリッドに位置する。第177号住居跡を切っている。平面は、南が調査区域外で、北壁・東壁とも一部が確認され、南北長1.7m×東西長3.4m

で、深さ31cmを測る。主軸方位は、北壁を基準とするとN-50°-Eを指す。

カマド・貯蔵穴等の施設は確認できなかった。
遺物は、確認されなかった。



第60図 第176号住居跡



第61図 第177号住居跡

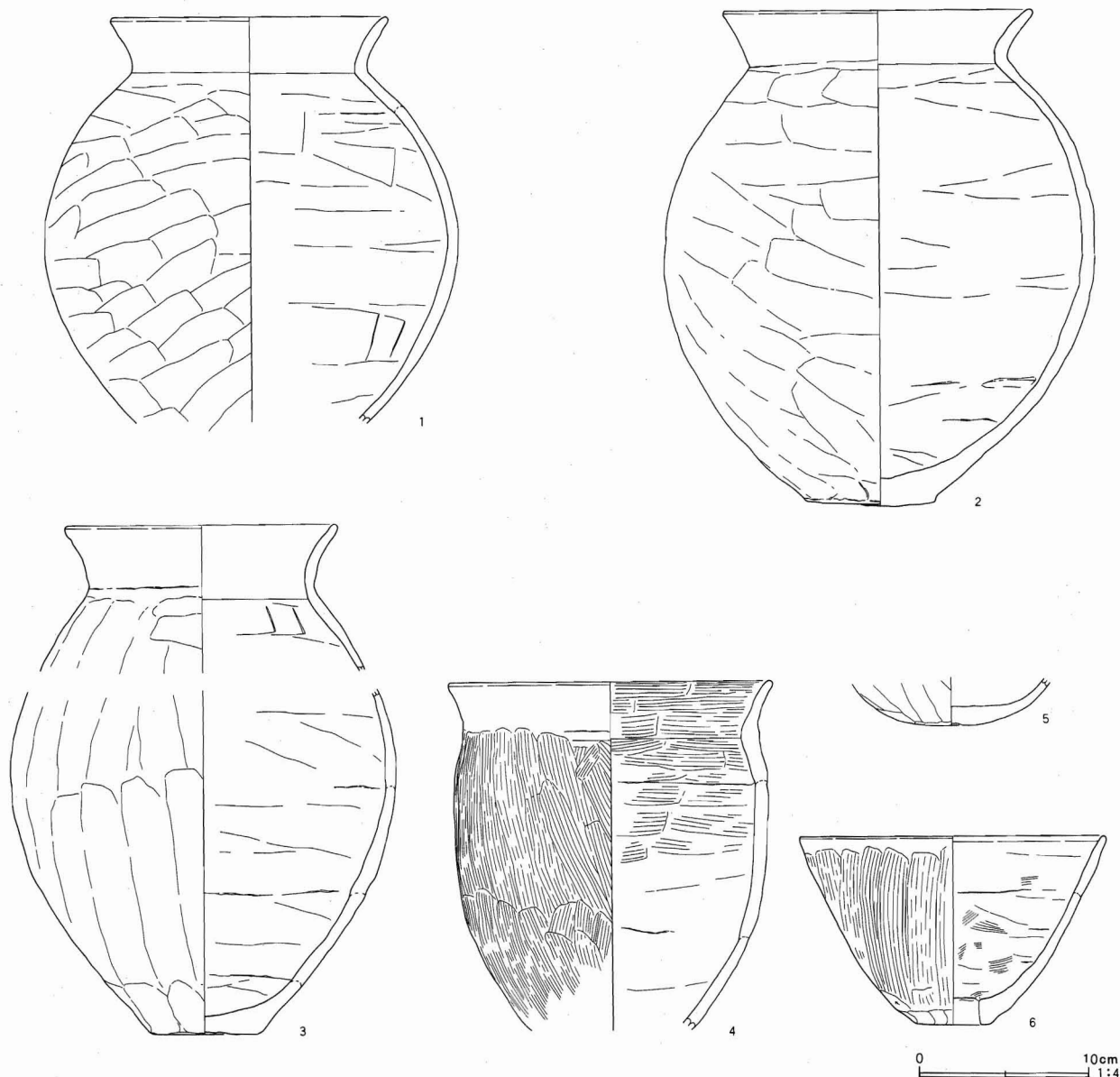
第177号住居跡（第61・62図）

M-15・16グリッドに位置する。第172号住居跡に北東部、第176号住居跡に南壁、第178号住居跡に北壁が切られている。平面は、南壁、北壁ともに他の住居跡に切られ、南西隅が調査区域外であり、軸長5.57mで、深さ6cmを測る。主軸方位は、N-70°-E

を指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、139cm×70cm、床面から深さ8cmを測る。

遺物は、カマドの南側の東壁寄りに集中し、土師器甕・甔が出土した。



第62図 第177号住居跡出土遺物

第177号住居跡出土遺物観察表（第62図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	甕	16.0			B J L	不良	橙	70	床	内外面摩耗著しい 胴部外面←ヘラ削り
2	甕	18.0	29.3	7.6	B J L	普通	灰黄褐	60	床	胴部外面→ヘラ削り
3	甕	(16.0)		6.6	B C J L	普通	灰黄褐	60	床	胴部外面↓ヘラ削り
4	甕	(18.8)			B C J L	普通	灰褐	40	カマド	胴外面縦刷毛 内面口縁から胴中位横刷毛
5	甕			4.2	B J L	普通	にぶい赤褐	80	床	外面↓ヘラ削り
6	甔	(18.0)	11.0	(4.4)	B J L	不良	にぶい橙	15	床	外面刷毛目 内面一部刷毛目

第178号住居跡（第63～66図）

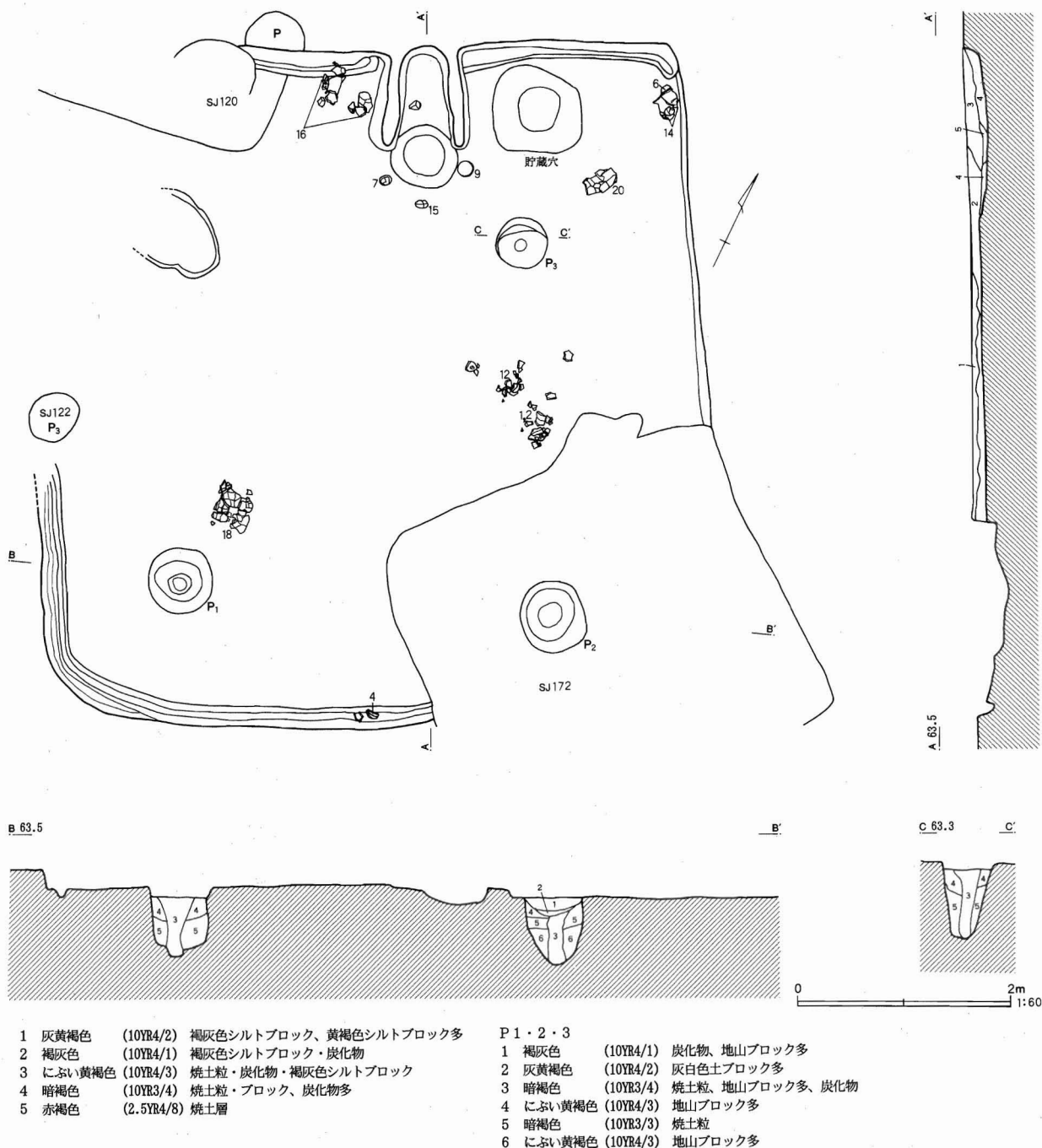
M-15グリッドを中心に位置する。第3号掘立柱建物跡の下で、第120号住居跡に北西隅、第122号住居跡に西半部、第172号住居跡に南東部が切られている。平面は、軸長6.40m×6.35mの方形で、深さ11cmを測る。壁溝は、東壁を除いて確認され、幅15～25cm、深さ3～12cmを測る。主軸方位は、N-25°

—Wを指す。

柱穴は、3本の主柱穴が検出でき、径48cm、径62～68cmの円形で、深さ64～70cmを測る。全てに柱痕が確認できた。

カマドは、北壁に設けられている。燃焼部は、133cm×54cm、床面から深さ8cmを測る。

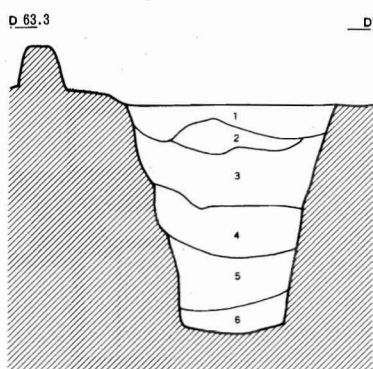
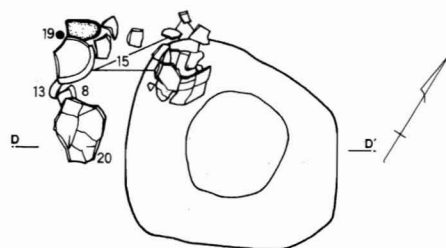
貯蔵穴は、北東隅に検出された。上面は、80cm×



第63図 第178号住居跡

83cmの方角気味で、坑底面は、径39cm×41cmの円形を呈し、深さ91cmを測る。

遺物は、土師器坏・甕・甗・小型壺・手捏ね壺、須恵器高坏の他に土鍾が出土した。



- 1 暗褐色 (10YR3/4) 焼土粒・炭化物、粘性ややあり
- 2 にぶい黄褐色 (10YR5/4) 砂質、焼土粒僅か
- 3 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 粘性ややあり、炭化物
- 4 にぶい黄褐色 (10YR4/4) 粘性ややあり、炭化物、焼土粒多
- 5 暗褐色 (10YR3/3) 粘性ややあり、炭化物
- 6 灰黄褐色 (10YR6/2) 砂、炭化物少

0 1m 1:30

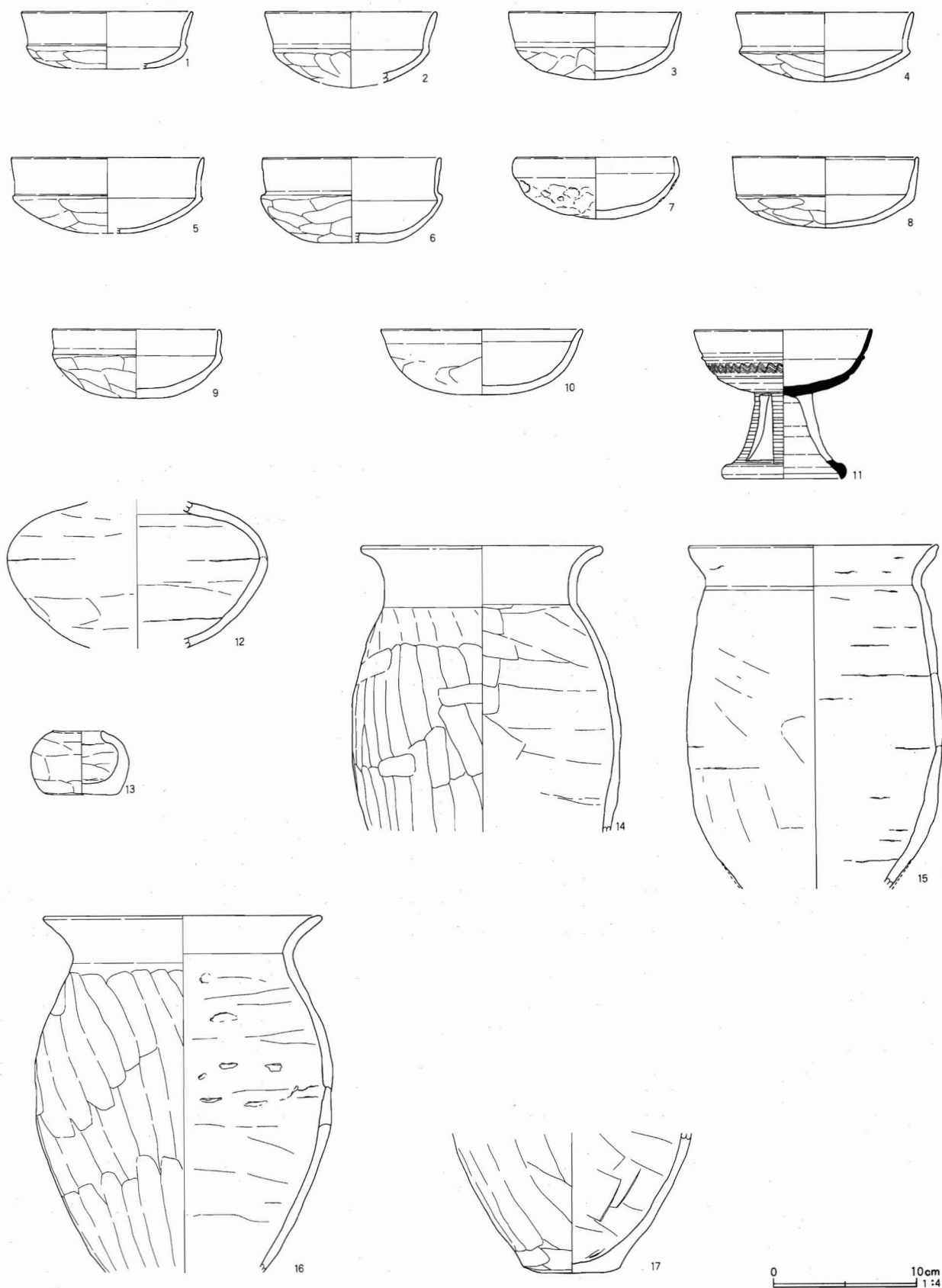
第64図 第178号住居跡貯蔵穴

第178号住居跡出土遺物観察表 (第65・66図)

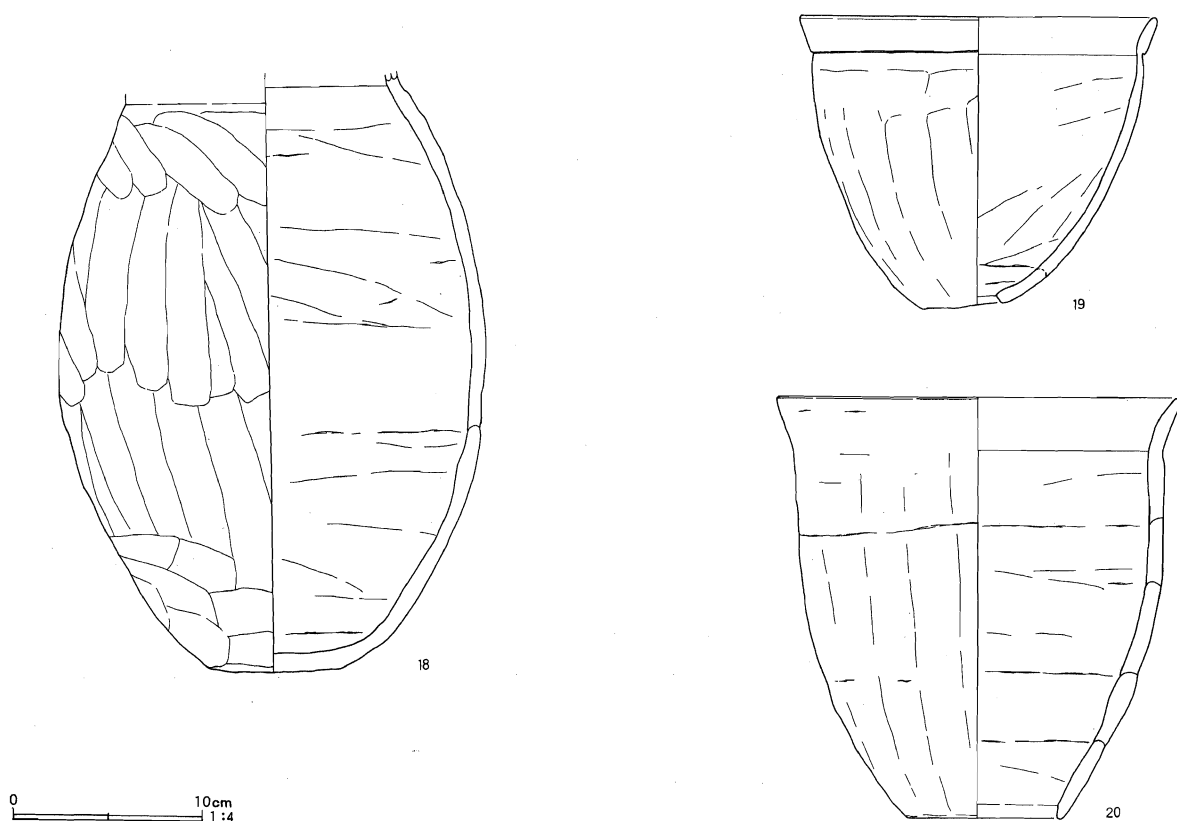
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	(12.0)	3.9		J L	不良	にぶい赤褐	30	覆土	底部外面→へら削り
2	坏	(12.0)			B	不良	にぶい橙	15	覆土	底部外面→へら削り
3	坏	(12.0)	4.6		E J	普通	にぶい橙	30	覆土	底部外面→へら削り
4	坏	(12.4)	4.7		B E J	普通	橙	35	壁溝内	底部外面→へら削り
5	坏	(13.4)	5.2		J	普通	橙	30	覆土	底部外面→へら削り
6	坏	(12.4)	5.8		E J	普通	にぶい橙	45	床	底部外面→へら削り
7	坏	11.0	4.2		E	不良	橙	85	覆土	内外面剥離顕著
8	坏	13.0	4.9		A B D J	普通	にぶい橙	75	床	内外面やや摩耗 体部外面→へら削り
9	坏	11.7	4.8		A E J L	不良	橙	95	床	内外面摩耗著しい
10	坏	(14.0)	4.5		D J L	普通	にぶい橙	30	覆土	内外面摩耗著しい
11	高坏	12.4	10.4	(8.0)	B	良好	灰	60	覆土	脚部カキ目 三方透孔
12	壺				B E J L	不良	にぶい橙	40	覆土	内外面摩耗著しい
13	小型壺	3.5	4.4	5.0	B D E J L	不良	橙	95	覆土	外面やや摩耗
14	甕	16.6			A B J L	普通	にぶい褐	80	床	外面頸部縦ナデ 以下↑へら削り
15	甕	(17.2)			J L	不良	にぶい橙	70	貯蔵穴	内外面摩耗著しい
16	甕	(19.4)			B E J L	普通	にぶい橙	40	床	胴部外面上・中位↑・下位↓へら削り
17	甕			6.8	B J L	不良	橙	60	ピット2	胴部外面↓、下端←へら削り
18	甕			7.3	B J L	普通	にぶい褐		覆土	胴部外面 上位・下位←・中位↑へら削り
19	甗	(18.8)	15.3	4.1	J	普通	にぶい黄橙	60	床	内外面摩耗著しい
20	甗	21.4	22.4	(8.0)	B J L	不良	にぶい黄橙	80	床	内外面摩耗著しい 外面↓へら削り

第178号住居跡出土土鍾観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
21	(3.18)	1.17	0.39	(3.12)	Ba	にぶい黄橙		B区
22	(2.62)	1.70	0.46	(5.77)		明赤橙		



第65図 第178号住居跡出土遺物(I)



第66図 第178号住居跡出土遺物(2)

第179号住居跡 (第67図)

L-16グリッドを中心に位置する。第167・168号住居跡に南壁、第174号住居跡に西壁が切られている。平面は、南壁・西壁ともに切られているため規模は不明であるが、軸長3.30m以上×4.38mで、深さ12cmを測る。主軸方位は、N-13°-Wを指す。

柱穴は、4本の主柱穴が検出できたが、比較的浅いが、P1～P4が相当するものとみられる。

カマドは、北壁のやや東寄りに設けられている。燃烧部は、93cm×43cm、床面から深さ10cmを測る。

遺物は、土師器盤、手捏ねでミニチュアの他に土錘が出土した。

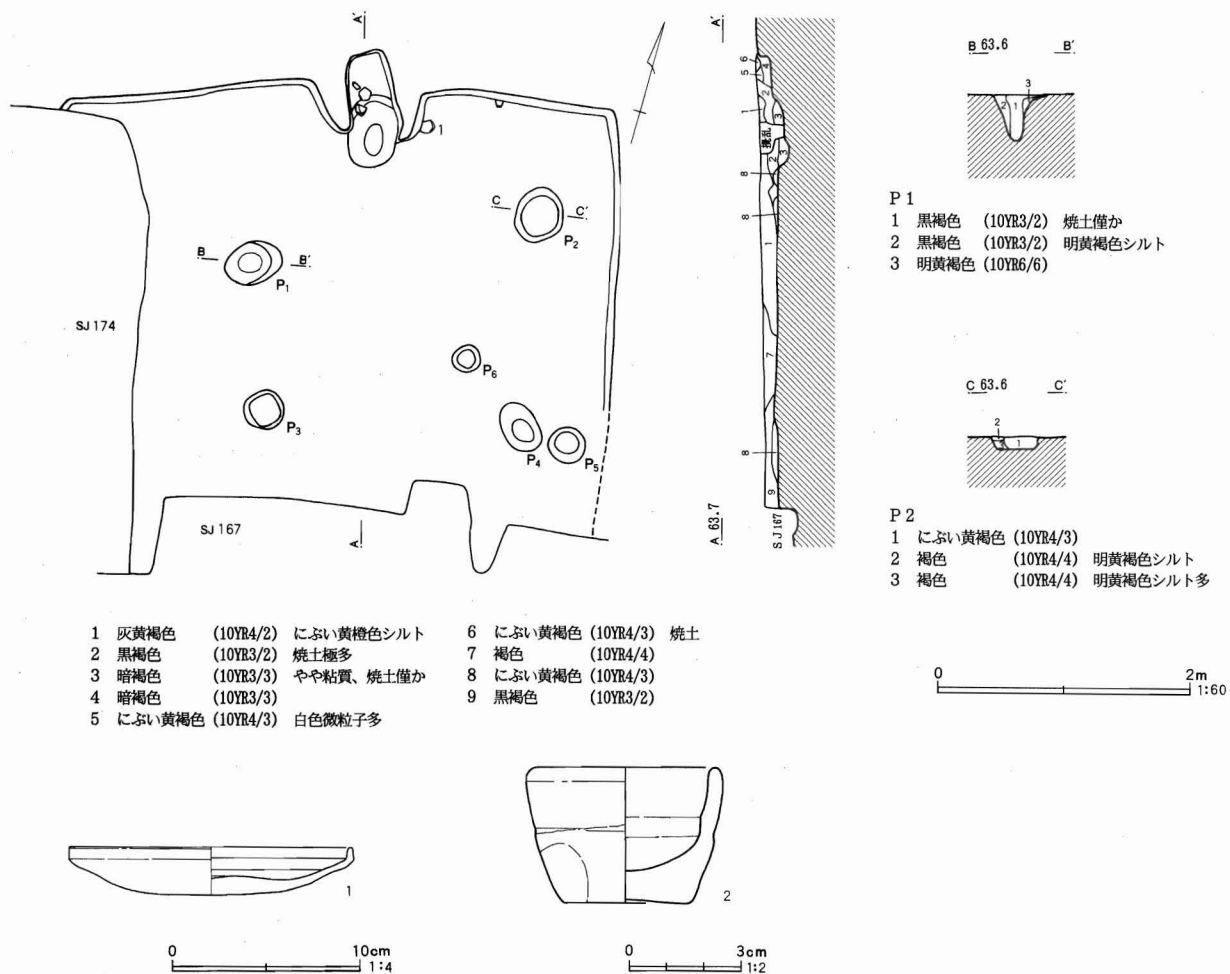
第183号住居跡 (第68図)

I-17グリッドに位置する。第191・195号住居跡を切っている。平面は、軸長4.10m×4.07mの台形で、深さ11cmを測る。主軸方位は、N-118°-Wを指す。

カマドは、西壁の南寄りに設けられている。燃烧部は、135cm×44cm、床面から深さ19cmを測る。煙道部は70cm程確認できた。

貯蔵穴は、南隅に検出された。平面は、81cm×71cmの隅丸方形で、坑底には径44cmで円形のピット状のものがあり、深さは坑底が21～23cm、ピットでは55cmを測る。

遺物は、土師器甕、鉄製品の他に土錘が出土した。2は、両端が欠損している棒状のもので、重さ11.76gを量り、鉄鏃基部とみられる。



第67図 第179号住居跡・出土遺物

第179号住居跡出土遺物観察表 (第67図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	盤	(14.8)	2.6	(7.7)	BE	良好	橙	70	床	口縁部横ナデ 底部へラ削り
2	ミニチュア	(4.8)	3.6	3.4	B	良好	にぶい赤褐	85	覆土	底部へラナデ 手捏ね土器

第179号住居跡出土土錘観察表

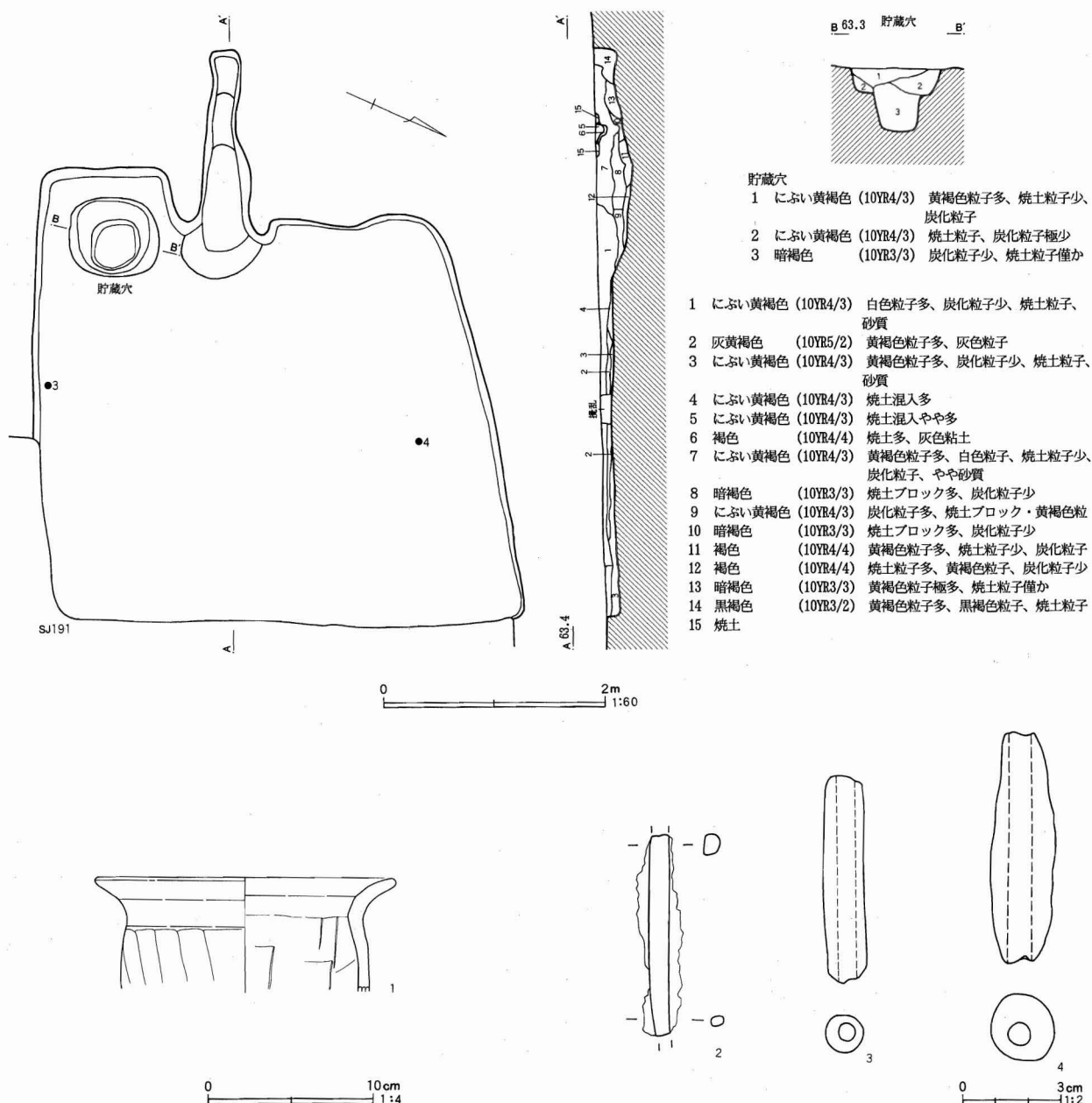
番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
3	(4.43)	1.77	0.60	(10.86)	B	明赤褐		A区

第183号住居跡出土遺物観察表 (第68図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	甕	(17.8)			AHJ	普通	橙	20	覆土	胴部外面↑へラ削り 内面へラ横ナデ

第183号住居跡出土土錘観察表 (第68図)

番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
3	6.21	1.21	0.55	8.81	Aa IV	褐灰	100	No.1 床
4	6.88	1.99	0.47	23.91	Ba III	にぶい橙	100	No.2 覆土中位



第68図 第183号住居跡・出土遺物

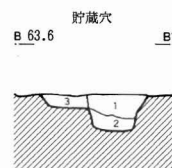
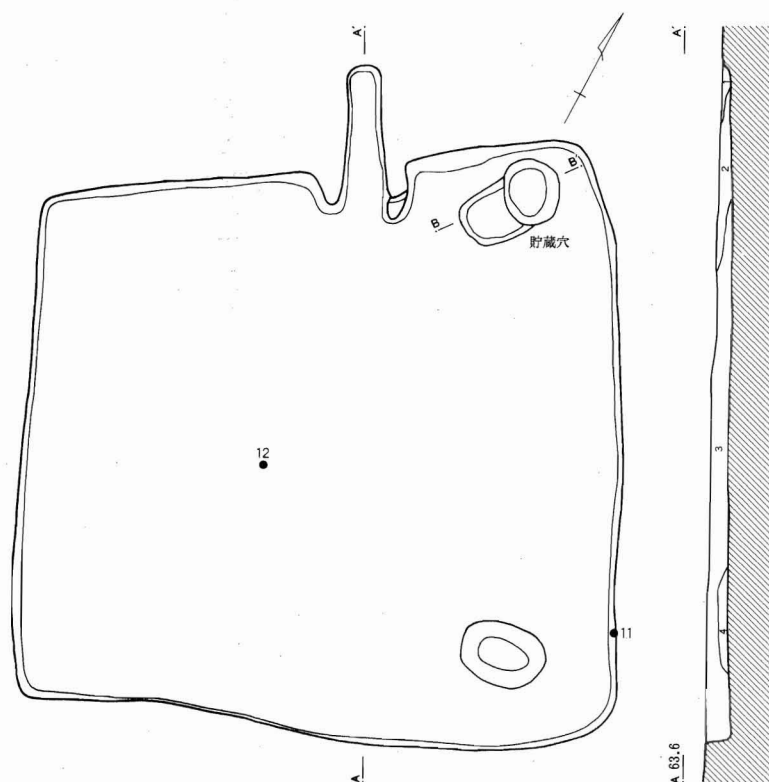
第184号住居跡 (第69・70図)

J-17グリッドに位置する。第201・207・208号住居跡を切っている。平面は、軸長4.54m×4.70mの台形で、深さ14cmを測る。主軸方位は、N-29°-Wを指す。

カマドは、北壁のやや東寄りに設けられている。燃焼部は、120cm×36cm、床面と同じ高さである。

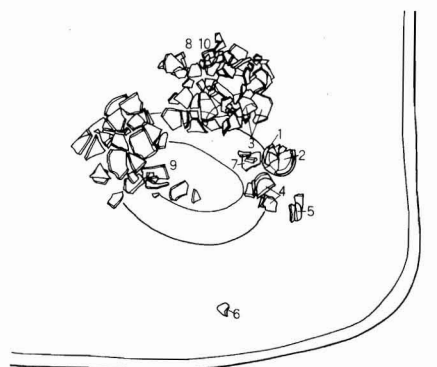
貯蔵穴は、北隅に検出された。平面は、84cm×45cmの楕円形で、東側は径44×52cmのピット状となっており、坑底は深さ10cm、ピットでは29cmを測る。

遺物は、ピット1の周辺に集中し、土師器・甕・甗の他に土鍾、土玉が出土した。11の土玉は高さ1.60cm、径1.67cm、孔径0.21cmを測り、重さ3.36gを量る。土玉と12の土鍾は覆土下位から出土した。



- 貯蔵穴
- 1 暗褐色 (10YR3/4) 炭化粒子少、焼土粒子微
2 暗褐色 (10YR3/3) 炭化粒子微
3 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 焼土粒子微、炭化粒子、砂質

0 2m 1:60



0 1m 1:30

- 1 黒褐色 (10YR3/2) 炭化粒子多、焼土ブロック
2 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 炭化粒子少、焼土粒子
3 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 炭化粒子多、焼土粒子
4 にぶい黄褐色 (10YR5/3) 白色粒子多

0 2m 1:60

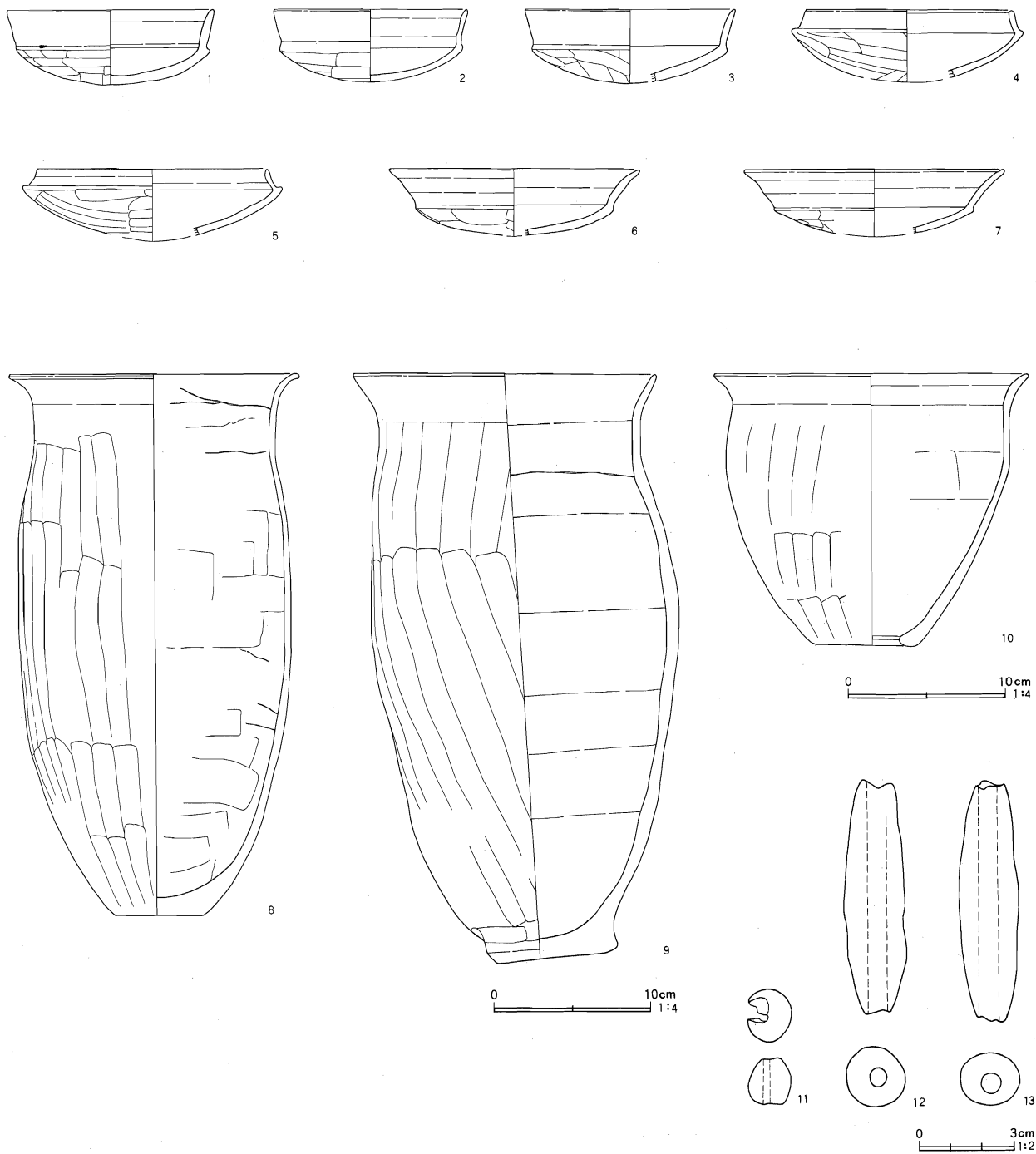
第69図 第184号住居跡

第184号住居跡出土遺物観察表 (第70図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	13.0	4.7		J	良好	にぶい橙	90	床	底部外面→ヘラ削り
2	坏	(12.2)	4.6		J	不良	橙	55	床	底部外面→ヘラ削り
3	坏	(13.3)	4.6		E J	不良	橙	70	床	底部外面←ヘラ削り
4	坏	13.2	4.5		J	普通	橙	80	床	底部外面←ヘラ削り
5	坏	(14.5)			E J	普通	にぶい黄橙	55	覆土下位	底部外面平行一方向ヘラ削り
6	坏	(15.8)			E J	普通	橙	40	床	口縁部外面横ナデ 底部外面→ヘラ削り
7	坏	(16.3)			J	普通	明赤褐	20	P 1	口縁部外面横ナデ 底部外面←ヘラ削り
8	甕	(18.1)	34.7	5.5	B J	普通	にぶい黄橙	40	床	口縁部横ナデ 外面↓ヘラ削り
9	甕	19.0	37.5	7.2	A H J L	普通	橙	80	P 1 上面	外面↓ヘラ削り
10	甕	(19.8)	17.4	6.0	J L	普通	にぶい橙	80	P 1 上面	外面器壁摩耗 ↓ヘラ削り

第184号住居跡出土土錘観察表 (第70図)

番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
12	7.48	1.88	0.66	23.00	Ba III	にぶい橙	100	No69 覆土下位
13	7.65	1.92	0.75	21.68	Ba IV	にぶい橙	100	A区



第70図 第184号住居跡出土遺物

第185号住居跡（第71図）

H・I-18グリッドに位置する。平面は、軸長2.00m×2.5mのやや歪んだ方形で、深さ7cmを測る。主軸方位は、N-13°-Wを指す。

カマドは、北壁のやや西寄りに設けられている。燃焼部は、115cm×48cm、床面から深さ7cmを測る。

遺物は、土師器片が少量出土した。

第186号住居跡（第72～74図）

I-18グリッドを中心に位置する。第193号住居跡を切っている。平面は、西壁が他の住居跡と重複し、北壁は地形が北へ緩やかに傾斜しているため不明瞭だが、軸長4.92m×4.08m以上の長方形で、深

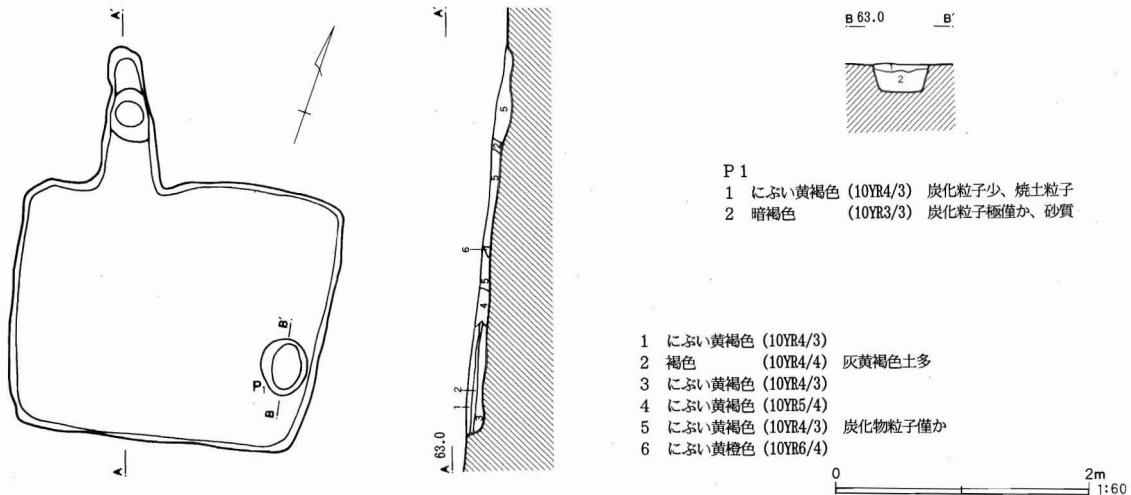
さ6cmを測る。主軸方位は、N-66°-Eを指す。

カマドも不明瞭であるが、断面より東壁に設けられていたと推定できる。燃焼部は、断面より132cmほど確認できた。

貯蔵穴は、北東隅に検出された。平面は、130cm×108cmの楕円形で、深さ60cmを測る。

東壁際には土坑（SK1）が、確認された。また、南壁際中央部の床面に3cmほどの厚さの灰白色粘土が確認された。

遺物は、土師器環・埴・高埴・小型甕・甕・壺、須恵器蓋の他に土鍾が出土した。



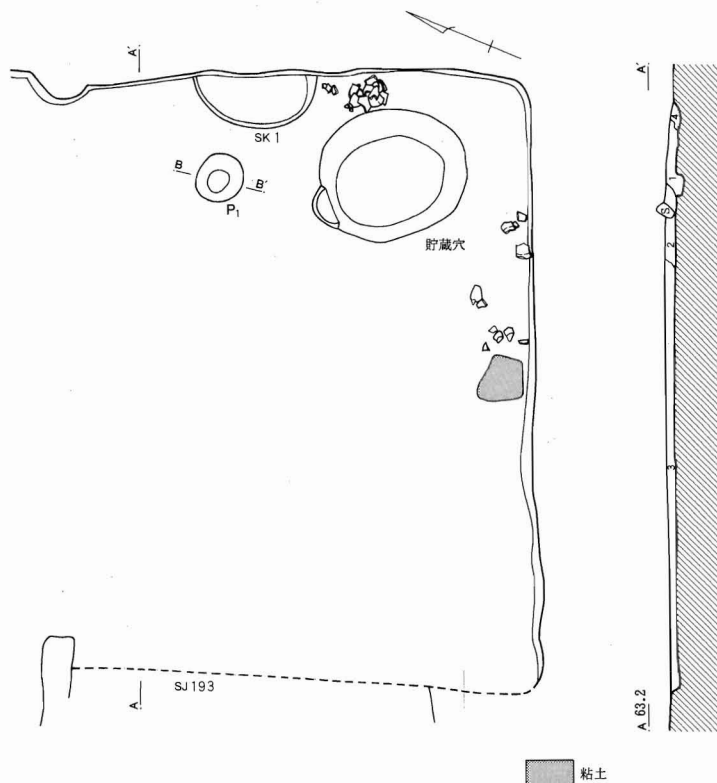
第71図 第185号住居跡

第185号住居跡出土土鍾観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
1	(3.37)	(1.50)	0.46	(5.40)	Ba	橙	40	A区

第186号住居跡出土遺物観察表（第73図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	(13.4)			B J	普通	橙	15	貯蔵穴	体部外面←へら削り
2	坏	(11.0)	4.9		E	普通	橙	55	貯蔵穴	内外面とも摩耗
3	埴	12.4	5.5	4.0	B J	普通	橙	95	貯蔵穴	内外面器壁摩耗 赤彩痕
4	蓋	12.4	5.4		B	良好	灰	95	貯蔵穴	天井部左回転へら削り つまみ径3.2cm
5	高埴	15.5	9.9	8.0	B J	普通	橙	90	貯蔵穴	口縁部横ナデ 坏部外面↑、→へら削り
6	小型甕	(12.0)			J	不良	橙	40	SK1	器壁摩耗
7	小型甕	(12.2)			J	普通	明赤褐	30	SK1	器壁摩耗
8	甕	15.8			C J L	普通	にふい橙	60	貯蔵穴	胴部外面↓へら削り
9	甕	(15.3)			B J L	普通	にふい橙	30	貯蔵穴	
10	甕	(16.5)			J L	普通	にふい橙	25	SK1	胴部外面削り後ナデ 内面横ナデ
11	甕	(19.2)			J	普通	にふい橙	40	貯蔵穴	胴部内面刷毛目 外面摩耗不明瞭 一部↑へら削り



B 63.2 B'

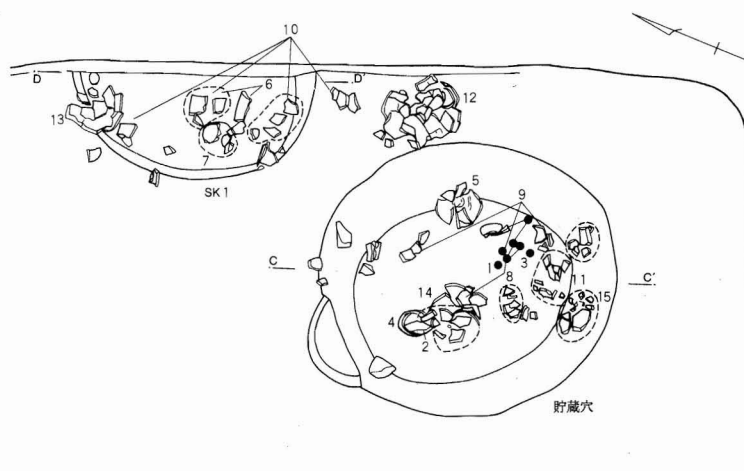


P 1

1 灰黄褐色 (10YR4/2) 炭化物

- 1 にふい黄褐色 (10YR4/3) 焼土
- 2 褐色 (10YR4/4) 焼土・炭化物粒子
- 3 褐色 (10YR4/4) 白色微粒子、炭化物粒子僅か
- 4 にふい黄褐色 (10YR6/4)

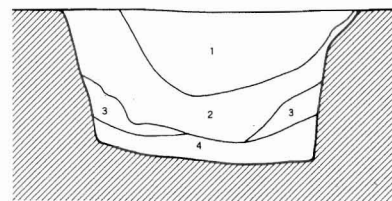
0 2m 1:60



C 63.2

貯蔵穴

C'



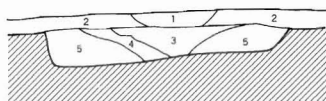
貯蔵穴

- 1 にふい黄褐色 (10YR4/3) 炭化物多、焼土粒子少
- 2 褐色 (10YR4/4) 炭化物多、焼土粒子
- 3 褐色 (10YR4/6) 炭化物少、やや砂質
- 4 褐色 (10YR4/4) 炭化物少、砂質

D 63.2

SK 1

D'

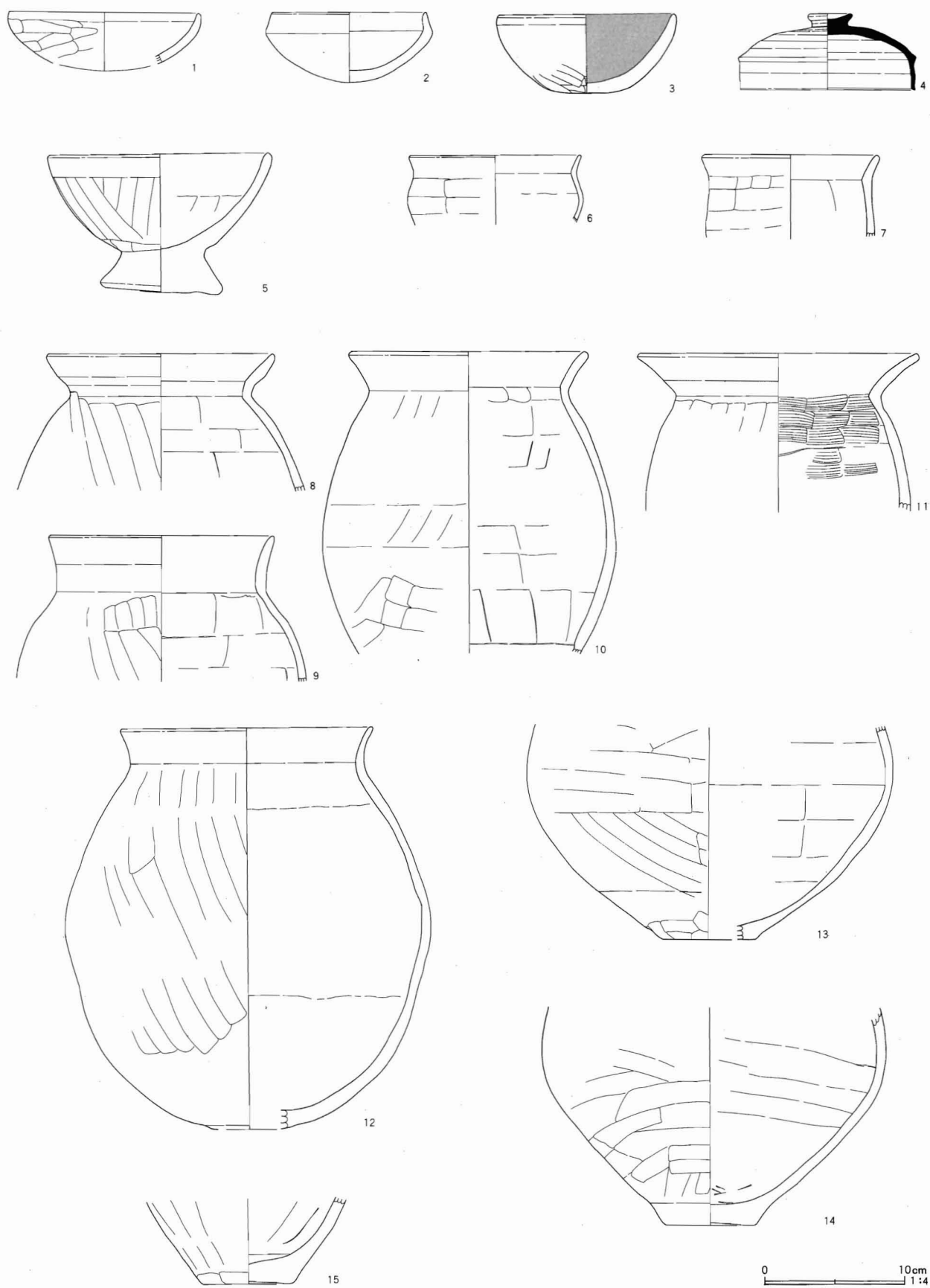


SK 1

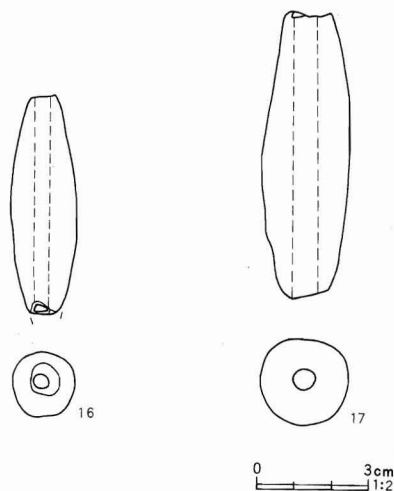
- 1 にふい黄褐色 (10YR5/4)
- 2 にふい黄褐色 (10YR4/3) 締まりなし
- 3 褐色 (10YR4/4)
- 4 にふい黄褐色 (10YR4/3)
- 5 灰黄褐色 (10YR4/2)

0 1m 1:30

第72図 第186号住居跡



第73図 第186号住居跡出土遺物(1)



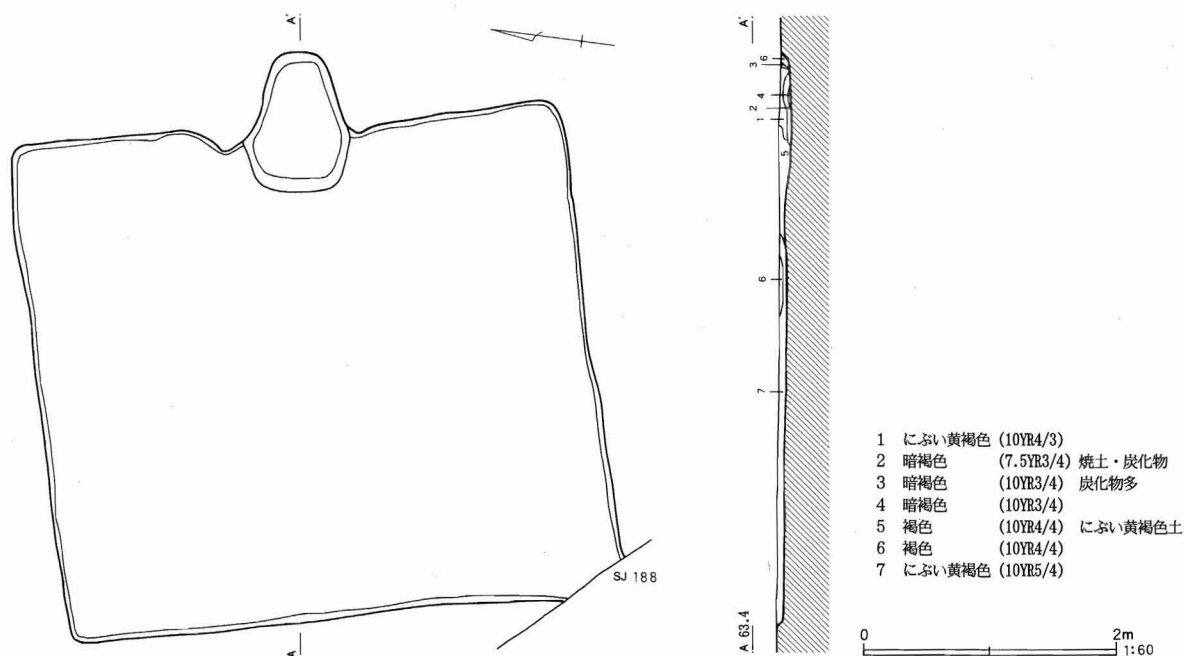
第74図 第186号住居跡出土遺物(2)

第186号住居跡出土遺物観察表 (第73図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
12	甕	(17.7)	28.5	(5.7)	BEJ	普通	にぶい橙	30	床	胴部外面↑へラ削り
13	壺			(6.6)	BJL	普通	にぶい橙	30	SK1	胴部外面上半横ナデ、下半↓へラ削り
14	壺			6.3	BEH	普通	橙	80	貯蔵穴	胴部外面→へラ削り 内面へラ横ナデ
15	甕			6.4	AJ	普通	にぶい橙	50	貯蔵穴	底部内外面平行一定方向へラナデ 胴部外面↓・→へラ削り

第186号住居跡出土土錘観察表 (第74図)

番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
16	5.77	1.78	0.39	16.67	Ba IV	褐灰	95	
17	7.40	2.38	0.69	39.66	Ba III	黒褐	100	



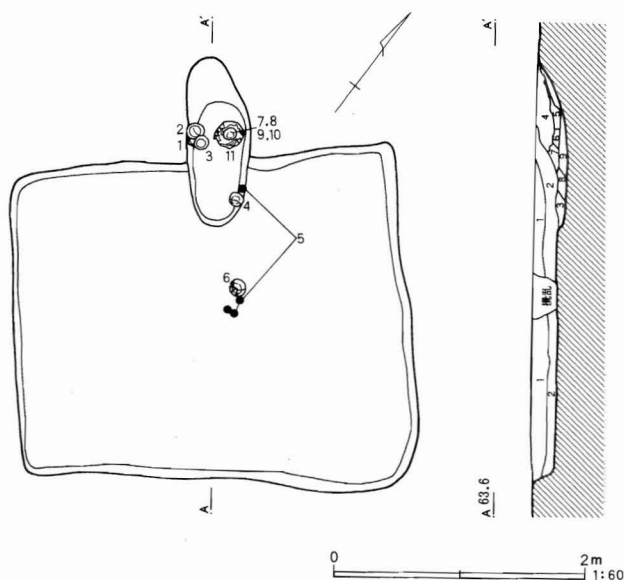
第75図 第187号住居跡

第187号住居跡 (第75図)

I-19グリッドを中心に位置する。第188号住居跡に南西隅が僅かに切られている。平面は、軸長3.92m×4.36mの方形で、深さ5cmを測る。主軸方位は、N-77°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、113cm×75cm、床面から深さ3cmを測る。

遺物は、土師器片が少量出土した。



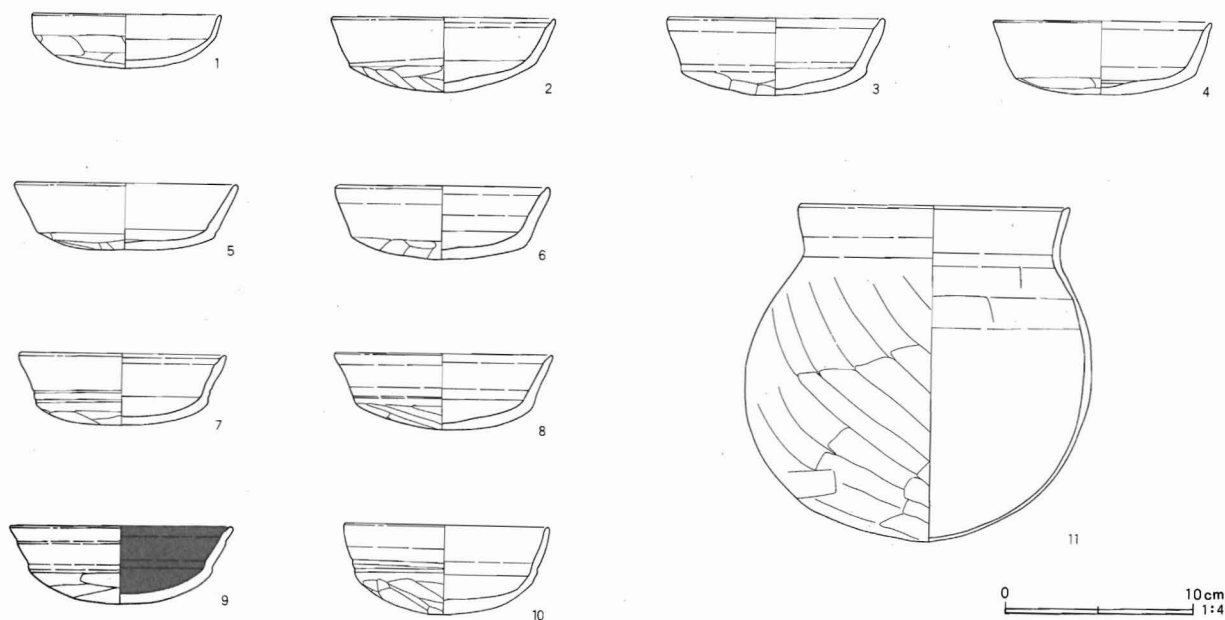
第188号住居跡 (第76図)

J-18グリッドを中心に位置する。第187号住居跡を切っている。平面は、軸長2.57m×3.13mの台形で、深さ20cmを測る。主軸方位は、N-38°-Wを指す。

カマドは、北西壁に設けられている。燃焼部は、136cm×52cm、床面から深さ8cmを測る。

遺物は、土師器坏・小型甕が出土した。7~10の

- 1 にふい黄褐色 (10YR4/3) 砂質、炭化粒子微
- 2 褐色 (10YR4/4) やや砂質、炭化粒子少、焼土粒子
- 3 にふい黄褐色 (10YR4/3) 焼土粒子微、炭化粒子
- 4 にふい黄褐色 (10YR4/3) 小焼土ブロック少
- 5 赤褐色 (2.5YR4/6) 焼土層、暗赤褐色焼土ブロック多
- 6 にふい黄褐色 (10YR4/3) 4層に似るが、焼土粒子多
- 7 赤褐色 (2.5YR4/6) 焼土層、黄褐色粒子多
- 8 にふい黄褐色 (10YR4/3) 3層に似るが、炭化粒子多
- 9 褐色 (10YR4/4) 焼土ブロック多、炭化粒子少



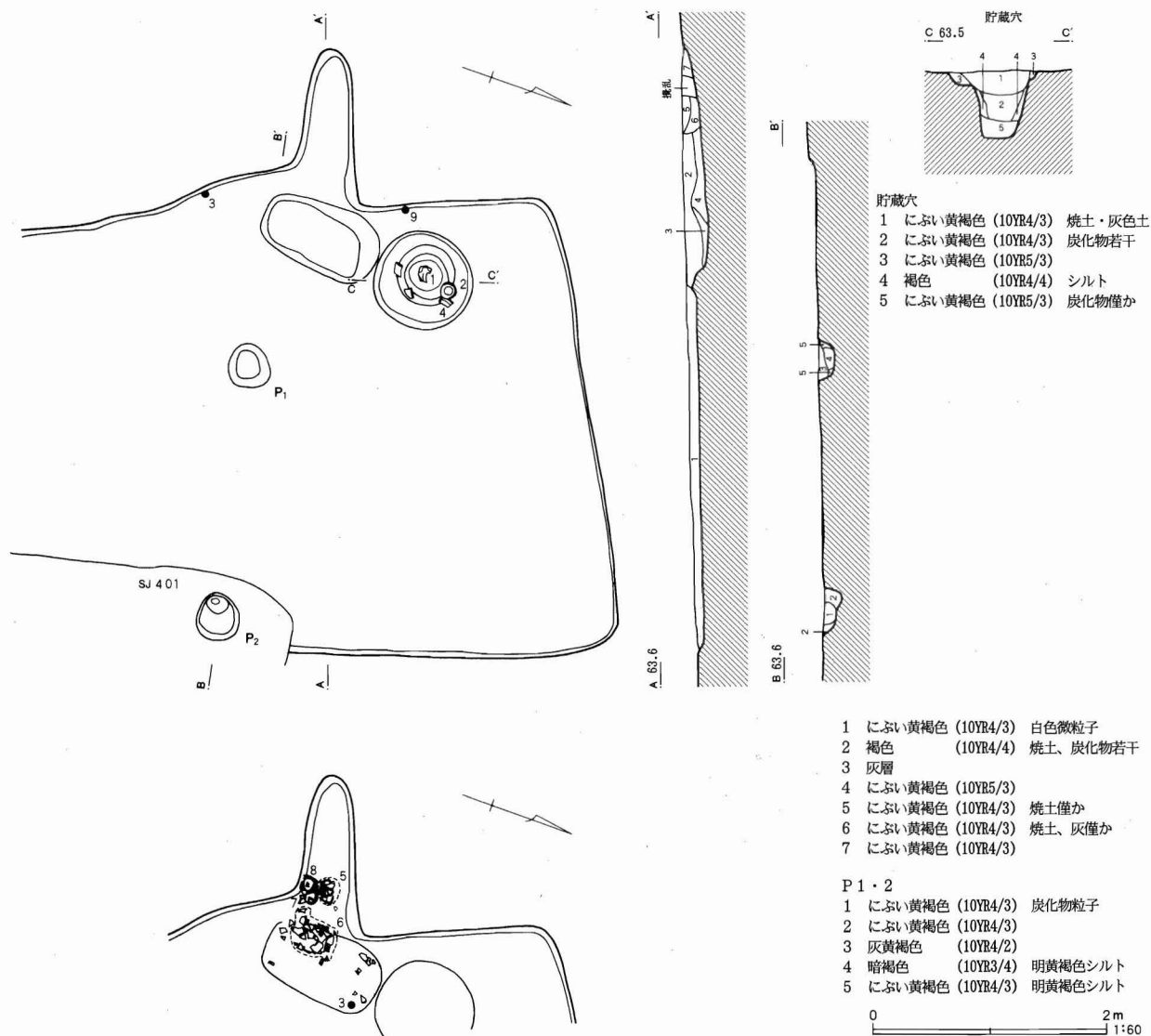
第76図 第188号住居跡・出土遺物

第188号住居跡出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
12	(4.30)	1.93	0.64	(14.69)	Ba	橙	40	A区

第188号住居跡出土遺物観察表 (第76図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	9.9	2.9		H J	不良	橙	85	カマド	底部外面←へら削り
2	坏	11.7	3.9		BD	普通	にぶい黄橙	98	カマド	底部外面平行一定方向へら削り
3	坏	11.3	4.1		ABD	良好	にぶい黄橙	100	カマド	底部外面、平行一定方向へら削り
4	坏	11.4	3.9		EF	普通	にぶい黄橙	100	カマド	口縁横ナデ 底部外面平行一定方向へら削り
5	坏	11.7	3.5		BE	普通	にぶい黄橙	95	床・カマド	口縁部横ナデ 底部外面外周除き平行一定方向へら削り
6	坏	11.2	3.9		BE	良好	にぶい黄橙	100	覆土	底部外面平行一定方向へら削り
7	坏	11.3	3.8		BD	良好	にぶい黄褐	100	カマド	口縁部横ナデ 底部外面外周部除き平行一定方向へら削り
8	坏	11.4	4.0		BE	良好	にぶい黄橙	100	カマド	口縁部横ナデ 内面一部煤付着 底部外面平行一定方向へら削り
9	坏	11.7	4.1		E	良好	にぶい黄橙	70	カマド	底部外周→、他平行一定方向へら削り 油煙付着
10	坏	10.8	4.8		BD	良好	灰黄褐	98	カマド	底部外面平行一定方向へら削り
11	小型甕	14.1	17.7	7.2	J	普通	にぶい橙	80	カマド	口縁部横ナデ 胴部外面↓、下端→へら削り



第77図 第189号住居跡

坏4点は、11の甕の中に上から7～10の順に重なった状態で出土した。

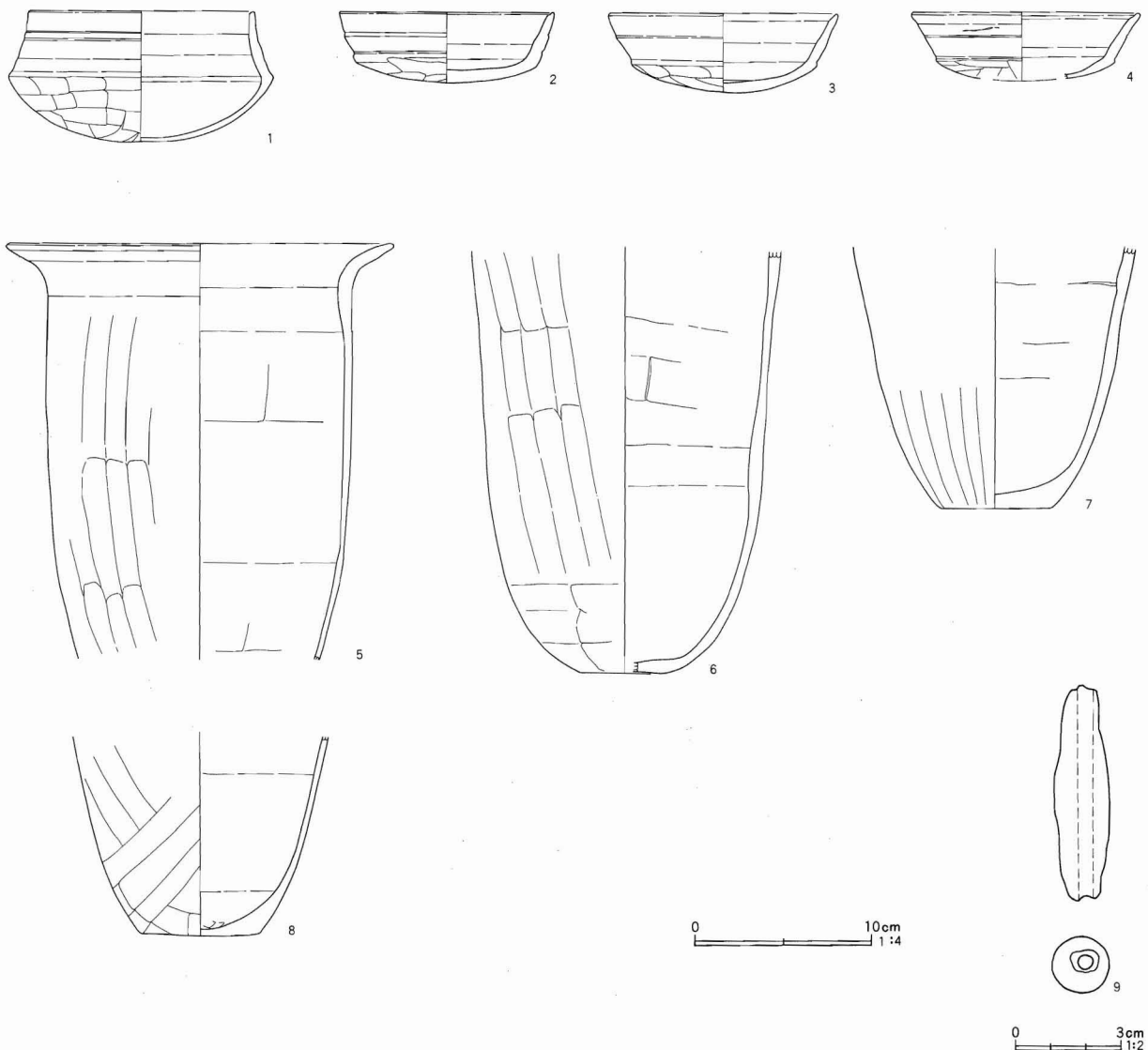
第189号住居跡（第77・78図）

J-19グリッドを中心に位置する。第401号住居跡に東壁の南半、第103号土坑に東壁の一部が切られ、第219号住居跡を切っている。平面は、南壁は確認できなかったが、軸長3.8m×4.5m以上の台形で、深さ8cmを測る。主軸方位は、N-109°-Wを指す。

カマドは、西壁に設けられている。カマド前面に軸長103cm×59cm、深さ10～16cmの楕円形の土坑があり、燃烧部は、205cm×51cm、床面から深さ10cmを測る。

貯蔵穴は、北西隅に検出された。平面は、径81cm×84cmの円形で、深さ59cmを測る。

遺物は、カマド・カマド前の土坑・貯蔵穴から主に出土し、土師器坏・甕の他に土錘が出土した。



第78図 第189号住居跡出土遺物

第189号住居跡出土遺物観察表（第78図）

番号	器 種	口 径	器 高	底 径	胎 土	焼 成	色 調	残 存	出土位置	備 考
1	坏	(12.1)	7.4		B D	普通	浅黄橙	55	貯蔵穴中位	
2	坏	12.0	4.0		B D E	良好	明赤褐	100	貯蔵穴上位	
3	坏	12.8	4.5		B J	普通	にぶい黄橙	85	床	
4	坏	(12.8)			E	普通	にぶい黄橙	20	貯蔵穴上位	口縁部外面一部に油煙付着
5	甕	(21.6)			E J	普通	にぶい黄橙	50	カマド	胴部外面↓へラ削り
6	甕			(4.8)	D F J	普通	にぶい黄橙	30	カマド	胴部外面↑・↓、底部寄り→へラ削り 底部木葉痕
7	甕			(6.1)	B J	良好	にぶい黄橙	60	カマド	胴部外面↓へラ削り
8	甕			6.7	B J	普通	灰黄褐	80	カマド	胴外面へラ削り 底部平行一方向へラ削り

第189号住居跡出土土錘観察表（第78図）

番号	長 さ	径	孔 径	重 さ	分 類	色 調	残 存	備 考
9	(5.96)	1.62	0.43	(12.13)	Ba IV	明赤褐	95	No13 床
10	(2.68)	(1.45)	(0.44)	(2.53)		橙		
11	(2.95)	(1.48)	(0.51)	(3.35)	Ba	橙		カマド

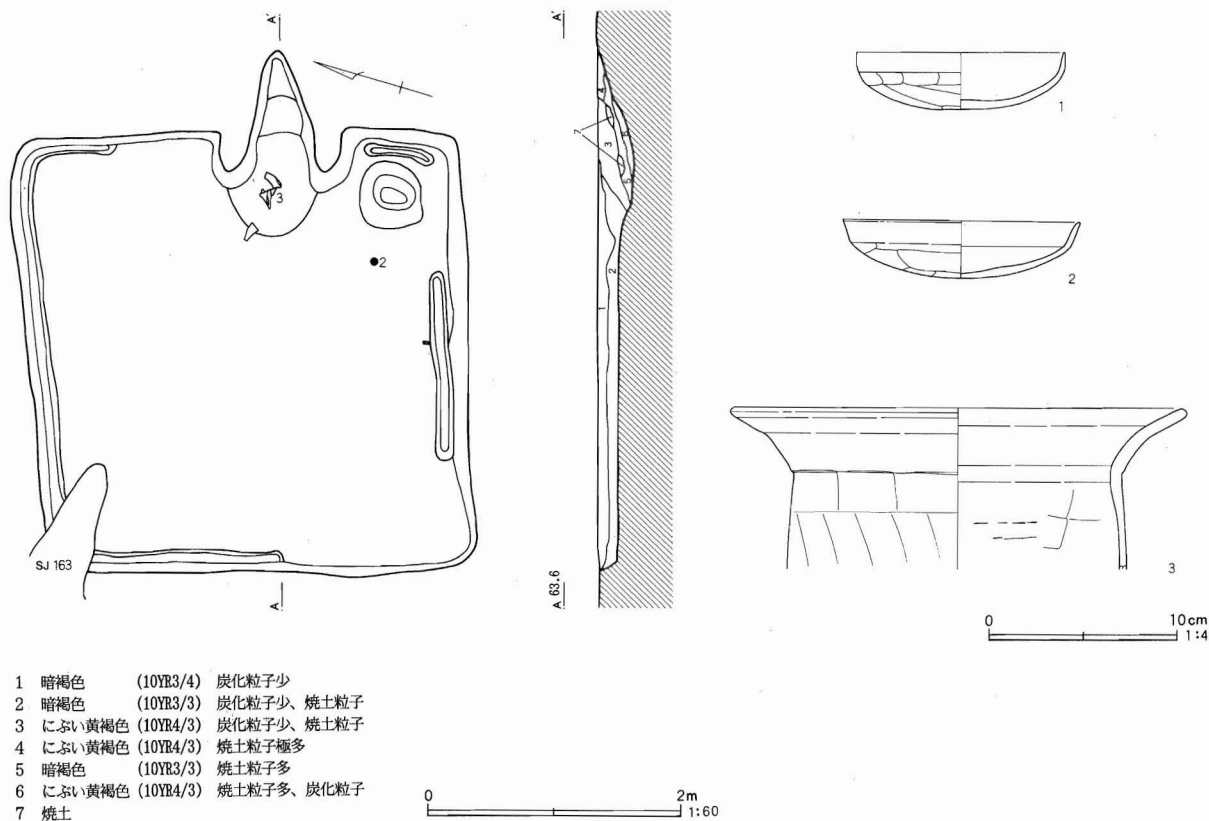
第190号住居跡（第79図）

J-16グリッドを中心に位置する。第163号住居跡のカマドに北西隅が切られ、第165号住居跡を切っている。平面は、軸長3.49m×3.50mの方形で、深さ18cmを測る。壁溝は、北壁を除き断続的に確認でき、幅13~18cm、深さ4~6cmを測る。ピット1

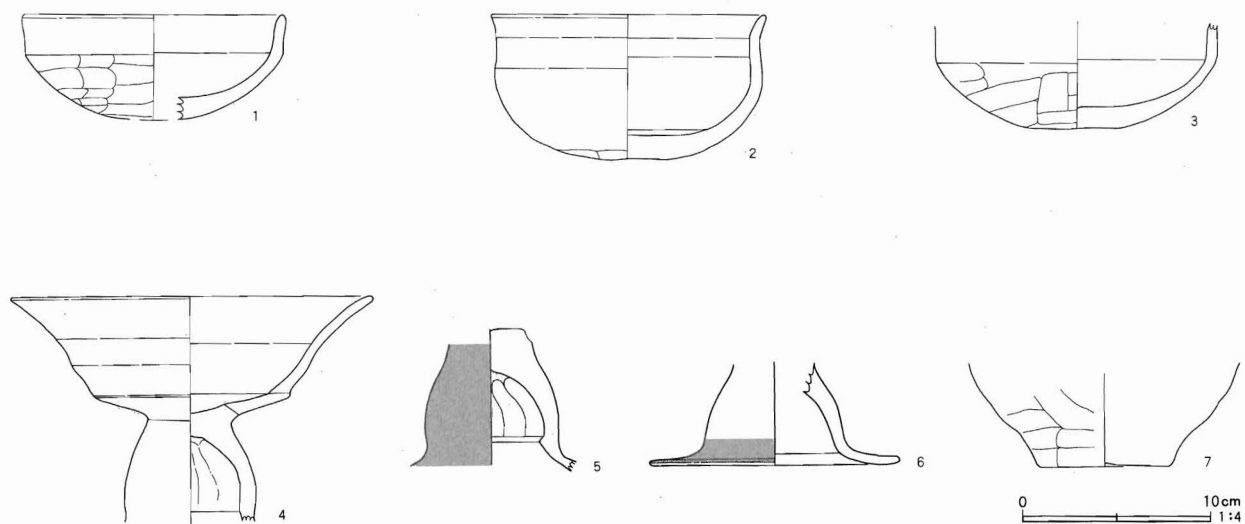
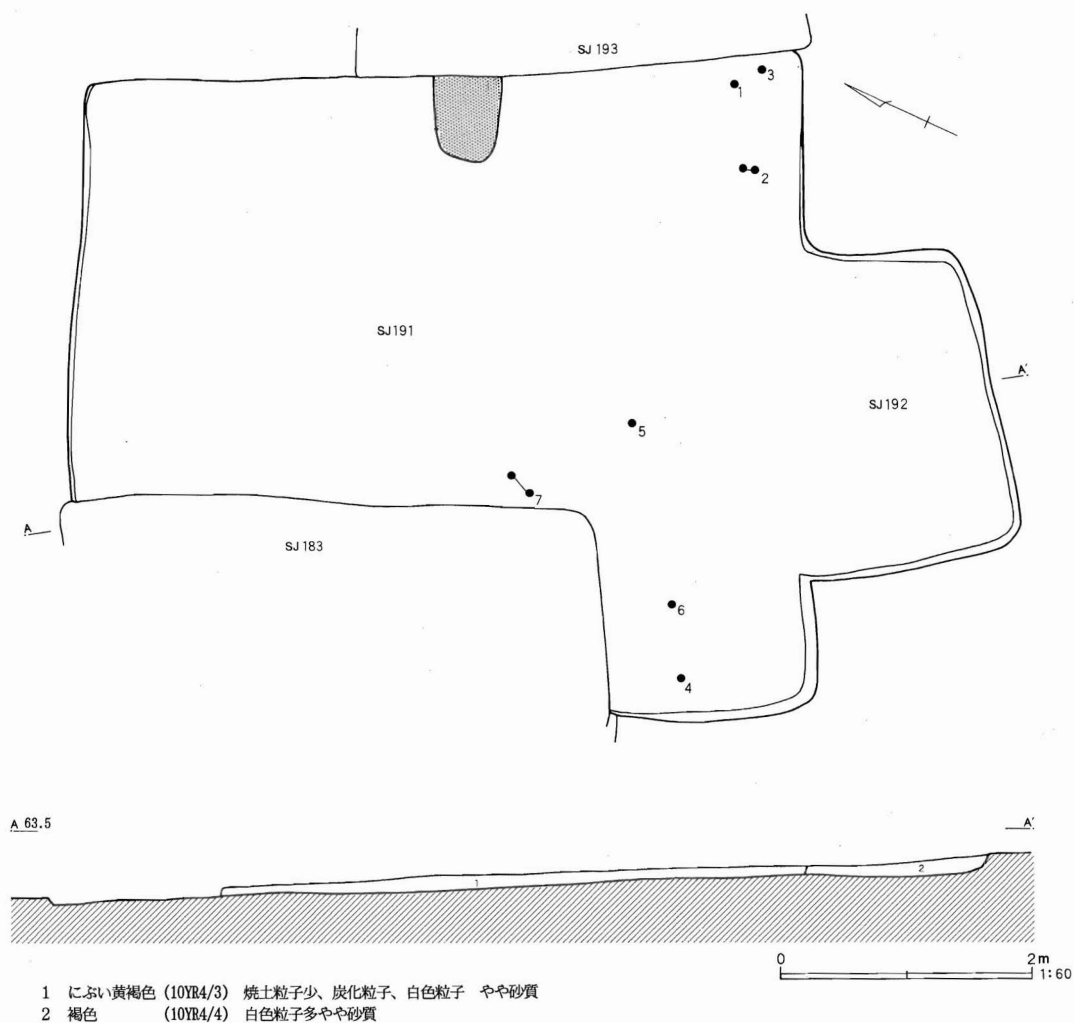
は、径48cm×53cm、深さ20cmを測る。主軸方位は、N-71°-Eを指す。

カマドは、東壁のやや南寄りに設けられている。燃焼部は、146cm×38cm、床面から深さ13cmを測る。

遺物は、土師器坏・甕の他に土錘が出土した。



第79図 第190号住居跡・出土遺物



第80図 第191・192号住居跡・出土遺物

第190号住居跡出土遺物観察表 (第79図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	11	3.1		J	普通	橙	40	覆土	口縁部横ナデ 体部外面へラ削り
2	坏	(12.5)	3.0		EJ	普通	にぶい橙	40	床	器壁摩耗
3	甕	(23.8)			DFL	普通	にぶい橙	45	カマド	胴部外面へラ削り

第190号住居跡出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
4	(3.42)	(1.61)	(0.44)	(4.04)	B	にぶい橙		B区

第191号住居跡 (第80図)

I-17グリッドを中心に位置する。第183号住居跡に北西部が切られ、第192号住居跡を切っており、第193号住居跡と東壁南半が重複しているが先後関係は不明である。平面は、軸長5.20m×5.72mの長方形で、深さ12cmを測る。主軸方位は、N-65°-Eを指す。

カマドは、不明瞭であるが北東壁に焼土が確認できた範囲があり、カマドが設けられていたと考えられる。焼土範囲は、67cm以上×53cmを測る。

遺物は、土師器坏・埴・高坏・甕が出土した。

第192号住居跡 (第80図)

I-17グリッドを中心に位置する。第191号住居跡に北半が切られている。平面は、軸長2.56m×

1.69m以上で、深さ10cmを測る。主軸方位は、N-53°-Eを指す。

カマド・貯蔵穴等の施設は、確認できなかった。

遺物は、出土しなかった。

第193号住居跡 (第81図)

I-18グリッドを中心に位置する。第186号住居跡に東壁が切られ、第191号住居跡と西壁が重複している。平面は、地形が北側へ傾斜しており、また東壁・西壁が不明であるが、軸長3.58m×5.83m以上のやや歪んだ長方形で、深さ13cmを測る。壁溝は、北壁の一部で確認され、幅19~24cm、深さ10~13cmを測る。主軸方位は、N-0°-Eを指す。

カマド・貯蔵穴等の施設は、確認されなかった。

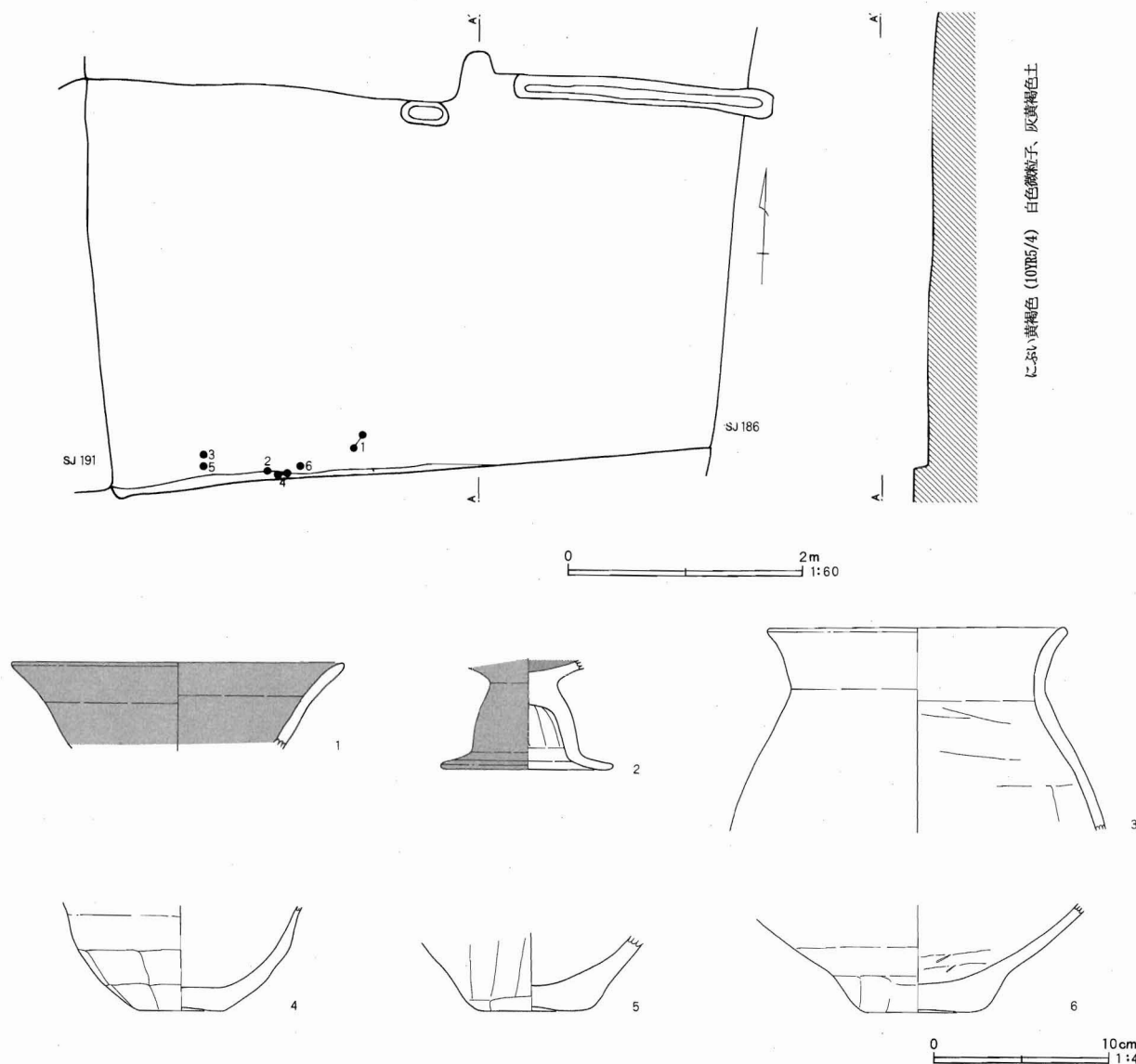
遺物は、土師器高坏・甕・壺が出土した。

第191号住居跡出土遺物観察表 (第80図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	(14.7)	(5.5)		BE	普通	橙	40	床	内外面摩耗 外面へラ削り
2	埴	(14.4)	7.7	4.0	BHJ	普通	橙	50	覆土	底部手持ちへラ削り
3	埴			(4.2)	BEJ	普通	橙	40	床	器壁摩耗 外面へラ削り
4	高坏	19.0			BE	普通	にぶい橙	80	床	器壁摩耗 脚部外面横ナデ 内面指頭ナデ 坏部内外面一部赤彩痕
5	高坏				BE	普通	にぶい橙	40	覆土	外面横ナデ 内面指頭ナデ 脚部内面・坏部内面赤彩
6	高坏			(13.1)	B	普通	にぶい褐	40	覆土	脚部外面横ナデ 脚部外面赤彩
7	甕			(7.0)	AJL	普通	にぶい橙	40	覆土	外面へラ削り 下端へラナデ

第193号住居跡出土遺物観察表 (第81図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	高坏	(18.8)			BE	普通	橙	40	覆土	口縁部横ナデ 内外面赤彩
2	高坏			9.5	BE	普通	橙	75	覆土	外面横ナデ 脚部内面指頭ナデ 外面赤彩
3	甕	(16.9)			BJ	普通	にぶい橙	25	床	口縁部横ナデ
4	甕			4.9	BE	普通	橙	25	覆土	体部外面へラ削り 底部外周へラ削り
5	甕			(5.7)	JL	普通	橙	40	覆土	外面↑・→へラ削り
6	壺			6.2	B	普通	明赤褐	65	覆土	外面横ナデ



第81図 第193号住居跡・出土遺物

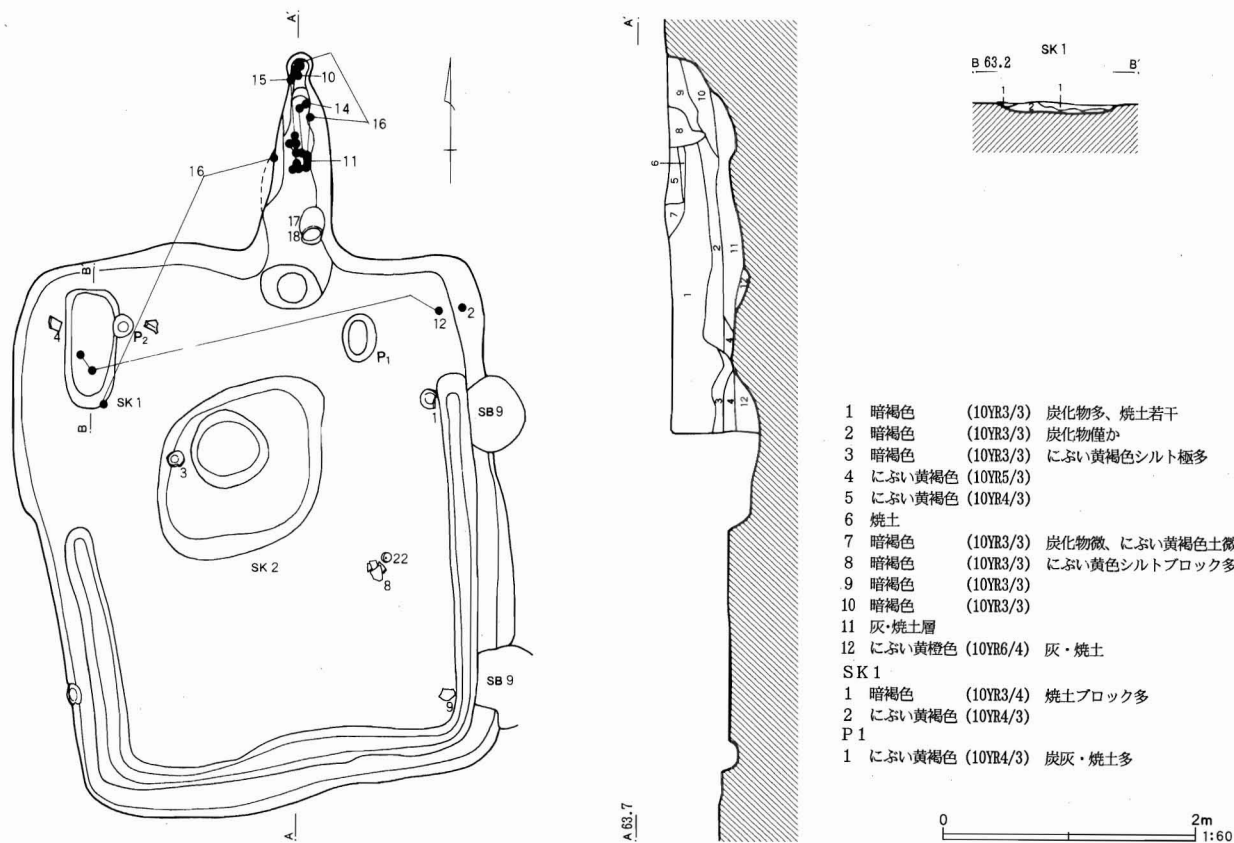
第194号住居跡（第82～84図）

K-18・19グリッドを中心に位置する。第9号掘立柱建物跡に東壁が切られ、第200・203・375号住居跡を切っている。平面は、軸長4.35m×3.76mの方形で、深さ48cmを測る。壁溝は、南壁と東・西両壁の一部に確認された。幅は、14～26cm、深さ4～12cmを測る。主軸方位は、N-2°-Wを指す。

カマドは、北壁でやや東寄りに設けられている。燃烧部は、201cm×60cm、床面から深さ7cmを測る。

貯蔵穴は、北西隅に検出された。平面は、93cm×40cmの楕円形で、深さ7cmを測る。

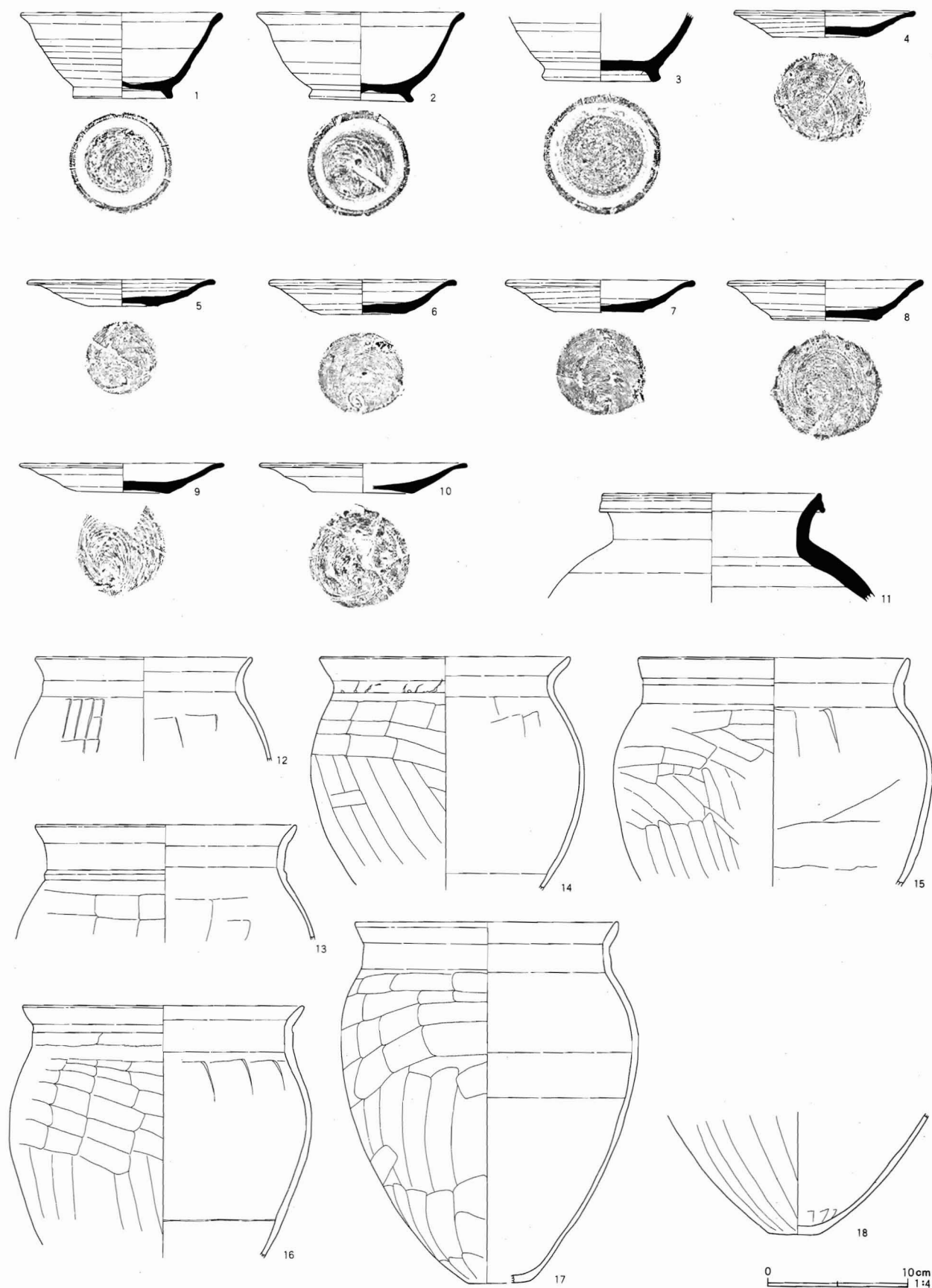
遺物は、須恵器高台付埴・皿・甕、土師器环・埴・高环・甕、土製紡錘車、棒状鉄製品の他に土錘が出土した。22の土製紡錘車は長径6.48～6.51cm、短径6.01cm、厚さ1.46～1.63cm、孔径0.84～0.87cmを測り、覆土中位より出土した。23の鉄製品は角柱状の鉄製品で、両端が細くなっている。長さ15.8cm、重さ23.86gを測り、覆土からの出土である。19～21の土師器は、住居跡覆土中の出土で、この住居跡に伴うものではなく、混入品である。



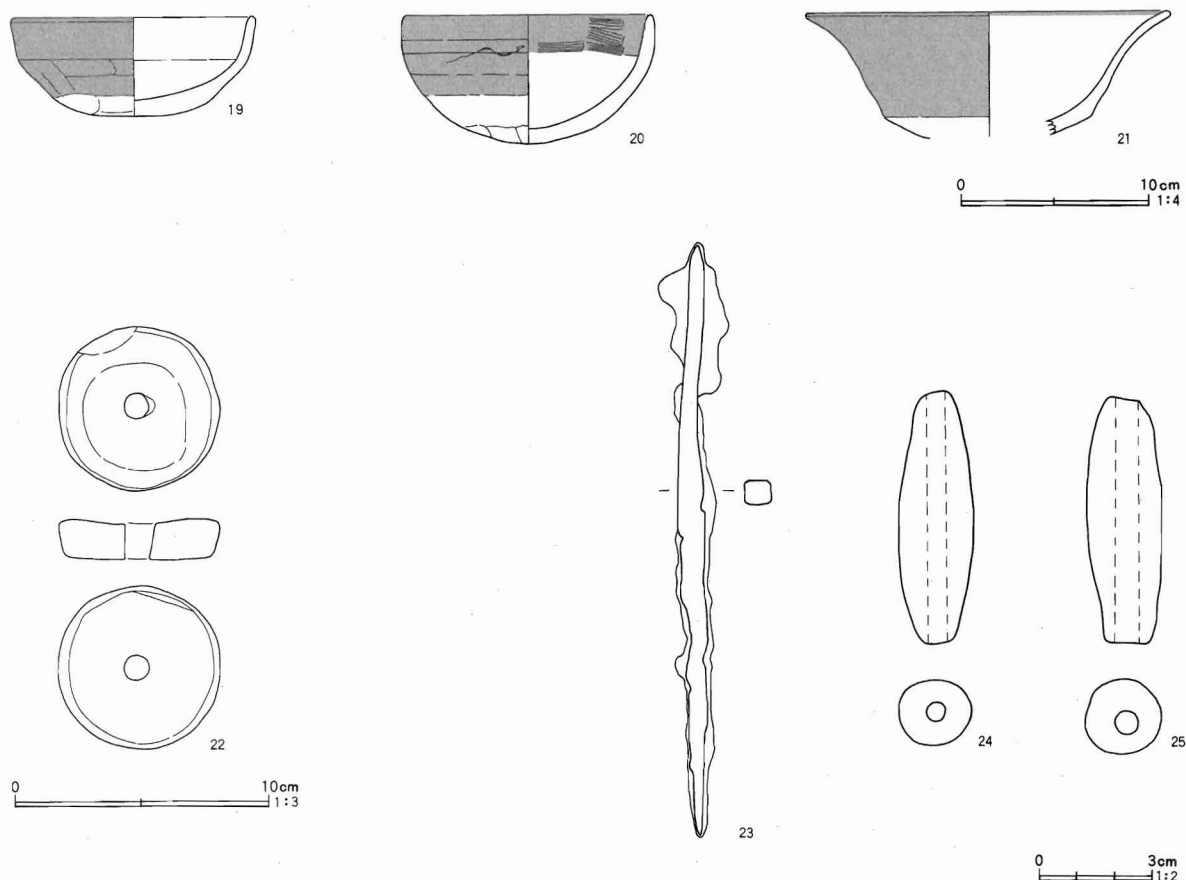
第82図 第194号住居跡

第194号住居跡出土遺物観察表 (第83・84図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	高台付埴	14.1	6.0	7.0	H J L	普通	灰	90	覆土下位	歪あり
2	高台付埴	14.5	5.2	7.3	H J	不良	灰	90	覆土下位	底部に凹線「へら記号」か
3	高台付埴			8.4	B E H K L	良好	灰	70	覆土下位	一部酸化焙焼成
4	皿	12.7	2.8	6.3	B J	良好	灰	90	SK 1	底部右回転糸切り 歪あり
5	皿	13.0	1.9	5.0	B H J	良好	灰	80	覆土	底部右回転糸切り 歪あり
6	皿	13.0	2.4	6.0	B J	良好	灰	85	覆土	底部右回転糸切り
7	皿	13.2	2.3	6.3	B H L	普通	灰	95	覆土	底部右回転糸切り
8	皿	13.6	2.9	7.2	B J	良好	灰	85	覆土下位	底部右回転へら削り
9	皿	(14.4)	2.2	6.6	F H J	普通	灰白	60	床	底部右回転糸切り
10	皿	14.5	2.1	7.2	J	普通	灰白	85	カマド	底部右回転糸切り
11	甕	(15.3)			B L	良好	灰	30	カマド	内外面クロナデ
12	甕	(15.2)			J	普通	橙	50	SK 1	外面→へら削り 内面横ナデ
13	甕	(18.3)			J	普通	にふい褐	60	カマド	外面→へら削り
14	甕	17.5			E J	普通	にふい橙	80	カマド	外面←・↓へら削り
15	甕	(19.0)			B J	普通	明赤褐	40	カマド	外面←・↓へら削り
16	甕	19.8			J	普通	にふい橙	40	カマド	口縁～頸部ナデ 胴部外面←・↓へら削り
17	甕	18.4	25.7	4.0	B J K	普通	橙	95	カマド	胴部外面→・↓へら削り
18	甕			3.5	E J	普通	橙	55	カマド	外面↓へら削り 底部一方向へら削り
19	坏	(12.6)	5.2	(2.4)	B E J L	良好	橙	30	覆土	体部外面へら削り 赤彩
20	埴	(13.0)	6.8		B E J	普通	にふい橙	45	覆土	体部外面横ナデ 底部へら削り 赤彩
21	高坏	(19.2)			B E J	普通	にふい橙	15	覆土	口唇・外面口縁部横ナデ 赤彩



第83図 第194号住居跡出土遺物(1)



第84図 第194号住居跡出土遺物(2)

第194号住居跡出土土錘観察表 (第84図)

番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
24	6.77	1.98	0.47	22.09	Ba III	明赤褐	100	A区
25	6.61	2.07	0.68	27.44	Ba III	明赤褐	100	
26	(2.55)	(1.60)	0.56	(4.33)	Ba	にぶい黄橙		
27	(3.26)	(1.66)	0.48	(7.95)	B	橙		A、C区
28	(3.64)	(1.59)	0.52	(6.63)	Ba	にぶい橙		
29	(3.09)	(1.62)	(0.39)	(4.09)	B	にぶい黄橙		
30	(4.35)	(1.71)	(0.39)	(5.51)	B	にぶい赤褐		カマド
31	(3.98)	(1.66)	0.54	(10.04)	B	にぶい黄橙		
32	(4.87)	1.15	0.59	(8.50)	B	褐灰		A区
33	(3.50)	(2.16)	(0.40)	(9.64)	B	にぶい黄橙		A区
34	(4.11)	(2.11)	0.53	(11.79)	Ba	明赤褐		

第195号住居跡 (第85図)

I-17グリッドを中心に位置する。第183号住居跡のカマドに南壁の多くが切られ、第196号住居跡を切っている。平面は、軸長2.55m×3.39mの方形で、深さ17cmを測る。主軸方位は、N-54°-Eを指す。

カマドは、北東壁の北西寄りに設けられている。

燃焼部は、83cm×47cmを測り、床面より若干上がっている。

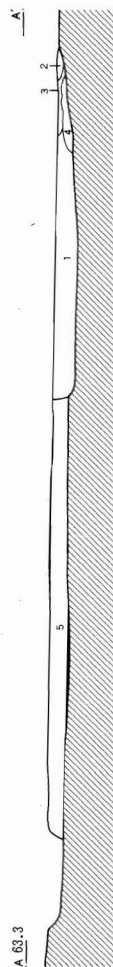
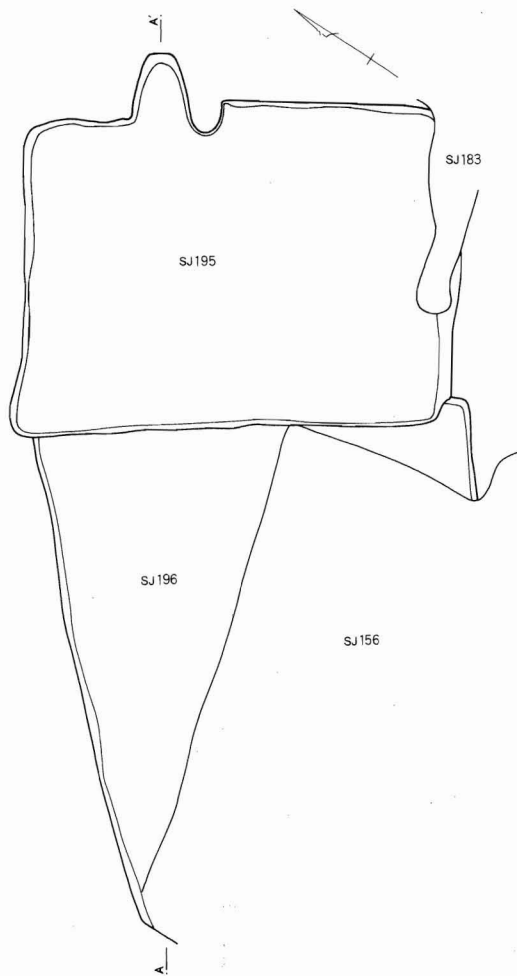
遺物は、土師器片が少量だけ出土した。

第196号住居跡 (第85図)

I-16グリッドを中心に位置する。第156号住居跡に南半以上、第195号住居跡に東壁が切られている。平面は、軸長4.00m以上×3.43mの長方形で、

深さ15cmを測る。北西壁を基準とすると、主軸方位は、N-47°-Eを指す。

カマド・貯蔵穴等の施設は、確認できなかった。
遺物は、土師器片が少量だけ出土した。



- 1 にふい黄褐色 (10YR4/3) 炭化粒子僅か、焼土粒子
- 2 にふい黄褐色 (10YR4/3) 焼土粒子少
- 3 にふい黄褐色 (10YR4/3) 焼土粒子やや多
- 4 暗褐色 (10YR3/3) 炭化粒子僅か
- 5 褐色 (10YR4/4) 炭化粒子僅か 砂質

0 2m 1:60

第85図 第195・196号住居跡

第197号住居跡 (第86図)

I-16グリッドに位置する。第154号住居跡に北半が切られ、第202号住居跡を切っている。平面は北壁が他の住居跡に切られているが、軸長4.00m×2.58m以上で、深さ5cmを測る。主軸方位は、N-73°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は、54cm×40cm、床面と同じ高さである。

南東隅にあるピットは、径51cm×53cmの円形で、深さ34cmを測る。P1は、深さ38cmを測る。

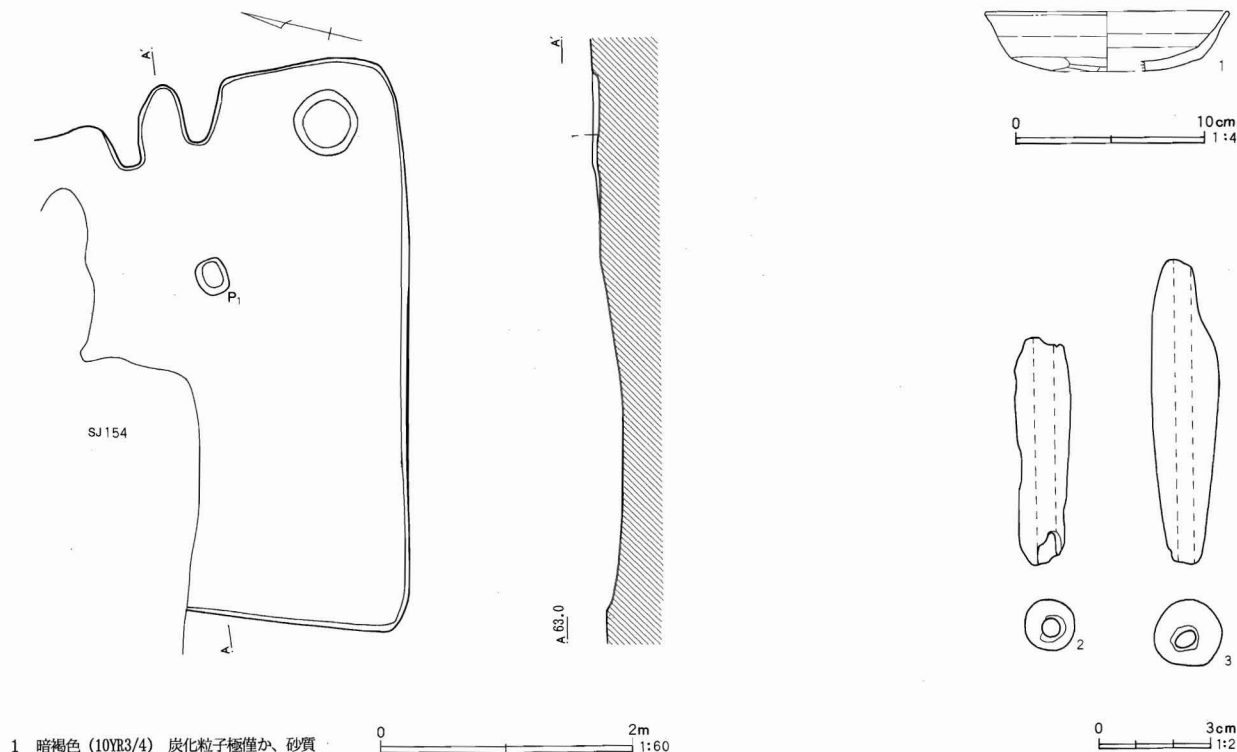
遺物は、土師器環と土錘が出土した。

第197号住居跡出土遺物観察表 (第86図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	環	(12.7)	(3.1)		BDJ	普通	橙	20	覆土	

第197号住居跡出土土錘観察表 (第86図)

番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
2	5.93	1.48	0.47	(10.42)	Ba III	赤褐	95	No. 1
3	8.02	1.78	0.41	(18.15)	Ba II	赤褐	90	No. 3



第86図 第197号住居跡・出土遺物

第198号住居跡（第87図）

K-19グリッドに位置する。第100号土坑に北西隅を切られ、第199・200号住居跡・第104号土坑・第19号性格不明遺構を切っている。平面は、軸長3.50m×2.68mの長方形で、深さ33cmを測る。壁溝は、南壁の一部で確認され、幅18~20cm、深さ5~6cmを測る。主軸方位は、N-76°-Eを指す。

カマドは、東壁の北寄りに設けられている。燃焼部は、156cm×57cm、床面から深さ14cmを測る。煙道部は50cmほど確認できた。

遺物は、須恵器蓋と土鍾が出土した。

第199号住居跡（第87図）

J-19グリッドに位置する。第198号住居跡に切られ、カマドのみの確認である。主軸方位は、N-16°-Wを指す。

カマドは、北壁に設けられていたと推定され、燃焼部は、61cm以上×90cmを測る。

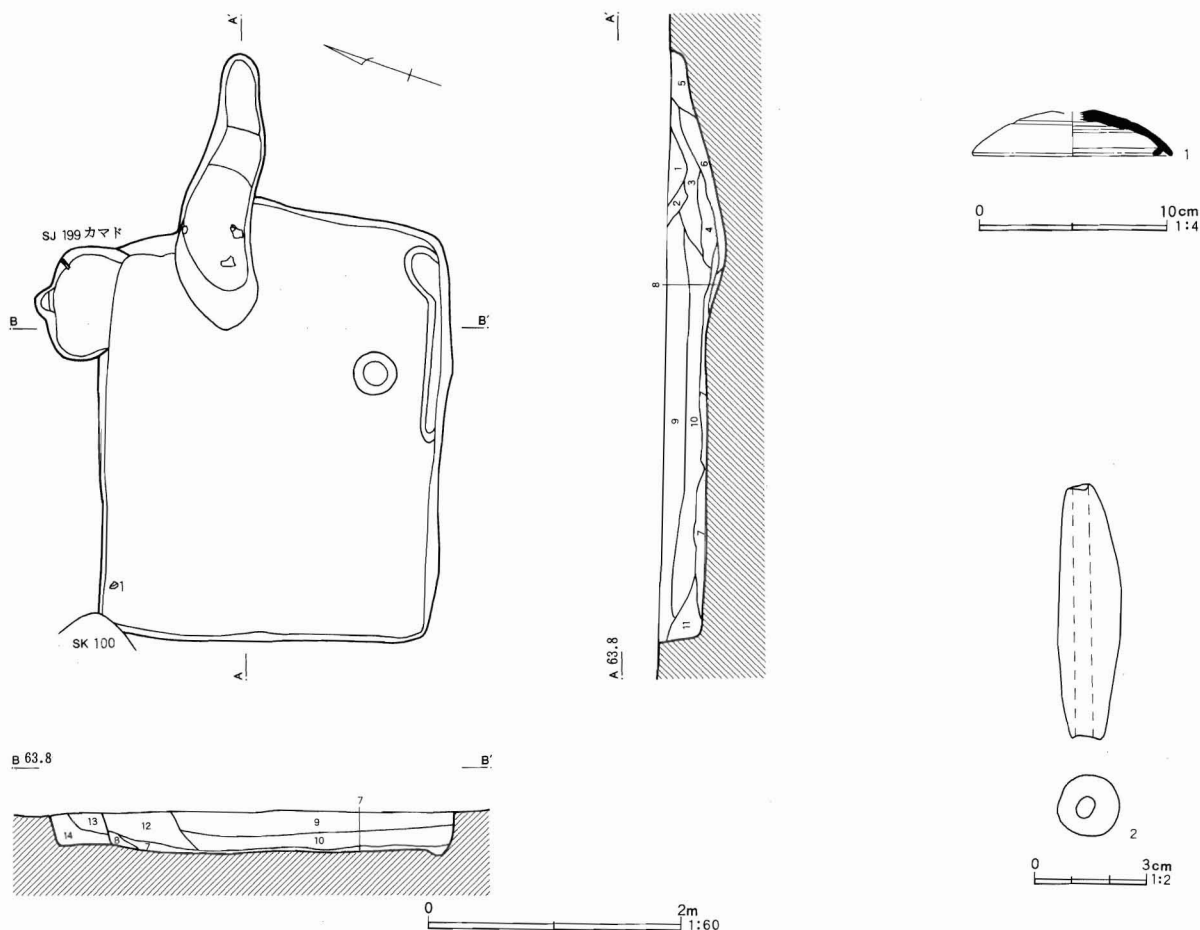
遺物は、土師器片が僅かに出土した。

第198号住居跡出土遺物観察表（第87図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	蓋	(10.4)			B	良好	灰	20	覆土下位	つまみ欠損 外面天井部右回転ヘラ削り

第198号住居跡出土土鍾観察表（第87図）

番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
2	6.75	1.71	0.47	16.93	Ba III	灰褐	100	B区



- SJ 198
- | | |
|---------------------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 (10YR3/4) | 9 にふい黄褐色 (10YR4/3) 炭化物、焼土僅か |
| 2 焼土 | 10 にふい黄褐色 (10YR4/3) にふい黄褐色シルト |
| 3 褐色 (10YR4/4) 焼土若干 | 11 褐色 (10YR4/4) 炭化物 |
| 4 褐色 (10YR4/6) 焼土多 | 12 にふい黄褐色 (10YR5/3) 粘土質 |
| 5 にふい黄褐色 (10YR4/3) | |
| 6 暗褐色 (10YR3/4) | SJ 199 カマド |
| 7 灰層 | 13 にふい黄褐色 (10YR4/3) 粘土質 |
| 8 褐色 (10YR4/4) | 14 にふい黄褐色 (10YR4/3) 焼土 |

第87図 第198・199号住居跡・出土遺物

第200号住居跡（第88～90図）

K-18・19グリッドに位置する。第194号住居跡に南西部、第203号住居跡に北壁の西部、第383号住居跡に南壁の東部、第9号掘立柱建物跡・第102号土坑に住居跡内が切られている。平面は、軸長6.80m×4.85mの長方形で、深さ44cmを測る。壁溝は、南壁と西壁で確認でき、幅13～18cm、深さ2～6cmを測る。主軸方位は、N-60°-Eを指す。

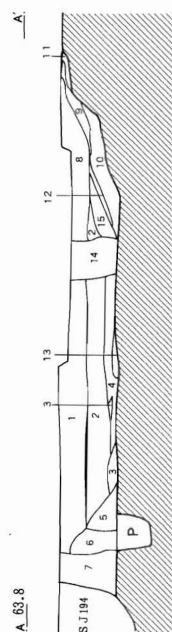
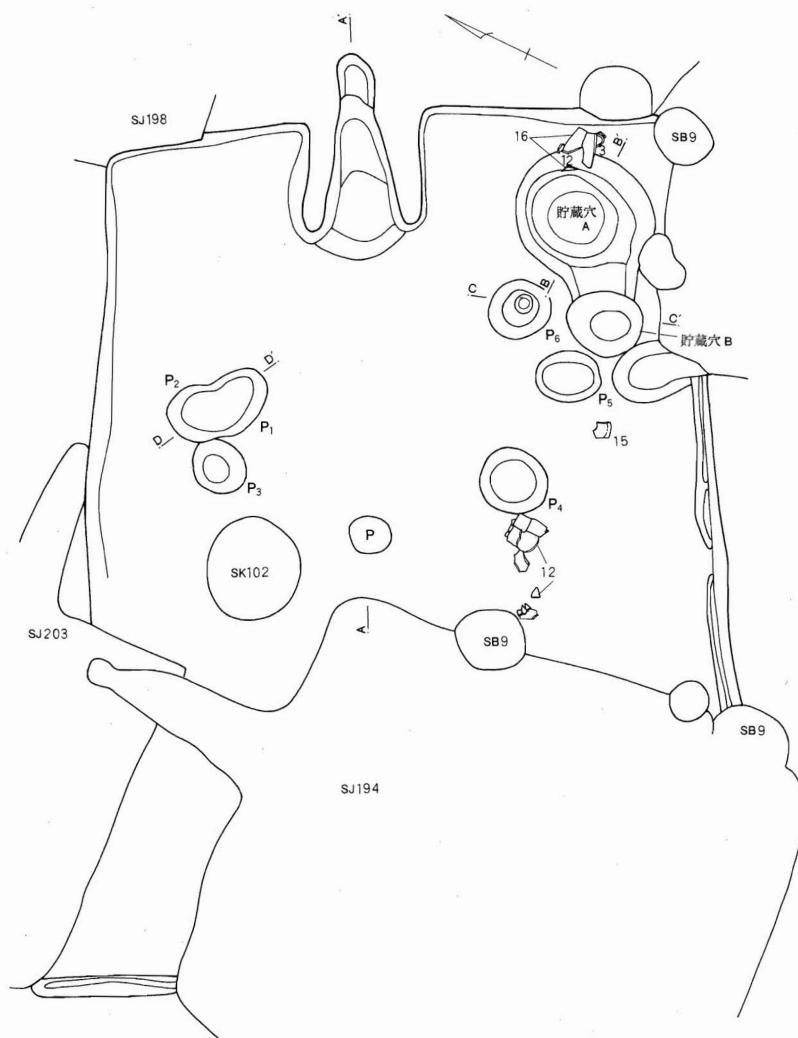
柱穴は、1本の主柱穴が確認された。P 6は、径46cm×51cmのほぼ円形で、深さ36cmを測り、柱痕が

確認できた。

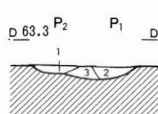
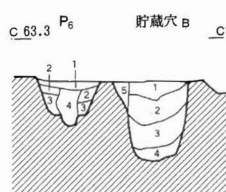
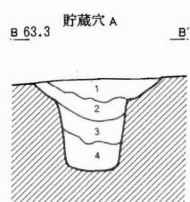
カマドは、東壁のやや北寄りに設けられている。燃烧部は、131cm×64cm、床面から深さ4cmを測る。煙道部は32cm確認できた。

貯蔵穴は、南東隅に2基検出された。Aの平面は、径110cm×100cmのほぼ円形で、深さ73cmを測る。BはAの西に隣接しており、径51cm×61cmのほぼ円形で、深さ63cmを測る。

遺物は、カマド内とその周囲に集中し、土師器・高坏・小型甕・甕の他に土鍾が出土した。



- | | | |
|-----------|-----------|--------------|
| 1 褐色 | (10YR4/4) | 白色微粒子・黄褐色シルト |
| 2 にふい黄褐色 | (10YR5/4) | 灰色シルト |
| 3 黒褐色 | (10YR2/3) | |
| 4 にふい黄褐色 | (10YR5/3) | |
| 5 褐色 | (10YR4/4) | 炭化物多 |
| 6 暗褐色 | (10YR3/4) | |
| 7 褐色 | (10YR4/4) | 炭化物粒子僅か |
| 8 にふい黄褐色 | (10YR4/3) | |
| 9 にふい黄褐色 | (10YR4/3) | にふい黄橙シルト |
| 10 にふい黄褐色 | (10YR4/3) | 焼土、灰 |
| 11 にふい黄褐色 | (10YR6/4) | |
| 12 焼土 | | |
| 13 灰白色 | (10YR7/1) | |
| 14 褐色 | (10YR4/4) | 炭化物 |
| 15 暗褐色 | (10YR3/3) | 焼土 |



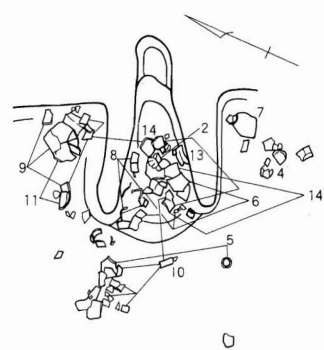
- P 1・2
- | | | |
|----------|-----------|----------|
| 1 褐色 | (10YR4/4) | 焼土、炭化物僅か |
| 2 褐色 | (10YR4/4) | |
| 3 にふい黄褐色 | (10YR5/3) | |

貯蔵穴 A・B

- | | | |
|----------|-----------|------------------|
| 1 褐色 | (10YR4/4) | 白色微粒子・黄橙色シルト |
| 2 にふい黄褐色 | (10YR5/4) | 灰色シルト |
| 3 にふい黄褐色 | (10YR4/3) | 白色ブロック、締まり弱い |
| 4 褐色 | (10YR4/4) | 白色粘質地山ブロック 締まり弱い |
| 5 褐色 | (10YR4/6) | |

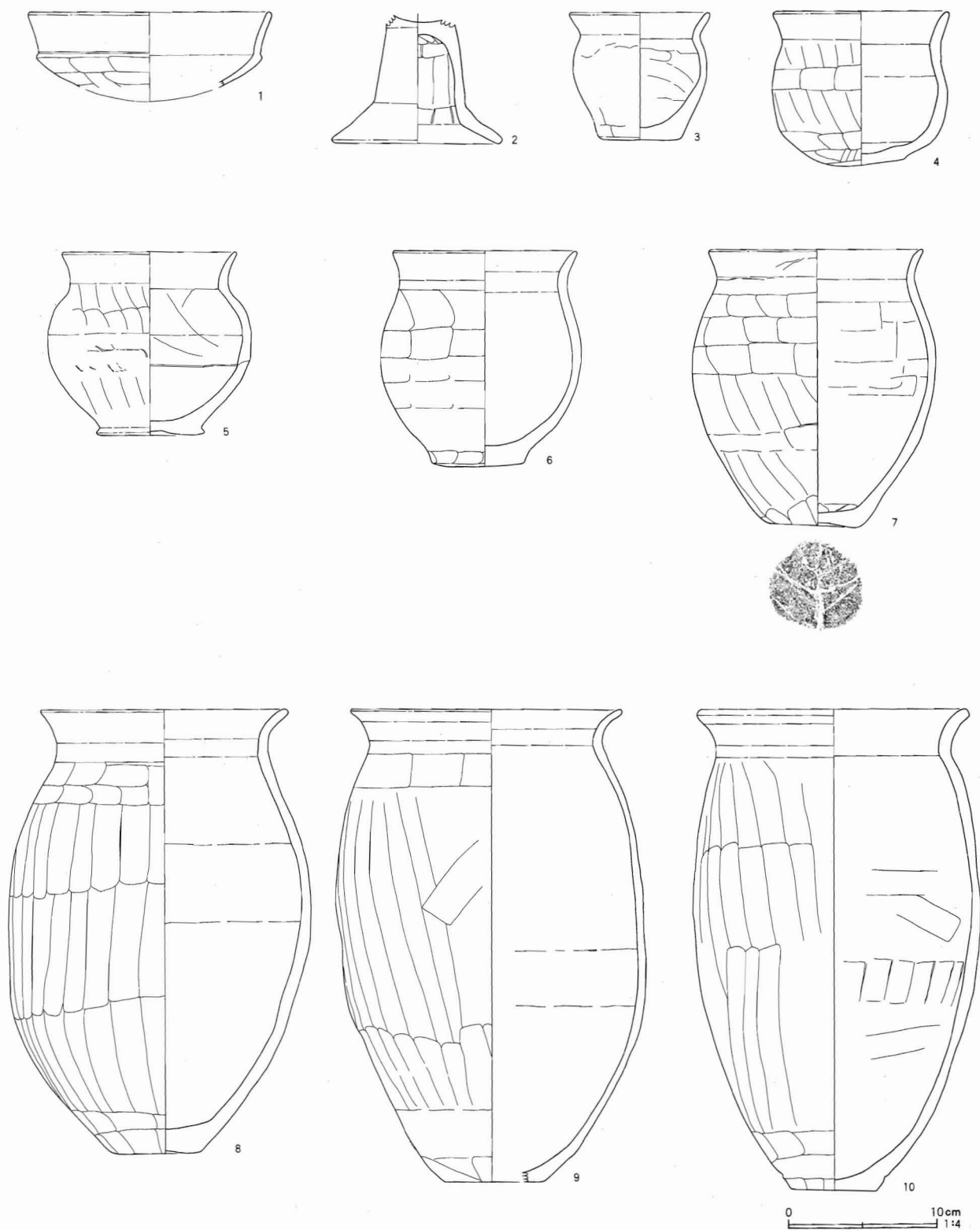
P 6

- | | | |
|----------|-----------|---------|
| 1 褐色 | (10YR4/6) | 地山ブロック |
| 2 にふい黄褐色 | (10YR4/3) | 黒色土 |
| 3 褐色 | (10YR4/6) | やや締まり劣る |
| 4 にふい黄褐色 | (10YR4/3) | 締まり無し |

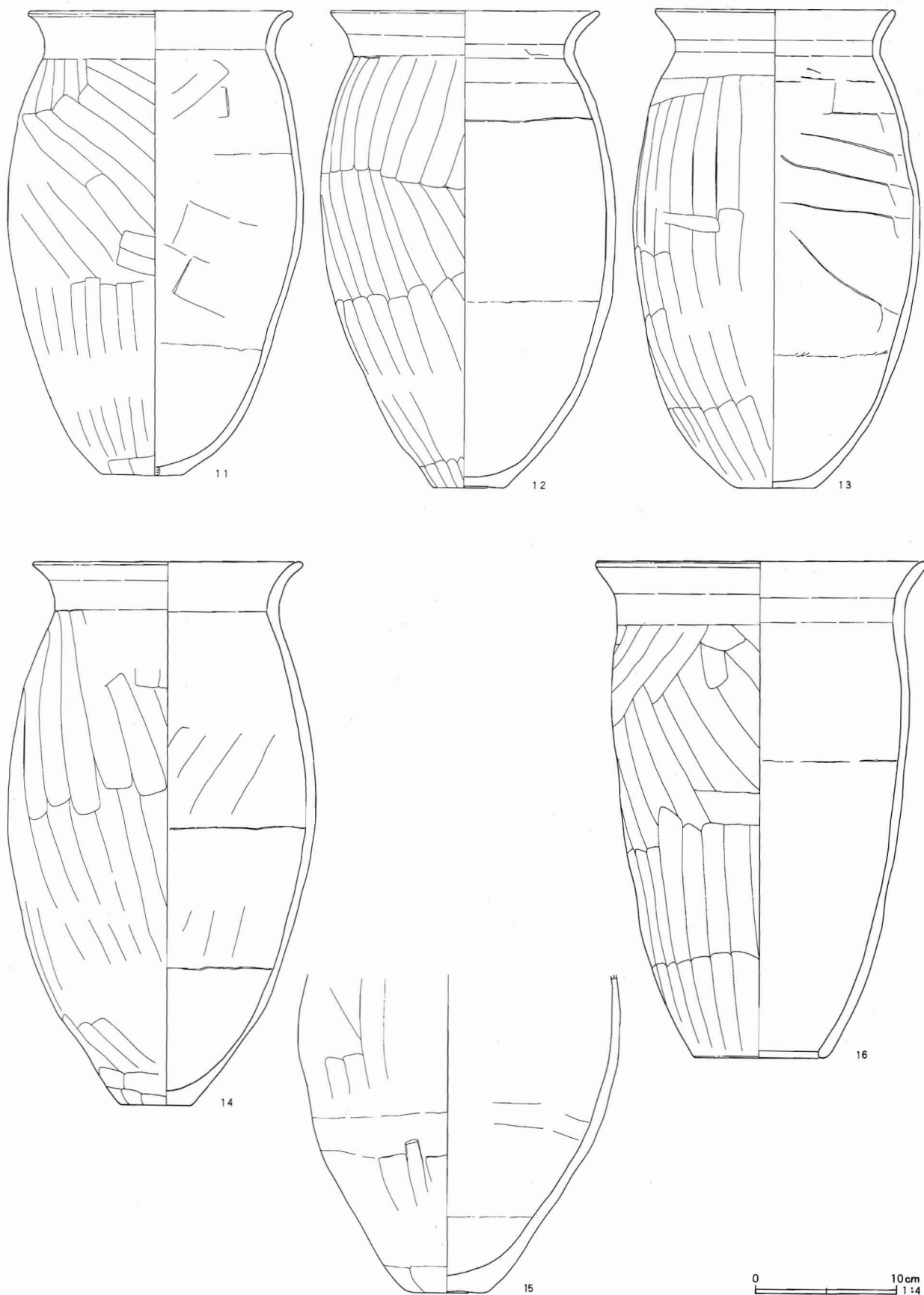


0 2m 1:60

第88図 第200号住居跡



第89図 第200号住居跡出土遺物(Ⅰ)



第90図 第200号住居跡出土遺物(2)

第200号住居跡出土遺物観察表 (第89・90図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	環	(16.1)			B E	普通	赤褐	20	覆土	底部外面→へら削り
2	高環			10.9	B J		橙	100	カマド13・14下	外面・裾部内面横ナデ 脚部内面へら削り
3	小型甕	(9.3)			B J	普通	にぶい橙	40	床	外面摩耗
4	小型甕	11.5	10.3	5.3	H J L	普通	橙	70	床	外面↓・→へら削り
5	小型甕	(10.5)	12.3	7.2	B	普通	橙	55	覆土	器壁摩耗 外面↓へら削り
6	小型甕	(12.1)	14.5	6.2	B J	不良	橙	60	カマド	器壁摩耗 外面←へら削り
7	甕	14.2	18.6	6.2	J	普通	橙	90	覆土下位	口縁部横ナデ 胴部外面→・↓へら削り 横ナデ 底部木葉痕
8	甕	16.4	29.9	6.0	B J L	良好	にぶい黄橙	85	カマド	外面←・↑へら削り
9	甕	17.9	31.9	(6.6)	B E J L	普通	にぶい黄橙	70	覆土	外面←・↑・↓へら削り
10	甕	17.9	32.5	(5.7)	E F J	普通	にぶい橙	60	カマド・床	外面↓・←へら削り
11	甕	(18.3)	(32.8)	(5.8)	E J L	普通	にぶい橙	70	覆土	外面頸部横ナデ 胴部↓へら削り
12	甕	18.8	33.7	5.0	B J	普通	にぶい黄橙	80	床・貯蔵穴	外面↑・下位↓へら削り
13	甕	16.7	33.8	5.5	E H J L	普通	橙	75	カマド	外面↓へら削り 内面横ナデ
14	甕	18.8	38.7	5.0	B J	普通	にぶい黄橙	85	カマド	外面↑・下端↓・→へら削り
15	甕			5.7	J L	普通	にぶい橙	70	床	器壁摩耗 へらナデ
16	甕	(23.1)	35.3	8.9	B F	普通	にぶい橙	70	床	口縁～頸部横ナデ 外面↑、下半↓へら削り

第200号住居跡出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
17	(1.82)	(1.64)	(0.35)	(2.48)		明赤褐		
18	(3.43)	(1.40)	0.34	(4.62)	Ba	にぶい橙		
19	(3.64)	1.40	0.45	(5.46)	Ba	褐灰		A区
20	(3.66)	(1.42)	0.50	(6.60)	Ba	褐灰		A区
21	(4.91)	1.60	0.36	(10.86)	Ba	橙		

第201号住居跡 (第91図)

J-17グリッドに位置する。第184号住居跡に南西隅を除いて切られ、第207・208号住居跡を切っている。平面は、軸長3.20m×3.12mの方形で、深さ6cmを測る。主軸方位は、N-164°-Wを指す。

柱穴は3本が検出できたが、P1・2は深さ16cmほどで、P3のみ径47cm×51cmの円形で、深さ55cmを測る。

カマドは、南壁の東端に設けられており、住居跡の主軸ともずれている。燃烧部は、132cm×46cm、床面から深さ6cmを測る。

遺物は、土師器環が出土した。

第202号住居跡 (第92図)

I-16・17グリッドに位置する。第197号住居跡に西半部が切られ、北側は地形が傾斜し確認できな

かった。平面は、南壁1.99m以上×東壁1.73m以上で、深さ6cmを測る。南壁を基準とした主軸方位は、N-77°-Eを指す。

カマド・貯蔵穴などは、確認できなかった。

遺物は、土師器片が数点出土しただけであった。

第203号住居跡 (第93図)

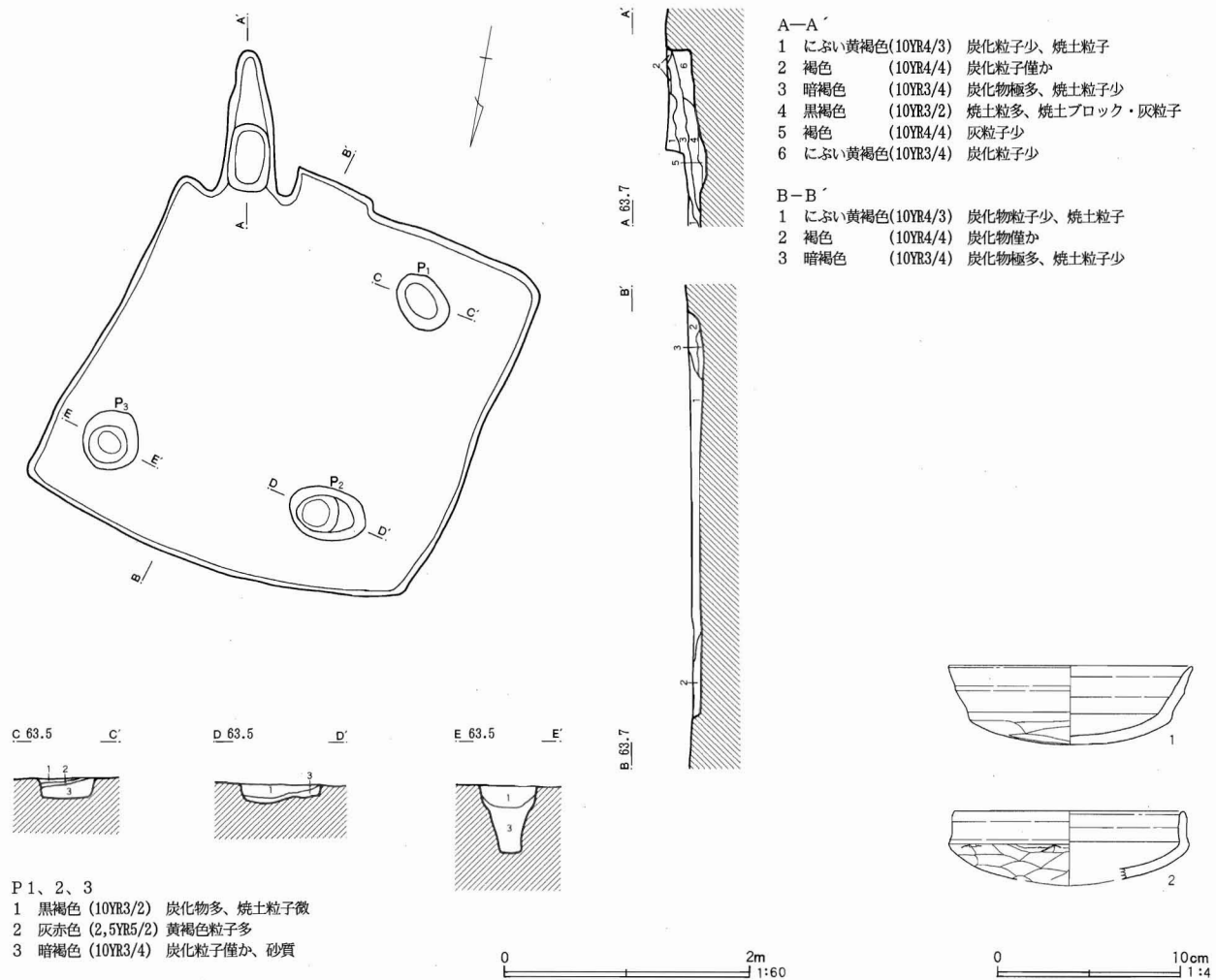
K-18グリッドを中心に位置する。第194号住居跡のカマドに南壁の一部が切られ、第204号住居跡を切っている。平面は、軸長3.08m×3.05mの方形で、深さ37cmを測る。主軸方位は、N-84°-Eを指す。

カマドは、東壁のやや南寄りに設けられている。燃烧部は、151cm×45cm、床面から深さ5cmを測る。

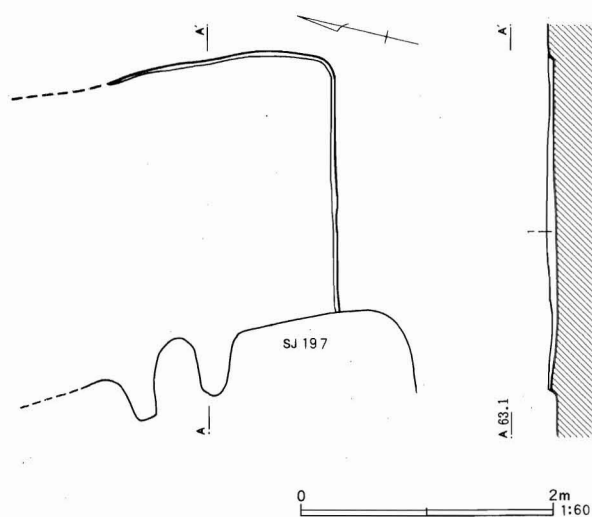
遺物は、土錘の他に土師器片・甕の把手片が出土した。

第201号住居跡出土遺物観察表 (第91図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	環	(13.2)	4.3		B E J	普通	にぶい橙	45	P 3	
2	環	(12.5)			B	良好	橙	25	P 3	口縁部横ナデ 体部・口縁部接合痕

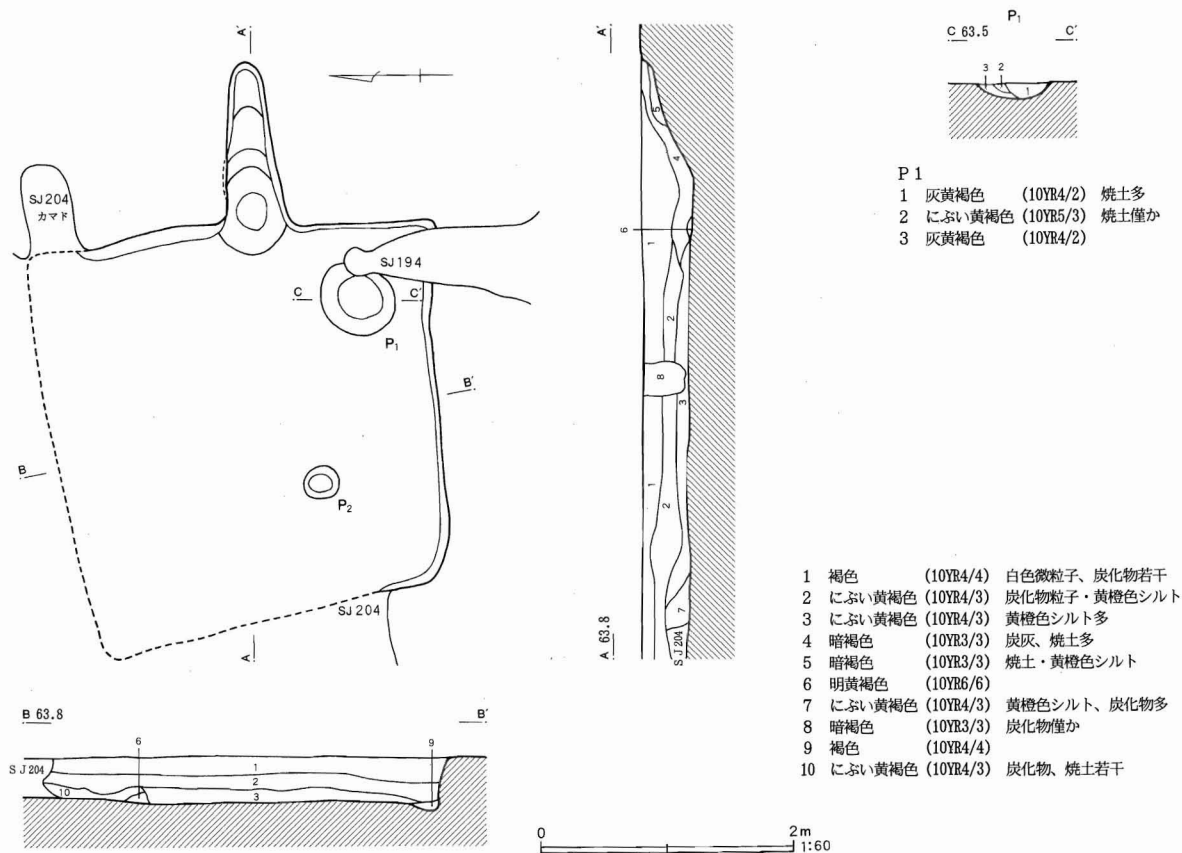


第91図 第201号住居跡・出土遺物



1 暗褐色 (10YR3/4) 炭化粒子少、砂質

第92図 第202号住居跡



第93図 第203号住居跡

第203号住居跡出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
1	3.35	1.45	0.47	6.15	Ba	黒褐		B区
2	4.90	1.75	0.50	13.72	Ba	橙		B区

第204号住居跡 (第94図)

K-18グリッドを中心に位置する。第203号住居跡に東半部が切られている。平面は、軸長5.08m×2.69mの長方形で、深さ33cmを測る。主軸方位は、N-74°-Eを指す。

カマドは、東壁の北寄りに設けられている。燃焼部は、第203号住居跡に切られているため69cm以

上×39cm、床面と同じ高さである。

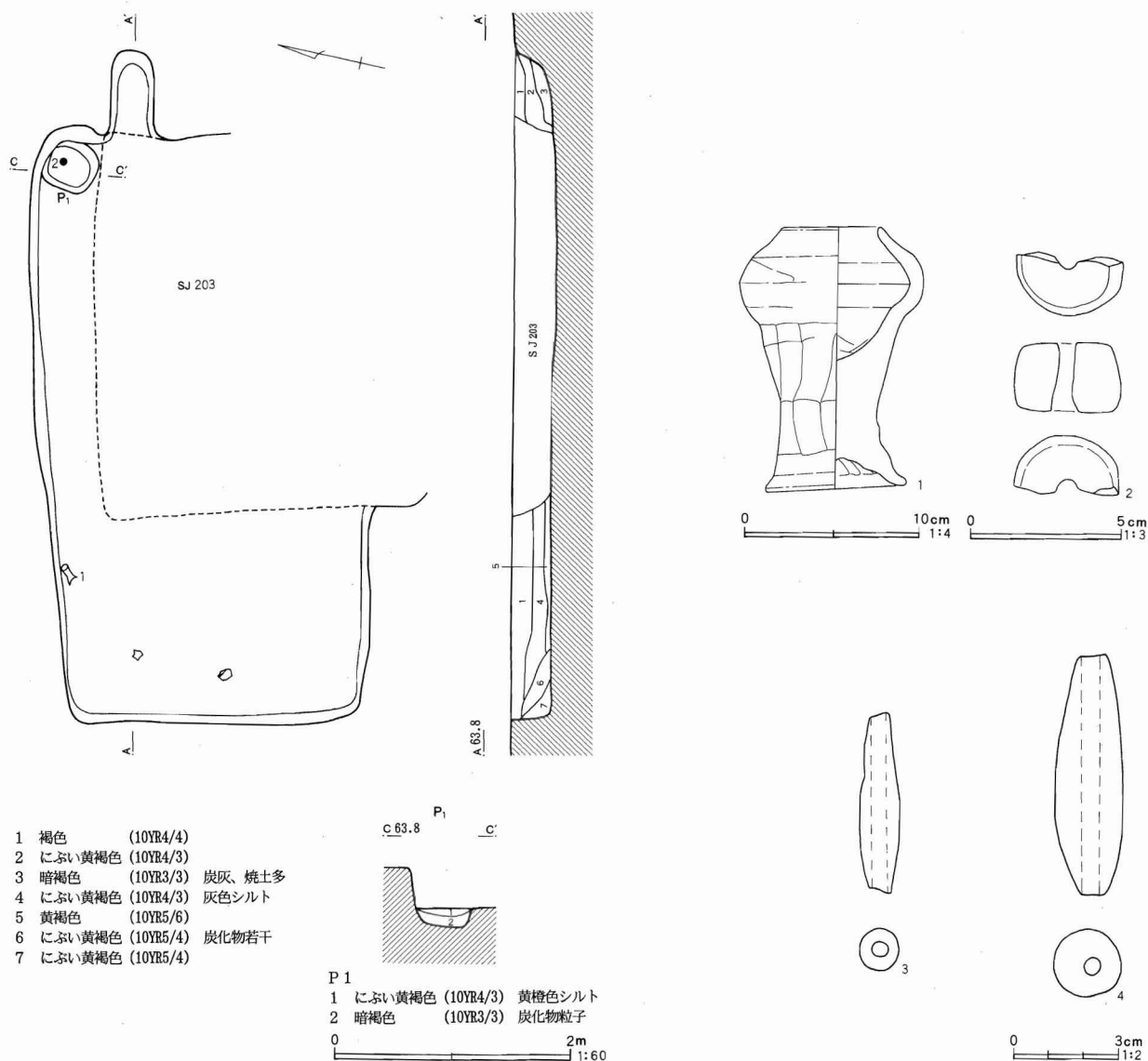
遺物は、土師器台付埴、土製紡錘車の他に土錘が出土した。2の土製紡錘車は、P1の覆土下位から出土し、残存率が45%程度であるが、現存値は長径4.10cm、短径3.77cm、高さ2.95cm、孔径0.81cmで、重さ39.07gを量る。

第204号住居跡出土遺物観察表 (第94図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	台付埴	(5.6)	14.7	7.7	J	普通	にぶい橙	80	床	口縁部横ナデ 外面←、脚部↓へう割り

第204号住居跡出土土錘観察表 (第194図)

番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
3	5.24	1.22	0.44	4.82	Ba V	浅黄橙	100	A区
4	7.02	2.01	0.49	26.15	Ba III	橙	100	C区



第94図 第204号住居跡・出土遺物

第205号住居跡 (第95・96図)

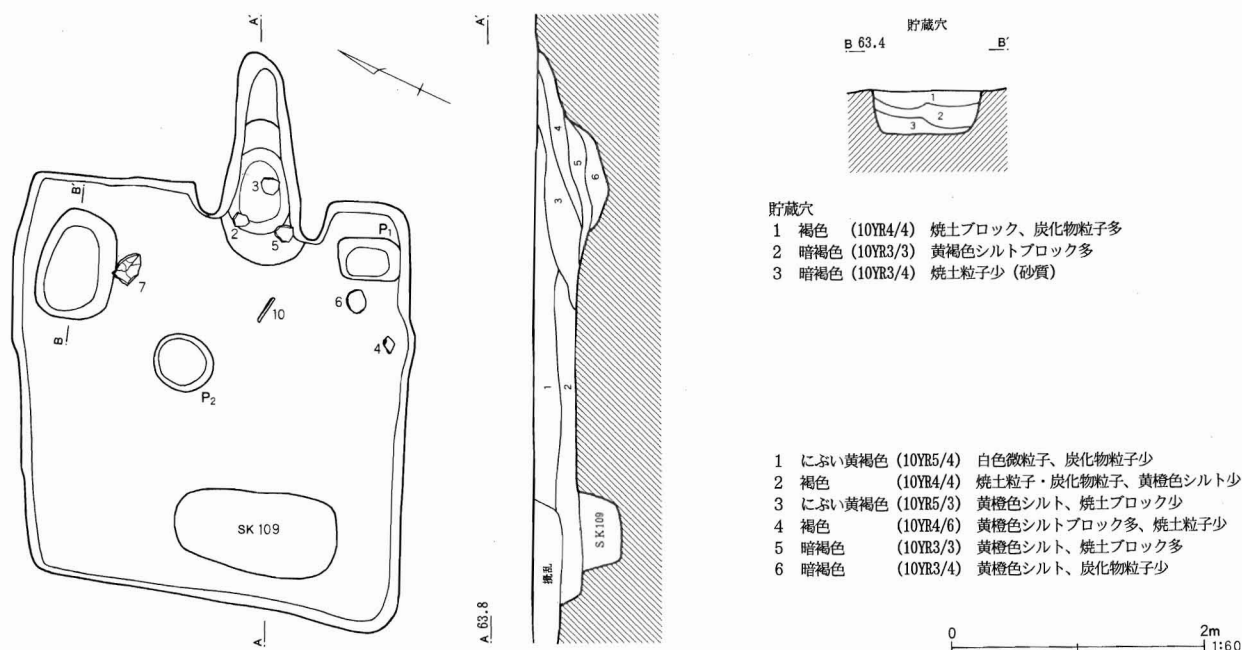
J-18グリッドを中心に位置する。第206・219号住居跡・第109号土坑を切っている。平面は、軸長3.27m×3.08mのやや歪んだ方形で、深さ34cmを測る。主軸方位は、N-67°-Eを指す。

カマドは、東壁の南よりに設けられている。燃烧部は、168cm×60cm、床面から深さ27cmを測る。

貯蔵穴は、北隅に検出された。平面は88cm×61cmの楕円形で、深さ33cmを測る。

遺物は、須恵器坏・高台付埴・皿・甕、土師器甕、刀子、鉄鎌・鍬子、砥石の他に土錘が出土した。10

の刀子は茎が一部欠損しており、20.82gを量り、床面からの出土である。11は雁又式鉄鎌で茎が一部欠損しており17.47gを量る。12は鎌身の下端が欠損しているが三角式鉄鎌とみられ、12.25gを量る。13は角柱状のもので15.55gを量る。14は鍬子で先端が欠損しているが、68.16gを量る。刀子以外の鉄製品は覆土からの出土である。27は凝灰岩製の砥石で、両端が欠けている。4面が使用され、相対する2面は斜めの沈線状擦痕がみられる。覆土からの出土である。



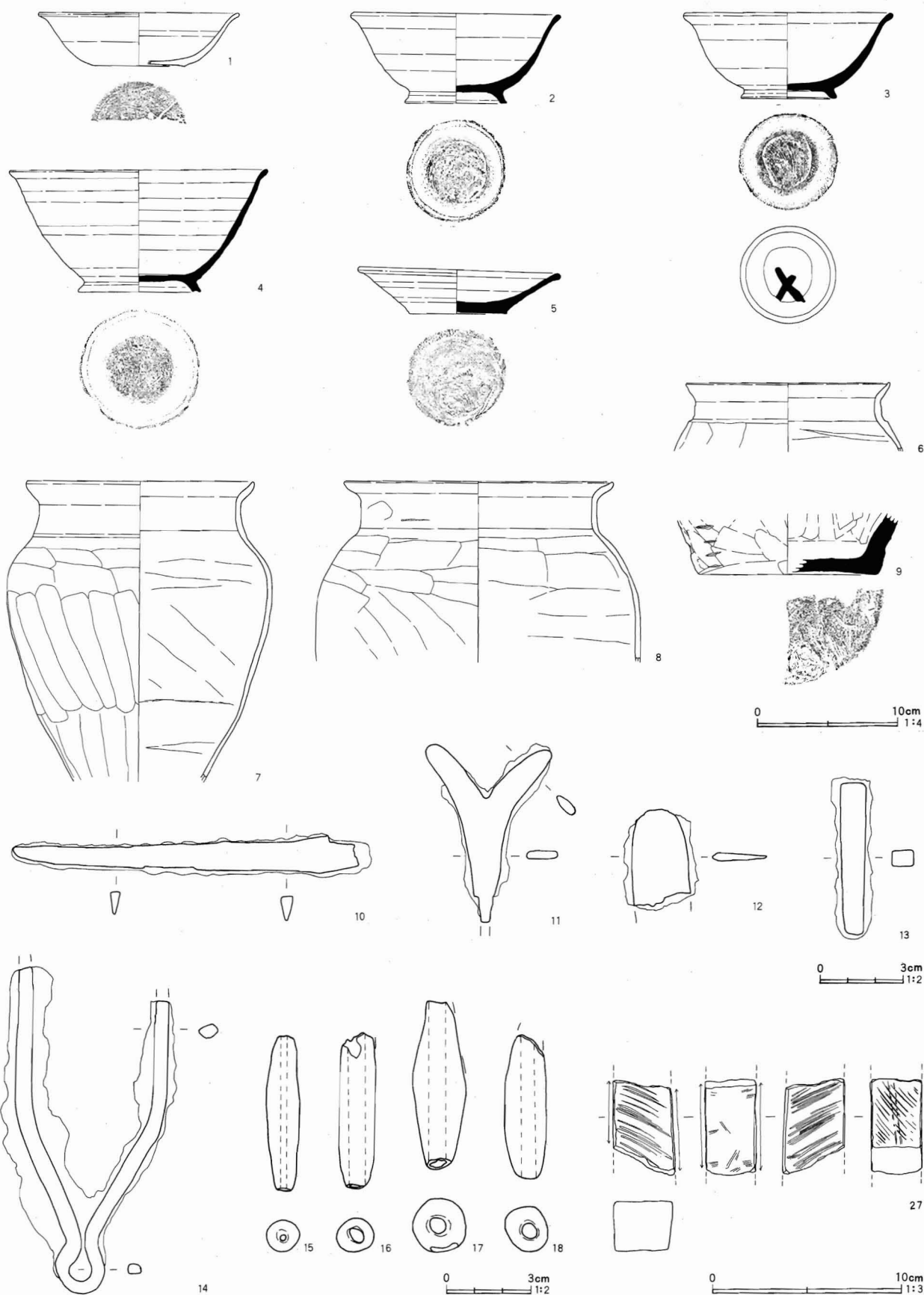
第95図 第205号住居跡

第205号住居跡出土遺物観察表 (第96図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	(14.0)	(3.7)	(6.5)	EFHL	普通	灰褐	25	覆土	底部回転糸切り
2	高台付埴	(14.9)	6.3	7.3	FJL	普通	黄灰	60	カマド	底部右回転糸切り後、高台貼付
3	高台付埴	14.5	6.0	6.8	HJL	普通	灰白	90	カマド	底部「×」の墨書 貼付高台
4	高台付埴	(18.2)	8.5	8.7	BFHL	普通	灰白	45	床	底部回転糸切り後、高台貼付
5	皿	14.0	3.1	6.9	AHL	良好	灰白	80	カマド	底部右回転糸切り
6	甕	14.5			BFJ	普通	におい赤褐	90	床	外面←方向ヘラ削り
7	甕	(16.2)			BJ	普通	におい橙	30	覆土下位	外面肩部←方向、胴部↓方向ヘラ削り
8	甕	(19.0)			BJ	不良	におい赤褐	25	覆土	外面↑方向ヘラ削り
9	甕			(12.8)	B	良好	褐灰	5	覆土	内外面ヘラナデ 外面自然釉

第205号住居跡出土土錘観察表 (第96図)

番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
15	5.51	1.18	0.20	7.00	Ba IV	橙	100	カマド
16	(5.55)	1.28	0.50~0.65	(8.13)	Ba IV	橙	95	B区
17	5.95	1.88	0.66	(16.60)	Ba IV	におい褐	90	A区
18	(5.15)	1.67	0.50	(12.36)	Ba V	褐灰	90	B区
19	(5.05)	1.65	0.50	(12.87)	Ba	におい赤褐		A区
20	(3.78)	(1.67)	0.55~0.63	(7.63)	Ba	におい黄橙		A区
21	(2.80)	(1.65)	0.43~0.53	(4.28)	Ba	暗褐		
22	(3.50)	0.88	0.20	(2.95)	Ba	におい橙		B区
23	(2.80)	1.00	0.40	(2.47)	Da	におい橙		
24	(1.75)	(0.88)	0.21	(1.36)	Ba	橙		A区
25	(3.78)	1.69	0.58	(9.99)	Ba	におい橙		A区
26	(2.55)	(1.11)	0.20	(2.90)	Ba	黒褐		



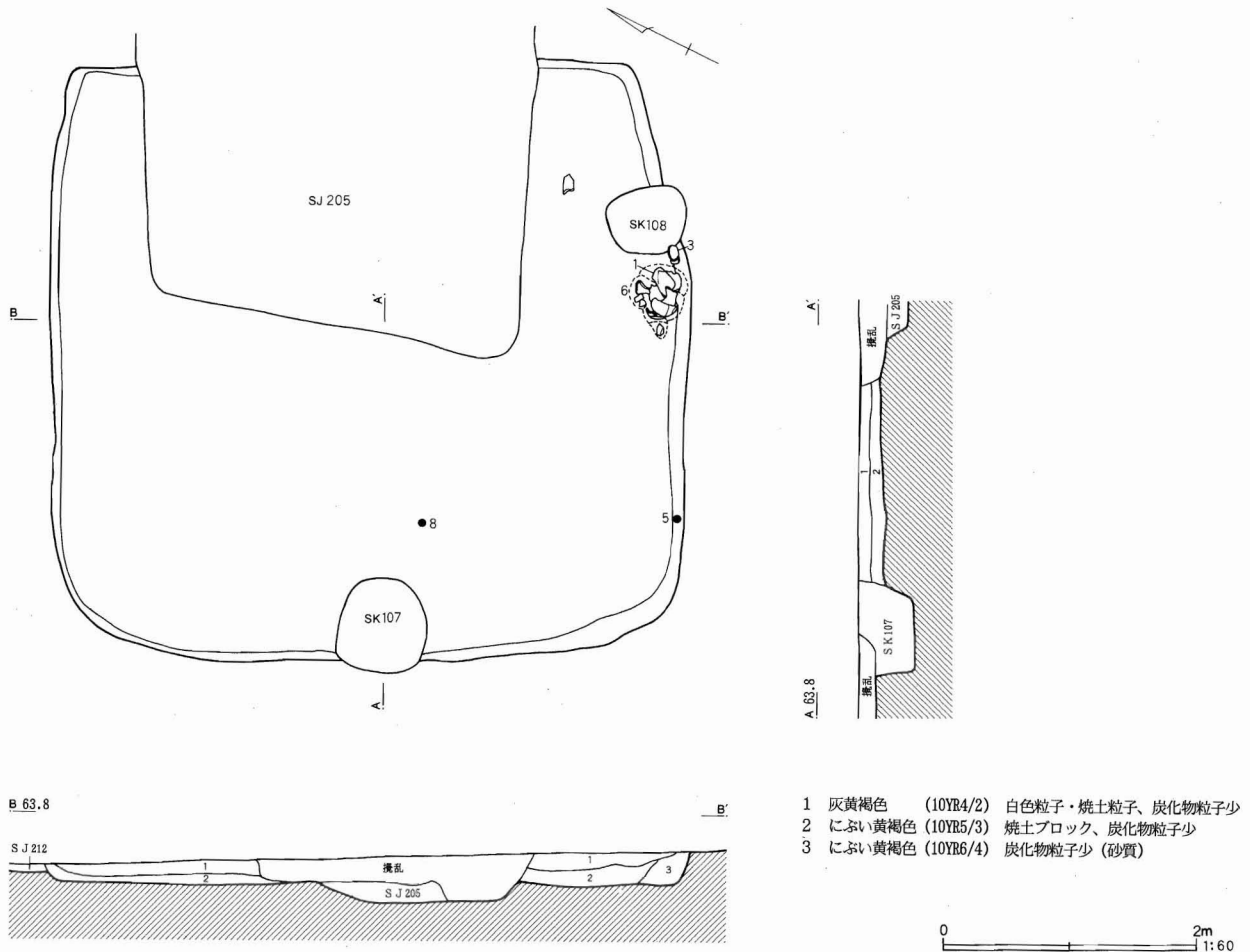
第96図 第205号住居跡・出土遺物

第206号住居跡（第97・98図）

J・K-18グリッドに位置する。第205号住居跡に東半部、第107号土坑に西壁の一部、第108号土坑に南壁の一部が切られている。平面は、軸長4.75m×5.06mの方形で、深さ20cmを測る。主軸方位は、N—62°—Eを指す。

カマドは確認できなかったが、東壁に設けられていたと推定される。

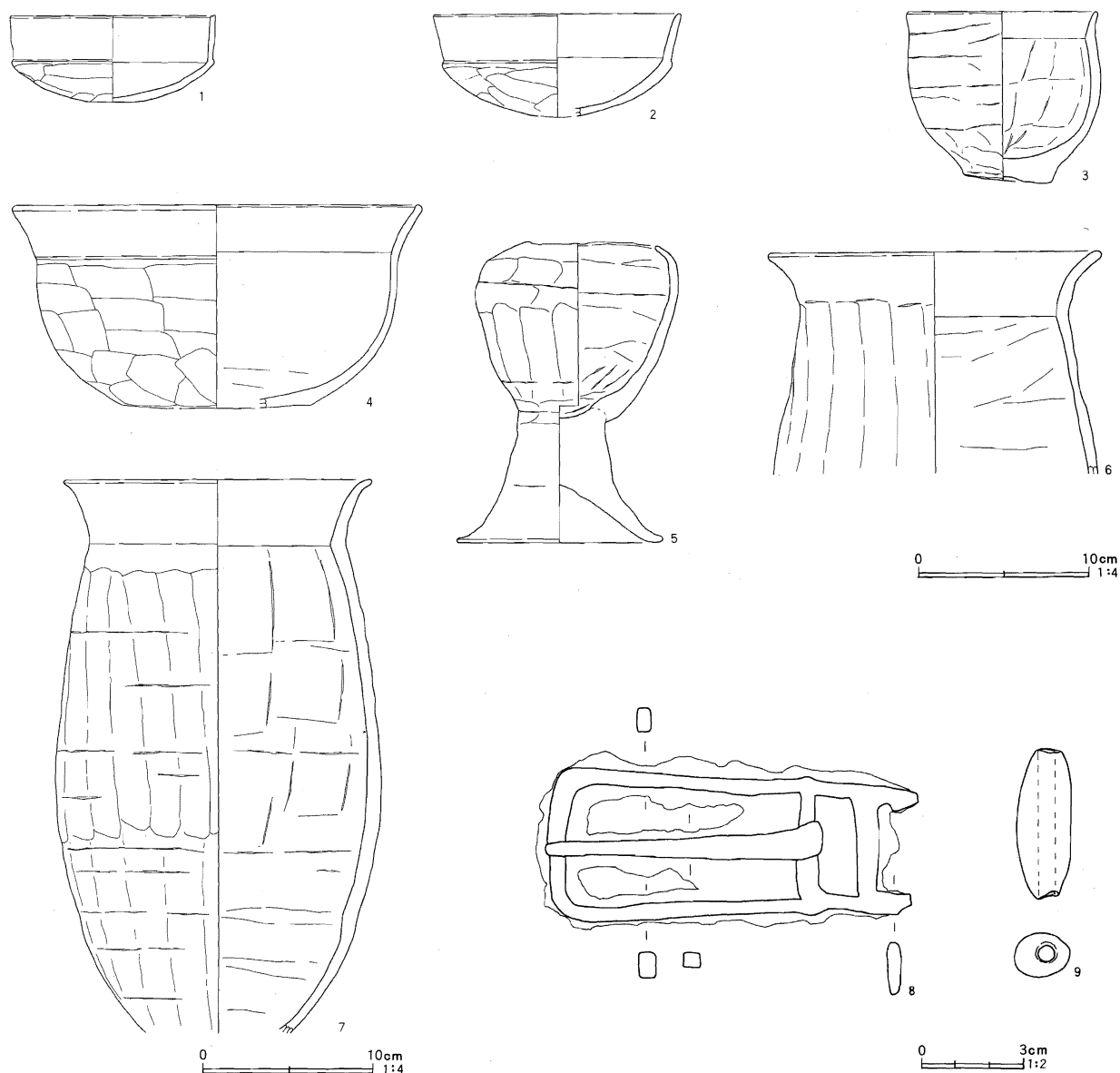
遺物は、土師器坏・鉢・台付埴・小型甕・甕、鉄製品の他に土錘が出土した。8は鉄製の鉸具で145.53gを量り、ほぼ床面から出土した。



第97図 第206号住居跡

第206号住居跡出土遺物観察表（第98図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	(12.0)	5.0		B J	普通	橙	40	6の下覆土	内外面摩耗著しい 外面上部←方向、下部↓方向ヘラ削り 内外面摩耗著しい 外面↑方向ヘラ削り 摩耗著しい
2	坏	(14.4)	6.0		B J	普通	にふい橙	20	覆土	
3	小型甕	11.0	10.0	5.2	B E J L	不良	にふい橙	80	覆土下位	
4	鉢	(23.4)	11.7	(11.0)	B E J L	不良	にふい赤褐	50	覆土	
5	台付埴	7.3	17.5	(12.0)		不良	にふい黄橙	80	床	
6	甕	19.4			A B J	普通	にふい褐	70	覆土下位	
7	甕	(18.0)			A B J L	不良	にふい褐	70	覆土	



第98図 第206号住居跡出土遺物

第206号住居跡出土土錘観察表 (第98図)

番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
9	4.45	1.60	0.57	8.10	Ba V	暗褐	100	B区
10	(4.48)	1.48	0.37	(8.88)	Ba	黒褐		B区
11	(6.05)	1.72	0.51~0.56	(11.16)	Ba	明赤褐		B区
12	(4.35)	(1.63)	0.51~0.54	(5.93)	Ba	にふい橙		B区
13	(4.15)	1.33	0.50	(6.40)	A	明赤褐		B区
14	(2.77)	1.25	0.49	(3.95)	Ba	明赤褐		B区
15	(2.24)	1.09~1.46	0.45	(4.35)	B	明赤褐		B区
16	(2.18)	(1.22)	(0.50)	(1.87)	B	にふい赤褐		B区

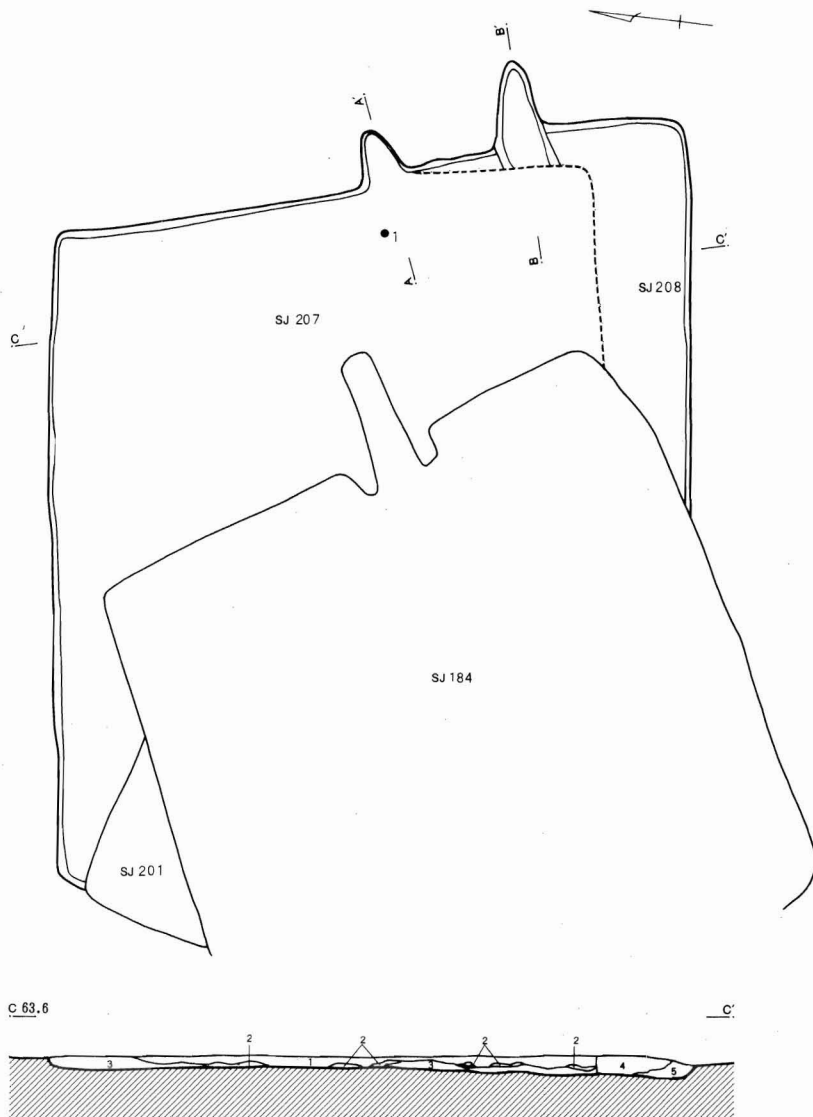
第207号住居跡 (第99図)

J-17グリッドを中心に位置する。第184・201号住居跡に西半部が切られ、第208号住居跡を切って

いる。平面は、軸長5.23m×4.38mの長方形で、深さ10cmを測る。主軸方位は、N-82°-Eを指す。

カマドは、東壁の南寄りに設けられている。燃焼部は、75cm×37cmを測り、床面とほぼ同じ高さである。

遺物は土師器環・高坏・小型甕・甕が出土した。



SJ 207 カマド

- 1 暗褐色 (10YR3/4) 炭化粒子少
- 2 黒褐色 (10YR3/1) 炭化粒子多、焼土粒子少
- 3 黒褐色 (10YR3/1) 炭化粒子多
- 4 にぶい赤褐色 (5YR4/4) 焼土層
- 5 暗褐色 (7.5YR3/3) 炭化粒子多
- 6 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 炭化粒子少

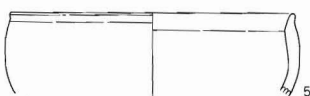
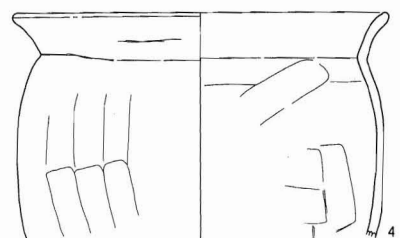
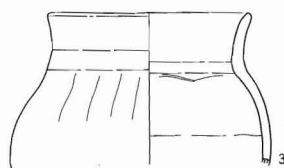
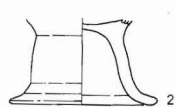
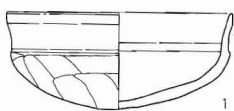
SJ 208 カマド

- 1 褐色 (10YR4/4) 炭化粒子多、焼土粒子少
- 2 暗灰黄色 (2.5YR4/2) 焼土粒子多、焼土ブロック・炭化粒子少
- 3 暗灰黄色 (2.5YR4/2) 炭化粒子少
- 4 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 炭化粒子少
- 5 暗褐色 (10YR3/4) 炭化粒子少
- 6 黒褐色 (10YR3/1) 炭化粒子・焼土多、焼土粒子少
- 7 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 炭化粒子微

SJ 207・208

- 1 暗褐色 (10YR3/4) 炭化粒子少
- 2 黒褐色 (10YR3/1) 炭化粒子多、焼土粒子少
- 3 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 炭化粒子微
- 4 灰黄褐色 (10YR4/2) 焼土ブロック少、炭化粒子僅か
- 5 にぶい黄褐色 (10YR4/3) 炭化粒子微

0 2m 1:60



0 10cm 1:4

第99図 第207・208号住居跡・出土遺物

第207・208号住居跡出土遺物観察表（第99図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	11.8	5.1		BEJ	不良	にぶい橙	90	SJ207 床	器壁荒れ
2	高坏			(7.8)	BJL	普通	橙	80	SJ207覆土	器壁摩耗
3	小型甕	(10.6)			JL	普通	にぶい褐	70	SJ207覆土	器壁摩耗 胴部外面↓ヘラ削り
4	甕	(19.7)			JL	普通	にぶい橙	15	SJ207覆土	口縁部横ナデ 外面↓ヘラ削り
5	鉢	(14.9)			E	普通	橙	10	SJ208覆土	

第208号住居跡（第99図）

I・J-17グリッドに位置する。第207号住居跡にカマドと南壁の一部を除きほとんどが切られ、第184号住居跡に西半部が切られている。平面は、確認できるのは東西長3.10m×南北長1.50mで、深さ15cmを測る。主軸方位は、N-81°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃焼部は前面が第207号住居跡に切られているが、56cm以上×36cmを測り、床面と同じ高さである。

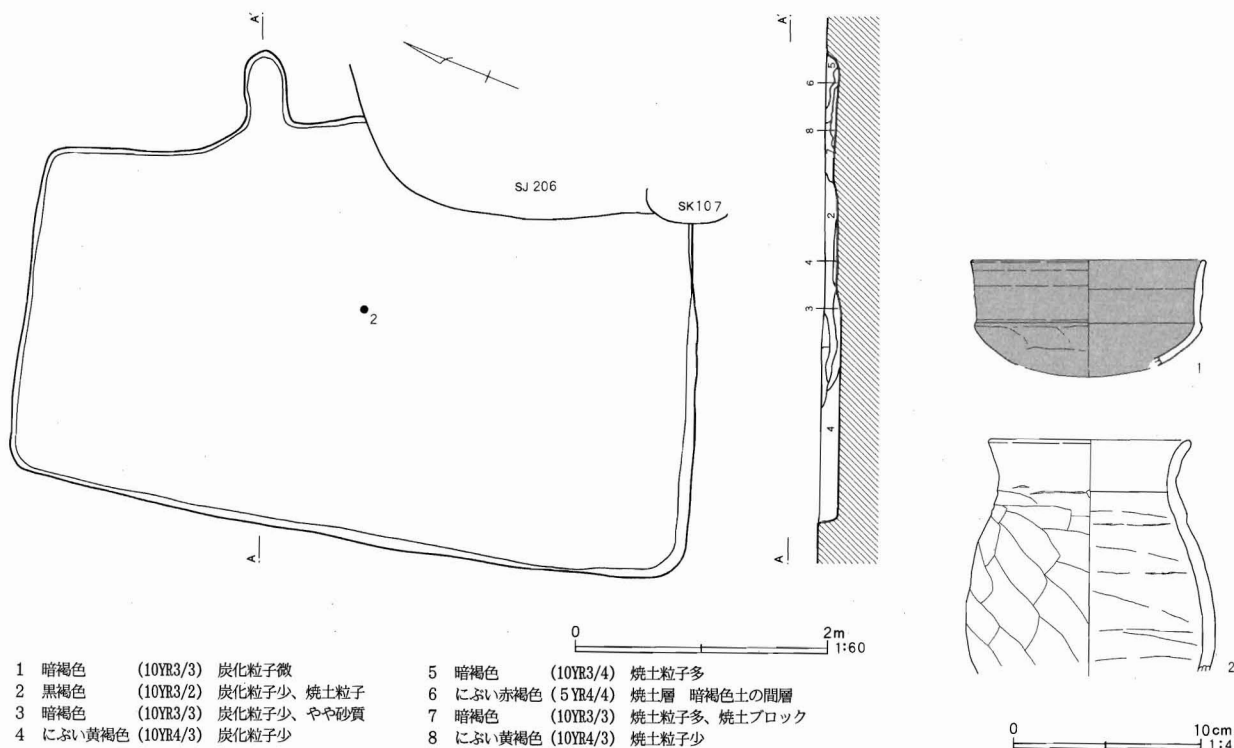
遺物は、土師器鉢が出土した。

第209号住居跡（第100図）

J-18グリッドを中心に位置する。第206号住居跡・第107号土坑に東壁の南半が切られ、第212号住居跡を切っている。平面は、軸長3.15m×5.30mの長方形で、深さ14cmを測る。主軸方位は、N-67°-Eを指す。

カマドは、東壁の北寄りに設けられている。燃焼部は、102cm×33cmを測り、床面と同じ高さである。

遺物は、土師器坏・小型甕が出土した。



第100図 第209号住居跡・出土遺物

第209号住居跡出土遺物観察表（第100図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	(12.4)			BJ	普通	にぶい橙	20	覆土	内外面赤彩 摩耗著しい
2	小型甕	10.6			BJ	普通	にぶい橙	80		外面↑方向ヘラ削り

第210号住居跡 (第101・102図)

K-17グリッドを中心に位置する。第215号住居跡に中央部から南壁にかけて切られ、第218・224・225号住居跡を切っている。平面は、軸長3.60m×5.24mの長方形で、深さ26cmを測る。主軸方位は、N-16°-Wを指す。

カマドは、北壁のやや西よりに設けられている。燃烧部は、128cm×60cm、床面から深さ15cmを測る。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器甕片、砥石の他に土錘が出土した。6～9は、須恵器甕の破片で、外面は櫛状工具により横ナデ後に平行叩きが施されている。内面は同心円文当て具痕がみられ、6は一部がナデで消されている。10の砥石は両端が欠損して

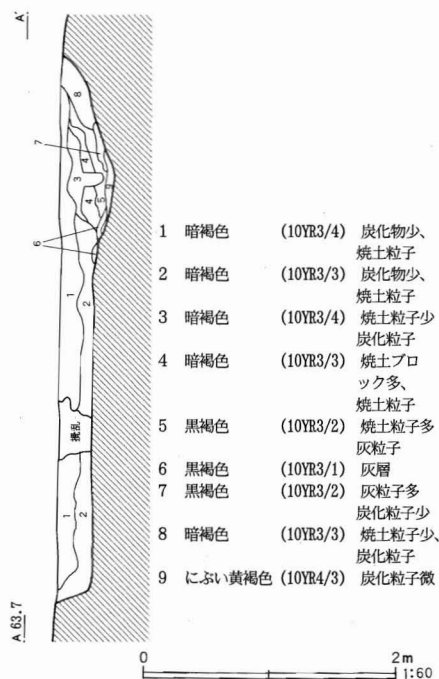
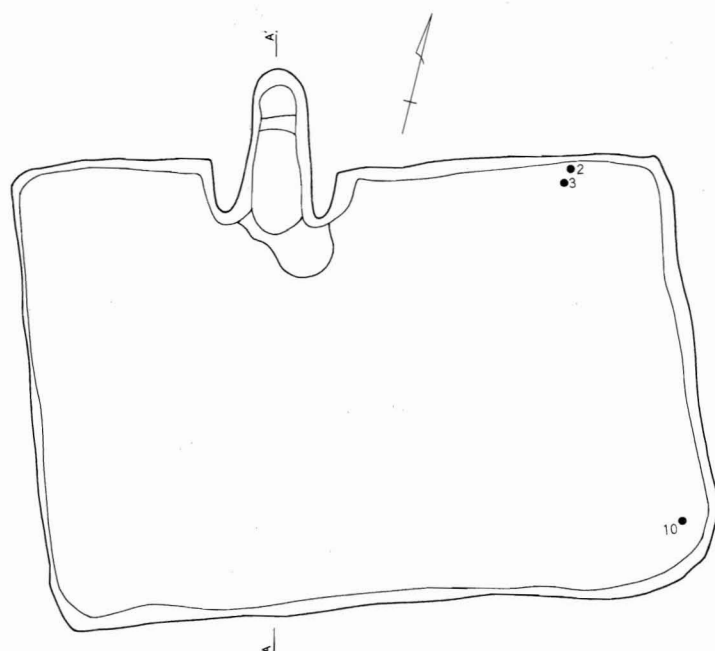
おり、4面が使用されているが、側面のうち1面は斜めの擦痕が見られ使用痕が平滑でない。

第211号住居跡 (第103・104図)

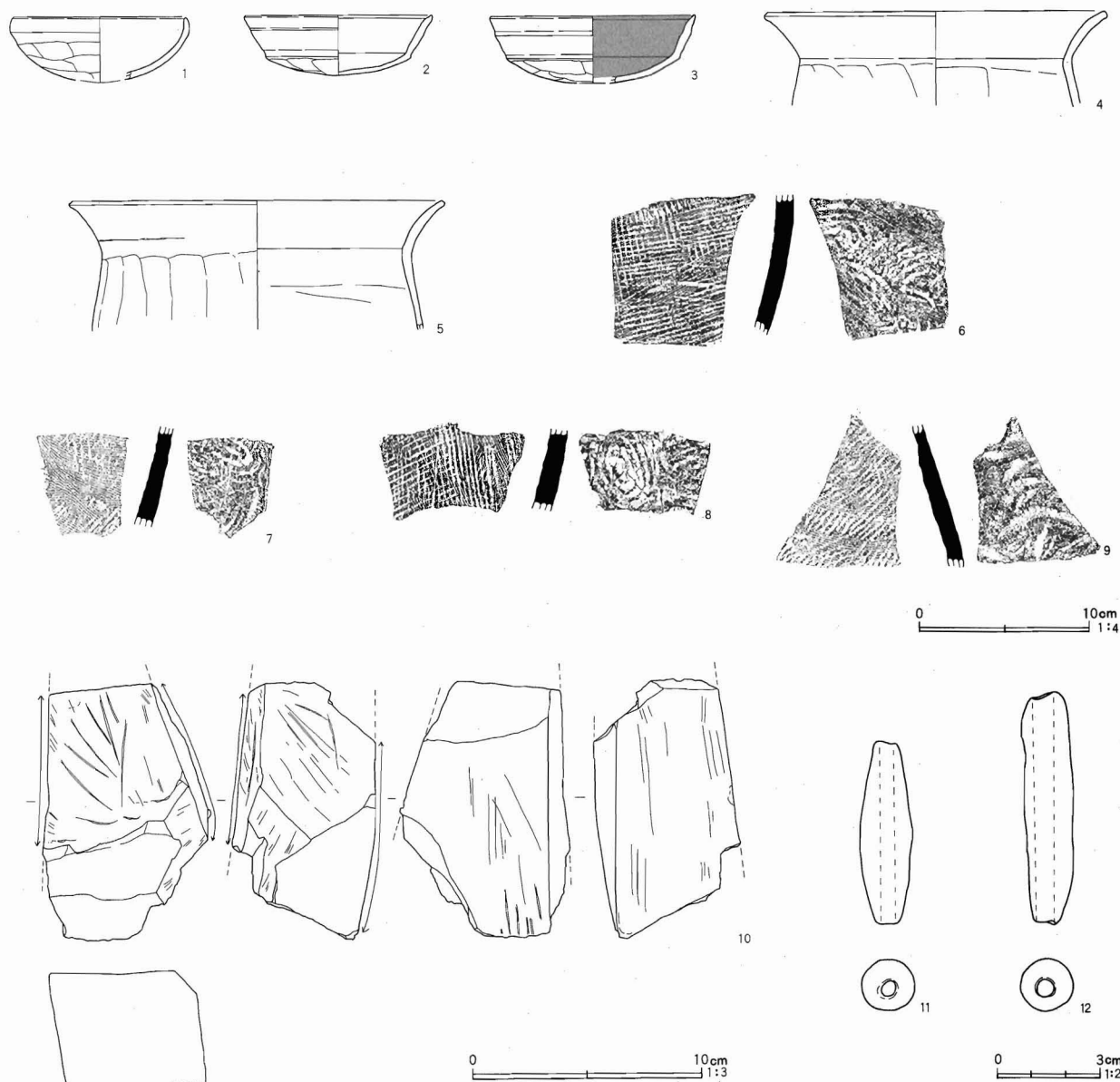
K・L-18グリッドに位置する。第365号住居跡に西壁の一部、第217号土坑に覆土が切られ、第213・214号住居跡を切っている。平面は、軸長6.85m×4.75mのやや歪んだ長方形で、深さ47cmを測る。壁溝は、北壁以外は各壁とも一部で確認され、幅22～26cm、深さ4～6cm、主軸方位は、N-21°-Wを指す。

カマドは、北壁のやや東寄りに設けられている。燃烧部は、163cm×36cm、床面から深さ9cmを測る。

遺物は、土師器坏・甕の他に土錘が出土した。



第101図 第210号住居跡



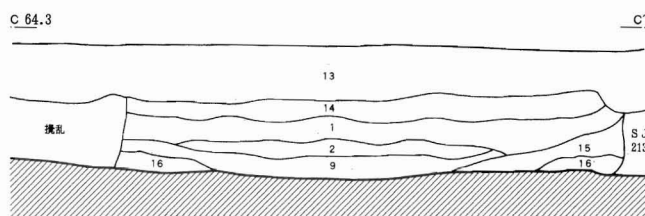
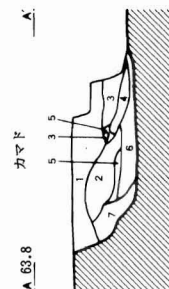
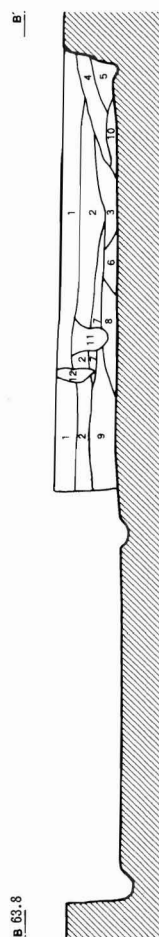
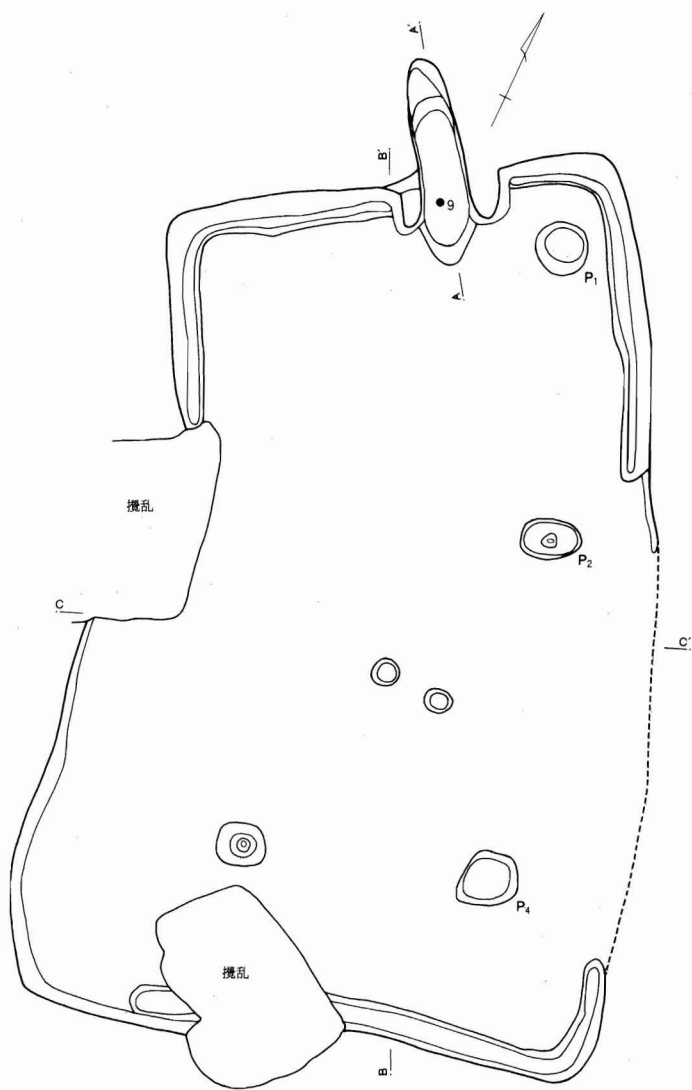
第102図 第210号住居跡出土遺物

第210号住居跡出土遺物観察表 (第102図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	(10.0)			ABDJ	不良	橙	15	覆土	
2	坏	(11.0)	3.5		BDJ	普通	灰黄褐	20	覆土下位	
3	坏	(12.0)	3.9		ABJ	普通	灰黄褐	40	床	内面黒色処理
4	甕	(20.0)			JL	普通	灰黄褐	10	覆土下位	内外面摩耗著しい
5	甕	(22.0)			BCJ	不良	灰黄褐	20	覆土	外面↑方向ヘラ削り

第210号住居跡出土土錘観察表 (第102図)

番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
11	5.40	1.55	1.41~0.50	11.30	Ba V	明赤褐	100	No.8 床面出土
12	6.86	1.56	0.40	15.51	Ba III	にぶい黄橙	100	A区



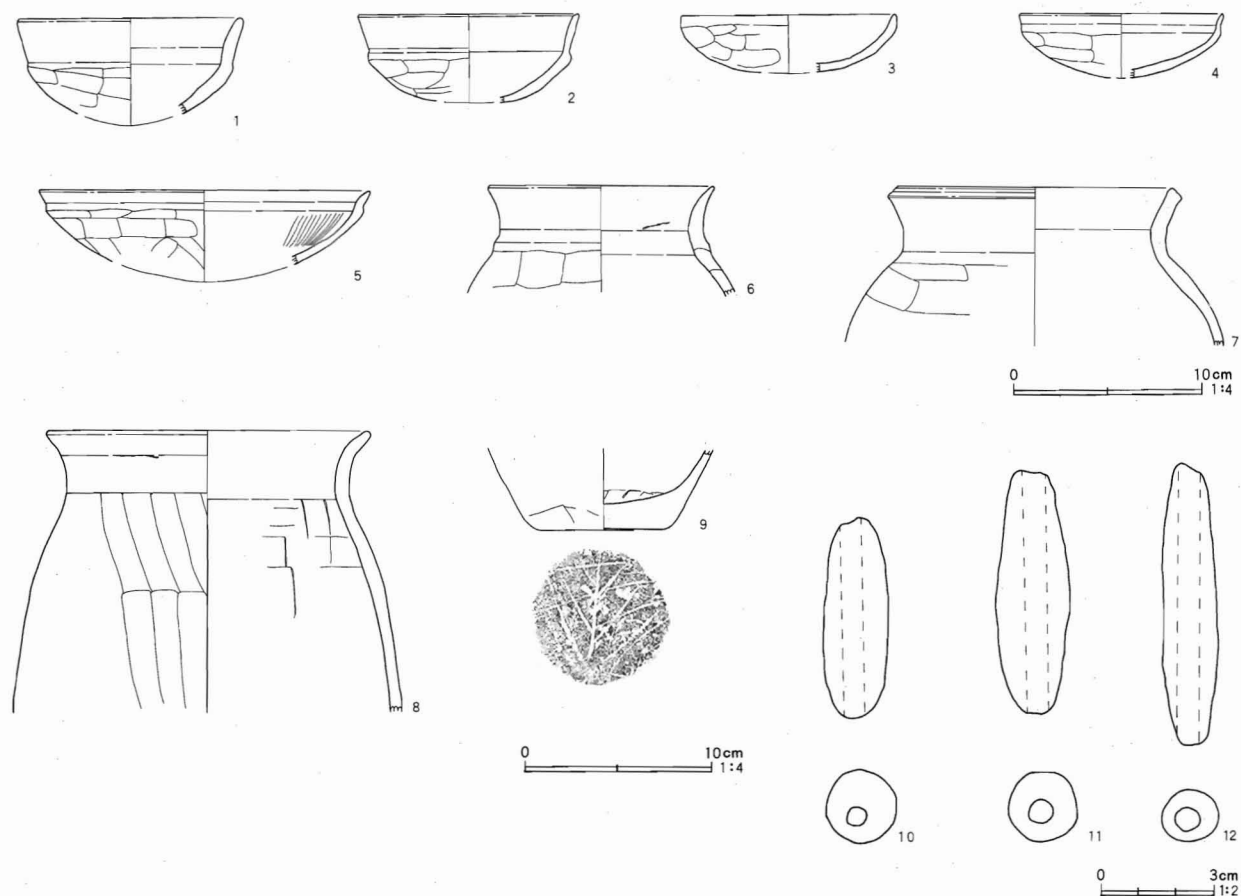
カマド

- 1 褐色 (10YR4/4)
- 2 にふい黄褐色 (10YR4/3) 暗赤色土若干
- 3 褐色 (10YR4/4) 炭化物、焼土若干
- 4 にふい黄褐色 (10YR4/3) 焼土多
- 5 焼土
- 6 暗褐色 (10YR3/4) 焼土・灰
- 7 暗褐色 (10YR3/4) 暗赤色土多

0 2m 1:60

- | | |
|--------------------------------|--------------------------------|
| 1 褐色 (10YR4/4) 白色微粒子・炭化物粒子 | 9 褐色 (10YR4/4) 黒色粒子若干 |
| 2 にふい黄褐色 (10YR4/3) 黄褐色シルト | 10 灰黄褐色 (10YR4/2) |
| 3 灰層 焼土 | 11 褐色 (10YR4/4) |
| 4 にふい黄褐色 (10YR4/3) 炭化物多・黄褐色シルト | 12 灰黄褐色シルト (10YR5/2) |
| 5 黒褐色 (10YR3/1) やや粘質 | 13 にふい黄褐色 (10YR4/3) 灰白色粒子 |
| 6 灰黄褐色 (10YR6/2) | 14 暗褐色 (10YR3/4) 焼土・炭化物、白色微粒子多 |
| 7 褐色 (10YR4/4) | 15 褐色シルト (10YR4/4) 灰色シルト |
| 8 にふい黄褐色 (10YR4/3) 灰若干 | 16 にふい黄褐色 (10YR6/4) 炭化物 |

第103図 第211号住居跡



第104図 第211号住居跡出土遺物

第211号住居跡出土遺物観察表 (第104図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	(11.7)			B	良好	にぶい橙	30	覆土	口縁・内面横ナデ
2	坏	(11.6)			B	良好	明赤褐	25	覆土	底部内面横ナデ
3	坏	(11.3)			J	不良	橙	40	覆土	
4	坏	(10.6)			J	不良	橙	30	覆土	器壁摩耗
5	坏	(17.4)			B	普通	にぶい橙	15	覆土	内面に暗文
6	小型甕	(11.7)			B E	良好	橙	25	覆土	外面←へら削り
7	壺	14.5			B J	普通	にぶい橙	60	P 2	外面←へら削り
8	甕	16.8			J	普通	にぶい橙	40	覆土	口縁～頸部ナデ 外面↓へら削り 内面工具横ナデ
9	甕			7.0	E	良好	橙	80	カマド	底部木葉痕

第211号住居跡出土土錘観察表 (第104図)

番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
10	5.55	1.90	0.55	18.23	Ba V	明赤褐	100	
11	6.45	1.90	0.67	21.09	Ba IV	にぶい橙	100	
12	7.38	1.40	0.55	12.26	Ba III	浅黄橙	100	A区

第212号住居跡（第105図）

J-18グリッドに位置する。第206号住居跡・第107号土坑に南半東部、第209号住居跡に西半が切られている。平面は、軸長6.65m×5.28mの台形で、深さ7cmを測る。主軸方位は、N-74°-Eを指す。

カマド・貯蔵穴等の施設は、確認できなかった。

遺物も、出土しなかった。

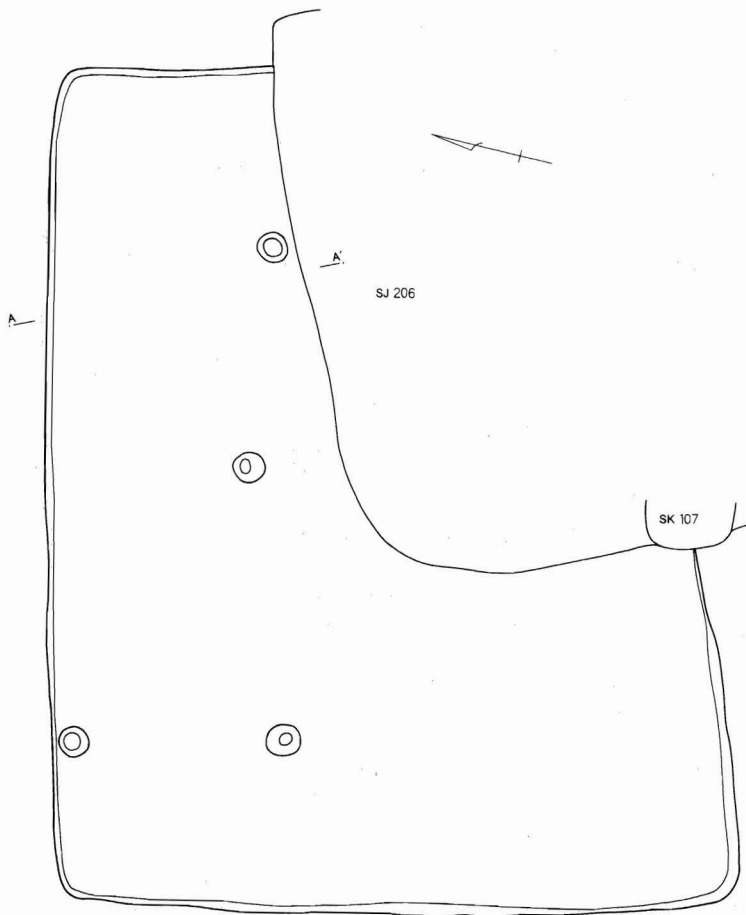
第213号住居跡（第106図）

L-18グリッドを中心に位置する。第211号住居跡に東壁を除いて切られている。平面は、北部が不明であるが南北長4.10m×東西長5.04mの長方形で、深さ43cmを測る。壁溝は、不明な北壁を除き全

周し、幅15~32cm、深さは6cm程を測る。主軸方位は、N-13°-Wを指す。

カマド・貯蔵穴等の施設は、確認できなかった。

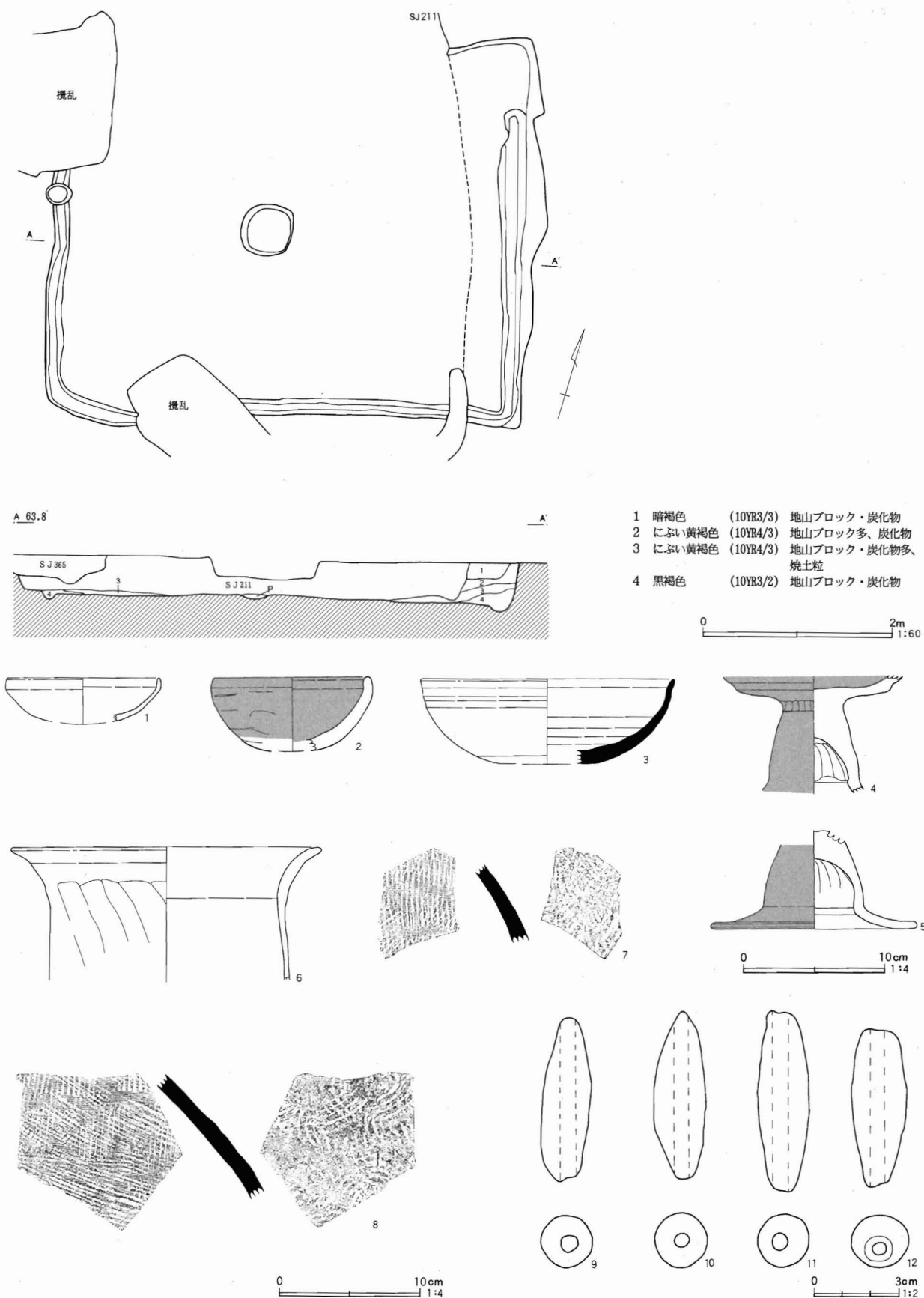
遺物は、土師器坏・埴・高坏・甕、須恵器甕片の他に土錘が出土した。7・8は須恵器甕の破片で、7の外面は櫛状工具による横ナデ後、平行叩きが施されている。内面は同心円文当て具痕がみられる。8の外面は、7と同様であるが平行叩き後に粗い櫛状工具により斜めのナデが施されている。内面は同心円文当て具痕が見られ、一部は横ナデで消されている。



1 にふい黄褐色 (10YR4/3) 白色微粒子・焼土粒子、炭化物粒子少



第105図 第212号住居跡



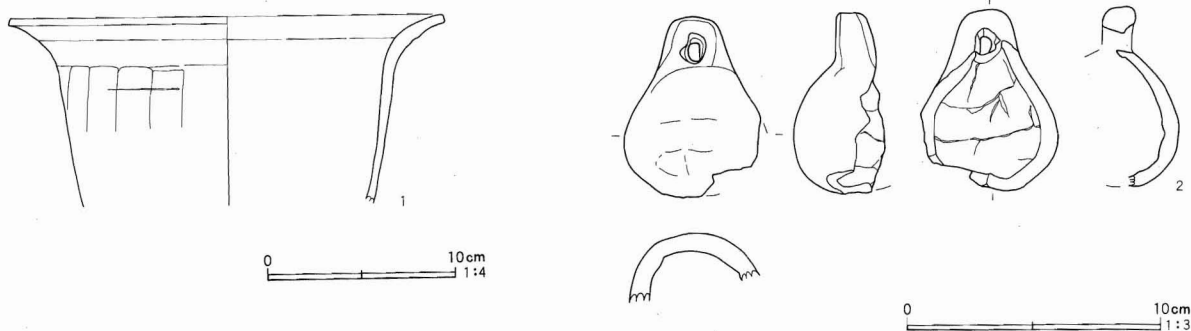
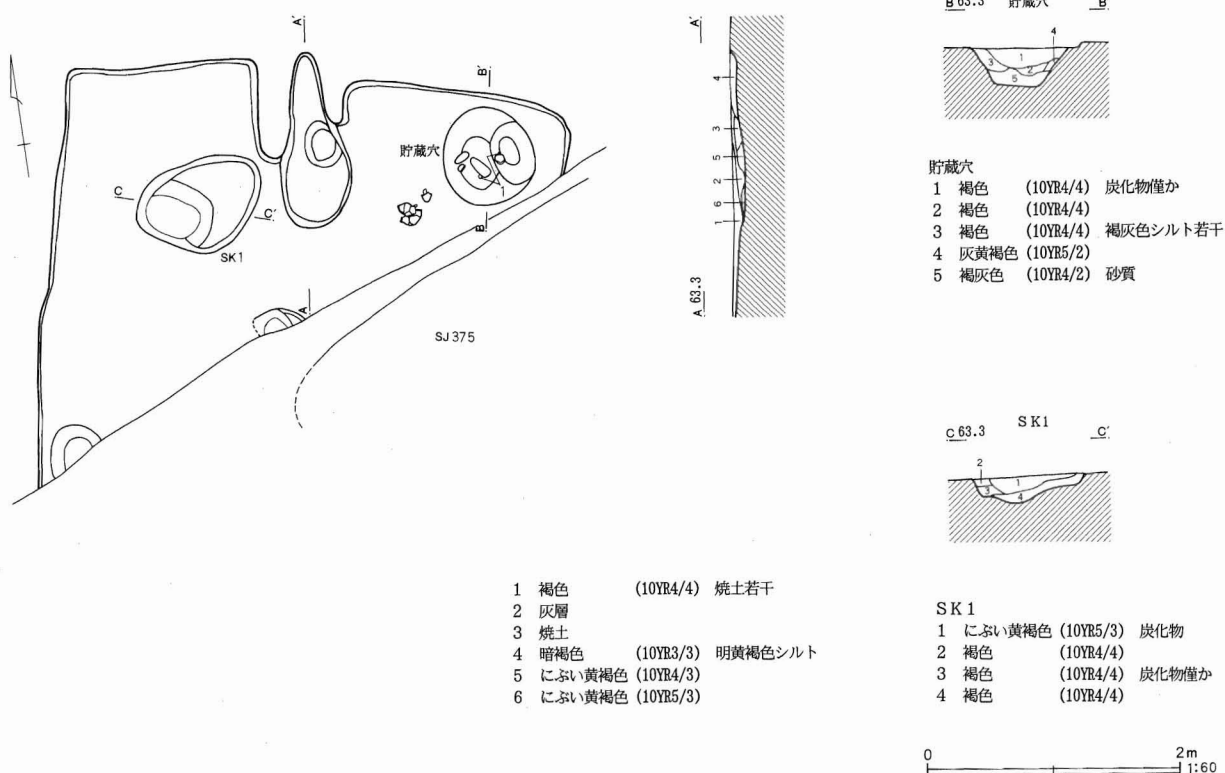
第106図 第213号住居跡・出土遺物

第213号住居跡出土遺物観察表 (第106図)

番号	器 種	口 径	器 高	底 径	胎 土	焼 成	色 調	残 存	出土位置	備 考
1	坏	(10.8)			E	不良	橙	40	覆土	摩耗し整形不明
2	坏	(10.8)			B	普通	にぶい橙	45	覆土	内面指横ナデ 外面ヘラナデ 内外面赤彩
3	坏	(17.8)	(6.0)		B J L	良好	灰	40	覆土	底部右回転ヘラ削り
4	高 坏				BE	良好	明赤褐	70	覆土	脚部横ナデ 内面指頭ナデ 内外面赤彩
5	高 坏			(14.4)	BE	普通	橙	60	覆土	外面・裾内面横ナデ 脚部内面横ナデ 指頭ナデ 外面赤彩
6	甕	(21.7)			DE G	普通	にぶい橙	30	覆土	器壁摩耗 外面↓ヘラ削り

第213号住居跡出土土錘観察表 (第106図)

番号	長 さ	径	孔 径	重 さ	分 類	色 調	残 存	備 考
9	5.79	1.82	0.47	18.28	Ba IV	にぶい橙	100	
10	5.92	2.00	0.56	19.67	Ba IV	橙	100	
11	6.53	1.89	0.58	19.22	Ba III	明赤褐	100	
12	5.50	2.06	0.49	20.01	BB IV	にぶい橙	100	



第107図 第214号住居跡・出土遺物

第214号住居跡（第107図）

K・L-18グリッドを中心に位置する。第211・375号住居跡に切られ、南半は不明である。平面は、軸長3.35m以上×4.00mで、深さ4cmを測る。主軸方位は、N-7°-Eを指す。

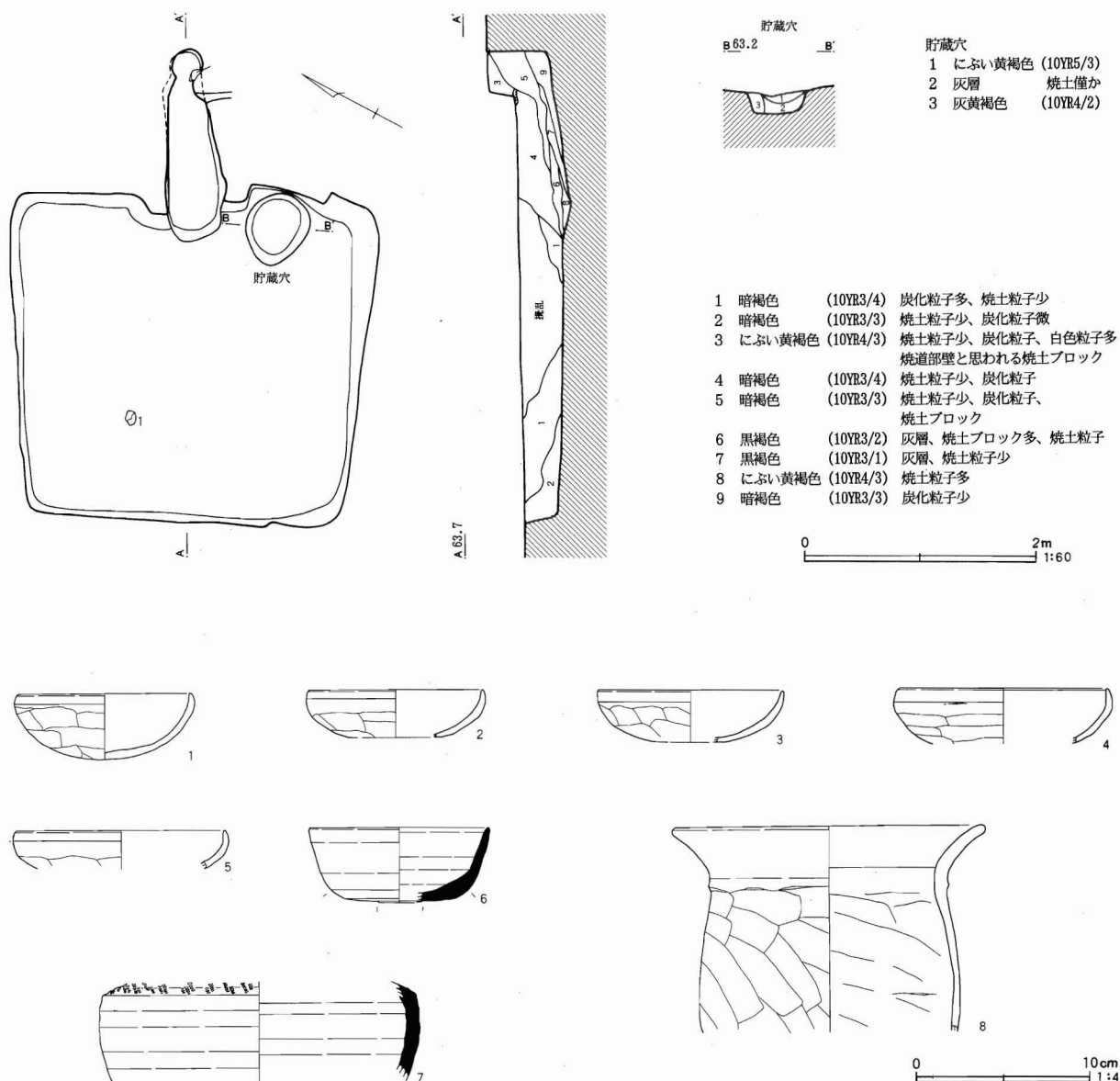
カマドは、北壁に設けられている。燃烧部は、97cm×56cm、床面から深さ5cmを測る。煙道部にあたる部分は44cm確認できた。

貯蔵穴は、北東隅に検出された。平面は、78cm×73cmの円形で、深さ31cmを測る。カマドの西には土坑が確認され、平面は軸長104cm×76cmのやや歪んだ楕円形で深さ20cmを測る。

遺物は、土師器甕、土鈴が出土した。土鈴は、全長7.1cm、現存径5.4cmを測り、鈕が付き楕円形の孔が穿孔されている。球状系の胴部は幅1.2～1.6cmほどの粘土帯を横に積み上げ成形し、鈕は別に作られ

第214号住居跡出土遺物観察表（第107図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	甕	(23.0)			J	普通	にふい橙	15	貯蔵穴下位	外面↓ヘラ削り



第108図 第215号住居跡・出土遺物

接合されている。SK1とその周辺からの出土である。

第215号住居跡（第108図）

K-17グリッドを中心に位置する。第210号住居跡に切られ、第20号性格不明遺構を切っている。平面は、軸長2.88m×3.00mの方形で、深さ33cmを測る。主軸方位は、N-61°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃烧部は、136

cm×48cm、床面から深さ11cmを測る。カマドの天井部が一部依存し、煙道部は33cm確認できた。煙出し部は、25cm×21cmの円形が確認された。

貯蔵穴は、南東隅に検出された。平面は63cm×55cmの円形で、深さ20cmを測る。

遺物は、土師器坏・小型甕、須恵器坏・瓶が出土した。

第215号住居跡出土遺物観察表（第108図）

番号	器 種	口 径	器 高	底 径	胎 土	焼 成	色 調	残 存	出土位置	備 考
1	坏	(10.0)	3.8		BDJ	不良	橙	60	覆土	低部外面へラ削り
2	坏	(10.0)	2.7		ABDJ	不良	にぶい橙	20	覆土	低部外面へラ削り
3	坏	(10.6)	3.0		BDJ	不良	にぶい橙	10	覆土	低部外面へラ削り
4	坏	(12.0)			ABDJ	普通	にぶい橙	10	覆土	低部外面へラ削り
5	坏	(12.0)			BDJ	不良	橙	15	覆土	低部外面へラ削り
6	坏	(10.4)	4.2	(6.6)	BJ	良好	灰	25	覆土	体部下端～底部回転へラ削り
7	長頸瓶				JL	良好	灰	15	覆土	肩部に施文
8	甕	(18.0)			ABDJ	普通	にぶい褐	20	覆土	外面↑へラ削り

第216号住居跡（第109図）

L-17グリッドに位置する。第221号住居跡に北壁上部が切られ、第222号住居跡を切っている。また、東壁の一部では攪乱を受けている。平面は、軸長3.52m×3.04mの長方形で、深さ49cmを測る。壁溝は、南壁の一部で確認され、幅15～25cm、深さ7cm程を測る。主軸方位は、N-77°-Eを指す。

カマドは、東壁のやや北寄りに設けら、先端が攪乱を受けている。燃烧部は、134cm以上×52cm、床面から傾斜をもって上っている。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器蓋の他に土鍾が出土した。

第217号住居跡（第110・111図）

J-17グリッドを中心に位置する。第218・223号住居跡を切っている。平面は、軸長3.35m×3.10mの方形で、深さ43cmを測る。主軸方位は、N-81°-Eを指す。

カマドは、東壁のかなり南に偏って設けられている。燃烧部は、158cm×60cm、床面から深さ17cmを測る。

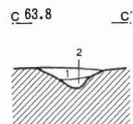
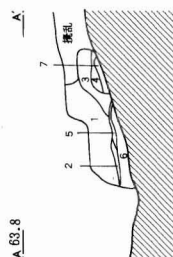
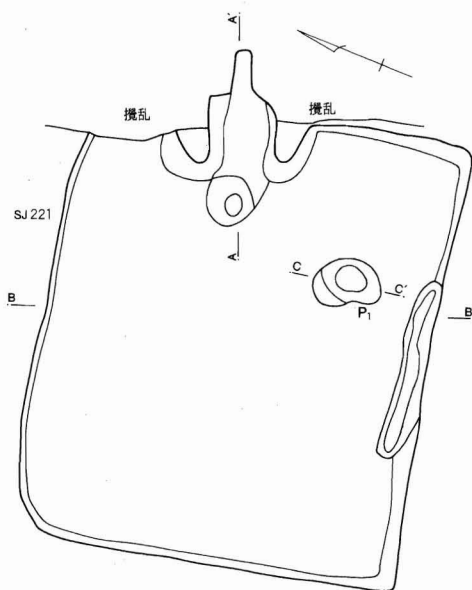
遺物は、土師器坏・小型甕・甕・鉢、手捏ね土器、須恵器蓋、鉄鏝の他に土鍾が出土した。12は鉄鏝の茎の部分で重さ9.95gを量り、覆土中の出土である。

第216号住居跡出土遺物観察表（第109図）

番号	器 種	口 径	器 高	底 径	胎 土	焼 成	色 調	残 存	出土位置	備 考
1	坏	(10.0)			DJL	不良	橙	15	覆土	低部外面へラ削り
2	蓋	(18.0)			BJL	良好	灰	10	覆土	天井部 回転へラ削り
3	甕	(22.0)			BJ	普通	にぶい赤褐	10	カマド	
4	甕	(22.0)			BDJ	普通	橙	15	カマド	外面←へラ削り 内外面摩耗著しい

第216号住居跡出土土鍾観察表（第109図）

番号	長 さ	径	孔 径	重 さ	分 類	色 調	残 存	備 考
5	6.18	1.73	0.43	15.04	Ba IV	橙	100	
6	6.10	1.22	0.58	7.42	Ba IV	にぶい橙	100	
7	(3.65)	1.18	0.35	(4.67)	Ba	橙		

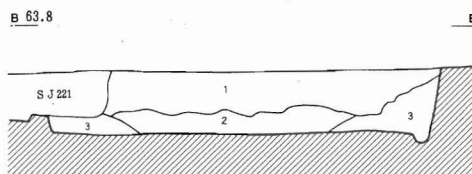


カマド

- | | | |
|---|------------------|--------------------------|
| 1 | にふい黄褐色 (10YR4/3) | 焼土粒子少、炭化粒子 |
| 2 | 褐色 | (10YR4/4) 炭化粒子少 |
| 3 | 暗褐色 | (10YR3/3) 炭化粒子少、焼土粒子 |
| 4 | 黒褐色 | (10YR3/2) 焼土粒子多、焼土ブロック |
| 5 | 黒褐色 | (10YR3/2) 焼土粒子多 |
| 6 | 赤灰色 | (2,5YR4/1) 灰層、焼土粒子少、炭化粒子 |
| 7 | 赤灰色 | (2,5YR4/1) 焼土粒子少 |

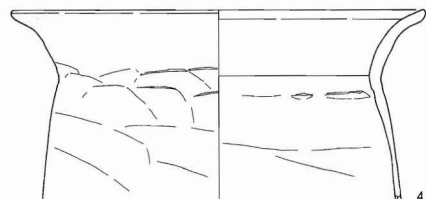
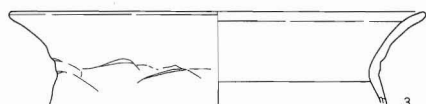
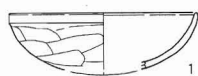
P 1

- | | | |
|---|---------------|-----------|
| 1 | 暗褐色 (10YR3/3) | 焼土、炭化物粒子少 |
| 2 | 暗褐色 (10YR3/4) | 焼土、炭化物粒子多 |



- | | | |
|---|------------------|------------------------|
| 1 | にふい黄褐色 (10YR4/3) | S J 216 カマド図の 1 と同じ |
| 2 | にふい黄褐色 (10YR4/3) | 黄褐色粒子多、焼土粒子少、黄褐色粒子多 |
| 3 | 褐色 | (10YR4/4) 黄褐色粒子多、焼土粒子少 |

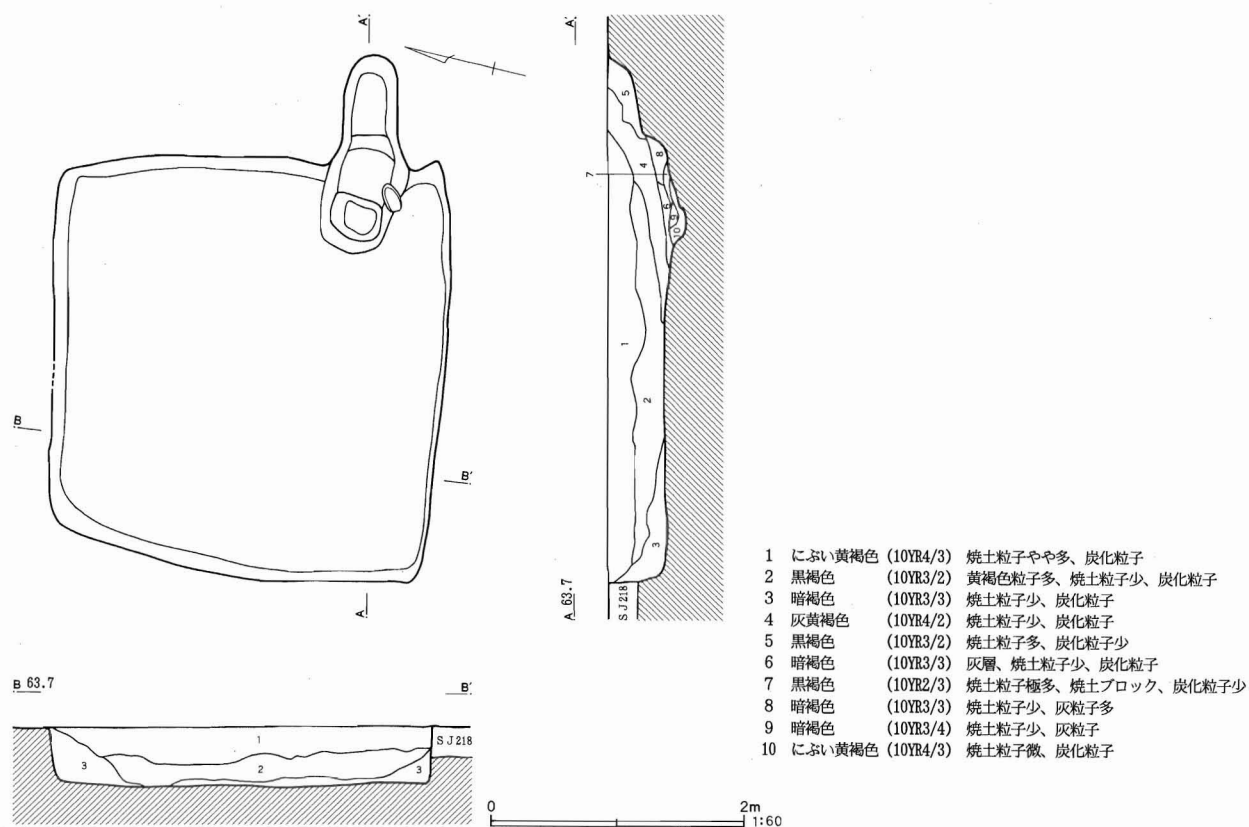
0 2m 1:60



0 10cm 1:4

0 3cm 1:2

第109図 第216号住居跡・出土遺物



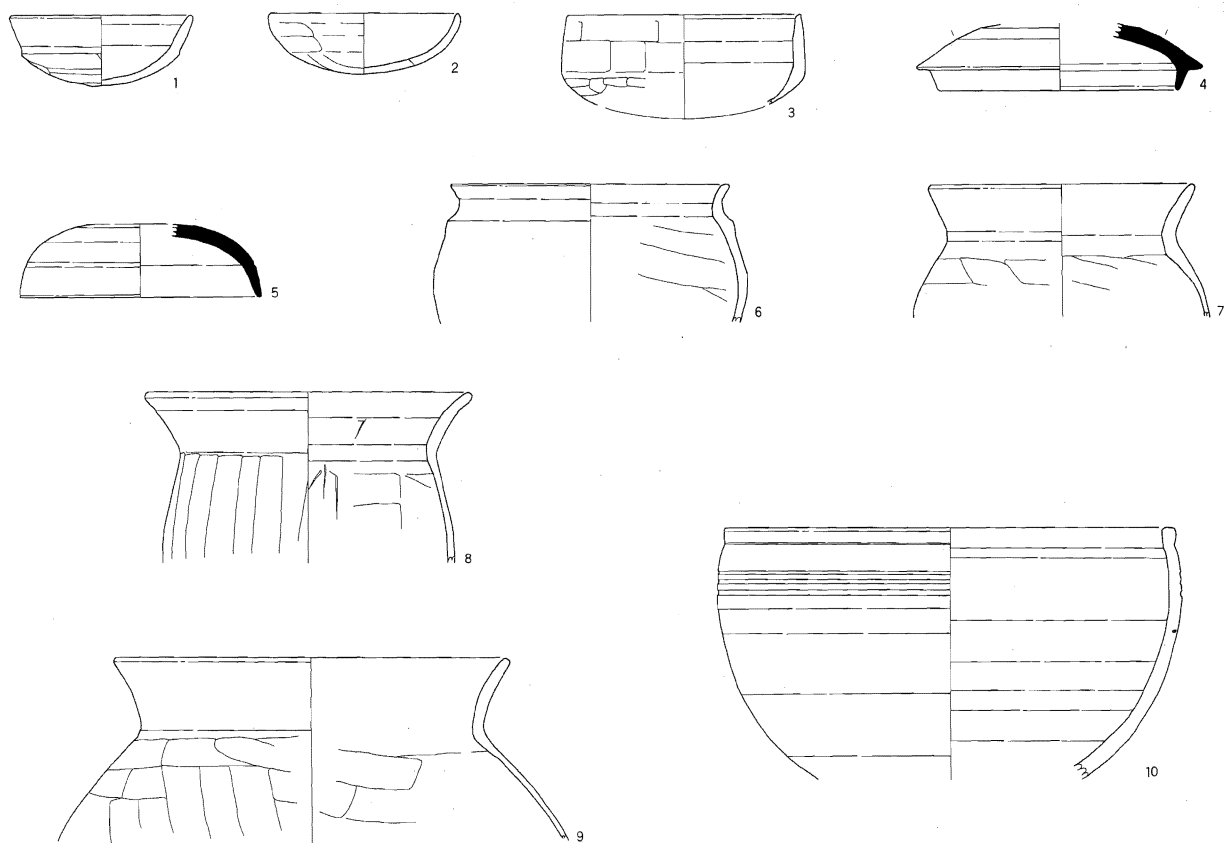
第110図 第217号住居跡

第217号住居跡出土遺物観察表 (第111図)

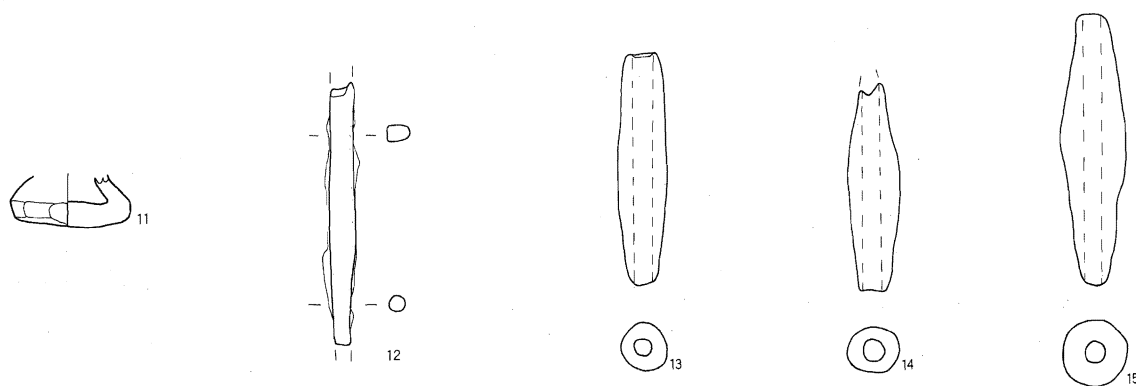
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	9.5	3.7		B	良好	橙	95	覆土	口縁部横ナデ 底部外面←へら削り
2	坏	(10.0)	3.2		J	普通	橙	25	覆土	外面←へら削り
3	坏	(12.3)			B	良好	にふい黄褐	20	覆土	口縁部外面へらナデ 底部外面→へら削り
4	蓋	(12.7)			A B J	良好	灰黄褐	30	覆土	天井部右回転へら削り
5	蓋	(12.6)	3.9		B J L	良好	灰	35	覆土	外面右回転へらナデ 天井部へら削り
6	甕	(14.6)			L	普通	にふい赤褐	30	覆土	外面摩耗 剥離し不明
7	小型甕	(13.8)			J	普通	にふい橙	60	覆土	外面→へら削り 内面横ナデ
8	甕	17.0			B E J	普通	にふい橙	50	覆土	外面↓へら削り
9	壺	(20.7)			J	普通	にふい黄橙	40	覆土	外面→・↓へら削り 内面ナデ
10	鉢	(23.8)			B E J	普通	にふい黄橙	20	覆土	内面クロ痕顕著 外面下部へらナデ
11	ミニチュア			2.9	B J	普通	明赤褐	80	覆土	外面下半横ナデ

第217号住居跡出土土錘観察表 (第111図)

番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
13	6.15	1.30	0.59	8.05	Ba IV	浅黄橙	100	A区
14	(5.46)	1.43	0.55	(6.69)	Ba	にふい褐		B区
15	(7.20)	1.81	0.51	(18.87)	Ba III	橙	80	A区
16	(2.61)	1.52	0.48	(4.02)	Ba	橙		B区



0 10cm
1:4



0 3cm
1:2

第111図 第217号住居跡出土遺物

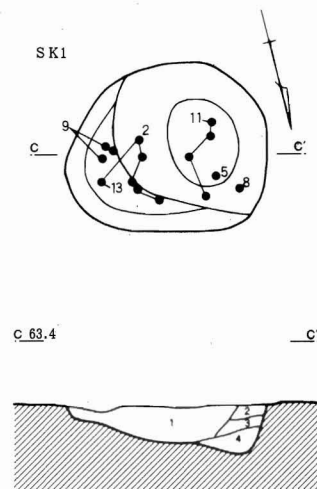
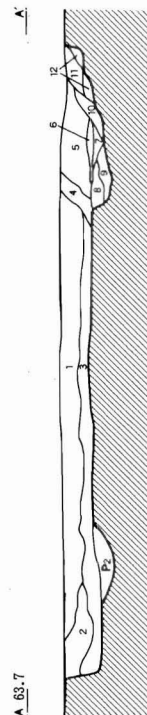
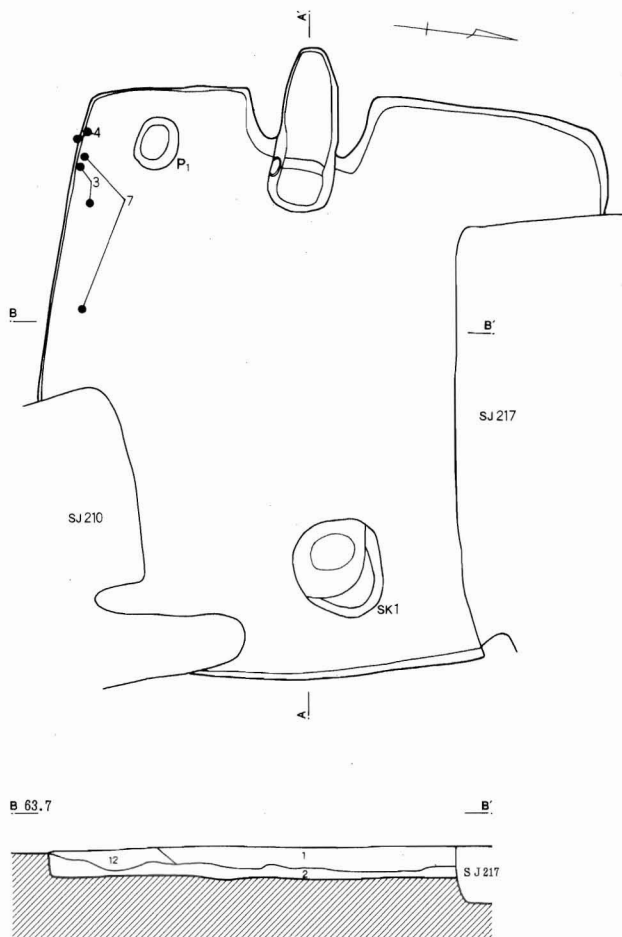
第218号住居跡（第112・113図）

J・K-17グリッドに位置する。第210号住居跡に南東部、第217号住居跡に北壁が切られている。平面は、軸長4.65m×4.23mの方形で、深さ25cmを測る。主軸方位は、N-93°-Wを指す。

カマドは、西壁の南寄りに設けられている。燃烧部は、130cm×51cm、床面から深さ17cmを測る。

土坑が東壁寄りで確認された。平面は81cm×69cmの円形気味で、深さ14~19cmを測る。

遺物は、土師器杯・甕・甔、礫の他に土錘が出土した。14は、長さ8.20cm、幅5.45cm、厚さ4.75cm、重さ139.30gを量り、片面には2条の溝状のものがみられ、石材は角閃石安山岩で、覆土から出土した。



- SK1
- 1 灰黄褐色 (10YR4/2) 焼土粒・炭化物
 - 2 にふい黄褐色 (10YR5/3) にふい黄褐色シルト多
 - 3 にふい黄褐色 (10YR4/3) 炭化物若干
 - 4 にふい黄褐色 (10YR5/4)

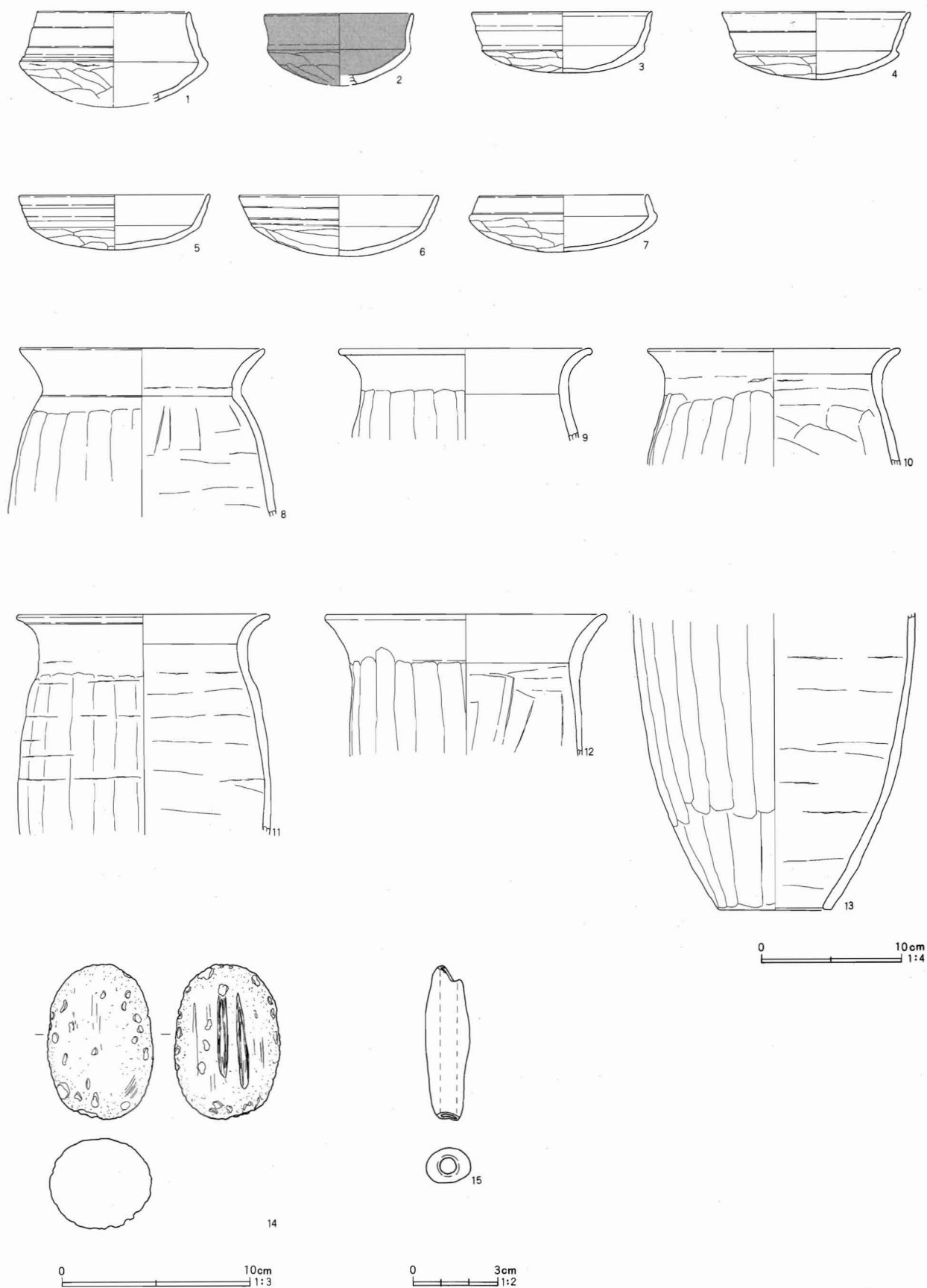
0 2m 1:60

0 5cm 1:3

- 1 暗褐色 (10YR3/3) 白色粒子多、焼土粒子微、炭化粒子
- 2 暗褐色 (10YR3/3) 白色粒子少
- 3 にふい黄褐色 (10YR4/3) 炭化粒子少、焼土粒子
- 4 褐色 (10YR4/4) 白色粒子多、炭化粒子少、焼土粒子
- 5 にふい黄褐色 (10YR4/3) 焼土粒子多、炭化粒子少
- 6 灰黄褐色 (10YR4/2) 焼土粒子多、灰粒子

- 7 にふい赤褐色 (5YR4/3) 焼土層、暗褐色粒子混入
- 8 にふい黄褐色 (10YR3/4) 焼土粒子少、炭化粒子
- 9 暗褐色 (10YR3/3) 灰粒子多、炭化粒子、焼土粒子少
- 10 灰黄褐色 (10YR4/2) 焼土粒子
- 11 にふい黄褐色 (10YR4/3) 焼土粒子少、炭化粒子
- 12 褐色 (10YR4/4) 焼土粒子少、炭化粒子

第112図 第218号住居跡



第113図 第218号住居跡出土遺物

第218号住居跡出土遺物観察表 (第113図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	(10.8)			ABDJ	普通	灰黄褐	20	覆土	
2	坏	(10.4)	5.1		BDJ	普通	橙	30	覆土下位	内外面赤彩 摩耗著しい
3	坏	12.8	4.3		BDEJ	普通	にぶい褐	100	床	
4	坏	13.4	4.8		ABDJ	普通	橙	75	覆土下位	
5	坏	(13.6)	3.9		ABDJ	普通	灰黄褐	40	SK1	
6	坏	14.0	4.4		JL	普通	灰黄褐	90	覆土	
7	坏	12.0	4.0		BDJ	普通	橙	90	床	
8	甕	(17.4)			BCJL	普通	にぶい橙	15	SK1	外面↓方向へラ削り 摩耗著しい
9	甕	(18.0)			JL	普通	にぶい褐	20	SK1	内外面摩耗著しい 外面↑方向へラ削り
10	甕	(18.0)			JL	普通	にぶい橙	20	覆土	外面↓方向へラ削り 内面ナデ
11	甕	(18.0)			BJL	普通	にぶい黄橙	70	SK1	外面↑方向へラ削り 摩耗著しい
12	甕	(20.0)				普通	にぶい褐	15	覆土	外面↓方向へラ削り
13	甕			(8.0)	BCJL	普通	にぶい褐	60	SK1	外面↑方向へラ削り

第218号住居跡出土土鍾観察表 (第113図)

番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
15	(5.45)	1.59	0.60	(8.55)	Ba IV	明赤褐	95	A区

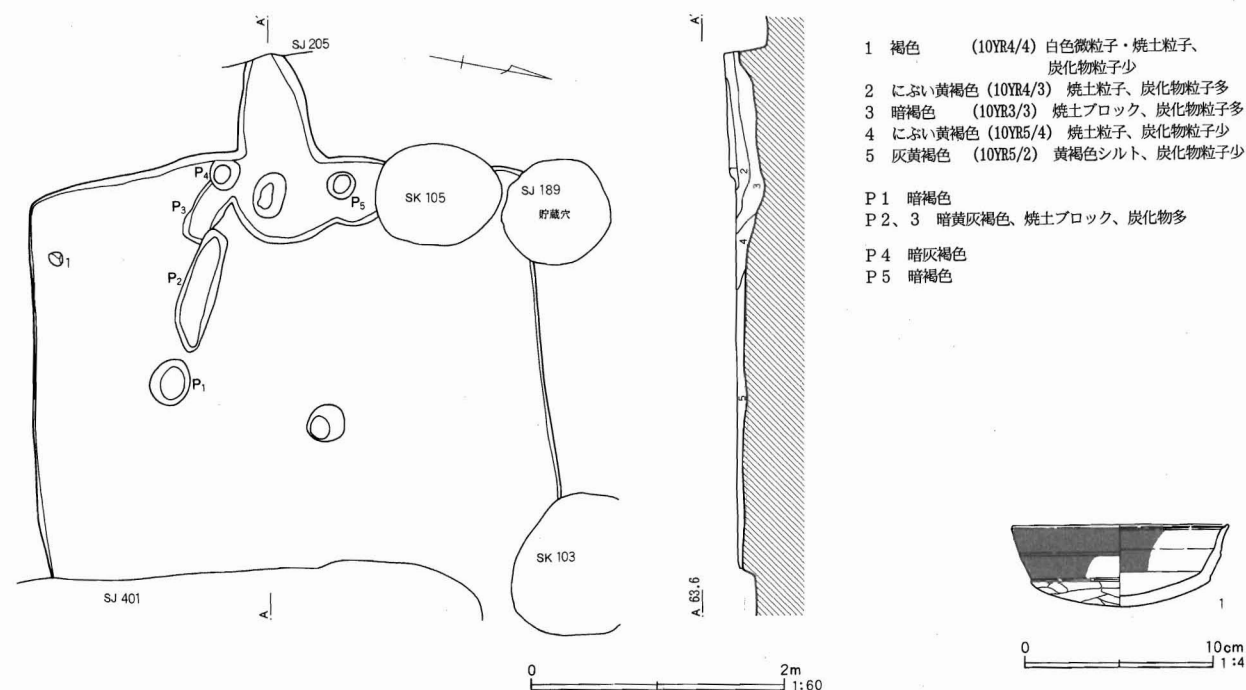
第219号住居跡 (第114図)

J-19グリッドに位置する。第189号住居跡の貯蔵穴に北西隅、第205号住居跡にカマドの先端、第401号住居跡に東壁、第103号土坑に北東隅、第105号土坑に西壁の一部が切られている。平面は、東壁が不明であり軸長3.28以上m×4.03mで、深さ7cmを測

る。主軸方位は、N-104°-Wを指す。

カマドは、西壁中央に設けられ、先端が不明である。燃焼部は、150cm以上×63cm、床面から深さ8cmを測る。

遺物は、土師器坏の他に土鍾が出土した。



第114図 第219号住居跡・出土遺物

第219号住居跡出土遺物観察表 (第114図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	11.4	4.4		B E F G	普通	にぶい赤褐	95	床	底部外面へラ削り 内外面一部油煙付着

第219号住居跡出土土錘観察表

番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
2	(3.56)	1.14	0.42	(4.40)	Aa	浅黄橙		A区

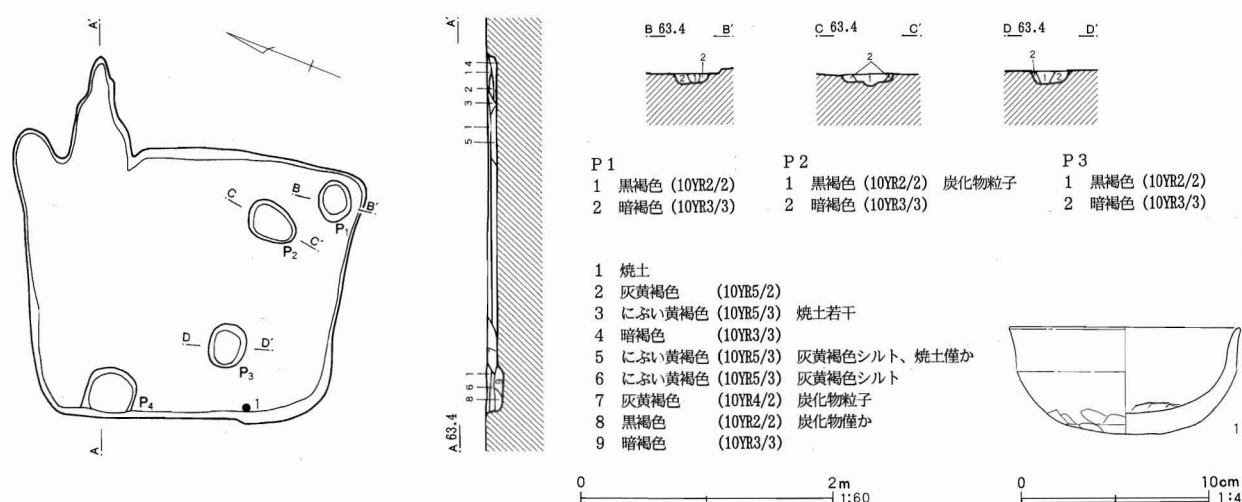
第220号住居跡 (第115図)

K-18グリッドに位置する。第203・204号住居跡に上部が切られている。平面は、軸長2.24m×2.52mの台形で、深さ7cmを測る。主軸方位は、N-69°

—Eを指す。

カマドは、東壁の北に偏って設けられている。燃焼部は、89cm×48cm、床面と同じ高さである。

遺物は、土師器坏が出土した。



第115図 第220号住居跡・出土遺物

第220号住居跡出土遺物観察表 (第115図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	12.1	5.8		B	良好	灰黄褐	60	床	底部へラ削り

第221号住居跡 (第116・117図)

K-17グリッドに位置する。第216・222・226号住居跡を切っている。東壁南半は攪乱を受け不明である。平面は、軸長4.75m×5.75mで、深さ21cmを測る。壁溝は北壁のみで確認され、幅15~27cm、深さ8cm程を測る。主軸方位は、N-78°—Eを指す。

カマドは、東壁で北に偏って設けられている。燃焼部は、軸長102cm×65cmの楕円形を呈し、深さ18cmを測る。

炉跡が、北西部で確認された。軸長49cm×37cmの歪んだ楕円形で、深さ7cmを測る。周囲の床面は硬化し、中央に焼土を検出したのみである。

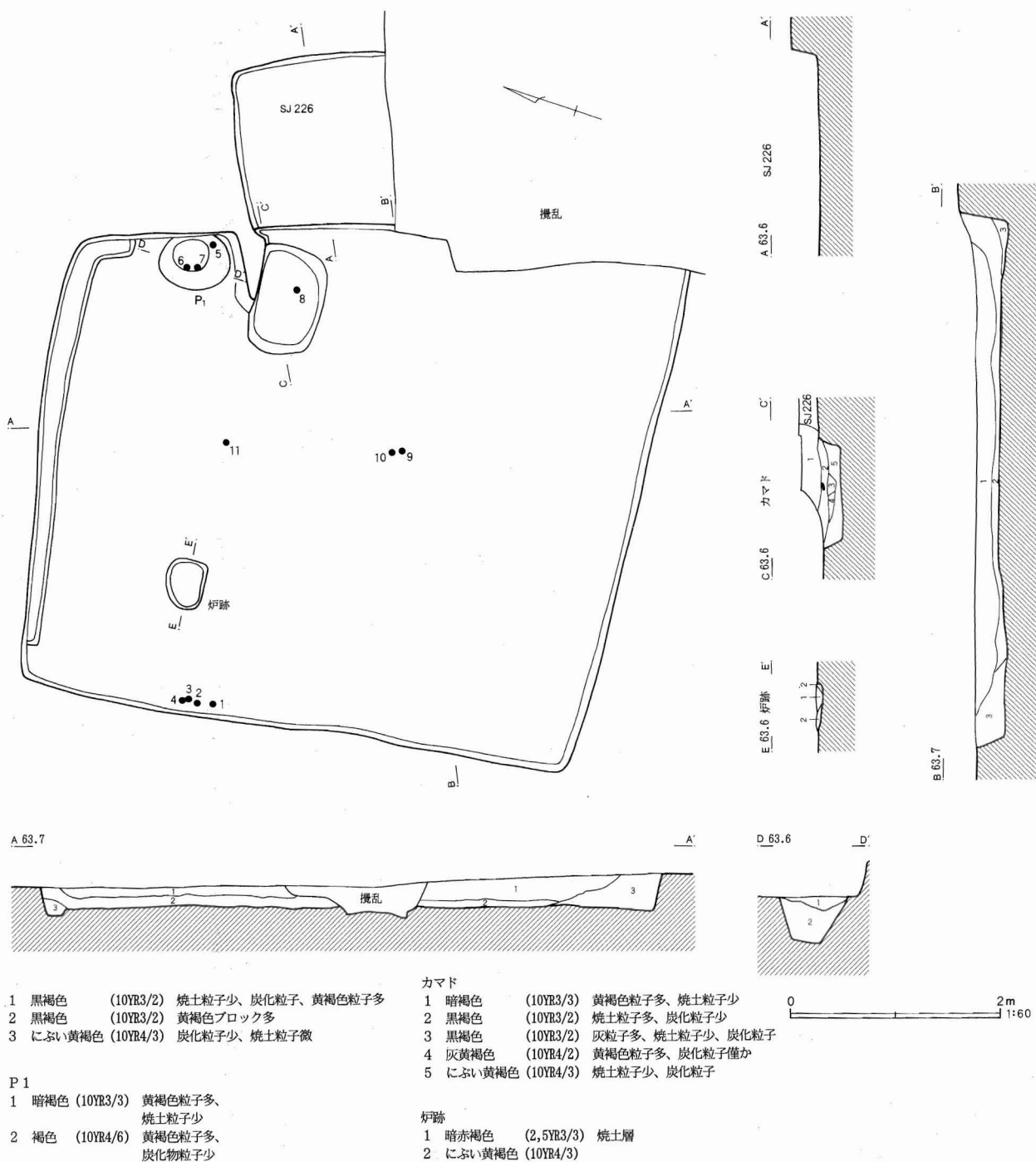
遺物は、土師器坏・小型甕、須恵器坏・高台付碗・高台付皿の他に土錘が出土した。

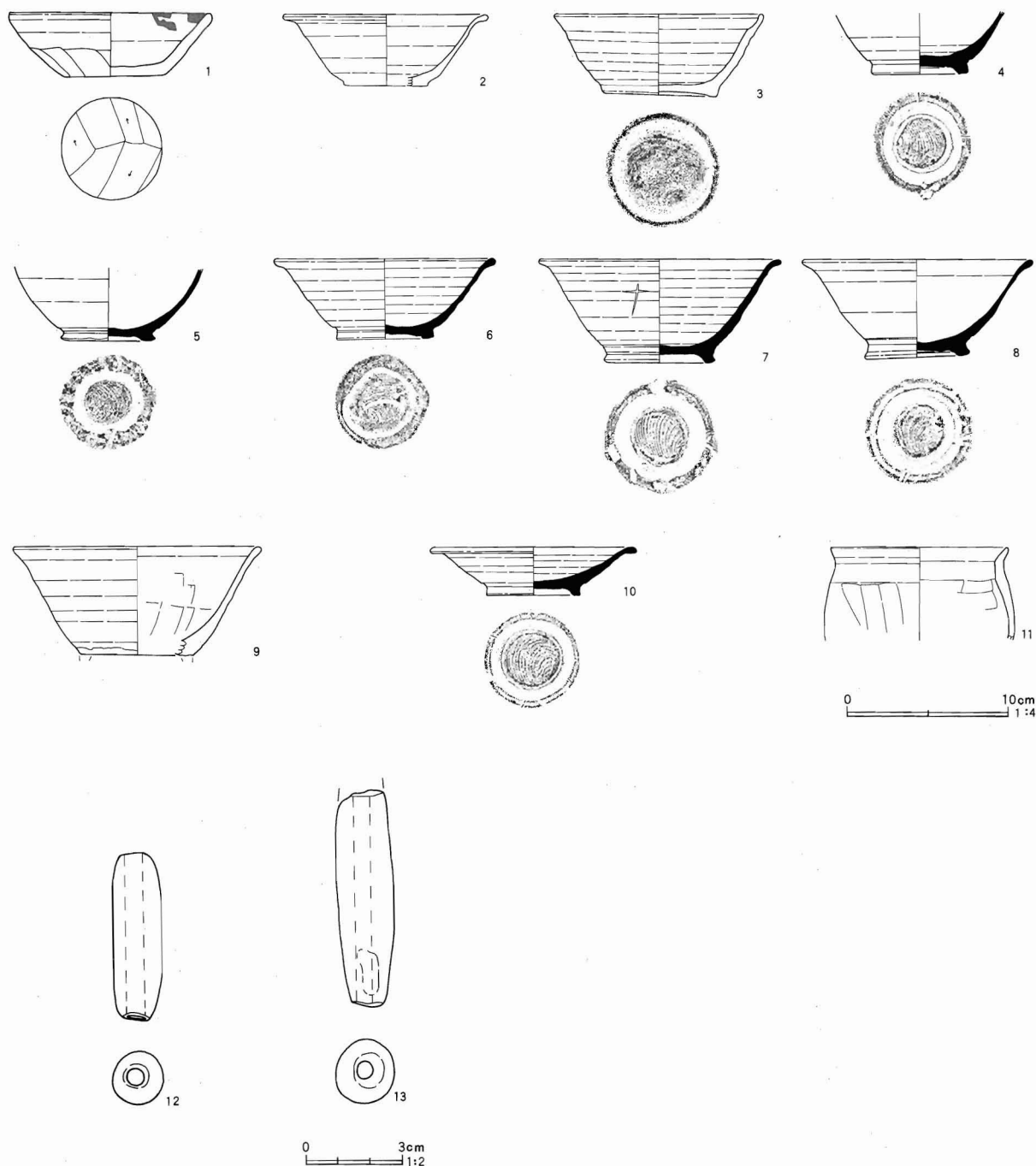
第226号住居跡 (第116図)

K-17グリッドに位置する。第221号住居跡に西半部が切られ、南半部は攪乱を受けている。平面は、東西長1.54m以上×南北長1.48m以上で、深さ24cm

を測る。主軸方位は、南北壁を基準にするとN-25°
-Wを指す。

カマド・貯蔵穴等の施設は、確認できなかった。
遺物は、出土しなかった。





第117図 第221号住居跡出土遺物

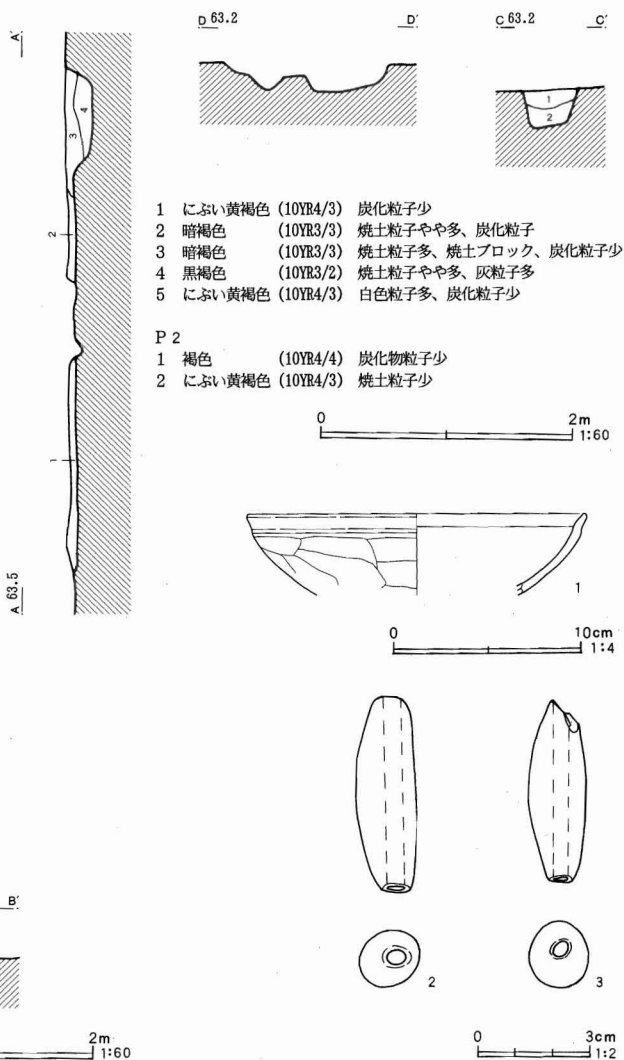
第221号住居跡出土遺物観察表 (第117図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	12.3	3.9	6.4	EJ	良好	明褐	100	覆土中位	口縁外面～体部内面クロナデ 体部外面下半←へら削り 底部手持へら削り 口縁部内面一部に油煙附着
2	坏	(12.2)	(4.3)	(5.0)	BEJ	普通	浅黄橙	30	P1	底部右回転糸切り 還元焰焼成
3	高台付埴	12.7	3.1	6.8	EHJ	不良	灰	100	P1	外面摩耗 内面黒褐色
4	高台付埴			5.8	BJ	普通	褐灰	80	覆土中位	高台貼付
5	高台付埴			5.8	BJ	普通	灰白	60	P1	歪みあり 高台貼付
6	高台付埴	13.3	5.0	5.9	BDHL	不良	灰白	90	カマド	高台貼付
7	高台付埴	14.7	6.4	6.5	BJ	普通	灰黄	80	床	高台貼付 体部外面に「+」のへら描き 歪みあり

番号	器 種	口 径	器 高	底 径	胎 土	焼 成	色 調	残 存	出土位置	備 考
8	高台付埴	(13.9)	6.2	6.5	B J	不良	灰白	70	床	高台貼付
9	高台付埴	(15.0)	(6.8)	(7.0)	A E	普通	にぶい黄橙	20	床	酸化焙焼成 高台剥離 内面一部ヘラナデ
10	高台付皿	12.2	3.0	5.8	B F J	普通	灰白	75	床	
11	小 型 甕	(10.9)			H J	普通	灰黄褐	30	覆土	外面↓ヘラ削り 内面ナデ

番号	長 さ	径	孔 径	重 さ	分 類	色 調	残 存	備 考
12	5.17	1.65	0.55	13.78	Ba V	黒褐	100	
13	(6.75)	2.03	0.50	(24.40)	Bb III	赤褐	90	
14	(4.45)	(2.05)	0.43	(11.58)	Ba	明赤褐		
15	(3.35)	(1.74)	0.46	(7.52)	Ba	橙		
16	(2.98)	1.35	0.38	(4.31)	B	明赤褐		

K・L-17グリッドを中心に位置する。第221号住居跡に上半部、第216号住居跡に南東隅が切られて



— 131 —

焼部は、150cm×76cm、床面から深さ15cmを測る。

円形で、深さ11～22cmを測る。

土坑が北西部で確認され、軸長130cm×93cmの楕

遺物は、土師器坏の他に土錘が出土した。

第222号住居跡出土遺物観察表（第118図）

番号	器 種	口 径	器 高	底 径	胎 土	焼 成	色 調	残 存	出土位置	備 考
1	坏	(18.0)			B J	普通	橙	15	P 1	体部外面へラ削り

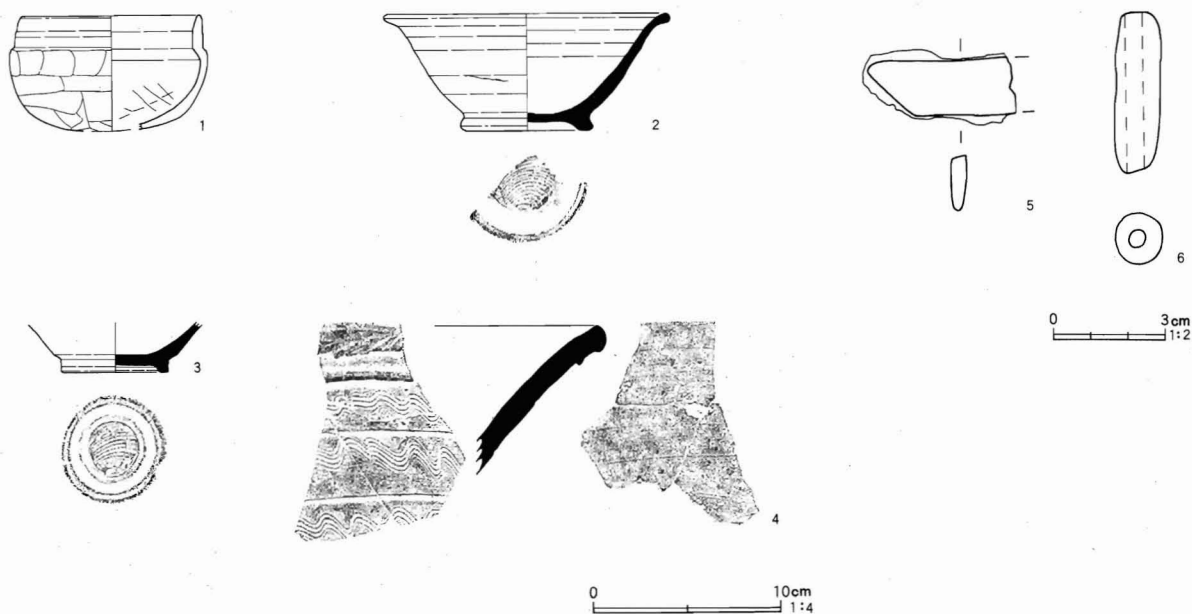
第222号住居跡出土土錘観察表（第118図）

番号	長 さ	径	孔 径	重 さ	分 類	色 調	残 存	備 考
2	5.25	1.62	0.50	(11.51)	Ba V	にぶい黄橙	95	貯蔵穴
3	4.80	1.72	0.43	(11.04)	Ba V	にぶい黄橙	95	
4	(3.45)	(1.08)	0.41～0.62	(10.25)	Ba	暗褐		
5	(2.20)	(1.53)	0.35	(4.00)	Ba	暗褐		
6	(5.75)	(1.75)	(0.45)	(8.56)	Ba	灰褐		

第221・222号住居跡出土遺物（第119図）

一括遺物として、土師器坏、須恵器高台付碗、甕破片、刀子、土錘が出土した。1の土師器坏は、第222号住居跡に属し、2～4の須恵器は第221号住居

跡に属すると考えられる。4は須恵器甕の口縁部の破片で、沈線に区画され4条の櫛描き波状文が3段施されている。5・6は、どちらの住居跡のものか判断できない。5は刀子の切先である。



第119図 第221・222号住居跡出土遺物

第221・222号住居跡出土遺物観察表（第119図）

番号	器 種	口 径	器 高	底 径	胎 土	焼 成	色 調	残 存	出土位置	備 考
1	坏	9.4	(5.2)		B J	普通	橙	60	覆土	
2	高台付碗	(14.7)	6.3	(6.5)	B J	不良	灰黄	20	覆土	底部糸切り後、高台貼付
3	高台付碗			5.5	B J	普通	灰	70	覆土	底部糸切り後、高台貼付

第221・222号住居跡出土土錘観察表 (第119図)

番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
6	4.31	1.25	0.48	6.75	Ba V	にぶい黄橙	100	
7	(2.99)	(1.60)	0.36	(3.53)	Bb	暗褐		
8	(3.14)	(1.58)	0.60	(3.33)	Bb	橙		
9	(3.53)	1.72	0.44	(7.77)	Ba	にぶい褐		
10	(4.58)	1.71	0.46	(10.54)	Ba	にぶい褐		
11	(4.53)	1.66	0.45	(9.90)	Ba	橙		
12	(4.41)	1.41	0.49	(7.39)	Ba	にぶい褐		
13	(4.31)	1.51	0.54	(7.20)	Ba	橙		
14	(5.81)	1.68	0.49	(16.25)	Ba	にぶい黄橙		
15	(6.40)	2.15	0.61	(22.47)	Ba	橙		
16	(6.41)	2.10	0.60	(28.71)	Bb	明赤褐		

第223号住居跡 (第120・121図)

J—17グリッドを中心に位置する。第217・218号住居跡・第113号土坑に西壁の一部、第111・112号土坑に床面が切られている。平面は、軸長4.04m×4.87mの長方形で、深さ18cmを測る。主軸方位は、N—82°—Eを指す。

カマドは、東壁で北に偏って設けられている。燃烧部は、121cm×45cm、床面から深さ4cmを測る。

貯蔵穴は、東壁際のカマドの南に検出された。上面は117cm×86cmの不整楕円形で、深さ69cmを測る。

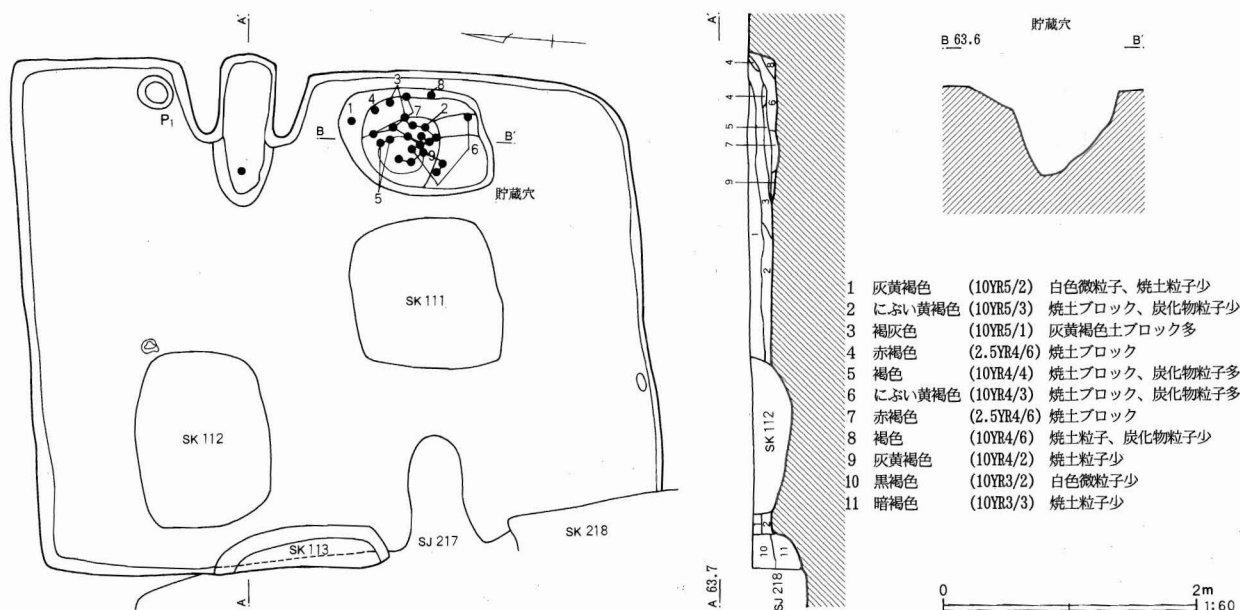
遺物は、貯蔵穴より土師器坏・小型甕・甕・甗が出土した。

第224号住居跡 (第122～125図)

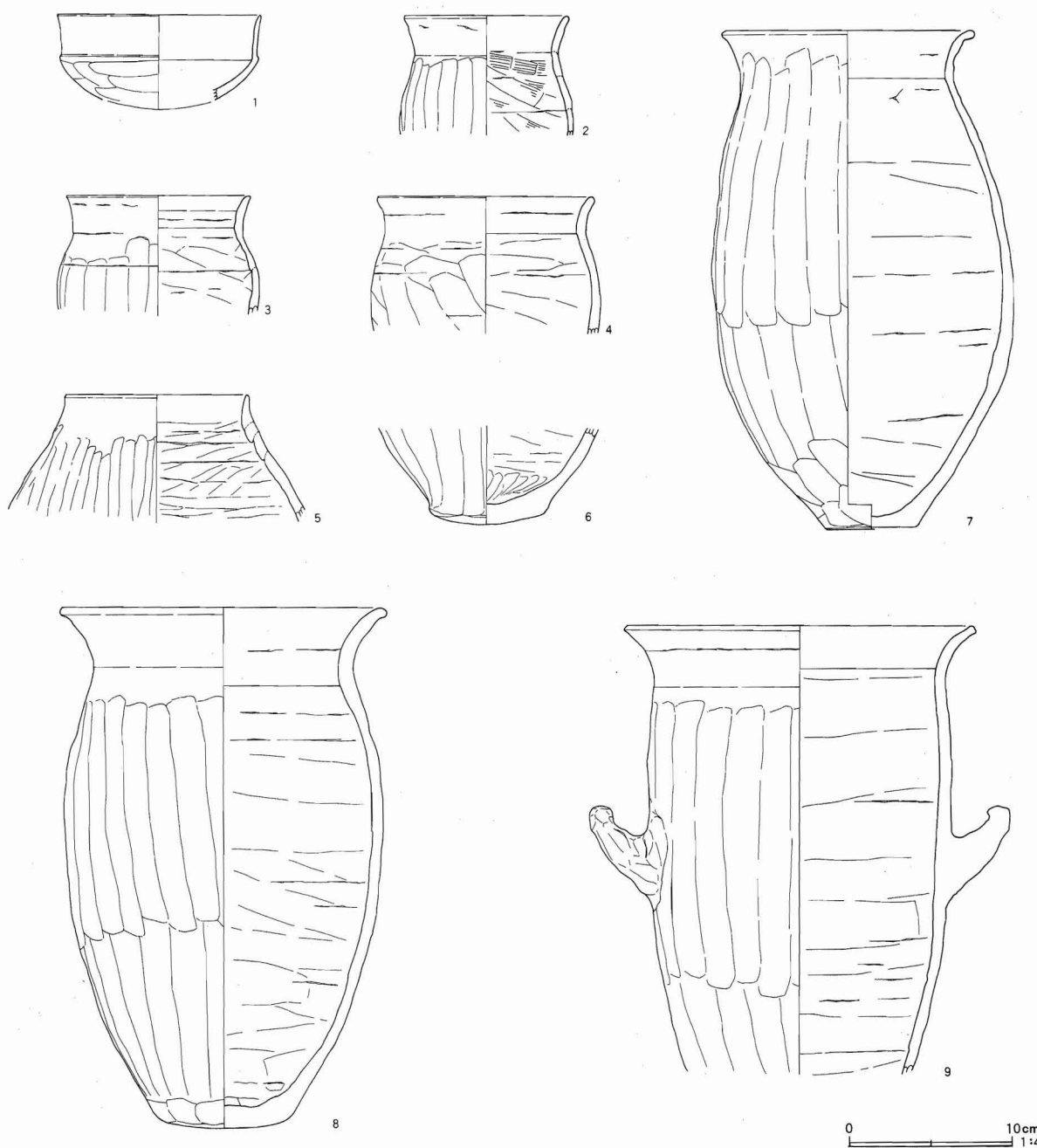
K—18グリッドを中心に位置する。第210・215号住居跡に北西隅、第211号住居跡に南西隅、第204号住居跡にカマドの先端が切られ、第225号住居跡を切っている。平面は、軸長5.93m×5.01mの方形で、深さ33cmを測る。主軸方位は、N—67°—Eを指す。

柱穴は2本の主柱穴が検出でき、P1は径71cm×60cm、深さ16cm、P2は径98cm×97cm、深さ74cmを測る。P2では、柱痕が確認できた。

カマドは、東壁のやや南寄りに設けられている。燃烧部は、120cm以上×35cm、床面から深さ17cmを測る。



第120図 第223号住居跡



第121図 第223号住居跡出土遺物

第223号住居跡出土遺物観察表 (第121図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	(12.4)			J L	不良	橙	30	貯藏穴	
2	小型甕	(10.0)			B J L	普通	明赤橙	30	貯藏穴	外面↑ヘラ削り 内面刷毛目
3	小型甕	11.2			J L	普通	にぶい橙	80	貯藏穴	外面↑ヘラ削り
4	小型甕	(13.0)			J	不良	にぶい赤褐	70	貯藏穴	外面↓ヘラ削り 摩耗著しい
5	甕	(11.0)			J	不良	にぶい赤褐	40	貯藏穴中位	外面↑ヘラ削り 内面→ナデ 輪積痕明瞭
6	甕			7.1	B F J L	普通	にぶい橙	70	貯藏穴	外面↑ヘラ削り 内面ナデ
7	甕	15.4	30.2	5.6	J L	普通	にぶい褐	70	貯藏穴	外面上半↑、下半↓ヘラ削り やや摩耗
8	甕	(19.6)	31.8	(7.0)	F J L	不良	灰褐	60	貯藏穴	外面↑ヘラ削り
9	甕	(21.4)			B J L	普通	にぶい黄橙	60	貯藏穴下位	外面↑ヘラ削り

遺物は、土師器坏・高坏・脚台付埴・小型甕・甕、砥石、鉄鏝の他に土鍾が出土した。25の砥石は3面が使用され、カマド右袖の南に床面から僅かに浮いた状態で出土した。26の鉄鏝は、基部が欠損し21.93gを量り、覆土中から出土した。

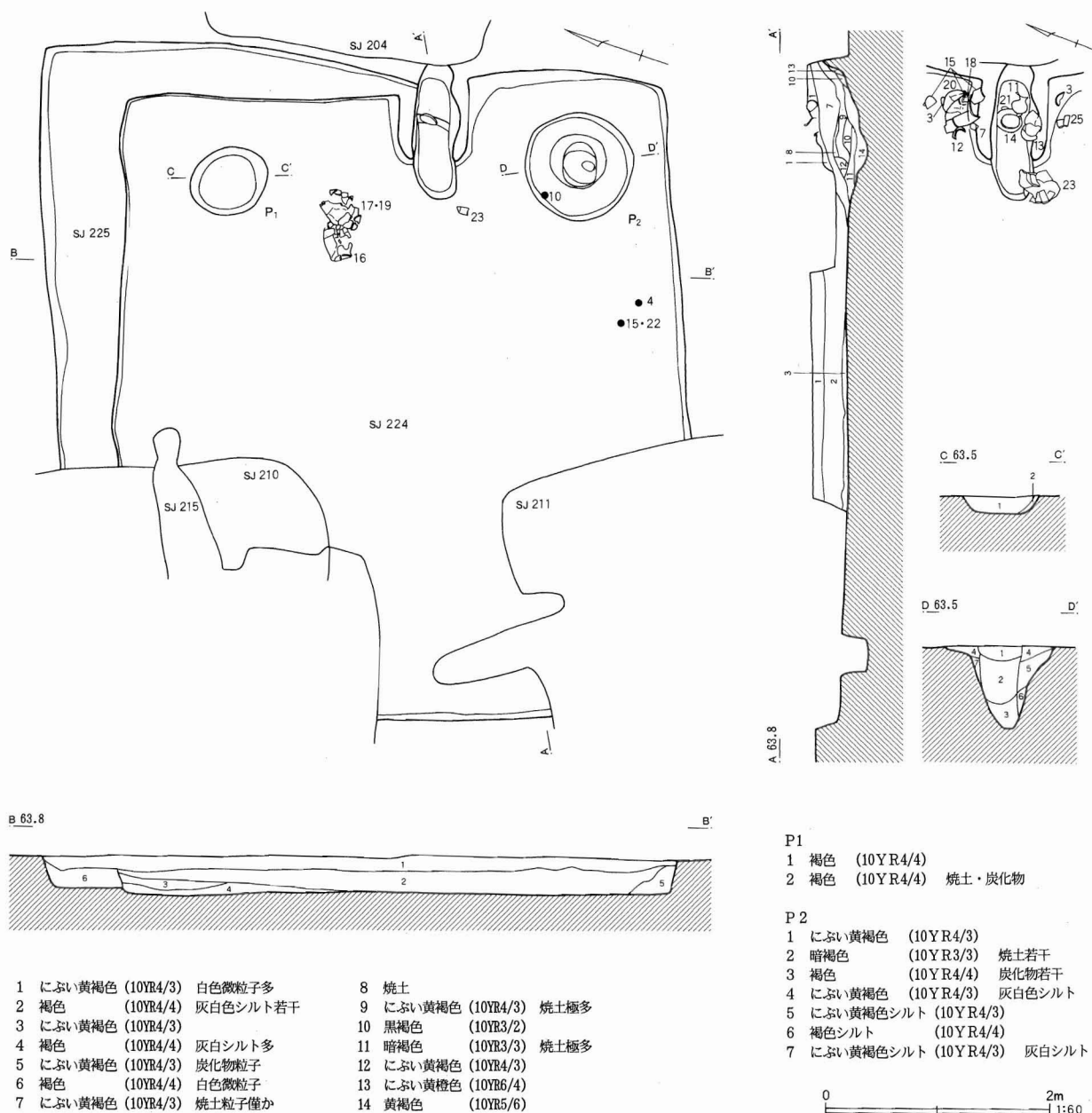
第225号住居跡（第122図）

K-18グリッドを中心に位置する。第224号住居跡に北壁・東壁を除く部分、第210・215号住居跡に

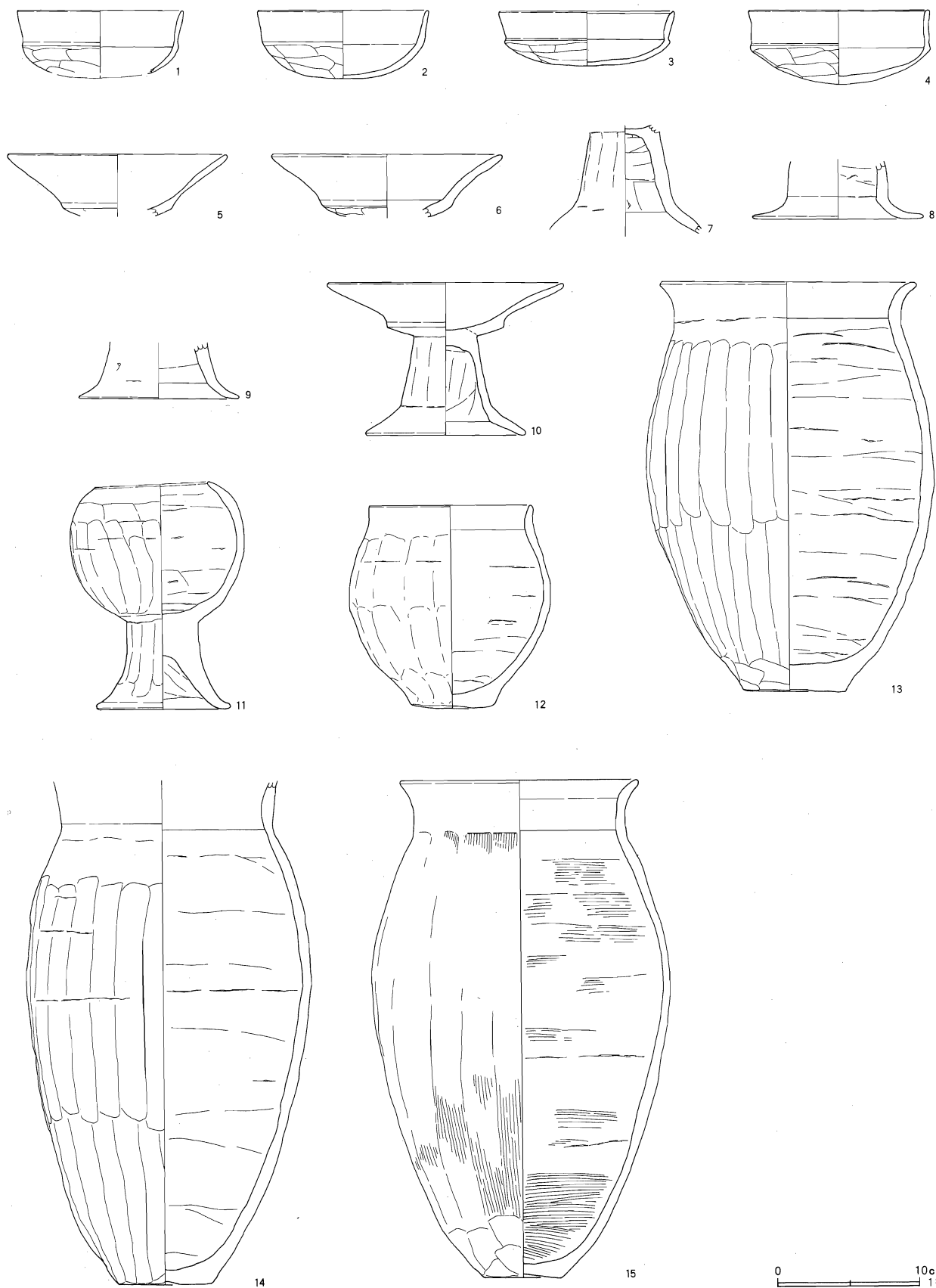
南西隅が切られている。平面は、東西壁長3.78m以上×3.20m以上で、深さ27cmを測る。主軸方位は、東西壁を基準とし、N-73°-Eを指す。

カマド・貯蔵穴等の施設は確認できなかった。

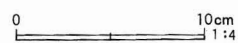
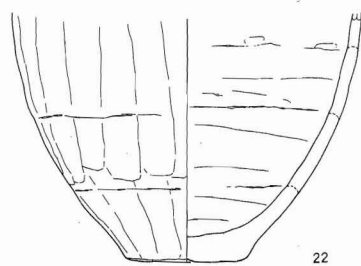
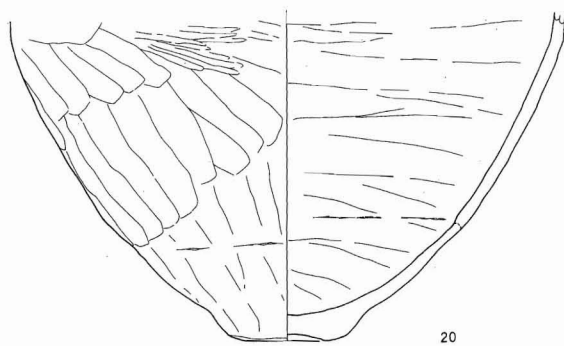
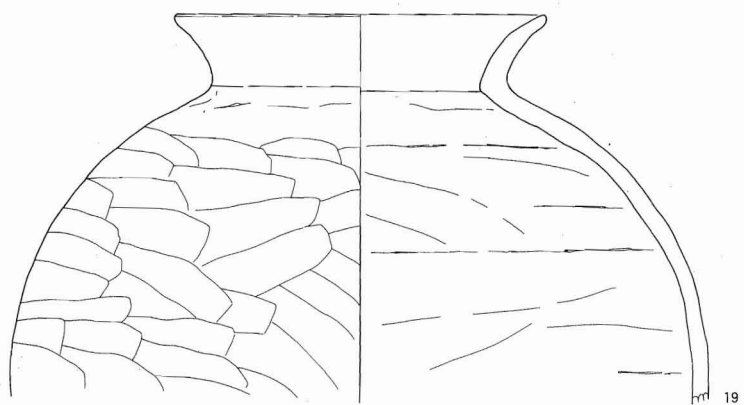
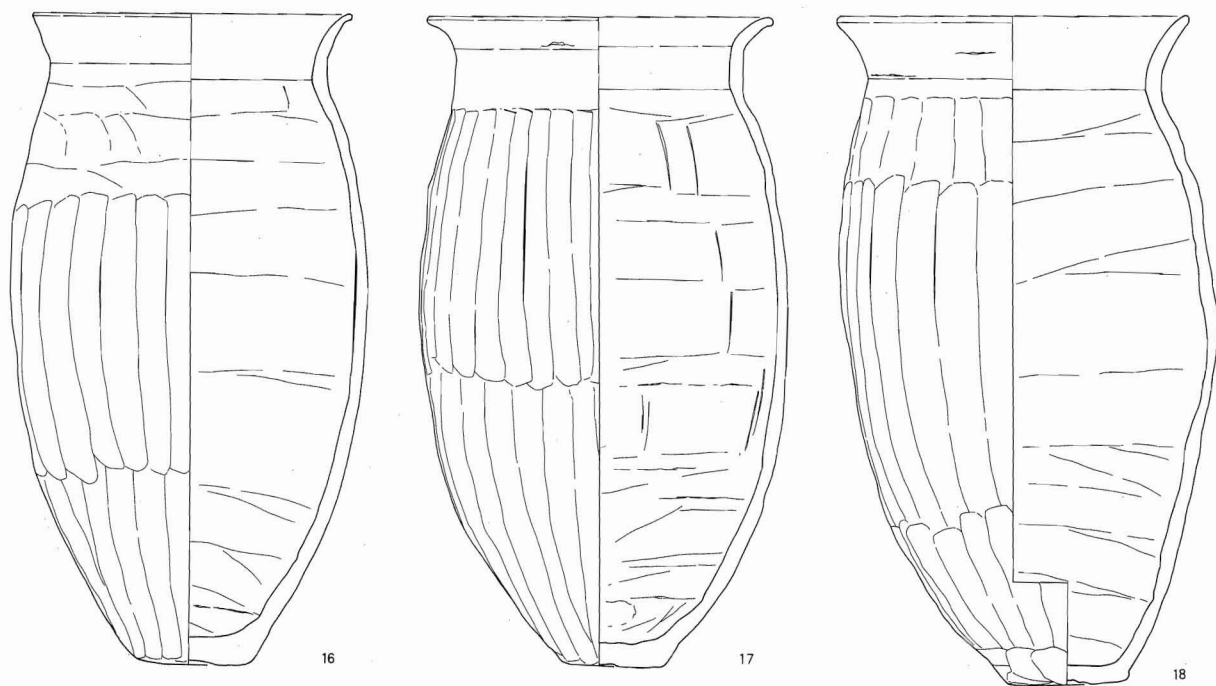
遺物も、出土しなかった。



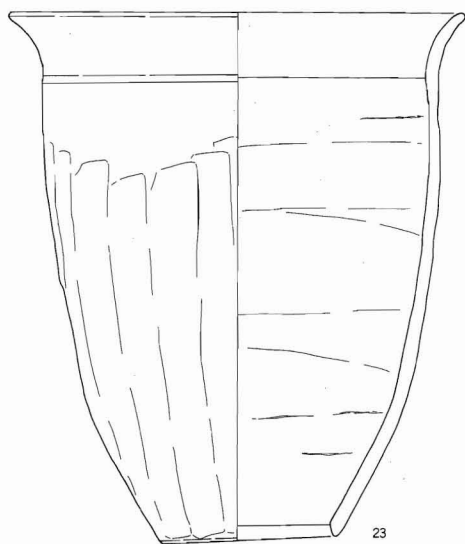
第122図 第224・225号住居跡



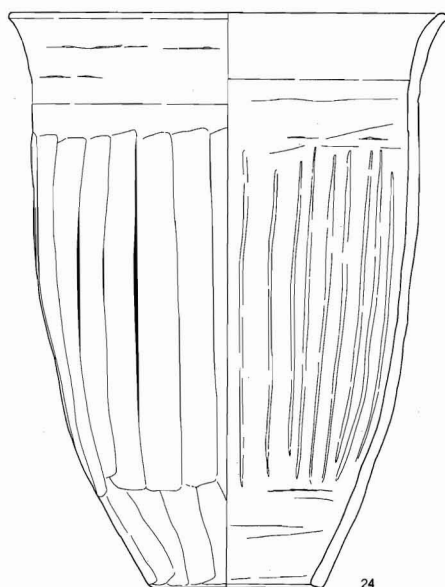
第123図 第224号住居跡出土遺物(1)



第124図 第224号住居跡出土遺物(2)

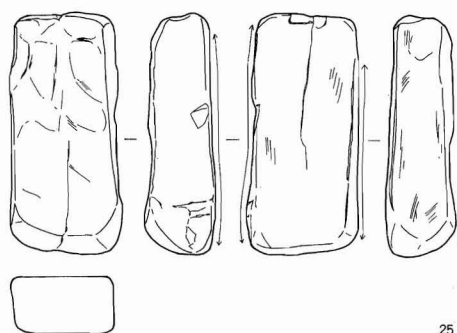


23



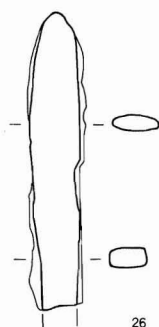
24

0 10cm
1:4



25

0 10cm
1:3



26



27



28



29



30

0 3cm
1:2

第125図 第224号住居跡出土遺物(3)

第224号住居跡出土遺物観察表 (第123図)

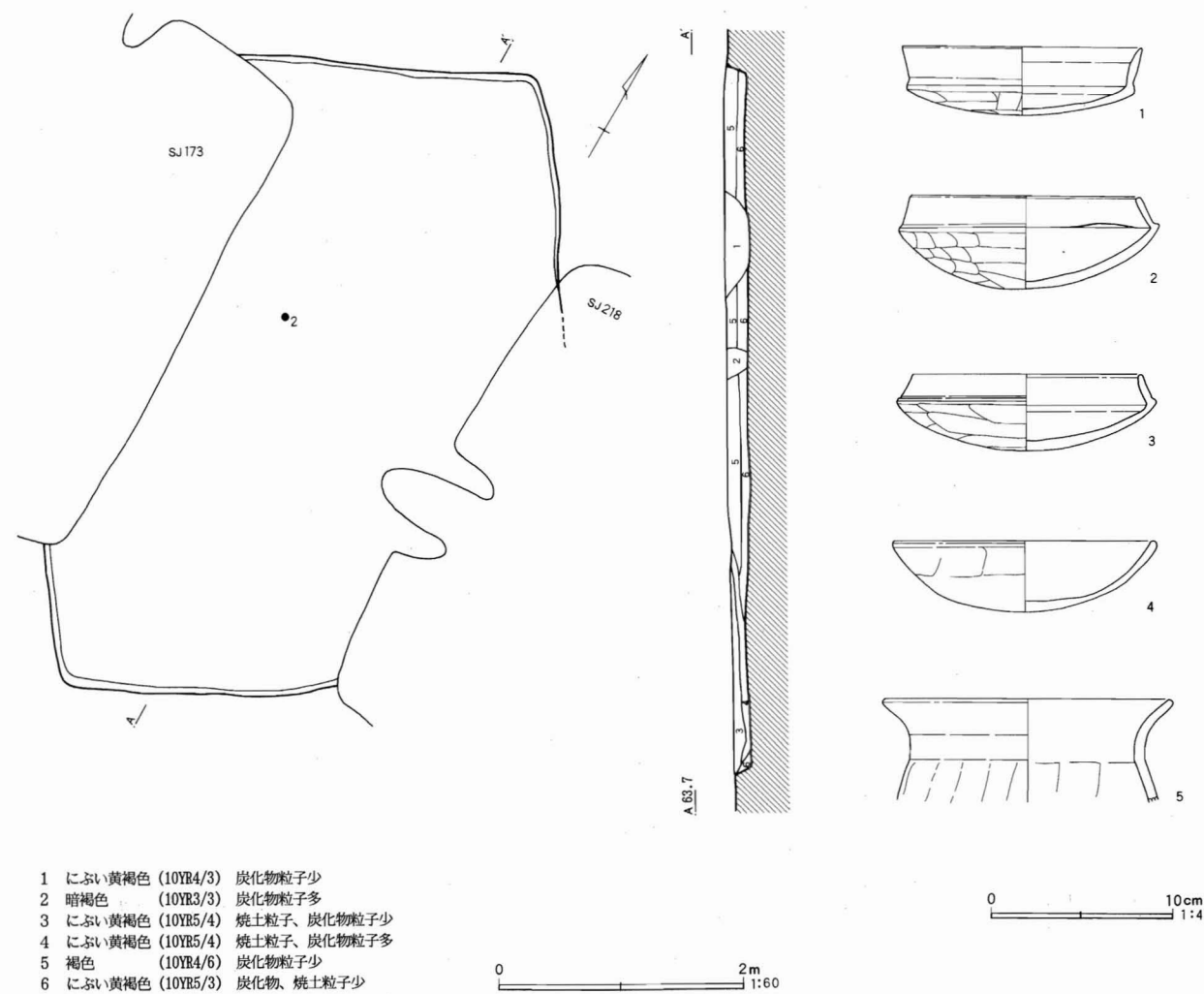
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	(11.4)			J	不良	にぶい橙	30	覆土	
2	坏	(12.0)	3.7		BDJ	不良	橙	20	覆土	
3	坏	12.3	7.8		BJL	不良	橙	80	カマド・床	内外面やや摩耗
4	坏	12.7	5.1		BJ	不良	橙	90	床	内外面やや摩耗
5	高坏	(15.4)			BJ	不良	橙	30	覆土	内外面やや摩耗
6	高坏	16.2			BDJ	不良	にぶい橙	60	覆土	
7	高坏				BDJ	普通	明赤褐	70	床	
8	高坏			(12.0)	J	不良	浅黄橙	20	覆土	
9	高坏			(11.2)	J	不良	にぶい橙	25	覆土	
10	高坏	16.6	10.6	11.2	BDJL	不良	橙	70	床	内外面摩耗著しい
11	脚台付埴	8.0	16.0	9.4	ADJL	普通	にぶい橙	90	カマド	
12	小型甕	11.4	14.3	5.5	DJL	不良	にぶい赤褐	80	カマド・床	外面↓方向ヘラ削り 摩耗著しい
13	甕	17.8	28.8	7.2	BJL	普通	にぶい橙	90	カマド	外面↑方向ヘラ削り
14	甕			6.5	DJL	普通	灰黄褐	85	カマド	外面↑方向ヘラ削り

第224号住居跡出土遺物観察表（第123～125図）

番号	器 種	口 径	器 高	底 径	胎 土	焼 成	色 調	残 存	出土位置	備 考
15	甕	(16.6)	34.8	5.4	J L	不良	にぶい黄橙	40	床	外面↑方向ハケメ・ヘラ削り 内面←方向ハケメ
16	甕	17.0	34.5	6.0	J L	普通	にぶい橙	90	覆土	外面↑方向ヘラ削り
17	甕	18.3	34.5	5.5	B J L	普通	にぶい橙	85	覆土	外面↑方向ヘラ削り
18	甕	18.6	35.5	6.4	B D J L	普通	にぶい褐	80	カマド	外面↑方向ヘラ削り
19	壺	(19.6)			B D J L	普通	橙	60	覆土下位	外面←方向ヘラ削り 摩耗著しい
20	甕			6.2	B J	不良	橙	30	覆土	外面↑方向ヘラ削り 胴部中位にミガキ
21	甕			6.2	B J	不良	にぶい褐	90	カマド	外面↑方向ヘラ削り
22	甕			6.4	J L	普通	橙	70	床	外面↑方向ヘラ削り
23	甕	24.0	28.2	9.2	C J L	不良	にぶい橙	90	カマド・床	外面↑方向ヘラ削り 摩耗著しい
24	甕	(23.2)	30.5	9.0	J L	普通	にぶい橙	75	カマド袖	外面↑方向ヘラ削り 内面ミガキ

第224号住居跡出土土錘観察表（第125図）

番号	長 さ	径	孔 径	重 さ	分 類	色 調	残 存	備 考
27	5.95	1.85	0.48	16.27	Ba IV	橙	100	A区
28	6.04	1.65	0.47～0.52	12.44	Ba IV	明赤褐	100	A区
29	6.28	1.55	0.59	12.11	Ba IV	にぶい褐	100	A区
30	(6.98)	2.07	0.55	(27.64)	Ba III	にぶい褐	90	A区



第126図 第228号住居跡・出土遺物

第228号住居跡（第126図）

K-17グリッドを中心に位置する。第173号住居跡に北西隅から西壁、第218号住居跡に南東隅から東壁が切られている。平面は、東西壁が切られているため、軸長5.20m×4.30m程の長方形で、深さ16cm程を測る。主軸方位は、N-78°-Wを指す。

カマド・貯蔵穴等の施設は確認できなかった。

遺物は、土師器坏・小型甕が出土した。

第366号住居跡（第127図）

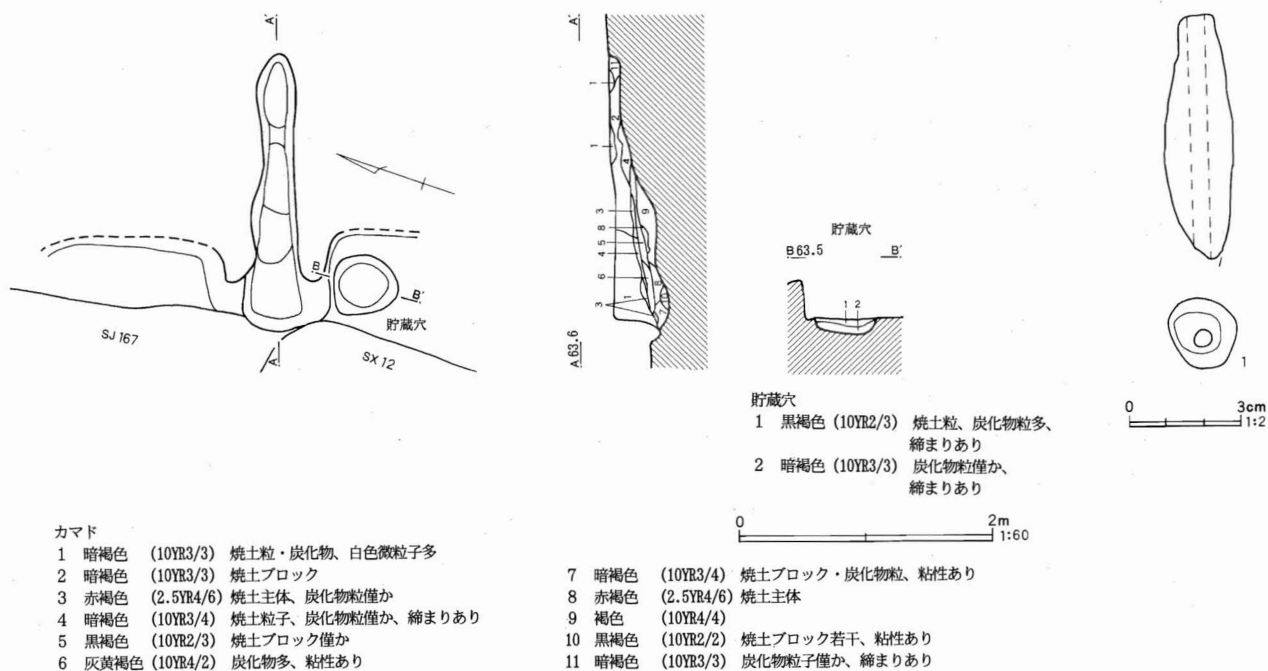
L-16・17グリッドに位置する。第167号住居跡・第12号性格不明遺構にカマドを除いて切られ、東壁も不明瞭であった。主軸方位は、N-69°-Eを指す。

カマドは、東壁に設けられている。燃烧部は、154cm×46cm、床面から深さ14cmを測る。煙道部は53cm程確認できた。

遺物は、土鍾が出土した。

第228号住居跡出土遺物観察表（第126図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	坏	13.0	3.8		BE	普通	にふい橙	95	覆土	体部外面←へら削り
2	坏	12.4	5.1		BDJ	良好	にふい黄橙	100	覆土下位	体部外面←へら削り 口縁部内面巻き上げ痕
3	坏	(12.4)	4.2		BEJ	普通	にふい橙	70	覆土	体部外面→へら削り
4	坏	14.2	3.9		AJ	不良	にふい黄橙	95	覆土	口縁内内屈痕あり
5	甕	(15.6)			CHJ	普通	にふい橙	25	覆土	胴部摩耗し整形不詳



第127図 第366号住居跡・出土遺物

第366号住居跡出土土鍾観察表（第127図）

番号	長さ	径	孔径	重さ	分類	色調	残存	備考
1	(6.55)	1.85	0.60	(18.14)	Ba IV	明赤褐	95	カマド